

双葉町 住民意向調査 報告書

平成 25 年 3 月

復興庁
福島県
双葉町

目 次

I 調査の概要	5
1. 調査目的	7
2. 調査項目	7
3. 調査対象	7
4. 調査時期	7
5. 調査方法	7
6. 調査実施主体	7
7. 回収標本数	7
8. 回答者の属性	8
(1) 性別	8
(2) 年齢・学年	8
(3) 職業(震災発生当時・現在)	9
(4) 震災発生当時居住地区と居住年数	9
(5) 世帯での立場(震災発生当時・現在)	10
9. この報告書を読む際の注意	10
II 調査結果	11
1. 東日本大震災発生当時および震災前の状況	13
(1) 震災発生当時の世帯構成	13
1) 震災発生当時の同居家族人数(現在世帯主または世帯の代表)	13
2) 震災発生当時同居家族の学齢・年齢構成(現在世帯主または世帯の代表)	14
(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方(現在世帯主または世帯の代表)	16
(3) 震災発生当時の職業	18
2. 現在の避難状況	21
(1) 世帯の避難状況	21
1) 分散状況(現在世帯主または世帯の代表)	21
2) 別居家族人数(分散避難世帯)	23
3) 避難状況(中学・高校生)	24
(2) 現在の世帯構成	25
1) 現在の同居家族人数(現在世帯主または世帯の代表)	25
2) 現在同居家族の学齢・年齢構成(現在世帯主または世帯の代表)	27
(3) 現在避難している先の自治体	30
(4) 現在の住居種別(現在世帯主・代表者)	33
(5) 現在の職業	36
(6) 震災発生前後での就労変化	41
1) 現在勤務先の会社・組織・団体の変化	41
2) 求職状況	43
3) 職を探していない理由	45
3. 現在の避難生活における困りごと	48
(1) 避難生活の中で困っていること	48
(2) 医療サービスについて困っていること	50

(3) 介護・福祉サービスについて困っていること	52
1) 介護・福祉サービスの利用状況	52
2) 介護・福祉サービスについて困っていること	53
(4) 教育(学校)について困っていること.....	56
1) 中学・高校生以外の一般住民の教育(学校)について困りごと	56
2) 中学・高校生の教育(学校)についての困りごと.....	58
(5) 就労について困っていること.....	60
(6) 地域のコミュニティについて困っていること	62
4. 今後の避難生活に関する意見.....	65
(1) 生活再建していく場所選択にあたって重視する条件	65
(2) 避難期間中に希望する住居形態.....	68
(3) 今後一緒に住む予定の世帯家族人数	72
5. 仮の町に対する意見	74
(1) 仮の町への居留意向	74
(2) 仮の町へ移転するまでに待てる年数.....	76
(3) 仮の町設置希望自治体	77
(4) 仮の町設置場所の希望	79
(5) 避難期間中過ごしたい場所.....	82
(6) 避難期間中の転居予定先.....	85
(7) 今後の生活拠点への転居を判断したい段階.....	87
(8) 仮の町に住むつもりがない理由.....	89
(9) 仮の町に住まない場合に行政に望む支援.....	93
(10) 双葉町立学校の再開について	95
(11) 事業の再開について	97
6. 双葉町への帰還について	98
(1) 双葉町へ帰還する前提として必要と思う条件	98
1) 帰還条件および帰還意向.....	98
2) 帰還できると思う年間放射線量.....	103
(2) 帰還を判断する上で必要と思う情報.....	105
(3) 帰還したいと思わない理由.....	107
(4) 帰還しない場合の今後の生活拠点	110
(5) 転居を判断したい段階	111
(6) 帰還しない際に行政に望む支援内容.....	113
7. 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて	115
III 調査票(付:単純集計結果)	121

I 調査の概要

1. 調査目的

町外における生活の拠点(仮の町、町外コミュニティ)のあり方などに関する双葉町住民の意向を把握し、避難期間中の生活環境の整備、長期避難者に対する施策を具体化するための基礎データを収集することを目的とする。

2. 調査項目

- (1) 回答世帯属性
- (2) 東日本大震災発生当時および震災前の状況
- (3) 現在の避難状況
- (4) 現在の避難生活における困りごと
- (5) 今後の避難生活に関する意見
- (6) 仮の町に対する意見
- (7) 双葉町への帰還について

3. 調査対象

(1) 調査対象

中学生以上の双葉町全住民（東日本大震災発生当時居住住民）

(2) 対象数 6,293 人

4. 調査時期

平成 24 年 12 月 20 日(木)～平成 25 年 1 月 8 日(火)
(平成 25 年 1 月 15 日(火)到着分までを集計対象とした。)

5. 調査方法

郵送法

6. 調査実施主体

復興庁 福島県 双葉町

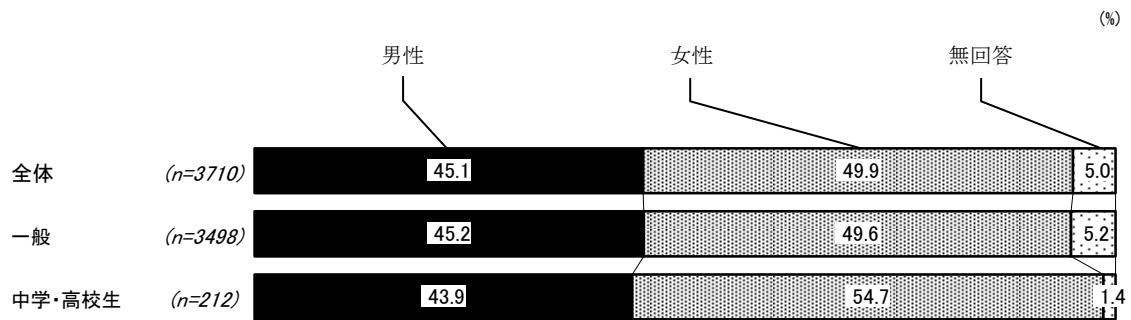
7. 回収標本数

有効回収数(率) 3,710 人 (回収率 59.0%)

8. 回答者の属性

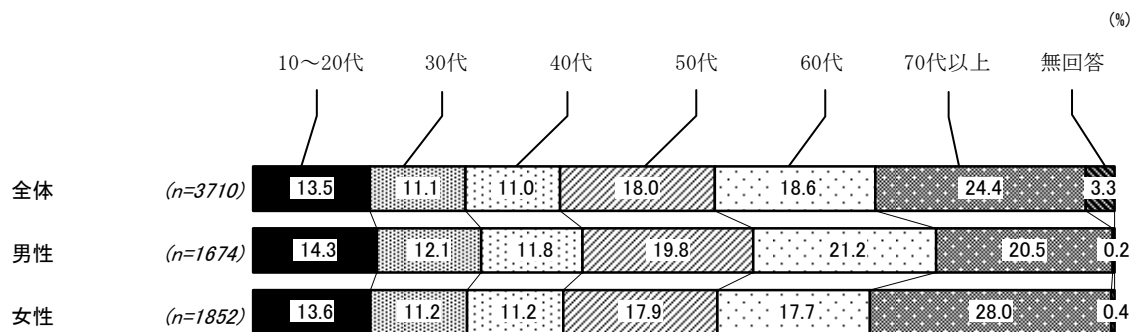
(1) 性別

図表1 性別

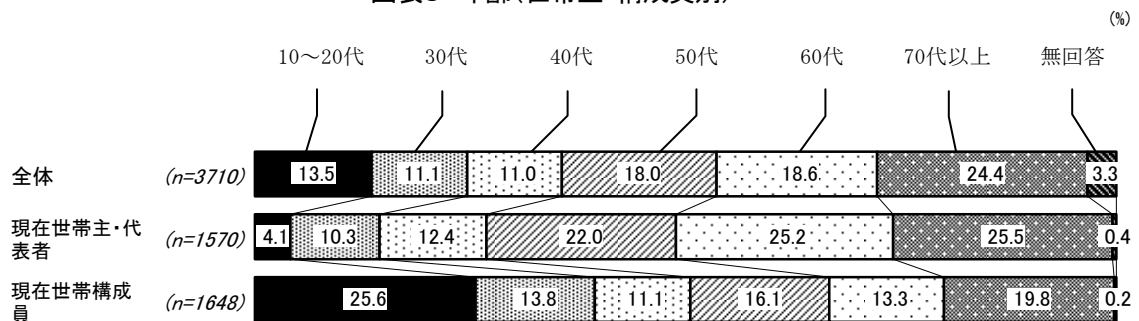


(2) 年齢・学年

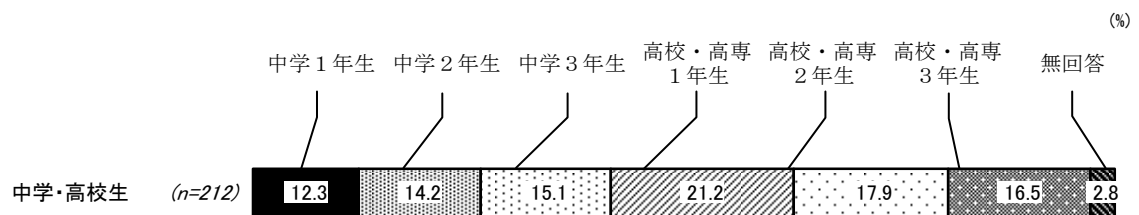
図表2 年齢(全体)



図表3 年齢(世帯主・構成員別)

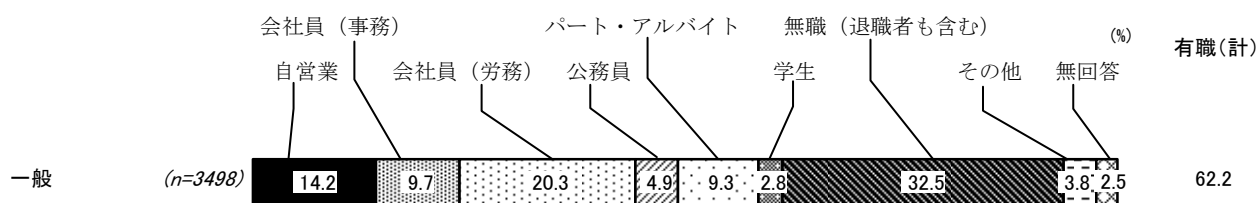


図表4 学年(中学・高校生)

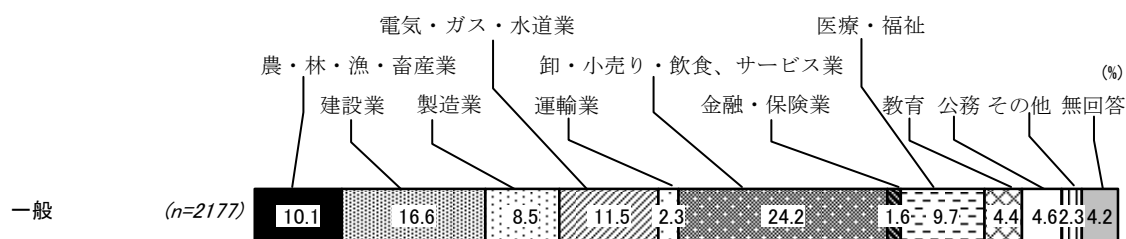


(3) 職業(震災発生当時・現在)

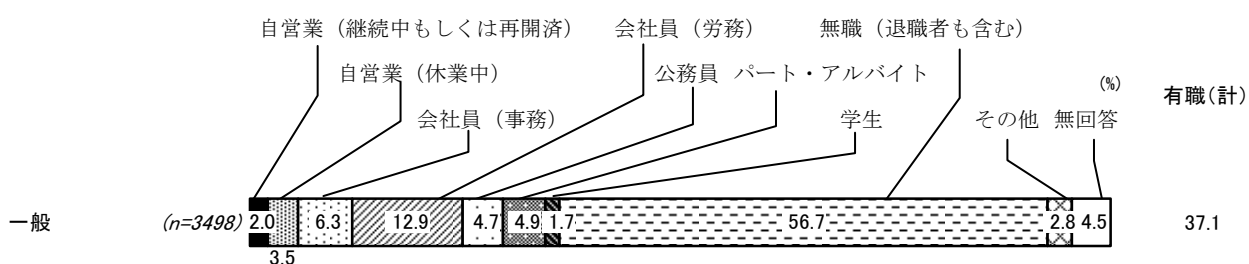
図表5 職業(震災発生当時)(一般)



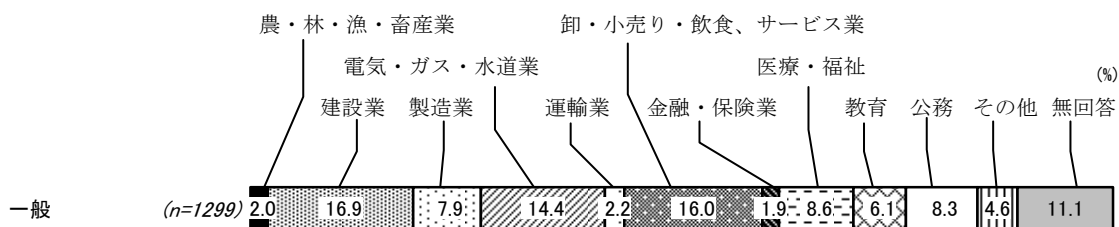
図表6 業種(震災発生当時)(一般)



図表7 職業(現在)(一般)



図表8 業種(現在)(一般)

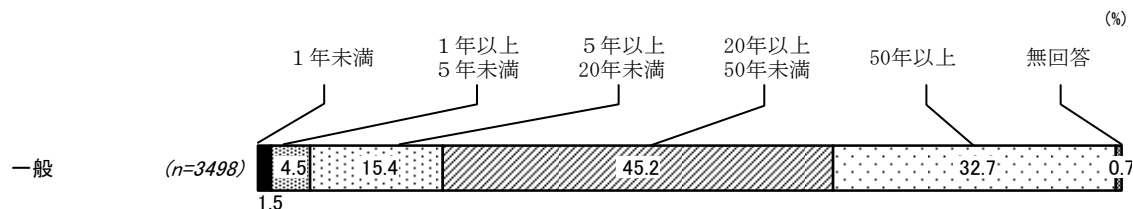


(4) 震災発生当時居住地区と居住年数

図表9 震災発生当時居住地区

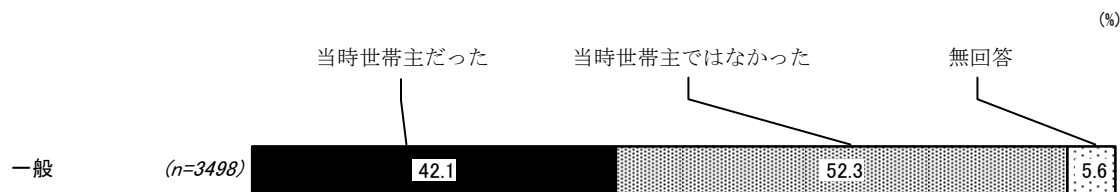
		新 山	下 条	郡 山	細 谷	三 字	山 田	石 熊	長 塚 一	長 塚 二	下 長 塚	羽 鳥	寺 松	洪 川	鴻 草	中 田	両 竹	浜 野	そ の 他	不 明	無 回 答
全体	n=3710	14.1	7.6	6.8	2.3	11.5	6.8	2.0	12.2	10.7	3.0	5.7	2.6	1.5	4.2	1.4	1.3	2.7	1.2	1.6	0.7

図表 10 居住年数(一般)

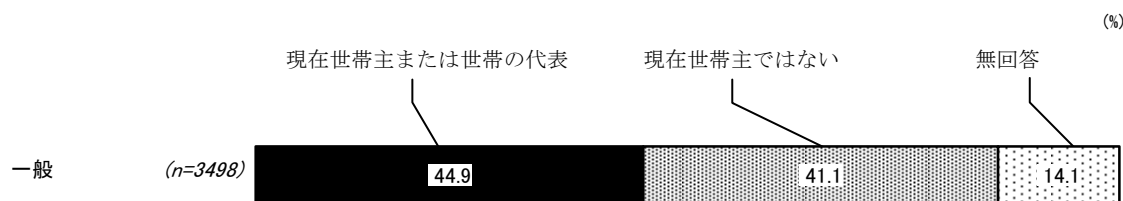


(5) 世帯での立場(震災発生当時・現在)

図表 11 世帯での立場(震災発生当時)(一般)



図表 12 世帯での立場(現在)(一般)



9. この報告書を読む際の注意

- (1) 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数(3,710 人)、または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。四捨五入したため、合計値が100%を前後することがある。
- (3) 「(○はいくつでも)」と表示のある質問は、2つ以上の複数回答を認めているため、回答計は100%を超える。
- (4) 図表中“—”は、回答者が皆無であることを、“0.0”は0.05未満の数値であったことを示す。
- (5) 「Ⅱ 調査結果」では、分類別の回答者数が50人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。
- (6) 中学・高校生には、全体の設問から一部を抜粋した調査票により質問したため、設問番号が一般(中学・高校生以外)と異なっている。図表中は、下記のように表記して区別した。

全体: 一般(中学・高校生以外)と中学・高校生の計

一般: 中学・高校生以外の一般住民

中学・高校生: 調査時点で中学・高校生

Ⅱ 調査結果

1. 東日本大震災発生当時および震災前の状況

(1) 震災発生当時の世帯構成

1) 震災発生当時の同居家族人数(現在世帯主または世帯の代表)

問31 【問 30 で「1 現在世帯主または世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

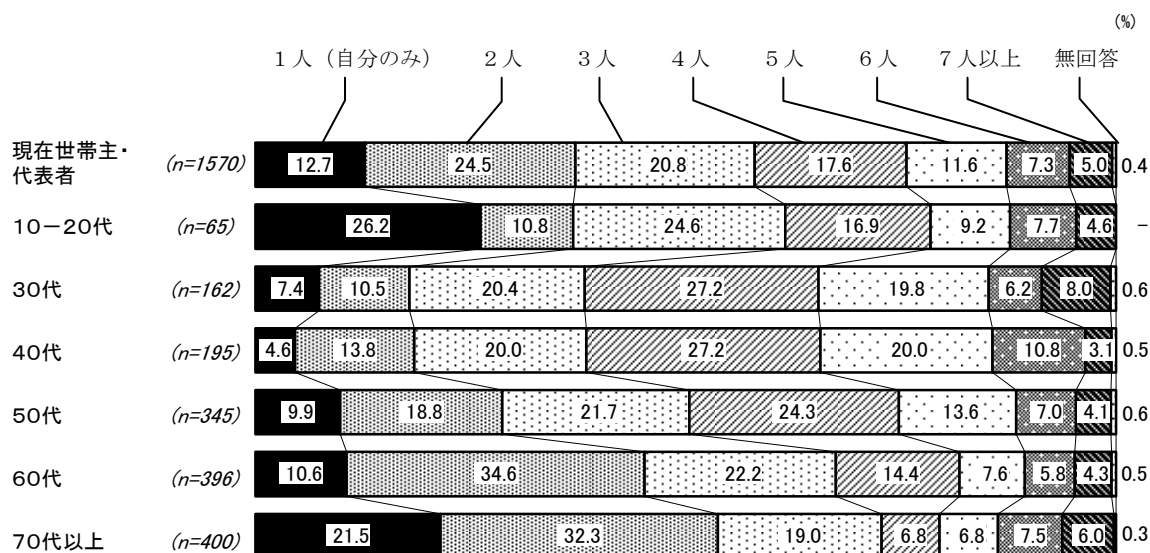
(1) 震災当時、双葉町でお住まいだった住宅のご同居人数を、あなた自身を含めて教えてください。(○は1つ)

(2) 震災当時、双葉町でお住まいだった住宅に同居されていた方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。震災当時の学齢・年齢でご回答ください。(○はいくつでも)

現在世帯主もしくは世帯の代表者(1,570 人)の震災発生当時の世帯人数は「2 人」世帯が 24.5%と最も多く、次いで「3 人」世帯(20.8%)、「4 人」世帯(17.6%)が 2 割前後となっている。以降、「1 人」(12.7%)、「5 人」(11.6%)などと続く。(図表 1-1-1)

世帯主(または代表者)の年代別に見ると、30-40 代において最も多いのは「4 人」世帯で、前後をあわせた 3 人から 5 人合計で 6 割を超えている。50 代以降年代が上昇するほど「2 人以下」の構成比が高くなり、60 代以上では 3 割を超える。また、「1 人(自分のみ)」の単身居住は、10-20 代(26.2%)と 70 代以上(21.5%)では他層より多く、2 割を超えている。(図表 1-1-1)

図表 1-1-1 震災発生当時の同居家族人数

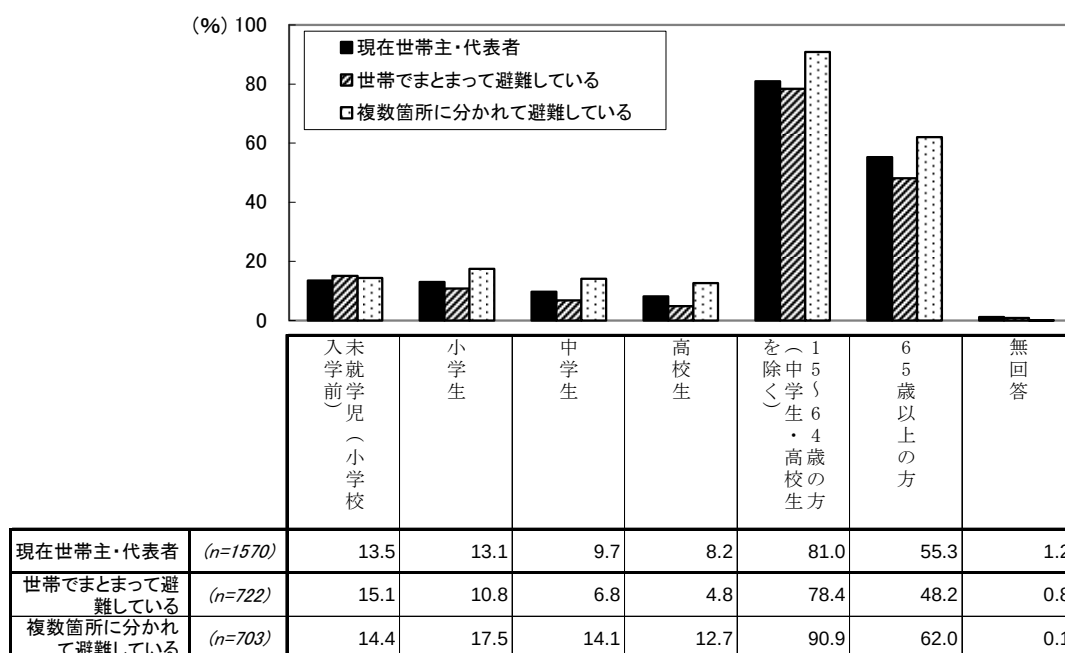


2) 震災発生当時同居家族の学齢・年齢構成(現在世帯主または世帯の代表)

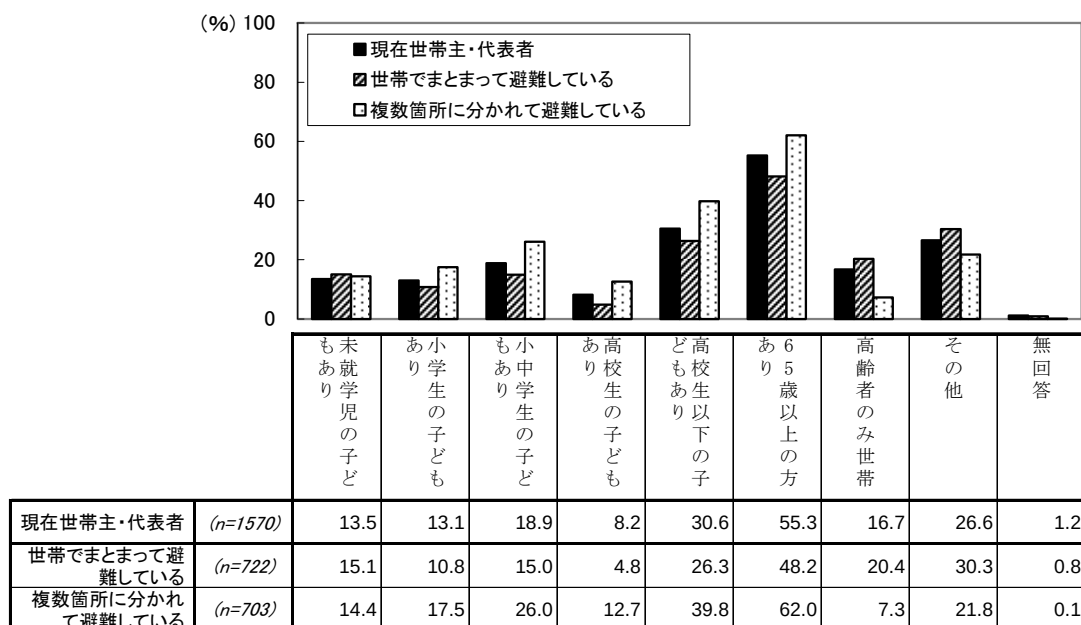
現在世帯主もしくは世帯の代表者(1,570 人)の震災発生当時の回答者自身およびその同居者の学齢・年齢をみると、「65 歳以上の方あり」は 55.3%で半数を超えており、高齢者のみの世帯は 16.7%である。子どもとの同居については、「未就学児(小学校入学前)」が 13.5%、「小学生」が 13.1%、「中学生」が 9.7%、「高校生」が 8.2%で、高校生以下の子どもがある世帯は 30.6%となっている。(図表 1-1-2) (図表 1-1-3)

世帯の避難状況別に見ると、高校生以下の子どもいづれかがいる世帯は、世帯でまとまって避難している世帯(26.3%)に比べて、複数か所に分かれて避難している世帯(39.8%)のほうが多い。また、「65 歳以上の方」がいる世帯についても、世帯でまとまって避難している世帯(48.2%)に比べて、複数か所に分かれて避難している世帯(62.0%)のほうが多くなっている。(図表 1-1-2) (図表 1-1-3)

図表 1-1-2 震災発生当時の世帯構成(世帯の避難状況別)



図表 1-1-3 震災発生当時の世帯類型(世帯の避難状況別)



世帯主(または代表者)の年代別に見ると、「高校生以下の子どもあり」は、30代で66.7%、40代では64.1%で、他の年代層に比べて多い。具体的には、30代では「未就学児(小学校入学前)」(57.4%)が多く、40代では「小学生」(32.3%)および「中学生」(29.7%)がそれぞれ約3割、「未就学児(小学校入学前)」(20.0%)と「高校生」(18.5%)が約2割となっている。40代以上の層では「65歳以上の方」が4割を超え(40代40.0%、50代45.5%、60代45.5%、70代以上100.0%)、30代以下の層に比べて多い。(図表 1-1-4)(図表 1-1-5)

図表 1-1-4 震災発生当時の世帯構成(年代別)

(%)

		未就学児 (小学校入学前)	小学生	中学生	高校生	15～64歳の方 (中学生・高校生を除く)	65歳以上の方	無回答
現在世帯主・代表者	(n=1570)	13.5	13.1	9.7	8.2	81.0	55.3	1.2
10～20代	(n=65)	18.5	6.2	4.6	10.8	100.0	21.5	－
30代	(n=162)	57.4	27.8	6.2	3.1	100.0	21.6	－
40代	(n=195)	20.0	32.3	29.7	18.5	100.0	40.0	－
50代	(n=345)	3.8	9.3	11.9	13.9	100.0	45.5	－
60代	(n=396)	9.8	5.8	2.5	1.0	85.6	45.5	4.5
70代以上	(n=400)	4.0	8.8	7.3	6.8	40.5	100.0	－

図表 1-1-5 震災発生当時の世帯類型(年代別)

(%)

		未就学児の子どもあり	小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高校生の子どもあり	高校生以下の子どもあり	65歳以上の方あり	高齢者のみ世帯	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=1570)	13.5	13.1	18.9	8.2	30.6	55.3	16.7	26.6	1.2
10～20代	(n=65)	18.5	6.2	10.8	10.8	33.8	21.5	－	55.4	－
30代	(n=162)	57.4	27.8	31.5	3.1	66.7	21.6	－	24.1	－
40代	(n=195)	20.0	32.3	50.3	18.5	64.1	40.0	－	17.9	－
50代	(n=345)	3.8	9.3	17.4	13.9	27.2	45.5	－	39.7	－
60代	(n=396)	9.8	5.8	7.6	1.0	14.9	45.5	9.1	42.9	4.5
70代以上	(n=400)	4.0	8.8	12.0	6.8	17.3	100.0	56.3	－	－

(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方(現在世帯主または世帯の代表)

問 32 【問 30 で「1 現在世帯主または世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】
震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。
(1) 所有形態(○は 1 つ)
(2) 住宅の建て方(○は 1 つ)

現在世帯主(または代表者、1,570 人)の震災発生当時の住宅の所有形態としては、「持ち家(ご本人またはご家族所有)」が 80.1%で多数を占め、「民間賃貸住宅」(6.1%)、「公営住宅」(5.9%)、「給与住宅(寮・社宅など)」(4.3%)はそれぞれ 1 割未満である。(図表 1-2-1①)

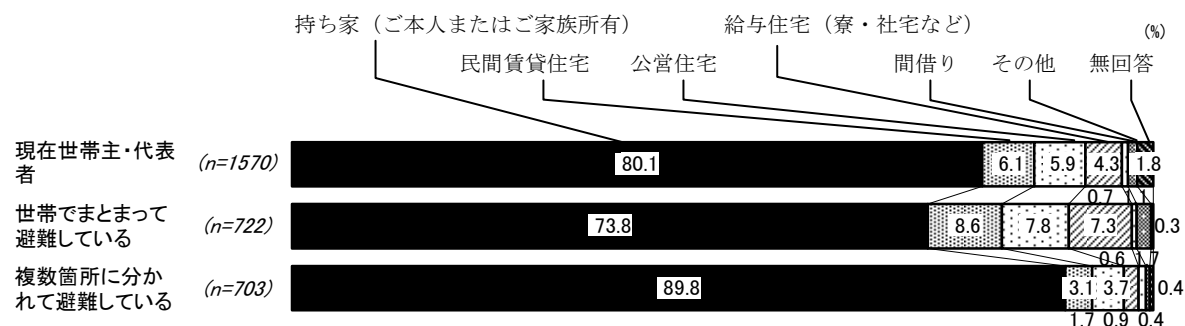
震災発生当時の住宅の建て方は、「一戸建て」が 84.1%と多数を占め、それに次ぐ「集合住宅(2 階建て以上)」が 11.5%となっている。(図表 1-2-1②)

世帯の避難状況別に見ると、「持ち家(ご本人またはご家族所有)」は、複数か所に分かれて避難している世帯では、世帯でまとまって避難している世帯に比べて多い(世帯でまとまって避難している 73.8%、複数か所に分かれて避難している 89.8%)。また、世帯でまとまって避難している世帯は、複数か所に分かれて避難している世帯よりも「民間賃貸住宅」への居住がやや多い(同 8.6%、3.1%)。(図表 1-2-1①)

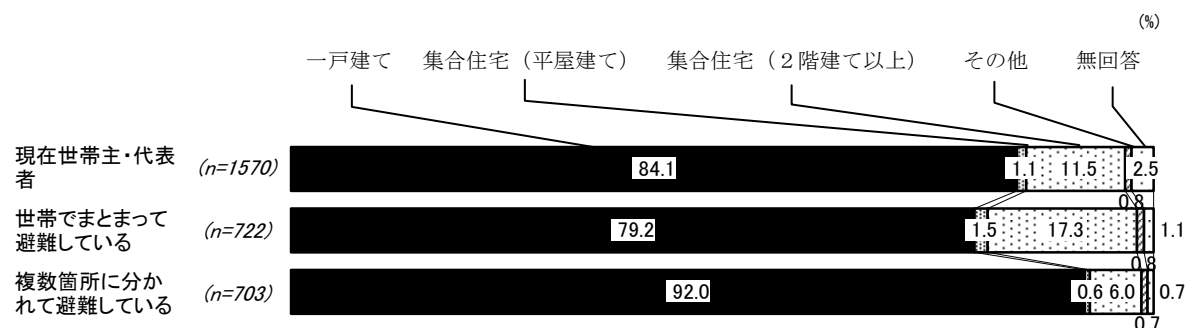
建て方を見ると、「一戸建て」は、複数か所に分かれて避難している世帯では、世帯でまとまって避難している世帯に比べて多い(世帯でまとまって避難している 79.2%、複数か所に分かれて避難している 92.0%)。(図表 1-2-1②)

図表 1-2-1 震災発生当時の住宅(世帯の避難状況別)

①所有形態



②建て方

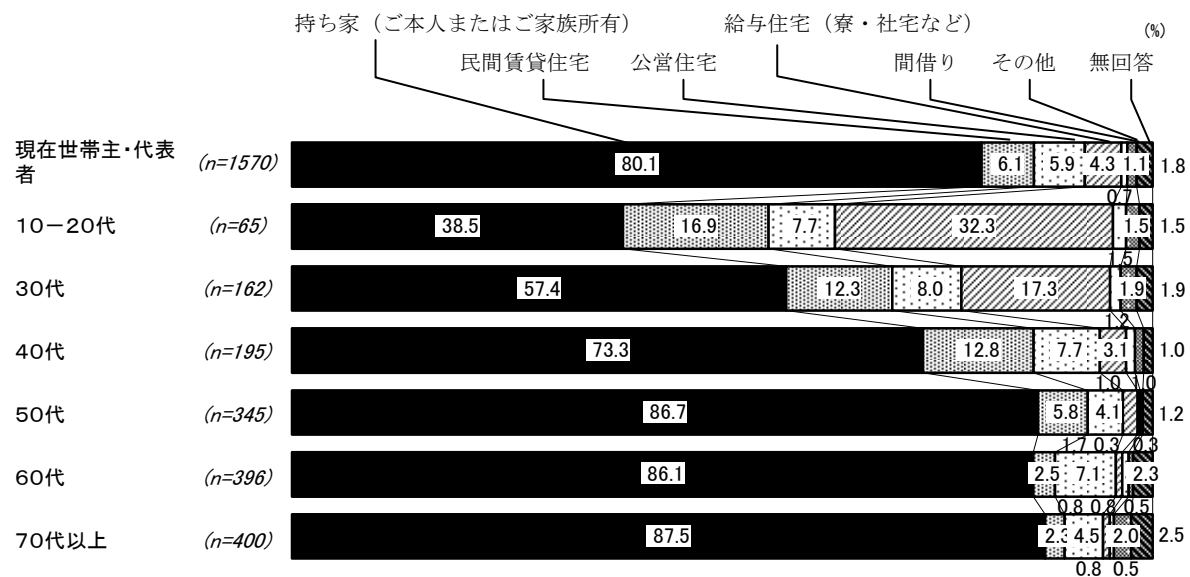


現在世帯主(または代表者、1,570 人)の年代別に見ると、「持ち家(ご本人またはご家族所有)」は50代以上の年齢層では8割を超えているのに対して、40代以下の層では若年齢層ほど少なくなっている。「給与住宅(寮・社宅など)」は、10-20代では32.3%、30代では17.3%で、40代以降の層に比べて多い。「民間賃貸住宅」は、10-20代(16.9%)、30代(12.3%)、40代(12.8%)では1割程度で、50代以降の層に比べて多い。(図表1-2-2①)

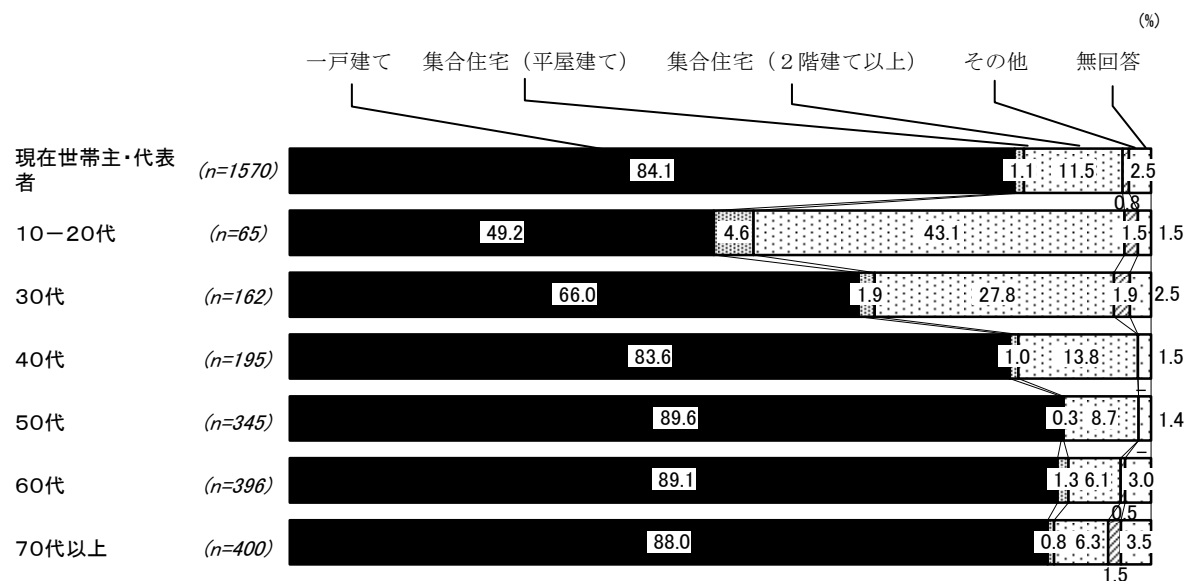
建て方は、「一戸建て」の割合が、40代以上の年齢層では8割台(40代83.6%、50代89.6%、60代89.1%、70代以上88.0%)であるのに対して、30代以下の層では若年齢層ほど少なくなっている。一方、「集合住宅(2階建て以上)」は、若年齢層ほど多い傾向が見られ、10-20代では43.1%、30代では27.8%である。(図表1-2-2②)

図表 1-2-2 震災発生当時の住宅(世帯主・代表者の年代別)

①所有形態



②建て方



(3) 震災発生当時の職業

問3 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

(2) 【仕事に就いていた方にうかがいます。】

業種 (○は1つ)

中学・高校生以外の一般住民(3,498人)に震災発生当時の職業を聞いたところ、「無職(退職者も含む)」が32.5%で最も多く、次いで、「会社員(労務)」(20.3%)、「自営業」(14.2%)、「会社員(事務)」(9.7%)、「パート・アルバイト」(9.3%)などの順となっている。(図表 1-3-1①)

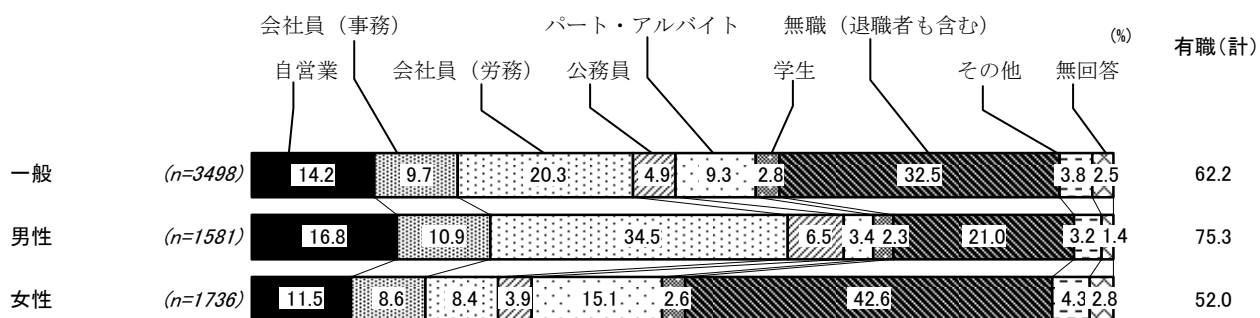
震災発生当時の有職者(2,177人)の業種としては、「卸・小売り・飲食、サービス業」(24.2%)が最も多く、次いで「建設業」(16.6%)、「電気・ガス・水道業」(11.5%)、「農・林・漁・畜産業」(10.1%)、「医療・福祉」(9.7%)、「製造業」(8.5%)などの順となっている。(図表 1-3-1②)

男女別に見ると、男性では「会社員(労務)」が34.5%と最も多く、次いで「無職(退職者も含む)」(21.0%)、「自営業」(16.8%)、「会社員(事務)」(10.9%)などの順である。一方、女性は「無職」が42.6%を占め、「パート・アルバイト」が15.1%、「自営業」が11.5%などの順である。(図表 1-3-1①)

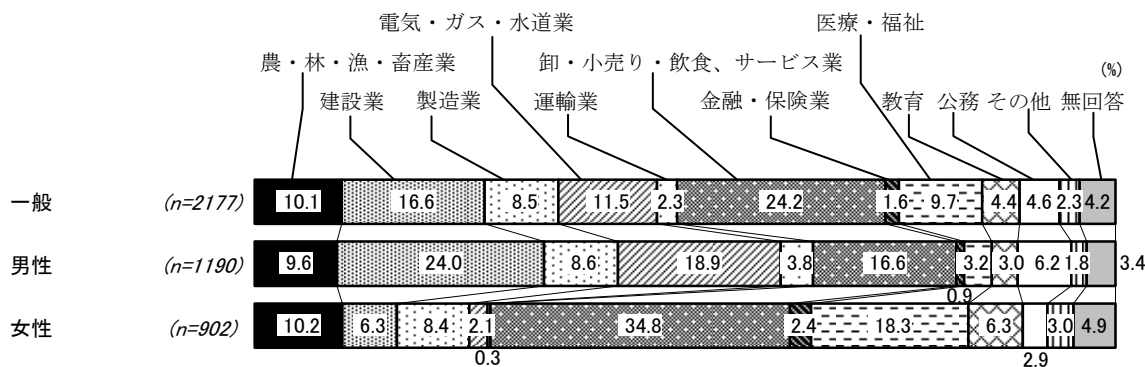
男女別に有職者の業種を見ると、男性では「建設業」に従事する人が24.0%で最も多く、次いで「電気・ガス・水道業」(18.9%)、「卸・小売り・飲食、サービス業」(16.6%)などの順となっている。女性では、「卸・小売り・飲食、サービス業」に従事する人が34.8%で最も多く、次いで「医療・福祉」(18.3%)、「農・林・漁・畜産業」(10.2%)などの順となっている。(図表 1-3-1②)

図表 1-3-1 震災発生当時の職業(男女別)

①職業



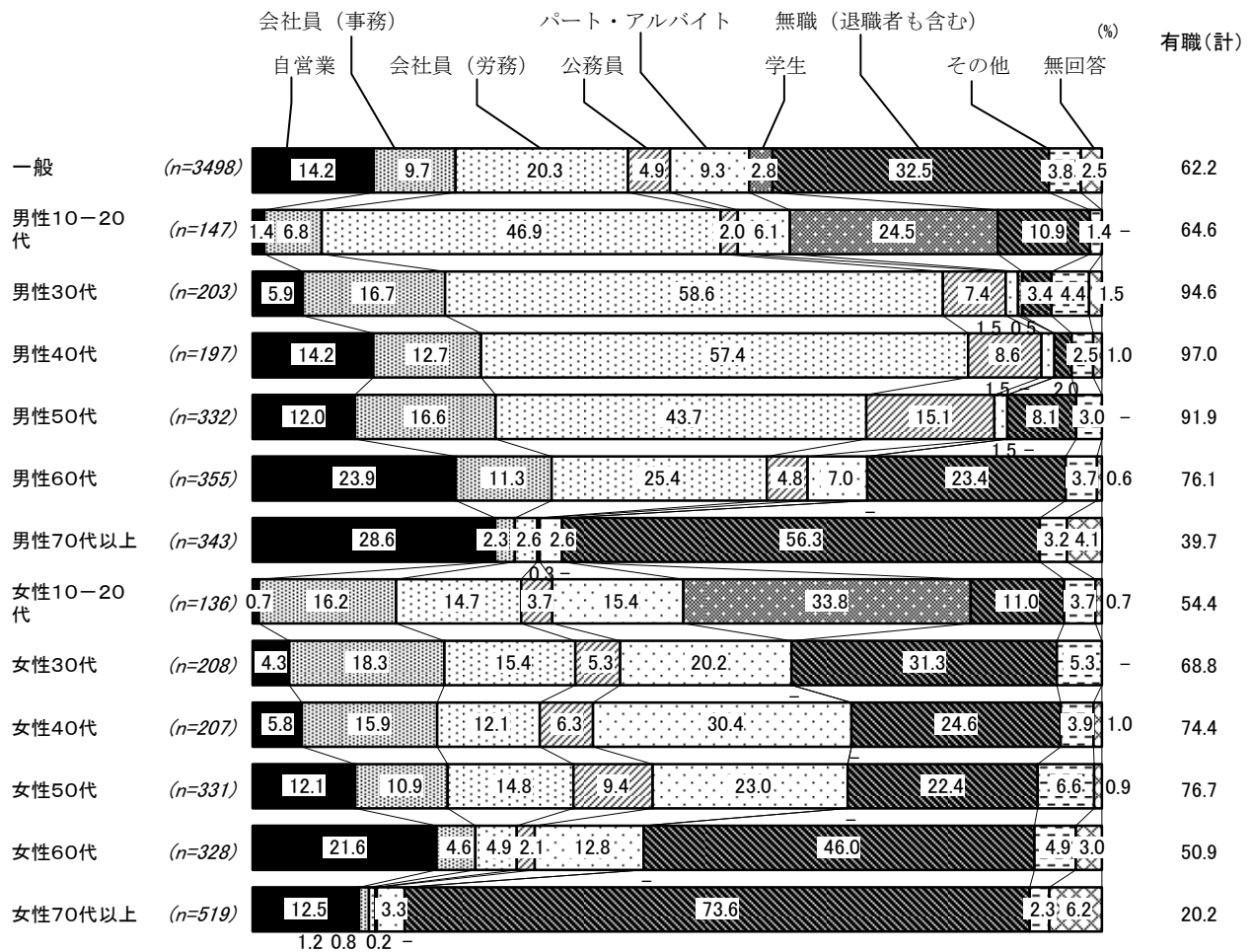
②業種



性・年代別に職業を見ると、男性の30-40代では「会社員(労務)」が5割を超えている(男性30代58.6%、男性40代57.4%)ほか、男性10-20代では46.9%、男性50代では43.7%となっており、他の性・年代より多くなっている。「パート・アルバイト」は女性40代で30.4%、女性30代(20.2%)・女性50代(23.0%)では2割台で、他の性・年代より多くなっている。「自営業」従事者は、男性70代以上(28.6%)、男性60代(23.9%)、女性60代(21.6%)で2割を超えている。「無職(退職者も含む)」は、女性70代以上(73.6%)、男性70代以上(56.3%)、女性60代(46.0%)の層で特に多い。(図表1-3-2①)

図表 1-3-2 震災発生当時の職業(性・年代別)

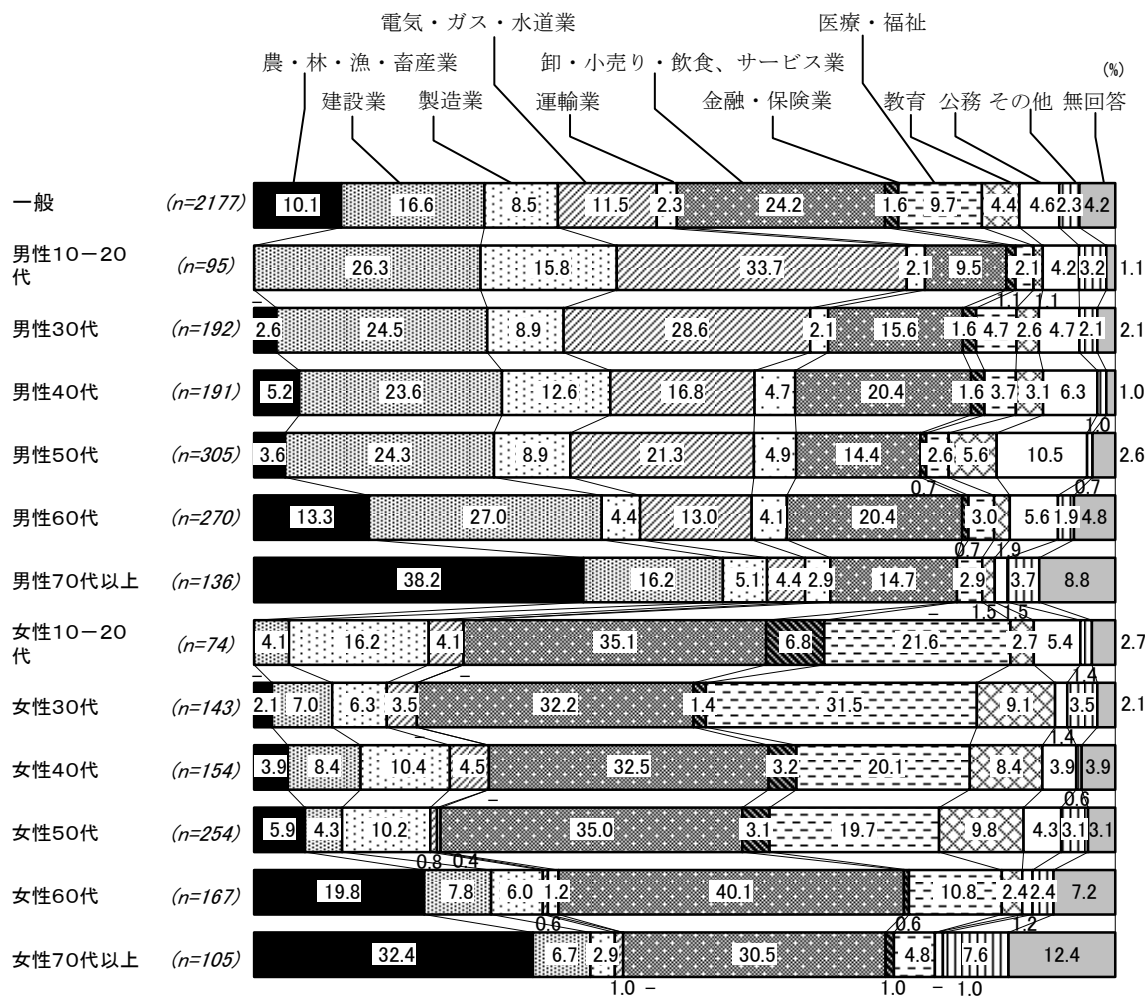
①職業



性・年代別に有職者の業種を見ると、「農・林・漁・畜産業」は男女とも高年齢層(特に70代以上)で多く、男性70代以上で38.2%、女性70代以上で32.4%である。「卸・小売り・飲食、サービス業」は、女性のいずれの層でも3割を超えている。特に女性60代の層では40.1%である。男性60代以下のいずれの層でも「建設業」は2割台となっている。「電気・ガス・水道業」は男性10-20代では33.7%、男性30代で28.6%、男性50代では21.3%で、他の性・年代層より多い。「医療・福祉」、「教育」は全般に男性より女性に多いが、特に女性30代では「医療・福祉」31.5%を占めている。(図表1-3-2②)

図表 1-3-2 震災発生当時の職業(性・年代別)

②業種



2. 現在の避難状況

(1) 世帯の避難状況

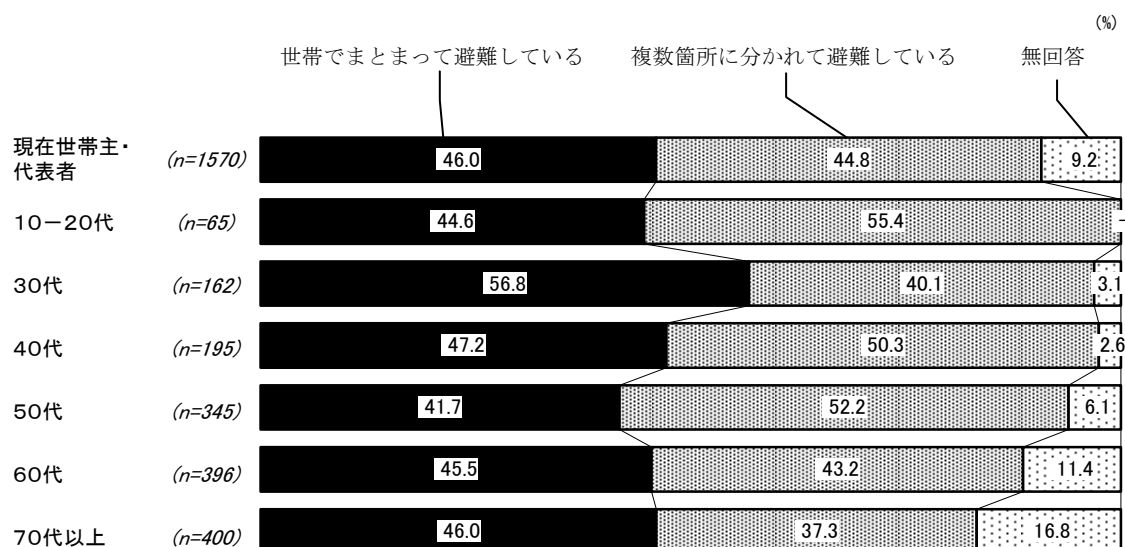
1) 分散状況(現在世帯主または世帯の代表)

問 33 【問 30 で「1 現在世帯主または世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】
 現在の世帯構成についてうかがいます
 (3) 現在あなたがお住まいの住宅には、震災発生当時の世帯でまとまって避難していますか。(○は1つ)
 (5) 【問 33(3)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】
 震災発生当時、一緒にお住まいであった世帯のご家族は、現在、合計何か所に分散してお住まいですか。
 (○は1つ)
 ※現在のあなたのお住まいも含めた数を教えてください。

現在世帯主(または代表者、1,570 人)に避難状況を聞いたところ、「世帯でまとまって避難している」のは 46.0%、「複数箇所に分かれて避難している」のは 44.8%でほぼ二分している。(図表 2-1-1)

世帯主(または代表者)の年代別に見ると、「世帯でまとまって避難している」という回答は 30 代(56.8%)では半数を超えており、いずれも 4 割台のその他の年代に比べて多い。逆に 10-20 代、40 代、50 代では「複数箇所に分かれて避難している」という回答が半数を超えている。(図表 2-1-1)

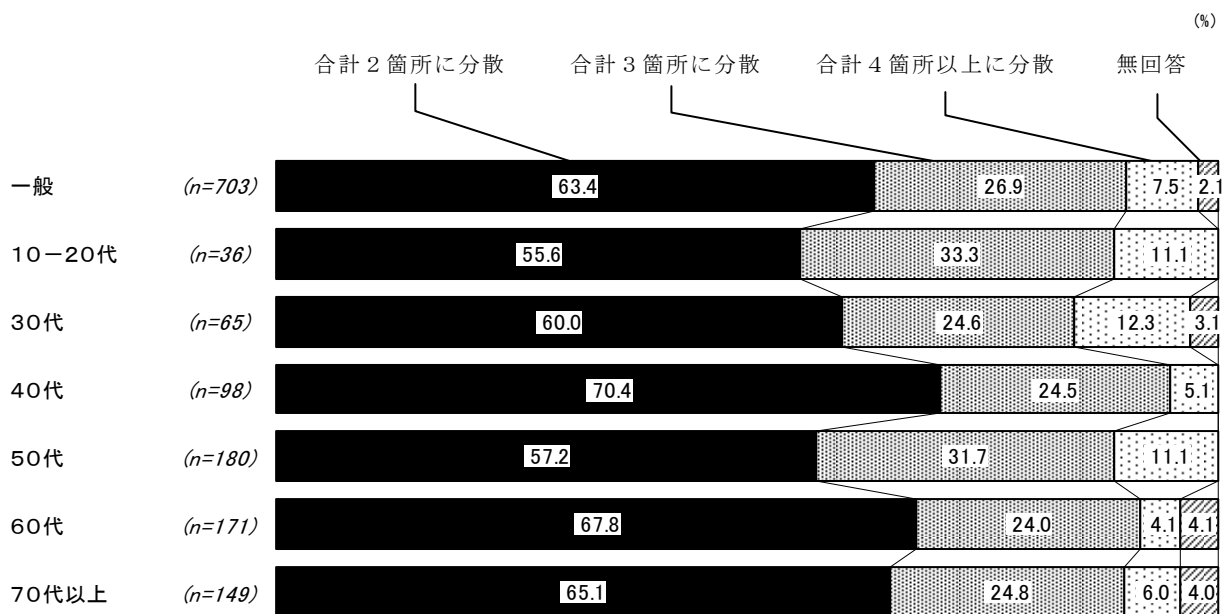
図表 2-1-1 世帯の避難状況(年代別)



「複数箇所に分かれて避難している」と回答した現在世帯主(または代表者、703 人)に、現在の分散状況を尋ねたところ、「合計 2 箇所に分散」が 63.4%で最も多く、次いで「合計 3 箇所に分散」が 26.9%、「合計 4 箇所以上に分散」が 7.5%となっている。(図表 2-1-2)

年代別に見ると、50 代では「合計3箇所に分散」が 3 割を超え、他の年代に比べて分散数がやや多い。(図表 2-1-2)

図表 2-1-2 世帯の分散状況(年代別)



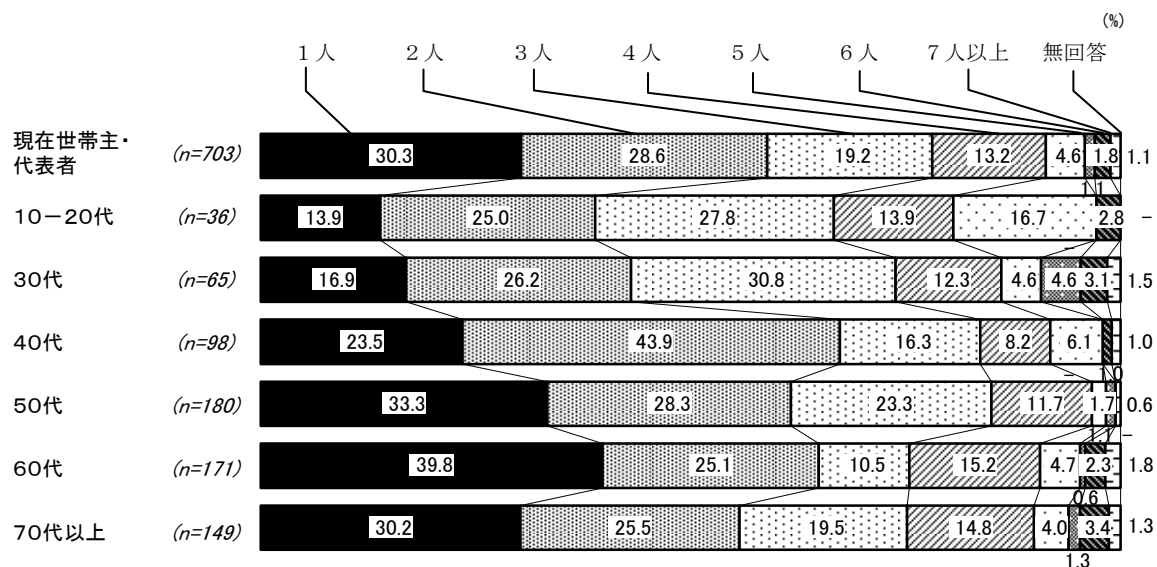
2) 別居家族人数(分散避難世帯)

問 33(4) 【問 33(3)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。
現在、あなたと別居している方の人数は何人ですか。(○は1つ)

複数箇所に分かれて避難している分散世帯の世帯主(または代表者、703 人)に別居家族人数を聞いたところ、「1 人」(30.3%)、「2 人」(28.6%)が3 割前後で多く、以下、「3 人」(19.2%)、「4 人」(13.2%)などと続く。(図表 2-1-3)

年代別に見ると、40～60 代では「2 人」以下合計が6 割を超え、別居家族人数が比較的少ないのに対し、30 代では「3 人」以上合計で 55.4%と半数を超えており、別居家族人数が比較的多い。(図表 2-1-3)

図表 2-1-3 別居している方の人数(年代別)

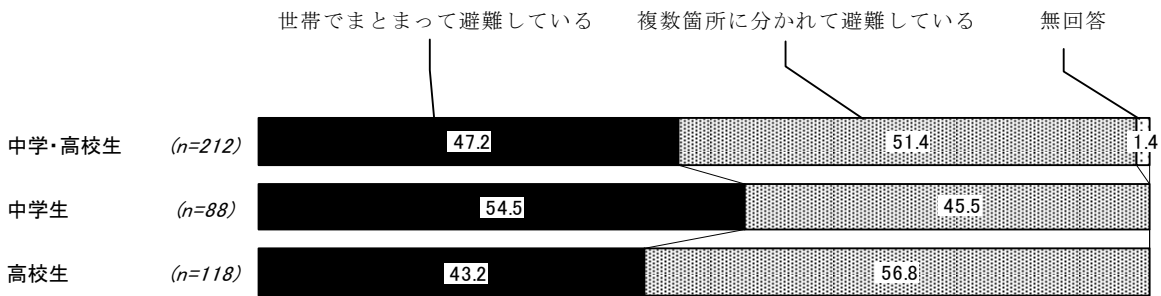


3)避難状況(中学・高校生)

中学・高校生 あなたの家族は、震災後も世帯がまとまって避難していますか。(○は1つ)
問 14(1)

中学・高校生(212 人)に、世帯の分散状況について尋ねたところ、「世帯でまとまって避難している」のは 47.2%で、「複数箇所に分かれて避難している」(51.4%)とほぼ二分しているが、分離避難のほうやや多い。「複数箇所に分かれて避難している」は、中学生では45.5%であるのに対して、高校生では56.8%で、中学生より高校生のほうが世帯分離居住が多くなっている。(図表 2-1-4)

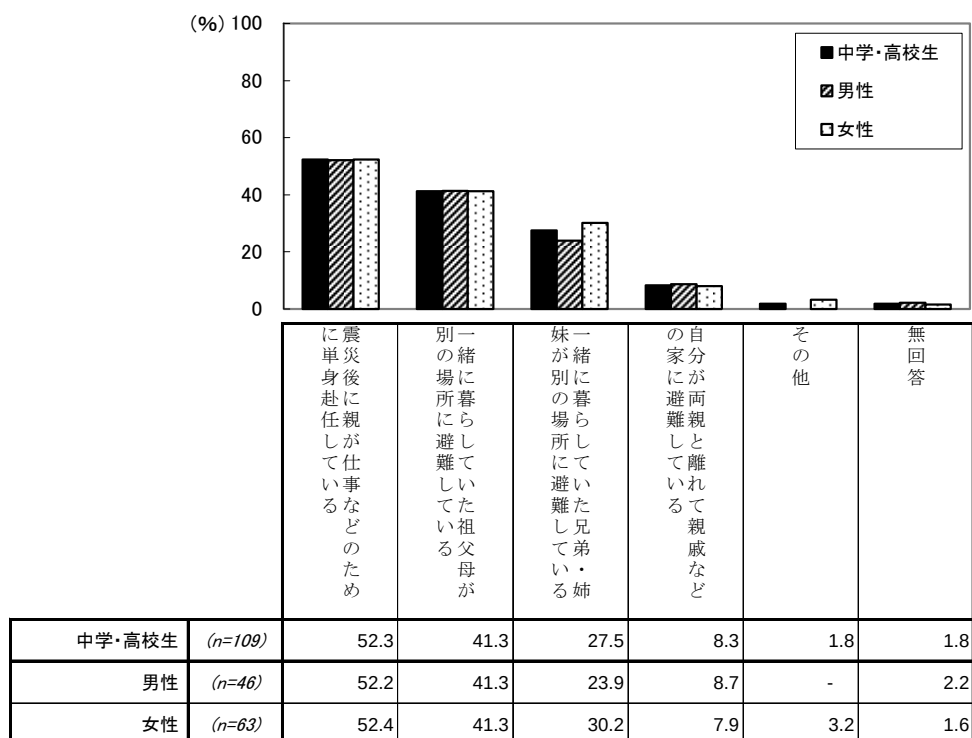
図表 2-1-4 中学・高校生の世帯の避難状況



中学・高校生 【問 14(1)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】
問 14(2) どのように分かれて避難していますか。(○はいくつでも)

複数箇所に分かれて避難している中学・高校生(109 人)の分散状況を複数回答で尋ねたところ、「震災後に親が仕事などのために単身赴任している」が 52.3%、「一緒に暮らしていた祖父母が別の場所に避難している」が 41.3%、「一緒に暮らしていた兄弟・姉妹が別の場所に避難している」が 27.5%、「自分が両親と離れて親戚などの家に避難している」が 8.3%となっている。(図表 2-1-5)

図表 2-1-5 中学・高校生の世帯の分散状況



(2) 現在の世帯構成

1) 現在の同居家族人数(現在世帯主または世帯の代表)

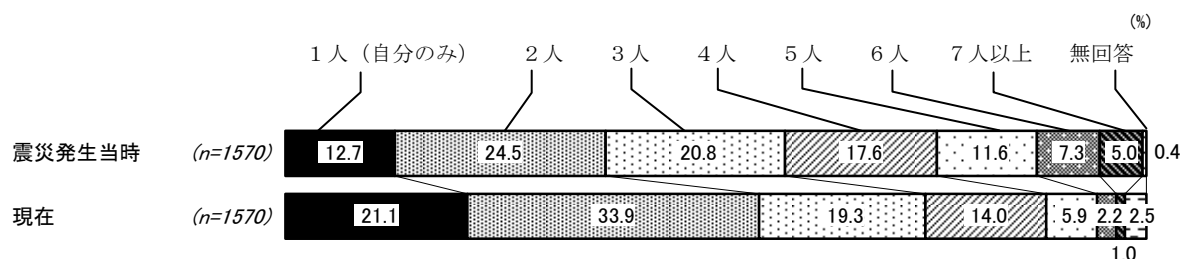
問 33 【問 30 で「1 現在世帯主または世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 現在あなたがお住まいの住宅のご同居人数を、あなた自身を含めて教えてください。

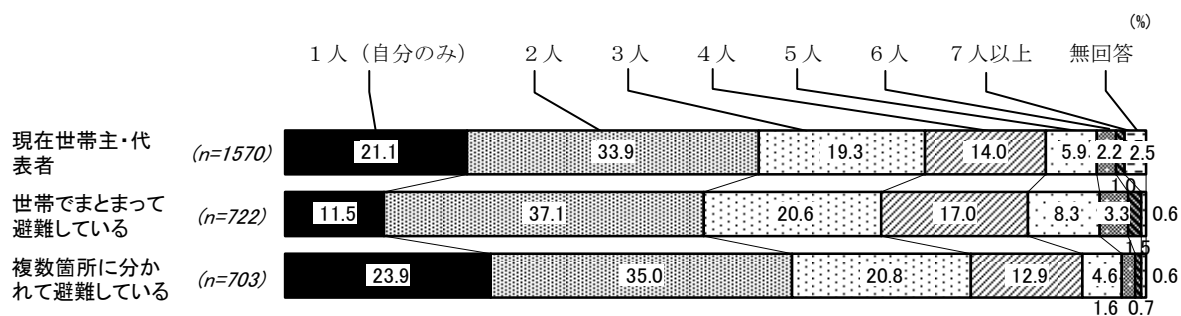
現在世帯主(または代表者、1,570 人)の現在の同居家族人数を見ると、「2 人」が 33.9%で最も多く、次いで「1 人(自分のみ)」21.1%、「3 人」19.3%、「4 人」14.0%などの順である。震災発生当時に比べて、「1 人」および「2 人」の区分がそれぞれ増加し、2 人以下の合計構成比率は 18 ポイント上昇している(2 人以下の世帯;震災発生当時 37.2%、現在 55.0%)。(図表 2-2-1)

図表 2-2-1 同居家族人数(現在世帯主・代表者)



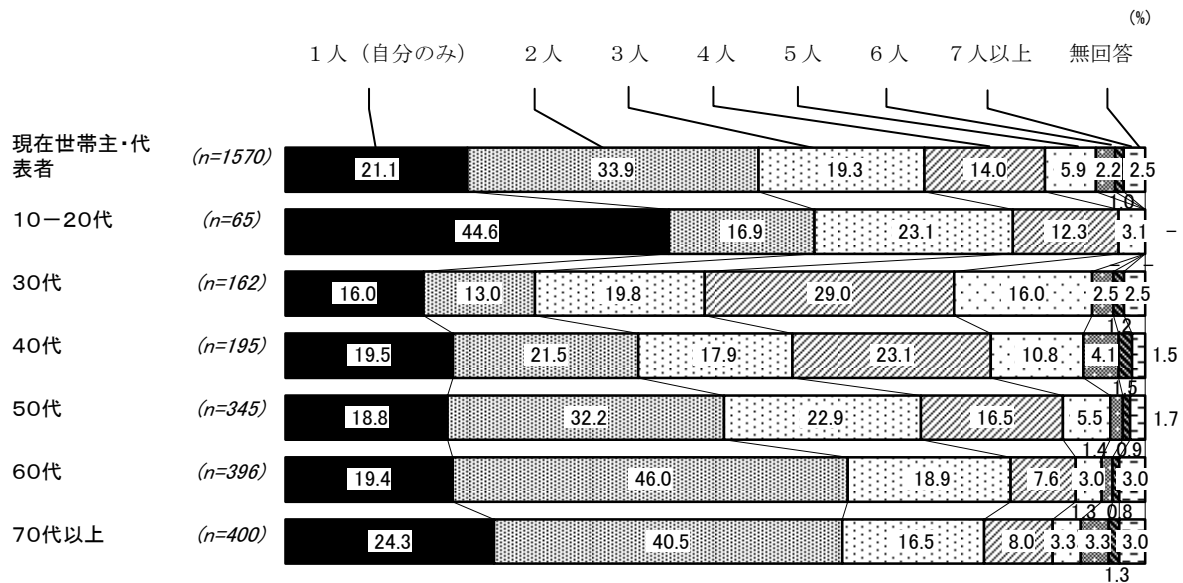
世帯の避難状況別に見ると、世帯でまとまって避難している世帯と複数箇所に分かれて避難している世帯で最も差異が見られるのは「1 人」という区分で、世帯でまとまって避難しているでは 11.5%であるのが、複数箇所に分かれて避難しているでは 23.9%となっている。(図表 2-2-2)

図表 2-2-2 現在の同居家族人数(世帯の避難状況別)



世帯主の年代別に見ると、10-20代では「1人(自分のみ)」が44.6%と半数近くとなっている。また、60代、70代以上の高齢層でも「2人」の区分がともに4割を超えて多く、2人以下の合計は、60代(65.4%)、70代以上(64.8%)、10-20代(61.5%)の3層で6割を超えて、少人数に転化した世帯が多い。(図表 2-2-3)

図表 2-2-3 現在の同居家族人数(年代別)



2) 現在同居家族の学齢・年齢構成(現在世帯主または世帯の代表)

問 33 【問 30 で「1 現在世帯主または世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

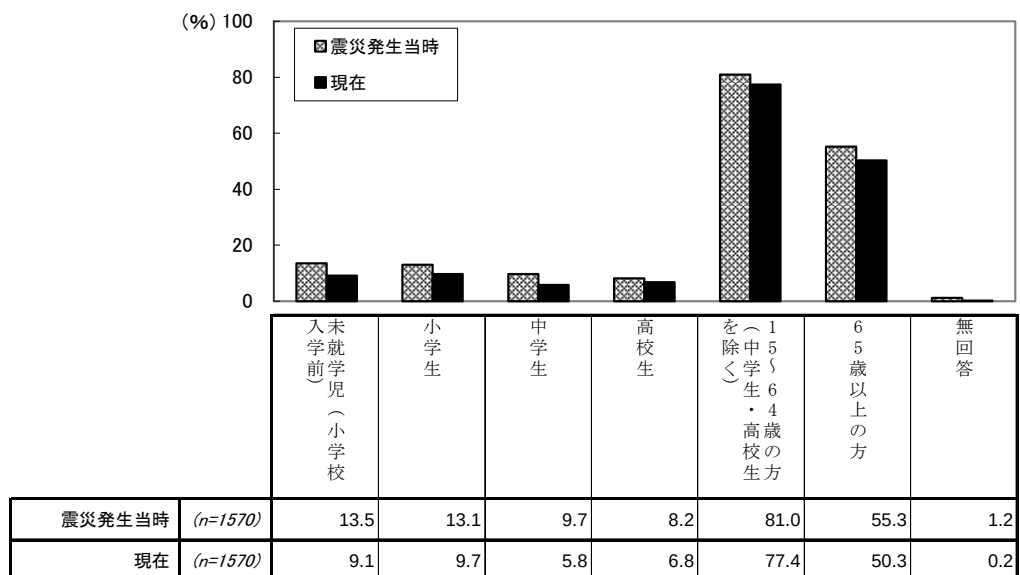
現在の世帯構成についてうかがいます。

(2) 現在あなたがお住まいの住宅にご同居されている方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。現在の学齢・年齢で
ご回答ください。(○はいくつでも)

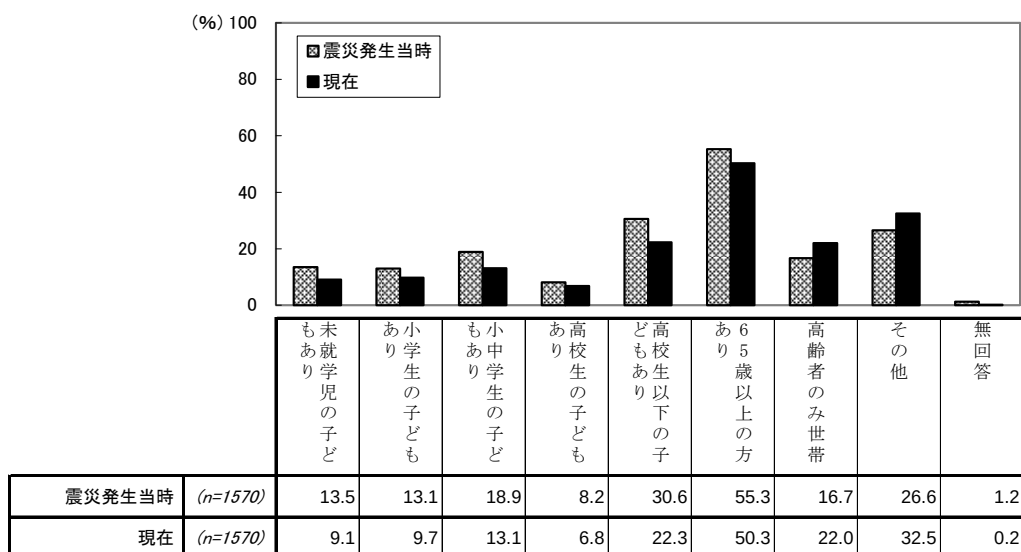
現在世帯主(または代表者、1,570 人)が現在同居している家族の学齢・年齢は、「65 歳以上の方」が 50.3%と半数を占め、高齢者のみの世帯は 22.0%である。子どもとの同居については、「未就学児(小学校入学前)」が 9.1%、「小学生」が 9.7%、「中学生」が 5.8%、「高校生」が 6.8%で、高校生以下の子どもがある世帯は 22.3%となっている。(図表 2-2-4) (図表 2-2-5)

震災発生当時に比べると、「高校生以下の子どもあり」は、震災発生当時 30.6%が現在は 22.3%で 8 ポイント低下し、「65 歳以上の方」も震災発生当時 55.3%が現在は 50.3%で 5 ポイント低下しているものの、「高齢者のみ世帯」は震災発生当時 16.7%が現在 22.0%で 5 ポイント上昇している。(図表 2-2-4) (図表 2-2-5)

図表 2-2-4 世帯構成(現在世帯主・代表者)



図表 2-2-5 世帯類型(現在世帯主・代表者)



世帯の避難状況別に見ると、「65 歳以上の方」は、世帯でまとまって避難している世帯では 53.2%と半数を占め、複数箇所に分かれて避難している世帯(44.1%)よりも多くなっている。「未就学児」や「小学生」は世帯でまとまって避難している世帯にやや多く、「高校生以下の子どもあり」で比較すると、世帯でまとまって避難している世帯(28.0%)は、複数箇所に分かれて避難している世帯(20.1%)よりも多い。(図表 2-2-6) (図表 2-2-7)

図表 2-2-6 現在の世帯構成(世帯の避難状況別)

(%)

		未就学児（小学校入学前）	小学生	中学生	高校生	15～64歳の方 （中学生・高校生を除く）	65歳以上の方	無回答
現在世帯主・代表者	(n=1570)	9.1	9.7	5.8	6.8	77.4	50.3	0.2
世帯でまとまって避難している	(n=722)	13.6	12.5	7.3	6.8	79.6	53.2	—
複数箇所に分かれて避難している	(n=703)	6.1	8.5	5.3	7.8	82.1	44.1	0.3

図表 2-2-7 現在の世帯類型(世帯の避難状況別)

(%)

		未就学児の子どもあり	小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高校生の子どもあり	高校生以下の子どもあり	65歳以上の方あり	高齢者のみ世帯	その他	無回答
現在世帯主・代表者	(n=1570)	9.1	9.7	13.1	6.8	22.3	50.3	22.0	32.5	0.2
世帯でまとまって避難している	(n=722)	13.6	12.5	16.8	6.8	28.0	53.2	20.2	25.3	—
複数箇所に分かれて避難している	(n=703)	6.1	8.5	11.5	7.8	20.1	44.1	17.1	40.1	0.3

年代別に見ると、30 代では「未就学児(小学校入学前)」が 47.5%、「小学生」が 35.8%、40 代では「小学生」、「中学生」、「高校生」がいずれも 22～24%となっている。50 代以下の年代層において、「65 歳以上の方」の構成比が、震災前後でいずれも 10 ポイント以上低下している(10-20 代震災発生当時 21.5%、現在 6.2%、30 代 21.6%、9.3%、40 代 40.0%、19.0%、50 代 45.5%、31.6%) (p15 参照)。(図表 2-2-8) (図表 2-2-9)

図表 2-2-8 現在の世帯構成(年代別)

(%)

		未就学児（小学校入学前）	小学生	中学生	高校生	15～64歳の方 （中学生・高校生を除く）	65歳以上の方	無回答
現在世帯主・代表者	(n=1570)	9.1	9.7	5.8	6.8	77.4	50.3	0.2
10-20代	(n=65)	26.2	10.8	3.1	—	100.0	6.2	—
30代	(n=162)	47.5	35.8	6.8	3.7	100.0	9.3	—
40代	(n=195)	13.3	22.6	24.1	22.6	100.0	19.0	—
50代	(n=345)	2.6	4.1	5.8	11.6	100.0	31.6	—
60代	(n=396)	2.0	3.5	0.5	1.0	80.6	55.8	—
70代以上	(n=400)	1.5	4.0	2.3	3.3	31.8	100.0	—

図表 2-2-9 現在の世帯類型(年代別)

(%)

		未就学児 の子ども あり	小学生の 子どもあ り	小中学生 の子ども あり	高校生の 子どもあ り	高校生以 下の子ど もあり	65歳以上 の方あり	高齢者の み世帯	その他	無回答
現在世帯主・代表 者	(n=1570)	9.1	9.7	13.1	6.8	22.3	50.3	22.0	32.5	0.2
10-20代	(n=65)	26.2	10.8	10.8	-	32.3	6.2	-	61.5	-
30代	(n=162)	47.5	35.8	37.0	3.7	67.3	9.3	-	29.6	-
40代	(n=195)	13.3	22.6	36.9	22.6	54.4	19.0	-	35.9	-
50代	(n=345)	2.6	4.1	8.7	11.6	18.3	31.6	-	53.6	-
60代	(n=396)	2.0	3.5	3.8	1.0	4.8	55.8	19.4	42.4	-
70代以上	(n=400)	1.5	4.0	5.5	3.3	8.0	100.0	66.5	-	-

(3) 現在避難している先の自治体

問4 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

※複数か所にお住まいの場合は、あなたがもっとも長く過ごしている場所1か所についてお答えください。

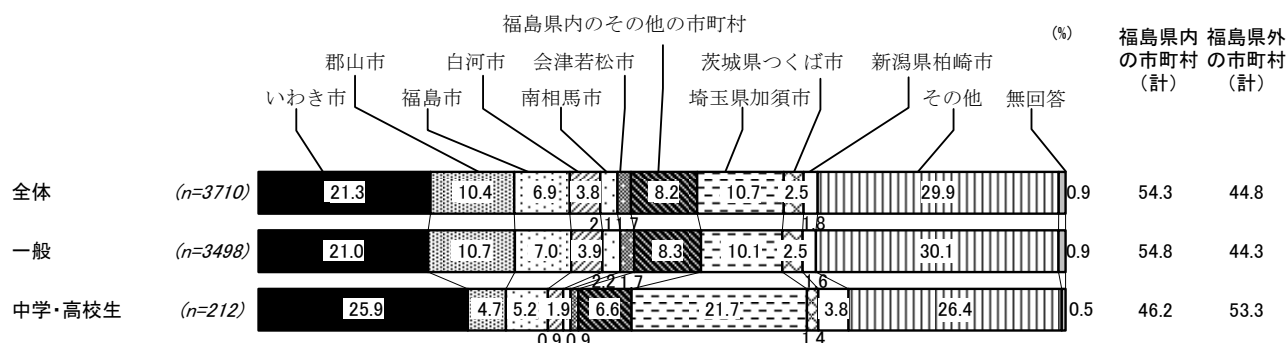
(「7」または「11」の場合は、の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。)

[中学・高校生:問2]

現在の避難先自治体としては、「いわき市」が21.3%で最も多く、次いで「埼玉県加須市」10.7%、「郡山市」10.4%、「福島市」6.9%などと続く。福島県内の市町村計は54.3%、福島県外の市町村計は44.8%で、福島県内が県外より多くなっている。(図表2-3-1)

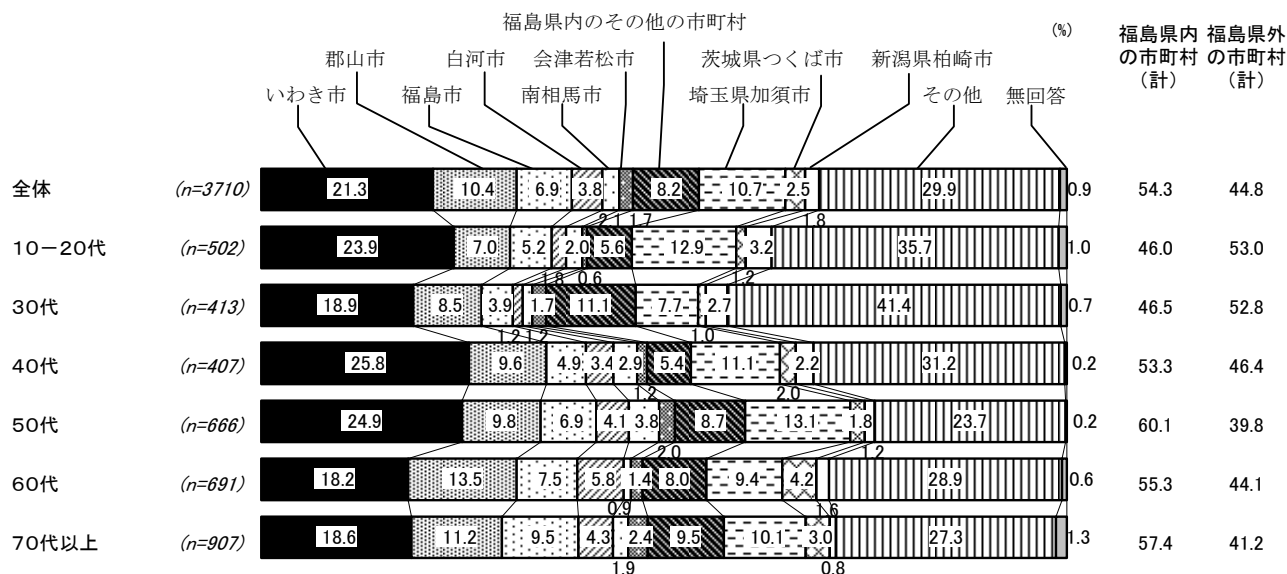
中学・高校生で見ると、「いわき市」は25.9%、「埼玉県加須市」は21.7%で、ともに2割を超えている。(図表2-3-1)

図表2-3-1 現在避難している先の自治体(男女別)



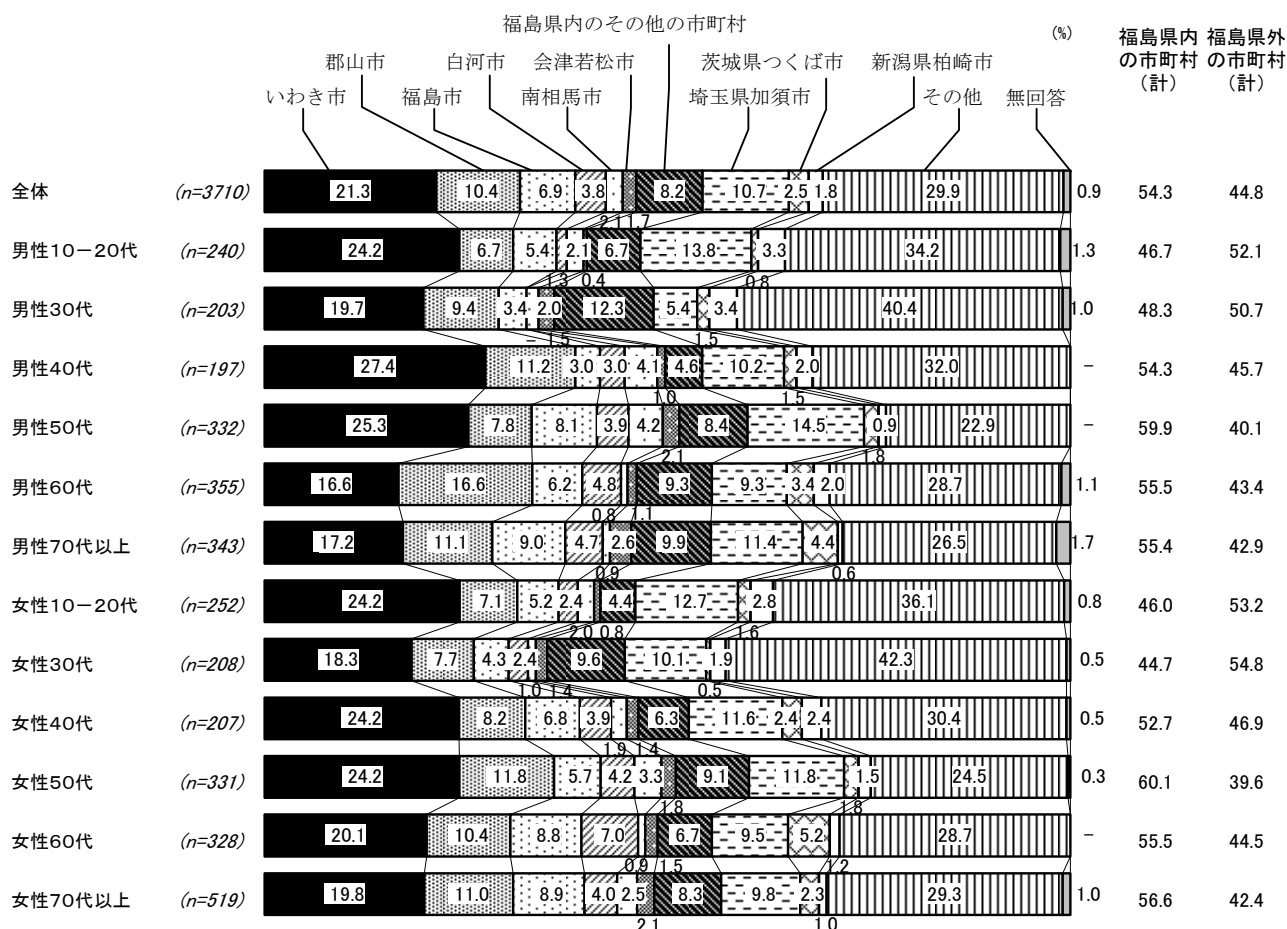
年代別に見ると、「いわき市」への避難は10-20代、40代、50代において2割を超え、他年代よりも多めである。「郡山市」への避難は60代以上の層では1割を超えている。30代以下の若年齢層では、福島県外への避難が半数を超えている。(図表2-3-2)

図表2-3-2 現在避難している先の自治体(年代別)



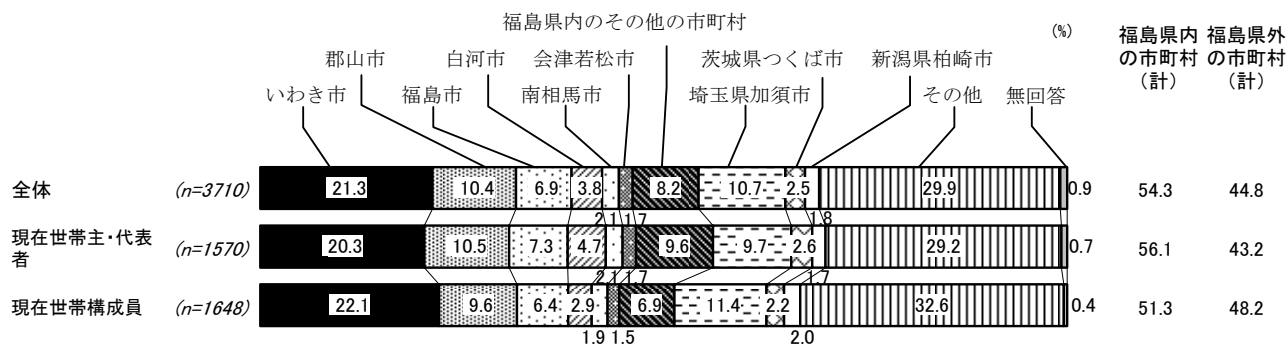
性・年代別に見ると、すべての性・年代において「いわき市」が最も多い。なお、男性 60 代では「郡山市」が「いわき市」と同率の 16.6%を占めている。男女とも 30 代以下の層では、福島県外への避難が半数を超えている。(図表 2-3-3)

図表 2-3-3 現在避難している先の自治体(性・年代別)



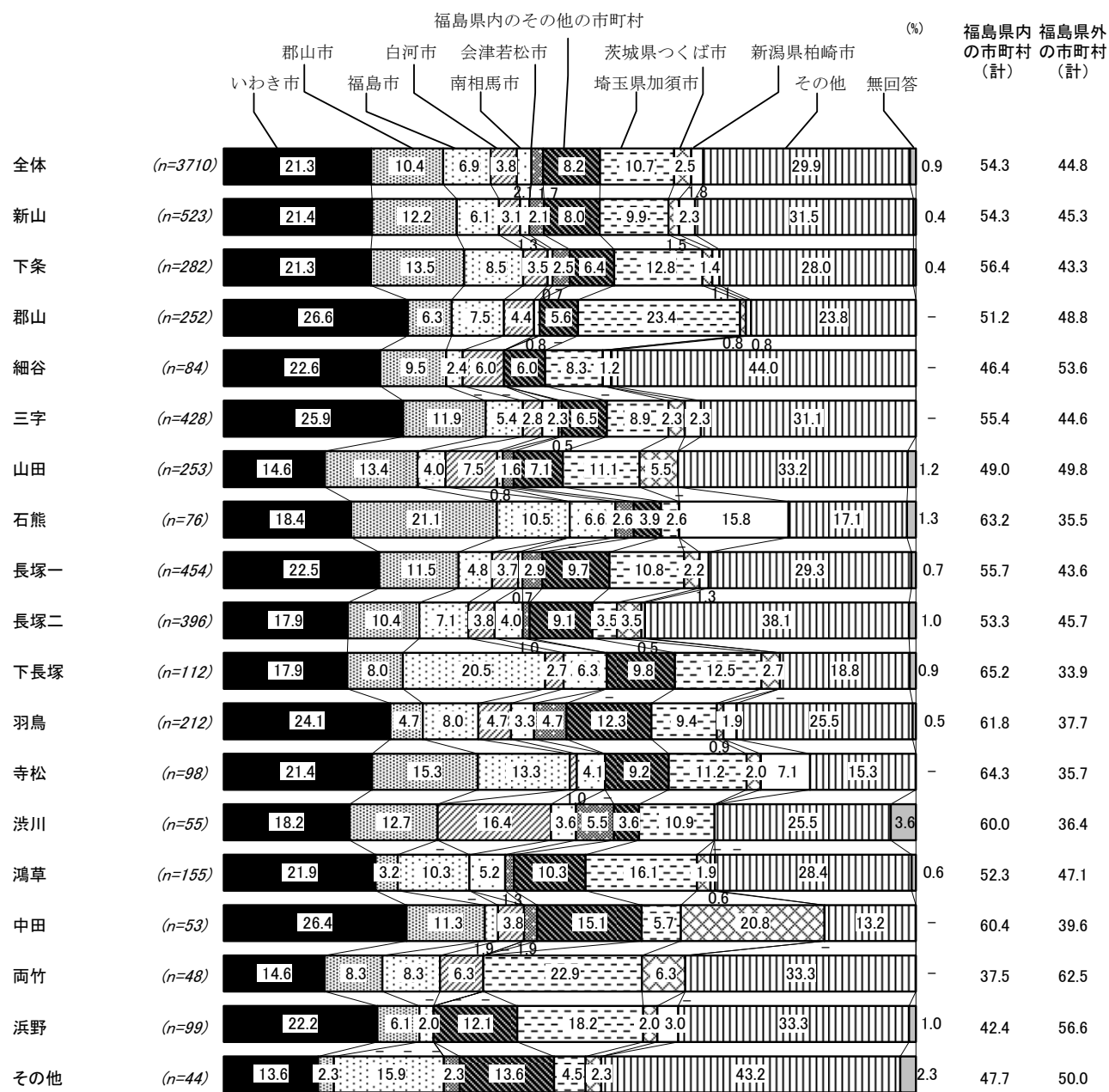
現在の世帯での立場別に見て、現在世帯主(または代表者)は現在世帯構成員に比べて福島県内への避難計がやや多いが、大きな差は見られない。(図表 2-3-4)

図表 2-3-4 現在避難している先の自治体(現在の世帯での立場別)



震災発生当時の居住地区別に見ると、「郡山市」への避難は石熊で 21.1%、「福島市」への避難は下長塚では 20.5%、「埼玉県加須市」への避難は郡山で 23.4%、「茨城県つくば市」への避難は中田で 20.8%となっており、いずれも 2 割を超え、他の居住地区に比べて多くなっている。(図表 2-3-5)

図表 2-3-5 現在避難している先の自治体(震災発生当時の居住地区別)



(4) 現在の住居種別(現在世帯主・代表者)

問5	現在お住まいになっている(避難をされている)住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。
(1)	所有形態(○は1つ)
(2)	【問5(1)所有形態で、「4」～「10」と回答した方にうかがいます。】
	住宅の建て方(○は1つ)

現在世帯主もしくは世帯の代表者(1,570人)の現在の住居形態としては、「みなし仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型(家賃無償))」が51.5%で過半数を占め、次いで、「民間賃貸住宅(有償)」16.8%、「応急仮設住宅(プレハブ型)」12.0%などの順である。また、「避難所(旧騎西高校)」への避難者は2.7%である。(図表2-4-1①)

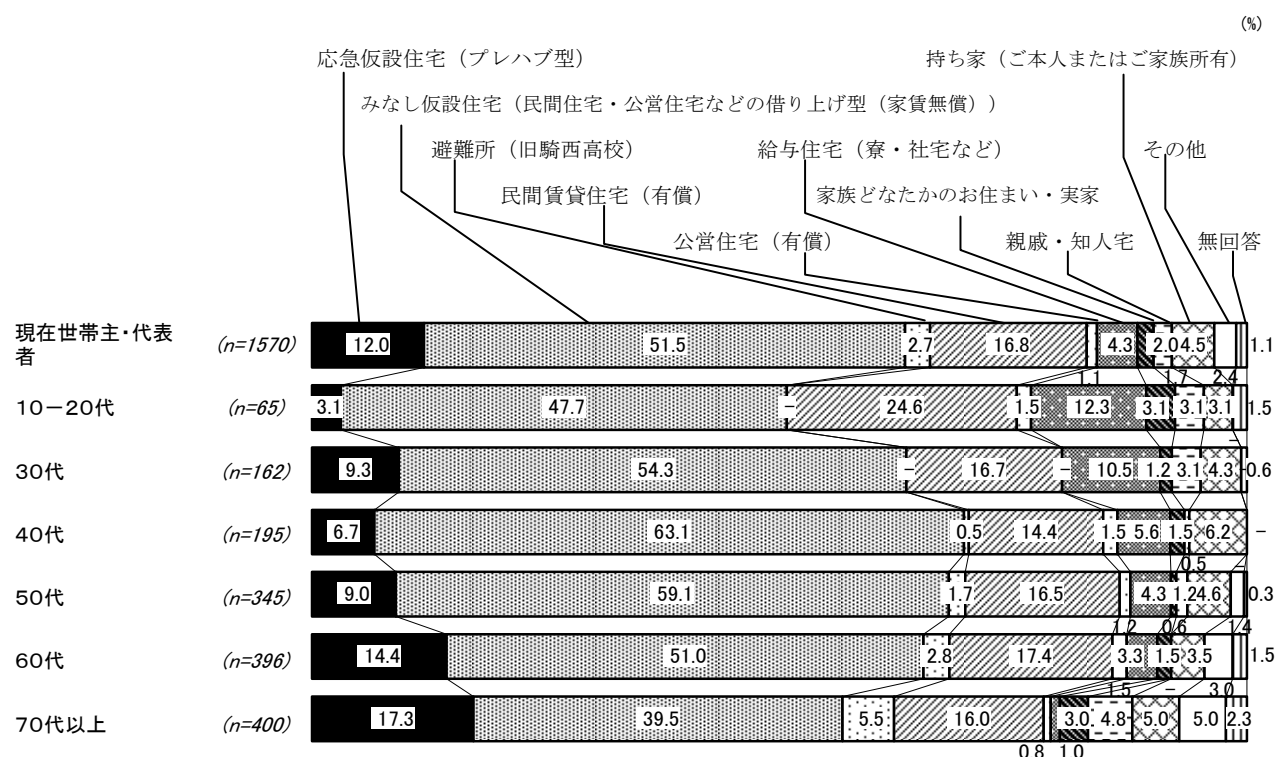
みなし仮設住宅・応急仮設住宅・避難所以外に居住している世帯主(または代表者、514人)に、現在居住の住宅の建て方を聞いたところ、「集合住宅(2階建て以上)」が55.6%と最も多く、次いで「一戸建て」が36.2%である。(図表2-4-1②)

世帯主(または代表者)の年代別に所有形態を見ると、いずれの年代においても「みなし仮設住宅」が最も多く、10-20代(47.7%)、70代以上(39.5%)以外の3-60代の層ではいずれも5割を超えている。10-20代の層では、「民間賃貸住宅(有償)」が24.6%で、他の年代層よりも多い。70代以上の層では、「応急仮設住宅」が17.3%で他層より多いほか、「避難所」も5.5%となっている。(図表2-4-1①)

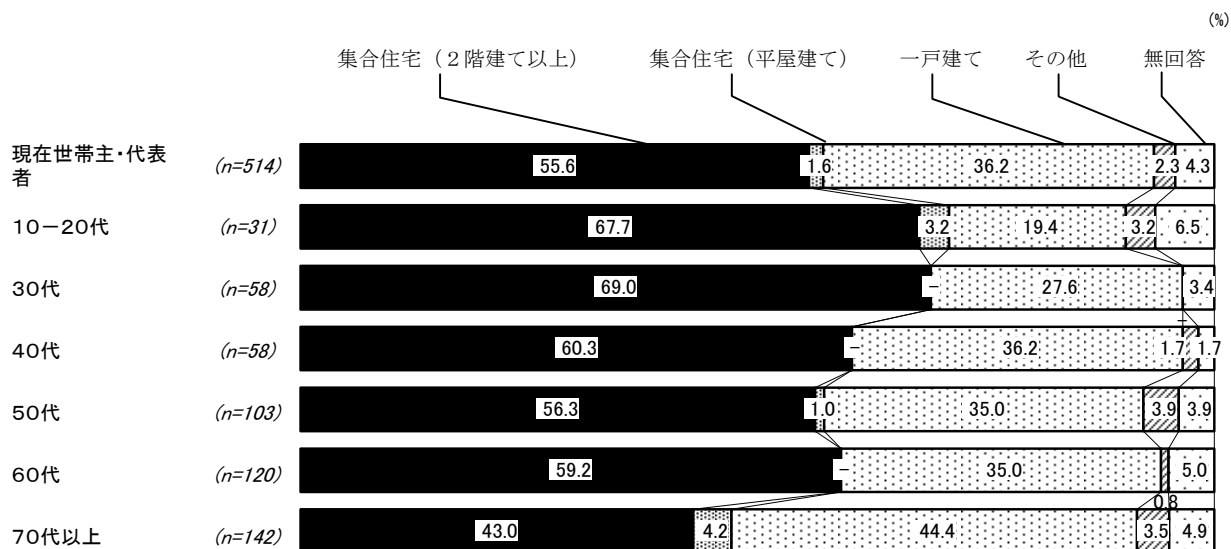
建て方を年代別に見ると、30代以下の若年層では「集合住宅(2階建て以上)」が7割弱程度となっているのに対して、40-60代の層では5割～6割、70代以上の層では43.0%である。一方、「一戸建て」は、30代以下の層では3割未満、40-60代の層では3割台、70代以上の層では44.4%と、年代層による違いが見られる。(図表2-4-1②)

図表2-4-1 現在の住宅(年代別)

①所有形態



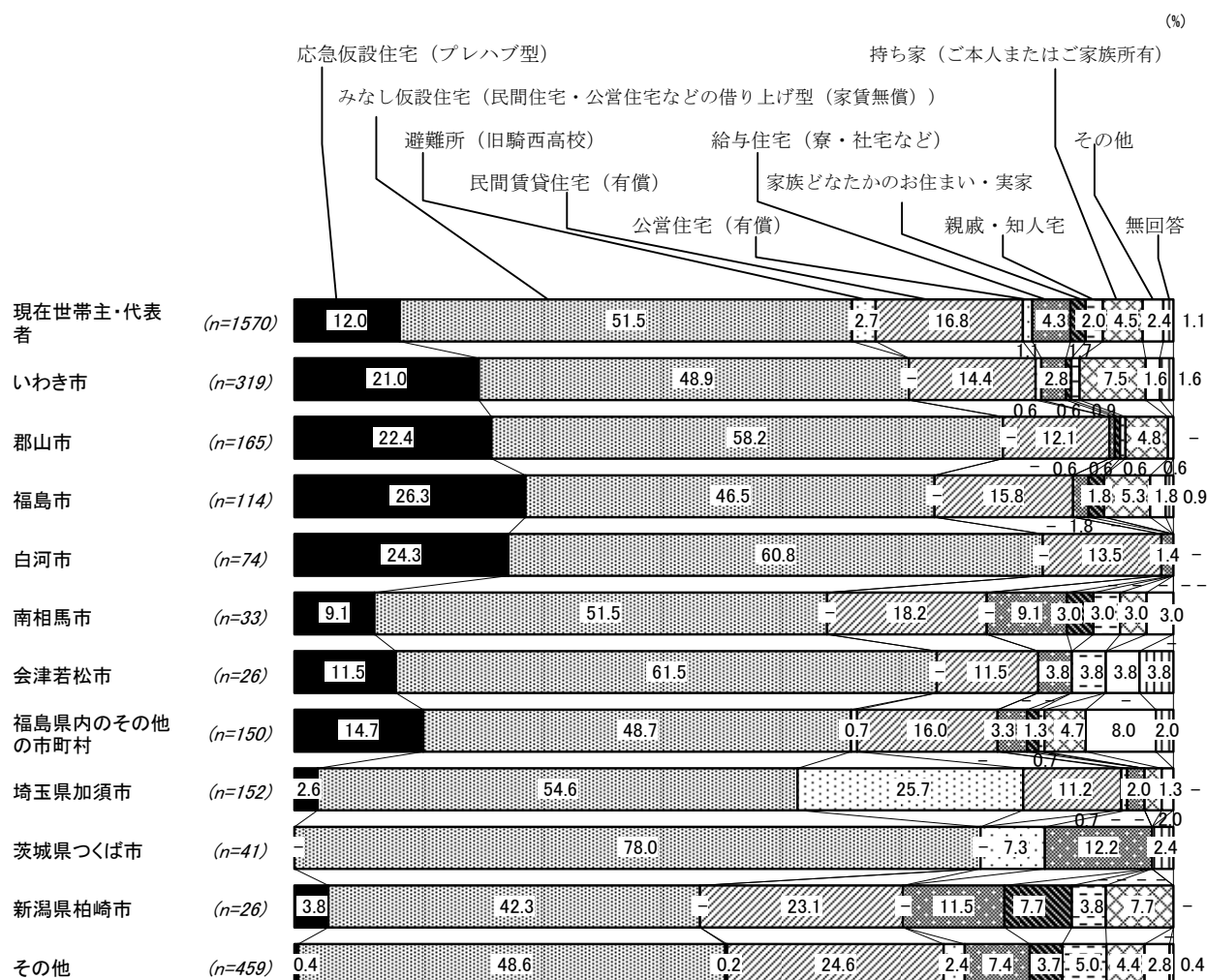
②建て方



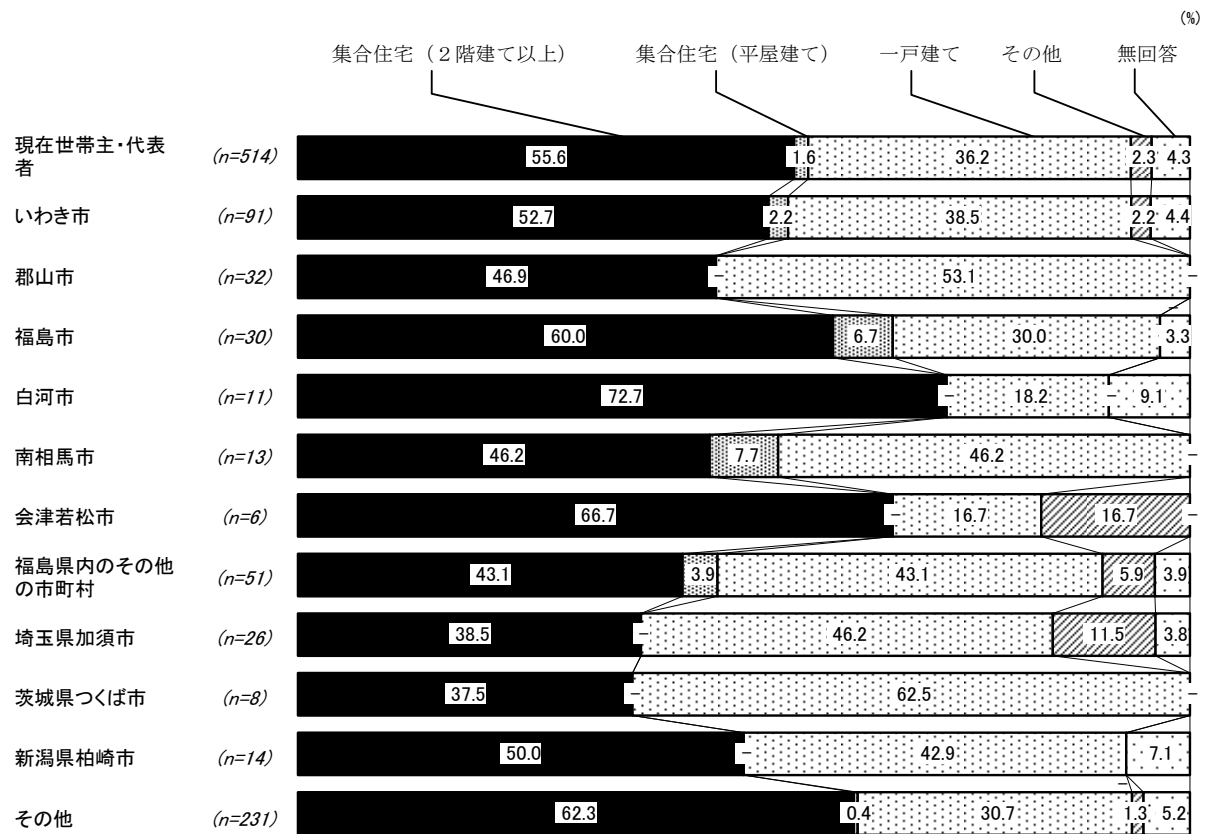
現在の避難先別に所有形態を見ると、いずれの避難先自治体においても「みなし仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型（家賃無償）」が4割を超え、最も多い。「応急仮設住宅（プレハブ型）」は、いわき市、郡山市、福島市、白河市ではいずれも2割を超えて多くなっている。（図表 2-4-2①）

図表 2-4-2 現在の住宅（現在の避難先別）

①所有形態



②建て方



(5) 現在の職業

問6 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

(2) 【仕事に就いている方にうかがいます。】
業種 (○は1つ)

中学・高校生以外の一般住民(3,498人)に現在の職業を聞いたところ、「無職(退職者も含む)」が56.7%で最も多い。有職者のうち、最も多いのは「会社員(労務)」(12.9%)で、次いで「会社員(事務)」(6.3%)、「パート・アルバイト」(4.9%)などの順となっている。自営業は、「継続中もしくは再開済み」が2.0%であるのに対して、「休業中」は3.5%である。(図表2-5-1①)

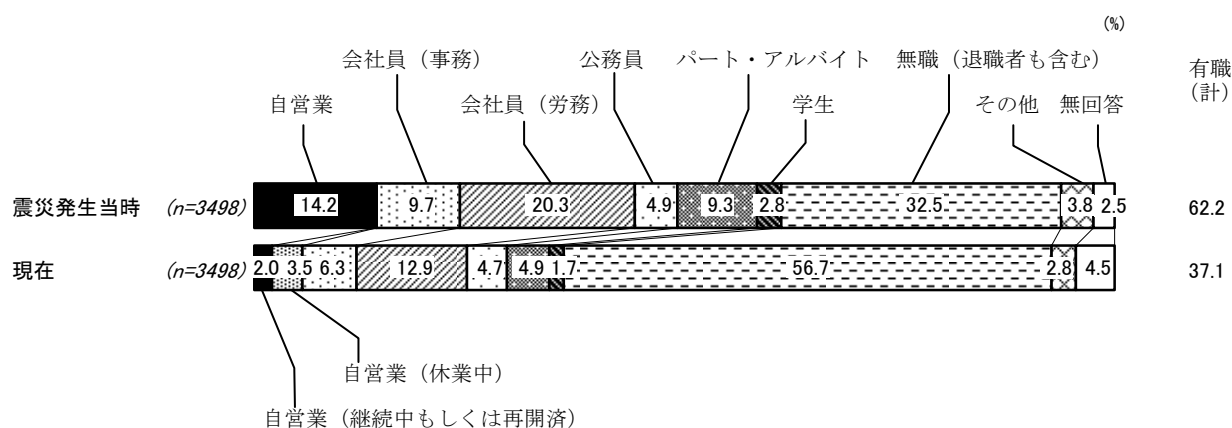
震災発生当時の有職者は62.2%であったのに対して、現在の有職者は、「自営業(休業中)」を含めて、合計37.1%で、25ポイント減少している。減少幅が比較的大きいのは、「自営業」(9ポイント減、休業中を除くと12ポイント減)、「会社員(労務)」(7ポイント減)などである。(図表2-5-1①)

現在の有職者(1,299人)の業種としては、「建設業」(16.9%)、「卸・小売り・飲食、サービス業」(16.0%)がほぼ同程度で並び、次いで「電気・ガス・水道業」(14.4%)、「医療・福祉」(8.6%)、「公務」(8.3%)、「製造業」(7.9%)などの順となっている。(図表2-5-1②)

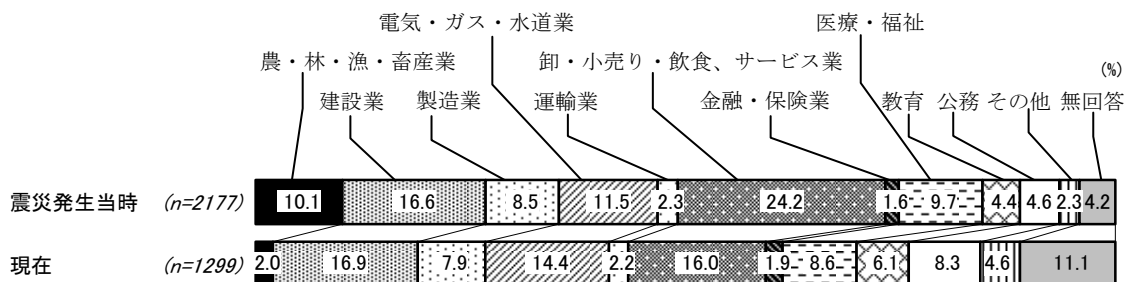
震災発生当時と比較すると、「農・林・漁・畜産業」および「卸・小売り・飲食、サービス業」ではいずれも8ポイント減少が見られる。(図表2-5-1②)

図表 2-5-1 職業(震災発生当時・現在)

①職業



②業種

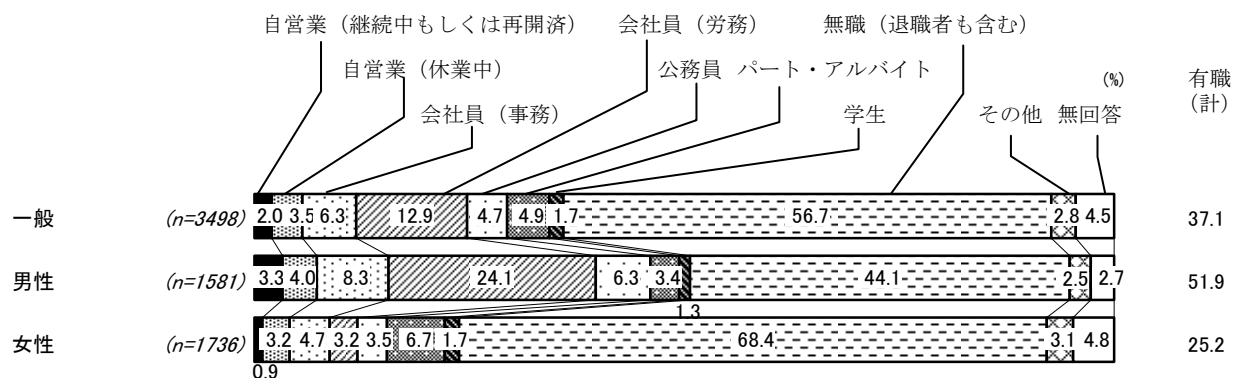


男女別に見ると、「無職(退職者も含む)」は男性で 44.1%、女性で 68.4%である。男性有職者は、「会社員(労務)」(24.1%)、「会社員(事務)」(8.3%)の順であるのに対し、女性有職者では「パート・アルバイト」(6.7%)、「会社員(事務)」(4.7%)などの順で、いずれも 1 割未満となっている。(図表 2-5-2①)

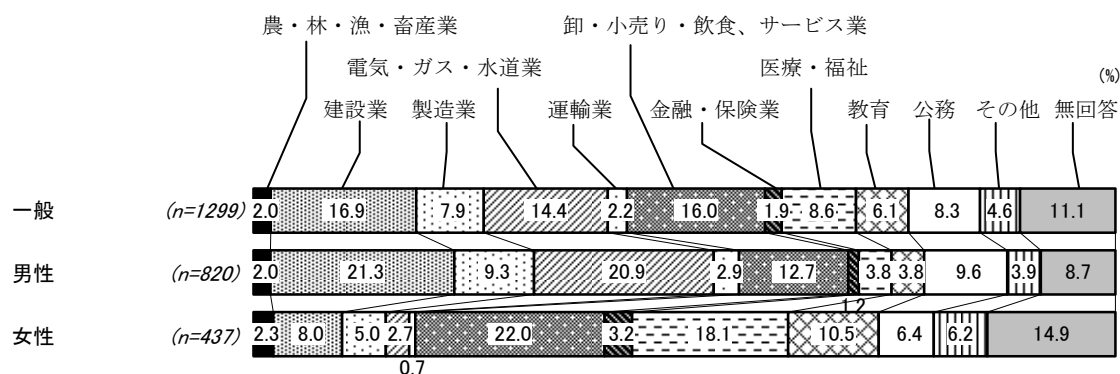
男女別有職者の業種を見ると、男性では「建設業」(21.3%)、「電気・ガス・水道業」(20.9%)が 2 割を超えているのに対して、女性では「卸・小売り・飲食、サービス業」(22.0%)、「医療・福祉」(18.1%)が 2 割前後となっている。(図表 2-5-2②)

図表 2-5-2 現在の職業(男女別)

①職業



②業種

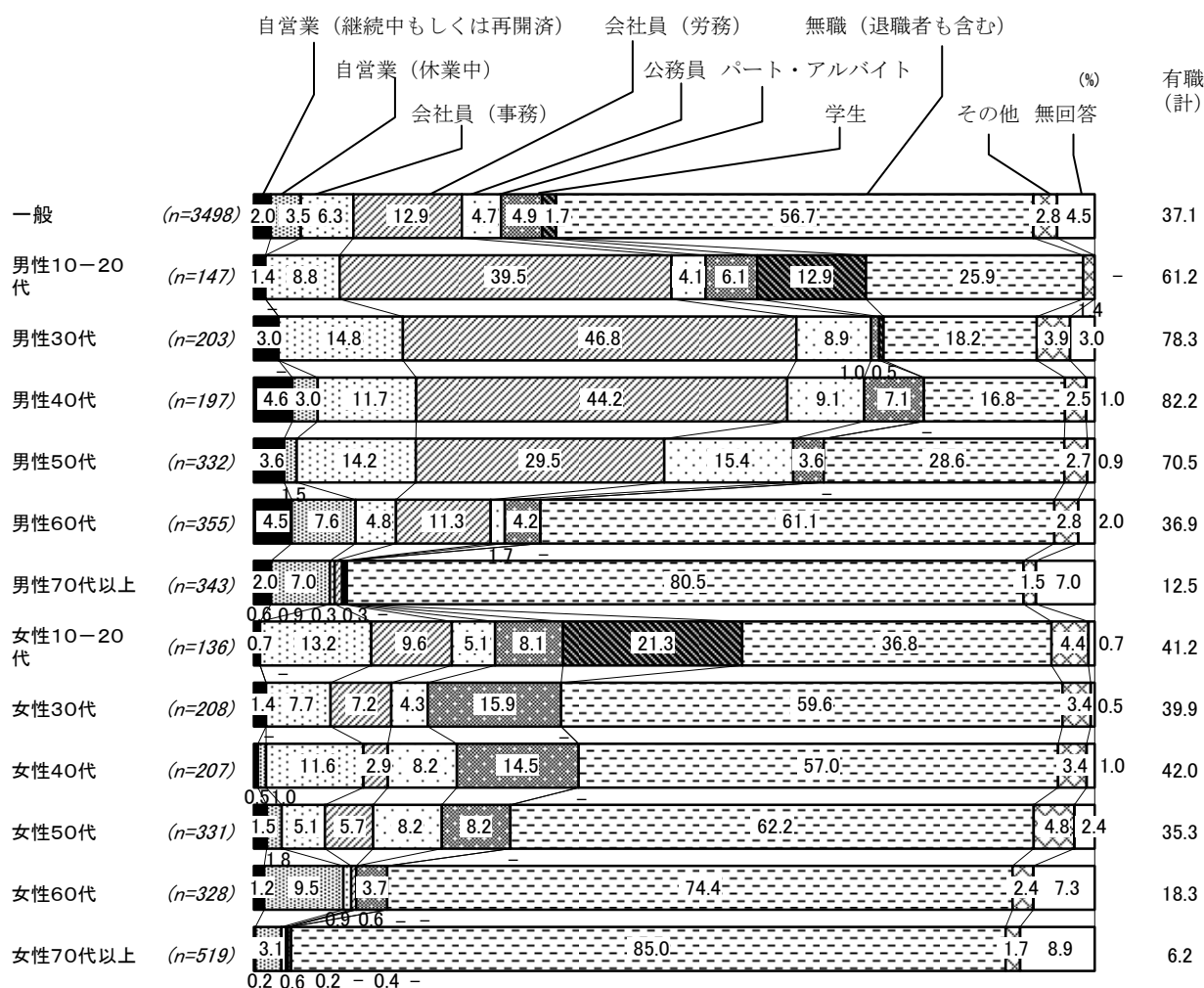


性・年代別に職業を見ると、50代以下男性の職業で最も多いのは「会社員(労務)」で、30-40代で4割台、10-20代で39.5%、男性50代で29.5%となっている。女性の職業で最も多いのは、いずれの年代層においても「無職」である。女性の有職者の内訳として各年代で最も多いのは、30-40代で「パート・アルバイト」で、1割台、女性10-20代では「学生」(21.3%)、50代では「公務員」と「パート・アルバイト」がともに8.2%、60代では「自営業(休業中)」(9.5%)となっている。(図表2-5-3①)

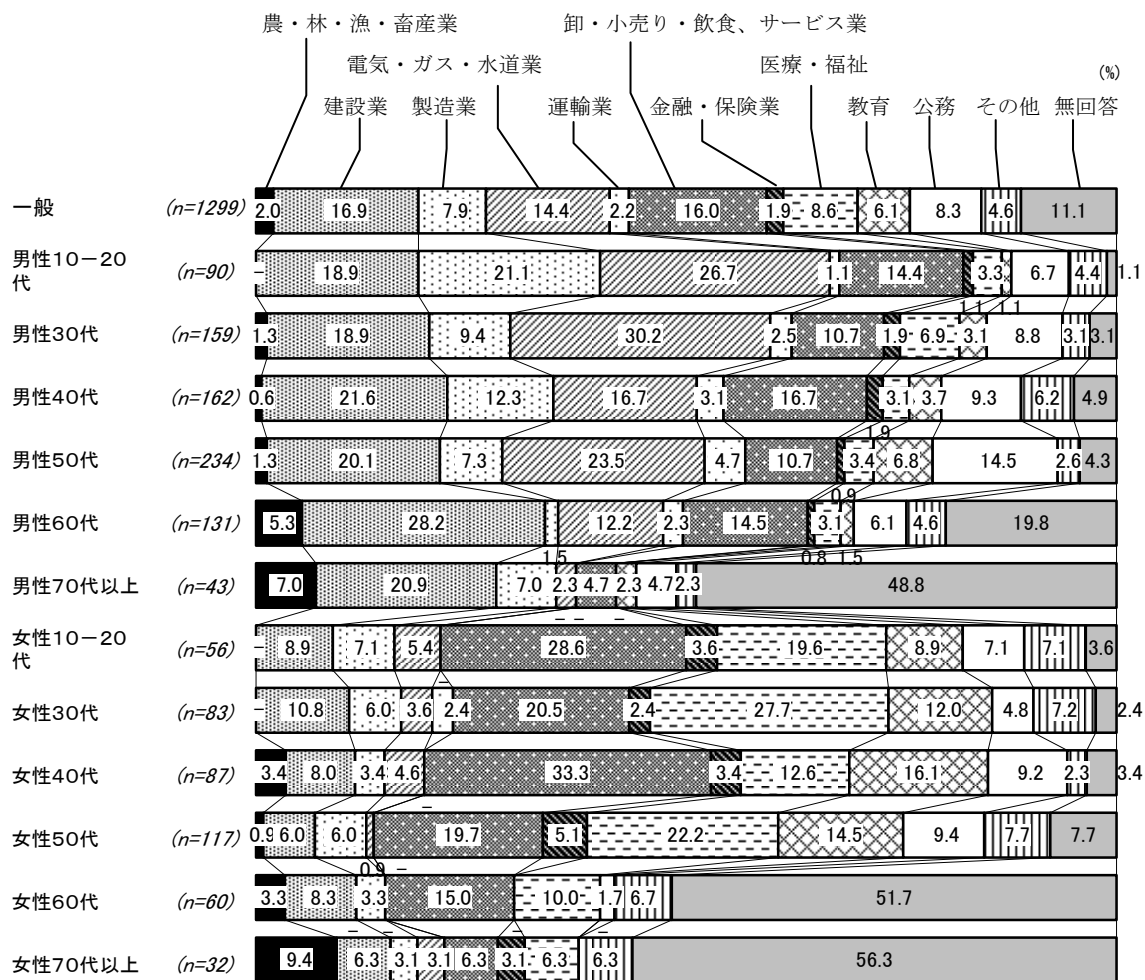
性・年代別に有職者の業種を見ると、男性30代以下の3割前後、男性40-50代の2割前後が「電気・ガス・水道業」に従事している。男性60代では「建設業」が28.2%で最も多くなっており、男性のその他の年代では「建設業」従事者は2割前後である。女性では、10-20代および40代で「卸・小売り・飲食、サービス業」が3割前後、30代および50代では「医療・福祉」が2割台で最も多くなっている。(図表2-5-3②)

図表2-5-3 現在の職業(性・年代別)

①職業

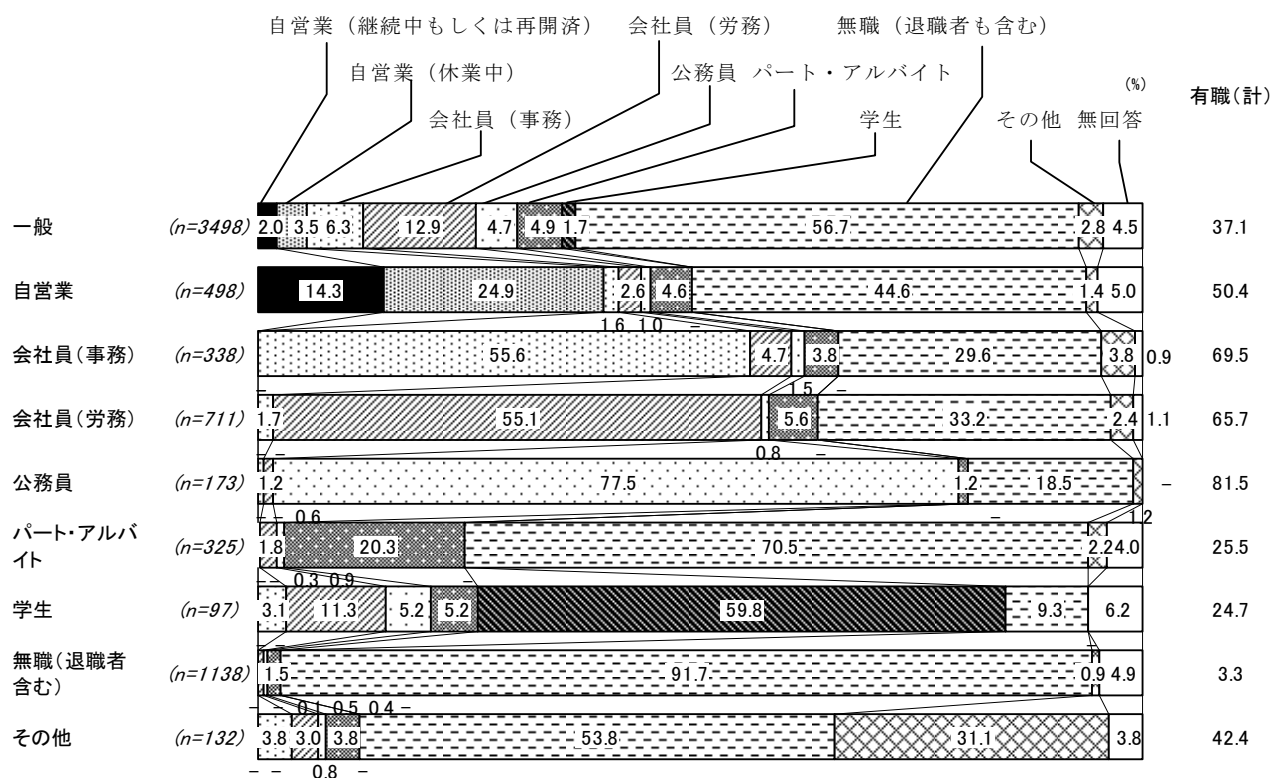


②業種



震災発生当時の職業別に現在職業を見ると、当時自営業者で現在「自営業(継続中もしくは再開済み)」は 14.3%、「自営業(休業中)」は 24.9%で、44.6%が現在は「無職(退職者も含む)」となっている。現在「会社員」のうち、震災前後で同じ職業に就いているのは、当時「会社員(事務)」では 55.6%、当時「会社員(労務)」では 55.1%であり、ほぼ半数強となっている。なお、現在「無職(退職者も含む)」となっているのは 3 割程度(当時会社員(事務)29.6%、当時会社員(労務)33.2%)である。当時「公務員」で震災前後において同じ職業に就いているのは 77.5%で、現在「無職(退職者も含む)」となっているのは 18.5%にとどまる。当時「パート・アルバイト」従事者では、70.5%が現在「無職(退職者も含む)」となっている。(図表 2-5-4)

図表 2-5-4 現在の職業(震災発生当時の職業別)



(6) 震災発生前後の就労変化

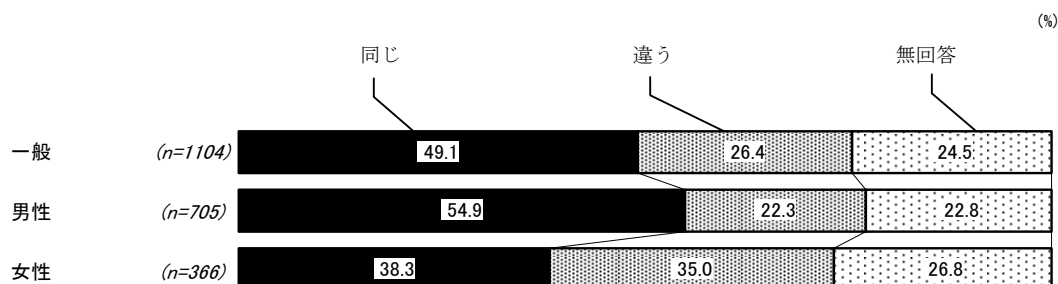
1) 現在勤務先の会社・組織・団体の変化

問6(3) 【問6(1)で、現在職業が「3」～「6」または「9」と回答した方(自営業、学生、無職以外の方)にうかがいます。】
現在勤めている会社・組織・団体は、震災発生当時の会社・組織・団体と同じですか。(○は1つ)

現在自営業以外の現在有職者(1,104人)に、現在の勤務先会社・組織・団体が震災発生当時の会社・組織・団体と同じかどうかを聞いたところ、震災発生当時と「同じ」という回答者が49.1%、「違う」という回答者が26.4%ある。(図表2-6-1)

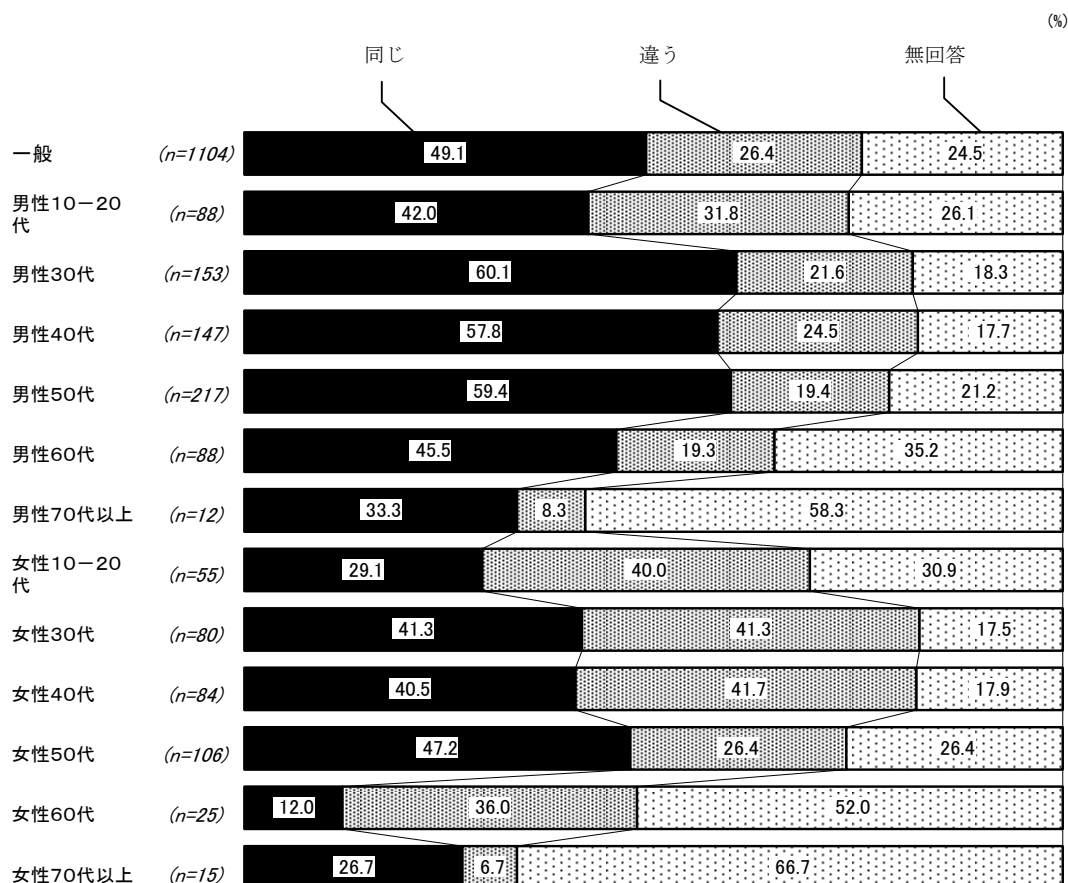
男女別に見ると、男性では「同じ」が54.9%を占めるのに対し、女性では38.3%にとどまっている。(図表2-6-1)

図表 2-6-1 現在勤務先の会社・組織・団体の変化(男女別)



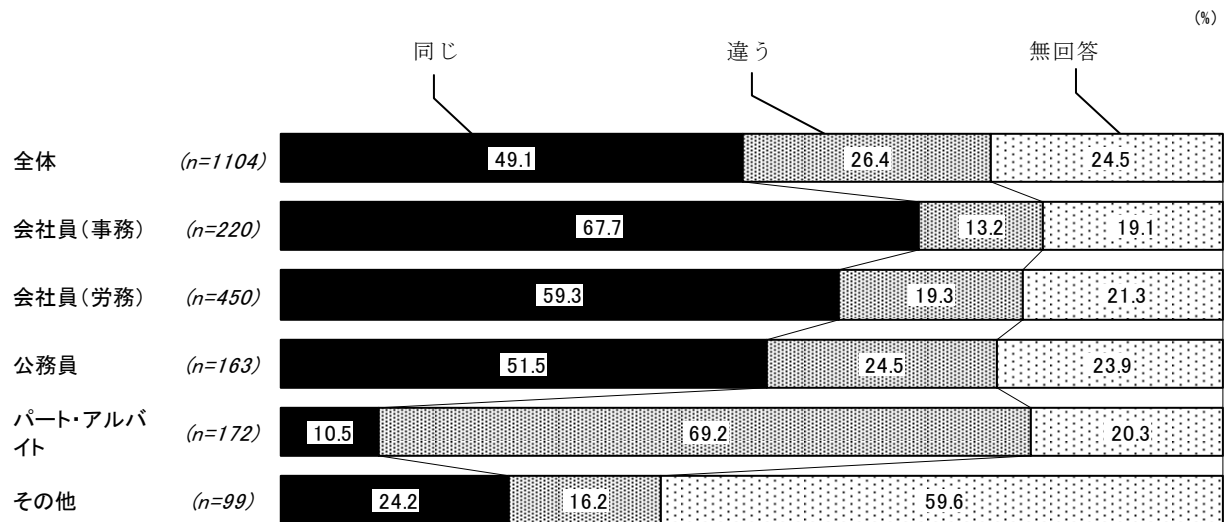
性・年代別に見ると、震災発生当時と「同じ」会社・組織・団体での就業は、男性30-50代ではほぼ6割前後で、他の性・年代層に比べて多く、男性10-20代、男性60代、女性30-50代では4割台、女性10-20代では29.1%となっている。女性40代および女性10-20代では、「違う」が「同じ」を上回っており、女性30代は「同じ」と「違う」が同率(41.3%)である。(図表2-6-2)

図表 2-6-2 現在勤務先の会社・組織・団体の変化(性・年代別)



現在職業別に見ると、現在会社員(事務)の就業者では67.7%が「同じ」で、「違う」は13.2%にとどまっている。現在会社員(労務)の就業者では、59.3%が「同じ」で、「違う」は19.3%である。公務員では、51.5%が「同じ」で、24.5%が「違う」との回答である。現在パート・アルバイト従事者では、「同じ」は10.5%にとどまり、69.2%が震災発生当時と「違う」会社・組織・団体に勤務している。(図表 2-6-3)

図表 2-6-3 現在勤務先の会社・組織・団体の変化(現在職業別)



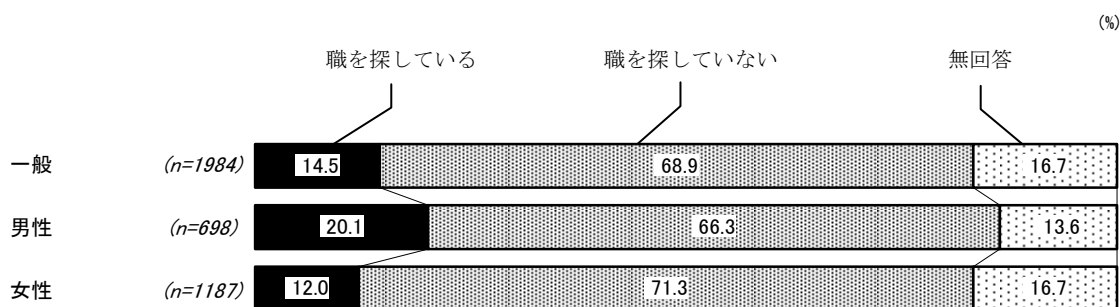
2) 求職状況

問 6(4) 【問6(1)で、現在職業が「8 無職(退職者も含む)」と回答した方にうかがいます。
あなたは現在、職を探していますか。(○は1つ)

現在無職の回答者(1,984 人)に求職状況を聞いたところ、「職を探している」という回答は 14.5%にとどまり、多数は「職を探していない」(68.9%)と回答している。(図表 2-6-4)

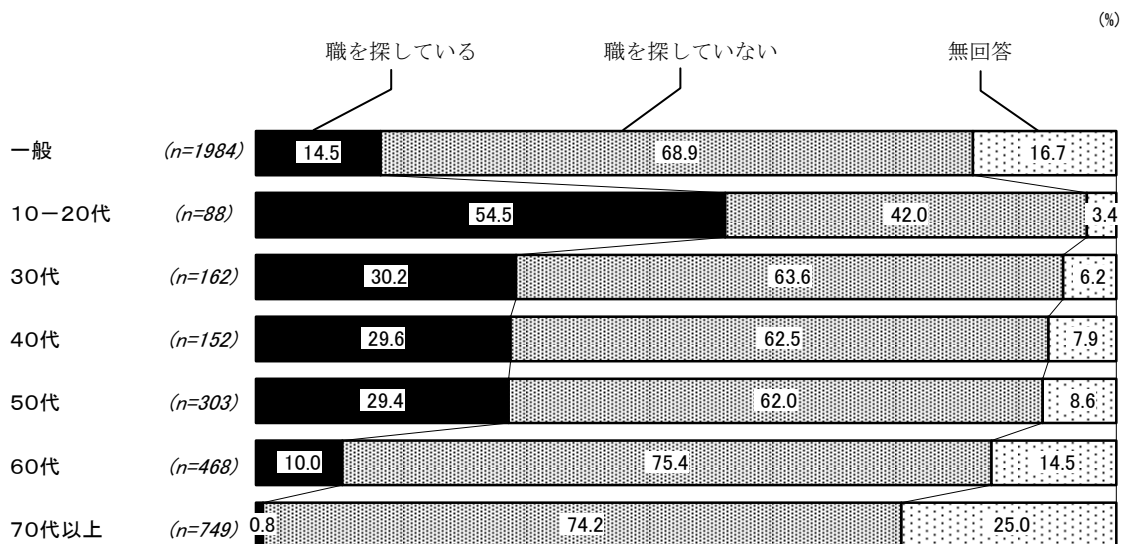
男女別に見ると、男性では「職を探している」が 20.1%で、女性(12.0%)をやや上回っている。(図表 2-6-4)

図表 2-6-4 求職状況(男女別)



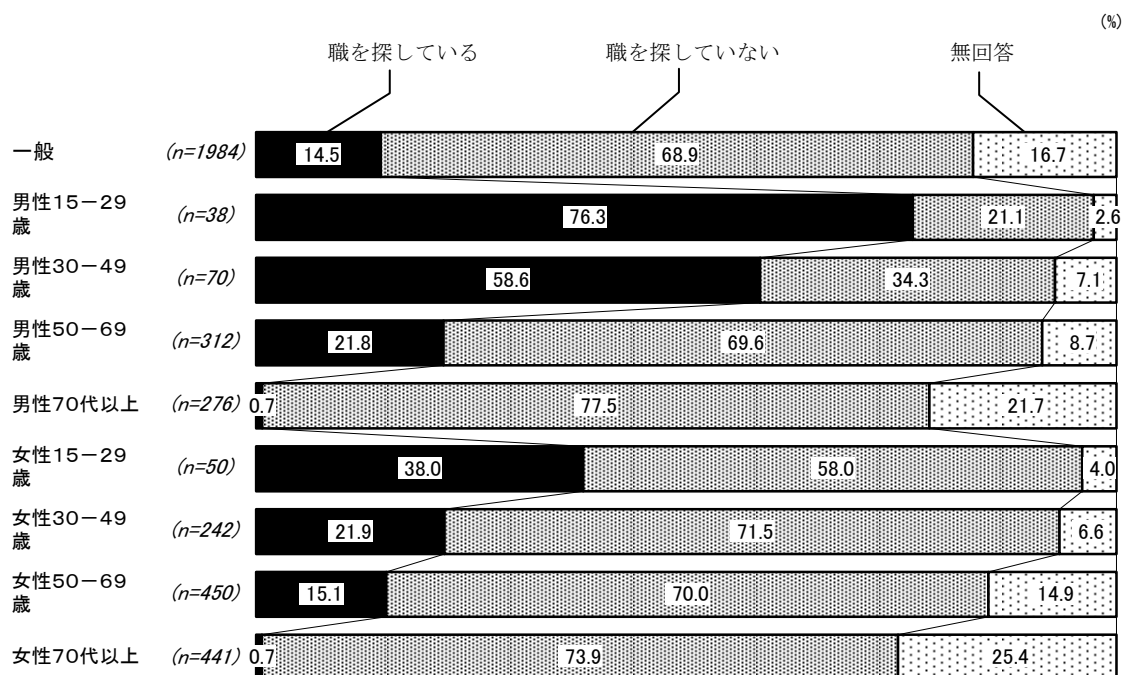
年代別に見ると、10-20 代では「職を探している」(54.5%)は半数を超え、「職を探していない」(42.0%)を上回っているが、それ以外の年代層では「職を探していない」が半数を超えている。30-50 代では「職を探している」は 3 割前後、60 代では 10.0%である。(図表 2-6-5)

図表 2-6-5 求職状況(年代別)



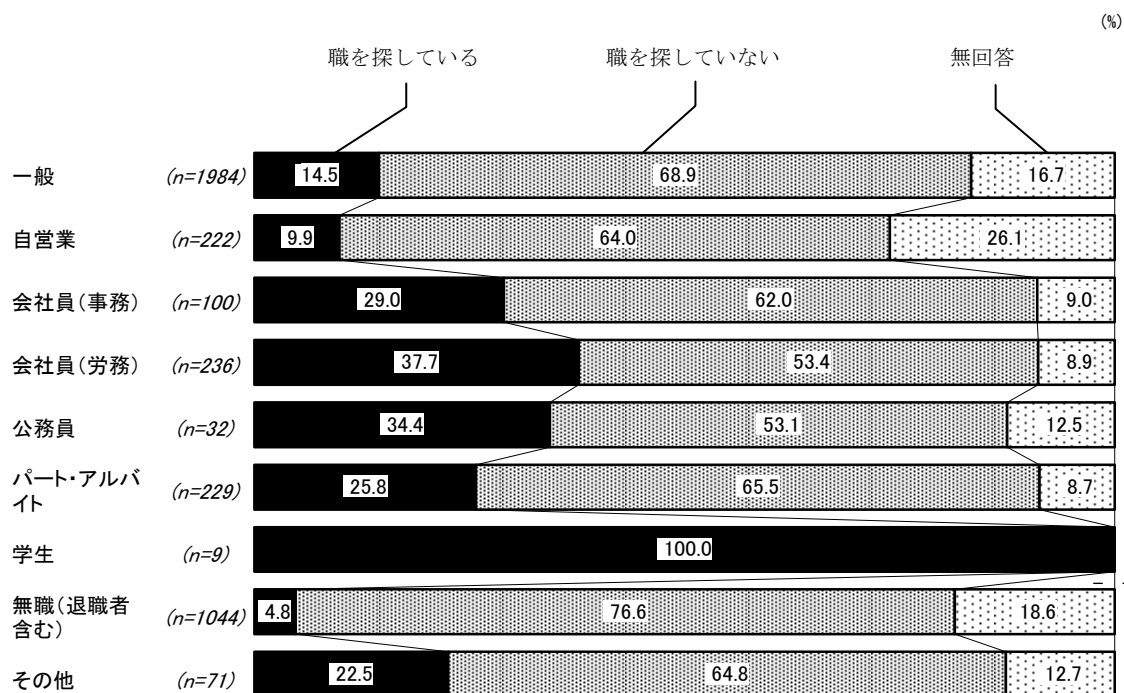
性・年代別に見ると、男性 30-49 歳では「職を探している」(58.6%)が「職を探していない」(34.3%)を上回っている。この層に次いで「職を探している」との回答率が高いのは、女性 15-29 歳(38.0%)、女性 30-49 歳(21.9%)、男性 50-69 歳(21.8%)の順である。(図表 2-6-6)

図表 2-6-6 求職状況(性・年代別)



震災発生当時の職業別に見ると、当時自営業者の 64.0%は「職を探していない」という回答で、「職を探している」(9.9%)を大幅に上回っている。「職を探していない」との回答は、当時会社員(事務)および当時パート・アルバイトで 6 割台、当時会社員(労務)で 5 割台であり、いずれも半数を超えている。(図表 2-6-7)

図表 2-6-7 求職状況(震災発生当時の職業別)



3) 職を探していない理由

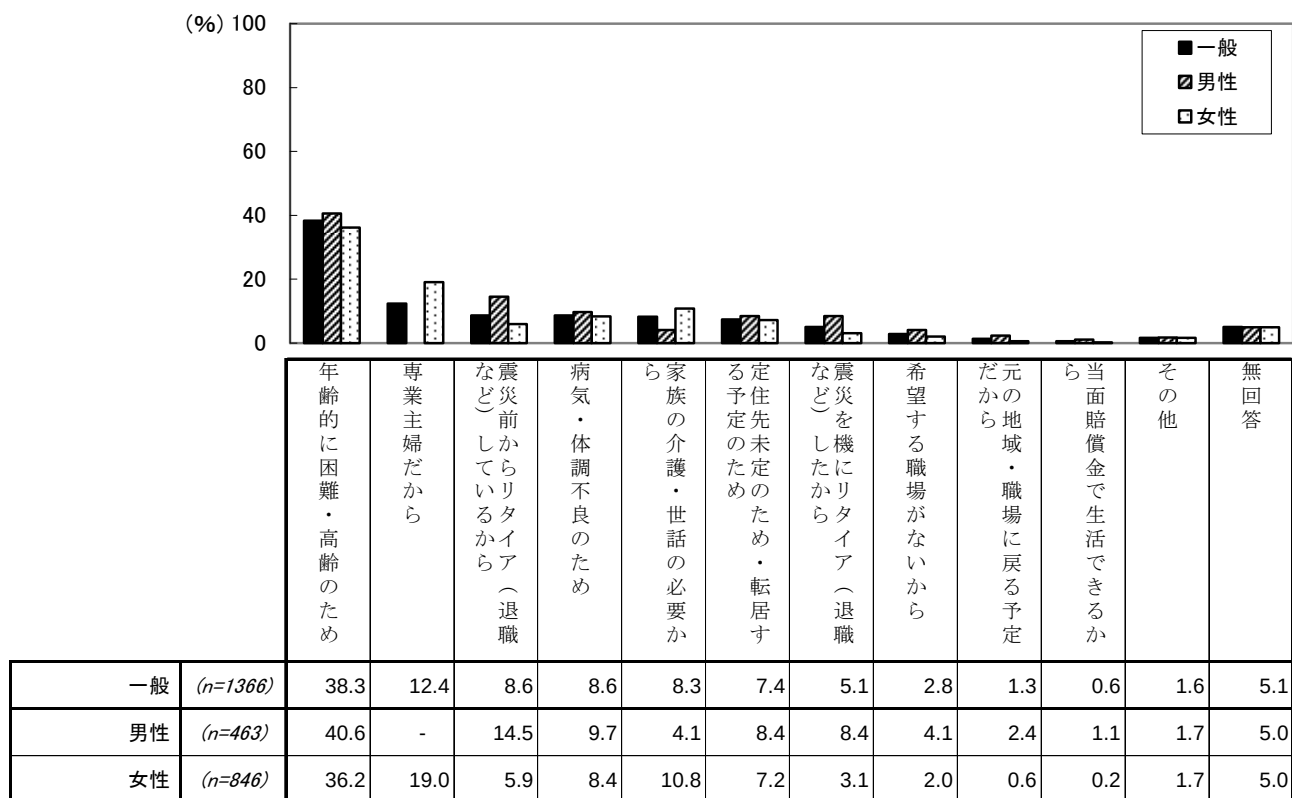
問 6(5) 【問6(4)で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。】

現在、あなたが職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(○は1つ)

現在無職でかつ職を探していない回答者(1,366人)の職を探していない最も大きな理由としては、「年齢的に困難・高齢のため」が 38.3%を占め最も多く、以下「専業主婦だから」12.4%、「震災前からリタイア(退職など)しているから」8.6%、「病気・体調不良のため」8.6%、「家族の介護・世話の必要から」8.3%、「定住先未定のため・転居する予定のため」7.4%などの順となっている。(図表 2-6-8)

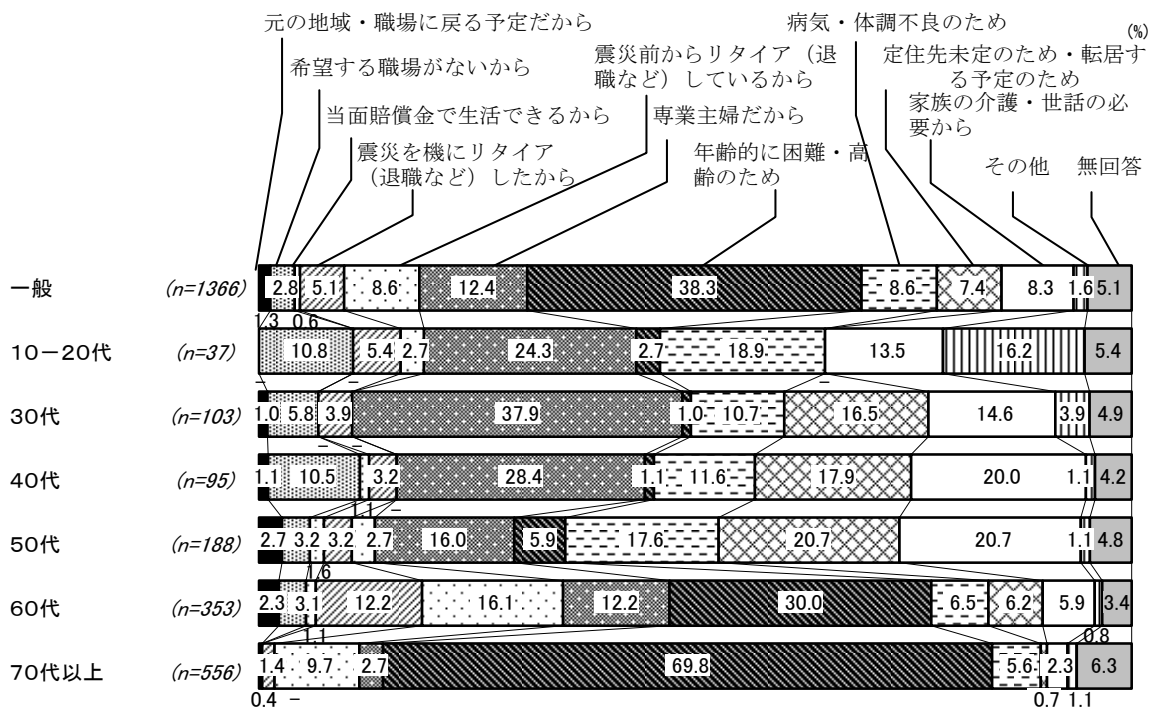
男女別に見ると、男女ともに最も多いのは「年齢的に困難・高齢のため」であるが、男性ではそれに次ぐのは「震災前からリタイア(退職など)しているから」(14.5%)、女性では「専業主婦だから」(19.0%)となっている。「家族の介護・世話の必要から」は男性(4.1%)より女性(10.8%)のほうがやや多く、「震災前からリタイア(退職など)しているから」は、女性(5.9%)より男性(14.5%)のほうがやや多い。(図表 2-6-8)

図表 2-6-8 職を探していない理由(男女別)



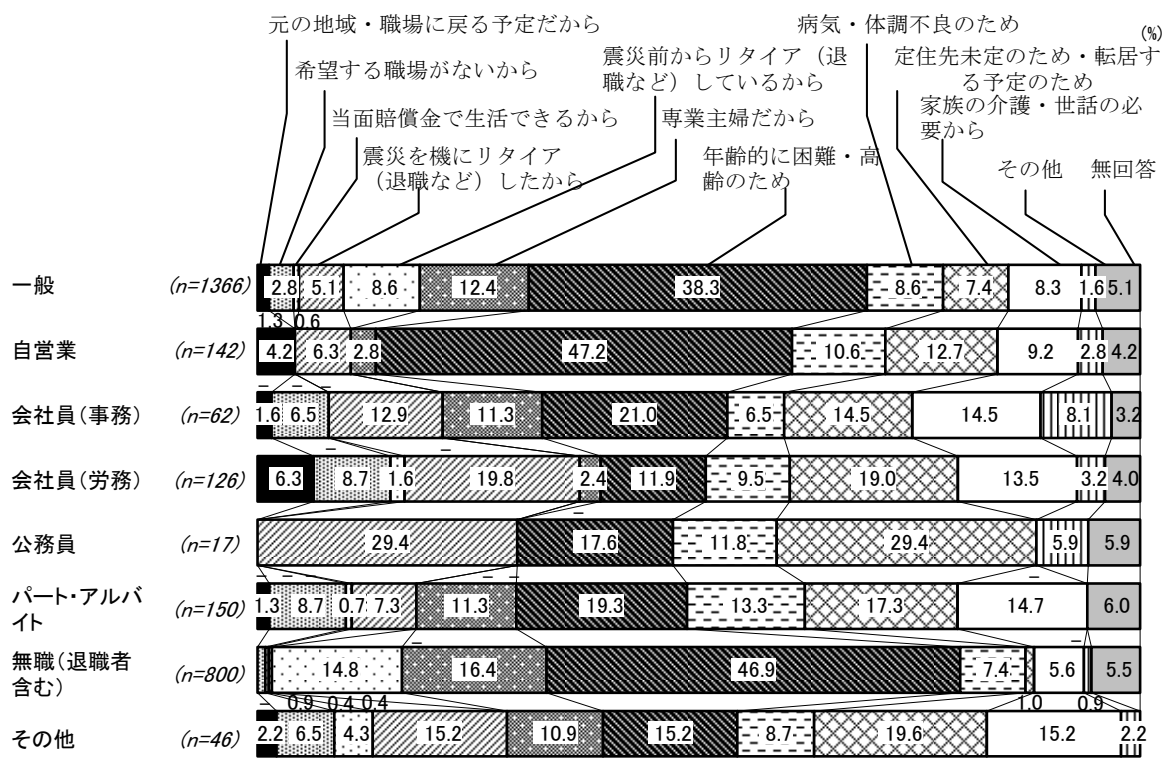
年代別に見ると、30-40代で最も回答が多いのは「専業主婦だから」(30代37.9%、40代28.4%)で、それに続くのは、40代では「家族の介護・世話の必要から」(20.0%)、「定住先未定のため・転居する予定のため」(17.9%)などで、30代では「定住先未定のため・転居する予定のため」(16.5%)となっている。50代では、「家族の介護・世話の必要から」と、「定住先未定のため・転居する予定のため」がともに20.7%で、最も多い。60代以上の層では、「年齢的に困難・高齢のため」が最も多い(60代30.0%、70代以上69.8%)。(図表2-6-9)

図表 2-6-9 職を探していない理由(性・年代別)



震災発生当時の職業別に見ると、当時自営業者では、「年齢的に困難・高齢のため」が 47.2%とほぼ半数近く、「定住先未定のため・転居する予定のため」が 12.7%、「病気・体調不良のため」が 10.6%でそれに続く。「元の地域・職場に戻る予定だから」は 4.2%である。当時会社員(事務)では、「年齢的に困難・高齢のため」が 21.0%で最も多く、「定住先未定のため・転居する予定のため」(14.5%)、「家族の介護・世話の必要から」(14.5%)がそれに続き上位を占めている。会社員(労務)では、「震災を機にリタイア(退職など)したから」(19.8%)、「定住先未定のため・転居する予定のため」(19.0%)が 2 割弱で並んで上位を占めている。パート・アルバイトでは、「年齢的に困難・高齢のため」(19.3%)、「定住先未定のため・転居する予定のため」(17.3%)などが上位を占めている。(図表 2-6-10)

図表 2-6-10 職を探していない理由(震災発生当時の職業別)



3. 現在の避難生活における困りごと

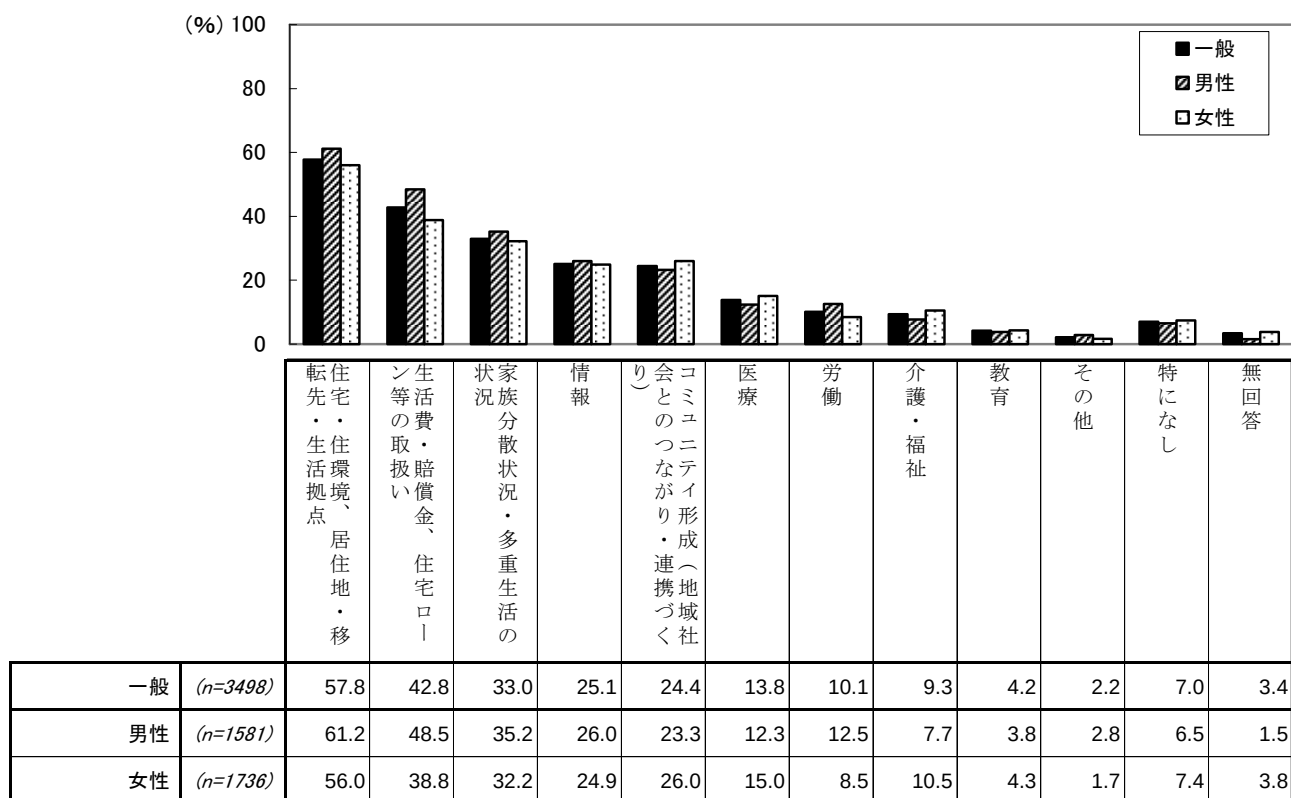
(1) 避難生活の中で困っていること

問7 現在の避難生活において困っていること、改善を求める分野を3つまで教えてください。
(〇は3つまで)

中学・高校生以外の一般住民(3,498 人)に現在の避難生活で困っていること・改善を求める分野について3つまで回答を求めたところ、「住宅・住環境、居住地・移転先・生活拠点」が57.8%、「生活費・賠償金、住宅ローン等の取扱い」が42.8%、「家族分散状況・多重生活の状況」が33.0%、「情報」が25.1%、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり・連携づくり)」が24.4%の順で上位を占めている。(図表3-1-1)

男女別に見ると、「生活費・賠償金、住宅ローン等の取扱い」(男性48.5%、女性38.8%)は女性より男性に多くなっている。(図表3-1-1)

図表 3-1-1 避難生活の中で困っていること(3つまで回答、男女別)



性・年代別に見ると、男性10-20代の層以外のすべての性・年代層において最も回答率が高いのは、「住宅・住環境、居住地・移転先・生活拠点」であり、男性30-60代、女性30-50代ではいずれも6割を超えている。男性10-20代の層では「生活費・賠償金、住宅ローン等の取扱い」(44.2%)が最も回答率が高いが、「住宅・住環境、居住地・移転先・生活拠点」(42.9%)もほぼ同程度で多いほか、「情報」(34.7%)は3割台、「労働」(25.2%)は2割台で、他の性・年代に比べて多くなっている。「生活費・賠償金、住宅ローン等の取扱い」は、男性30-40代、女性40代の層で5割を超え、他層よりも多い。「家族分散状況・多重生活の状況」は、男性40-50代、女性50代の層で4割を超え、他層よりも多い。「医療」は男女ともに70代以上の層で2割を超えているほか、この高年齢層では「介護・福祉」も1割を超えて多くなっている。「教育」は男性30代、女性30-40代で1割を超えて、他層よりも多い。(図表3-1-2)

図表 3-1-2 避難生活の中で困っていること(3つまで回答、性・年代別)

(%)

		住宅・住環境、居住地・移転先・生活拠点	生活費・賠償金、住宅ローン等の取扱い	家族分散状況・多重生活の状況	情報	コミュニティ形成(地域社会とのつながり・連携づくり)	医療	労働	介護・福祉	教育	その他	特になし	無回答
一般	(n=3498)	57.8	42.8	33.0	25.1	24.4	13.8	10.1	9.3	4.2	2.2	7.0	3.4
男性10-20代	(n=147)	42.9	44.2	31.3	34.7	10.9	9.5	25.2	3.4	2.7	2.7	15.6	0.7
男性30代	(n=203)	64.0	54.2	36.5	22.7	18.7	11.8	19.2	1.5	11.3	1.5	5.4	1.5
男性40代	(n=197)	67.0	58.9	40.1	20.8	24.9	4.6	19.3	3.6	8.6	5.1	4.6	0.5
男性50代	(n=332)	68.1	47.3	44.9	24.1	22.9	7.8	16.3	8.1	3.3	3.0	4.5	0.9
男性60代	(n=355)	67.9	49.3	31.3	26.8	28.2	13.5	7.0	6.8	0.6	2.0	6.2	1.1
男性70代以上	(n=343)	50.4	41.4	27.7	28.3	25.9	21.6	1.5	16.0	0.9	2.9	6.7	3.5
女性10-20代	(n=136)	44.1	32.4	24.3	25.7	22.1	13.2	15.4	3.7	4.4	3.7	16.9	1.5
女性30代	(n=208)	63.5	47.6	34.1	21.2	20.2	16.3	13.5	2.4	15.9	2.9	4.8	1.4
女性40代	(n=207)	68.6	51.7	39.1	24.6	20.3	9.7	14.5	6.3	12.6	2.4	2.9	1.4
女性50代	(n=331)	69.8	44.1	42.9	28.4	29.9	4.8	13.3	9.1	2.1	1.8	2.1	0.6
女性60代	(n=328)	58.5	36.9	31.4	26.8	29.9	17.7	6.4	7.9	0.6	0.3	6.1	3.4
女性70代以上	(n=519)	40.8	29.5	24.9	22.7	27.0	21.8	0.4	20.0	-	1.2	12.1	8.5

現在の避難先別に見ると、南相馬市で「介護・福祉」(26.3%)、「医療」(22.4%)が2割を超え、他の自治体避難者に比べると多くなっている。また、埼玉県加須市への避難者では、「住宅・住環境、居住地・移転先・生活拠点」(65.1%)や、「家族分散状況・多重生活の状況」(40.3%)が他の自治体避難者よりもやや多くなっている。(図表 3-1-3)

図表 3-1-3 避難生活の中で困っていること(現在の避難先別)

(%)

		住宅・住環境、居住地・移転先・生活拠点	生活費・賠償金、住宅ローン等の取扱い	家族分散状況・多重生活の状況	情報	コミュニティ形成(地域社会とのつながり・連携づくり)	医療	労働	介護・福祉	教育	その他	特になし	無回答
一般	(n=3498)	57.8	42.8	33.0	25.1	24.4	13.8	10.1	9.3	4.2	2.2	7.0	3.4
いわき市	(n=736)	58.3	46.1	34.9	22.6	26.2	15.6	11.1	10.6	4.6	2.2	5.3	3.7
郡山市	(n=375)	60.0	42.1	31.5	22.7	25.3	14.9	10.4	9.9	2.1	2.4	7.5	3.2
福島市	(n=244)	58.2	40.2	32.0	25.4	19.7	13.5	7.0	9.4	4.1	2.9	6.1	4.9
白河市	(n=136)	58.1	45.6	27.9	29.4	27.9	13.2	10.3	11.0	1.5	1.5	9.6	2.2
南相馬市	(n=76)	47.4	30.3	39.5	22.4	36.8	22.4	5.3	26.3	-	5.3	3.9	1.3
会津若松市	(n=61)	60.7	41.0	36.1	14.8	24.6	21.3	8.2	14.8	-	-	4.9	6.6
福島県内のその他の市町村	(n=290)	51.4	40.7	31.4	20.0	30.3	14.5	9.0	10.7	5.5	1.7	7.9	3.4
埼玉県加須市	(n=352)	65.1	44.0	40.3	16.8	19.0	14.8	11.4	10.2	8.5	1.1	4.8	4.3
茨城県つくば市	(n=88)	55.7	48.9	33.0	28.4	26.1	9.1	10.2	1.1	1.1	3.4	6.8	3.4
新潟県柏崎市	(n=57)	54.4	28.1	29.8	22.8	8.8	17.5	7.0	7.0	10.5	3.5	19.3	1.8
その他	(n=1052)	57.5	43.1	31.0	32.2	23.6	10.9	10.7	6.7	3.6	2.3	8.2	2.2

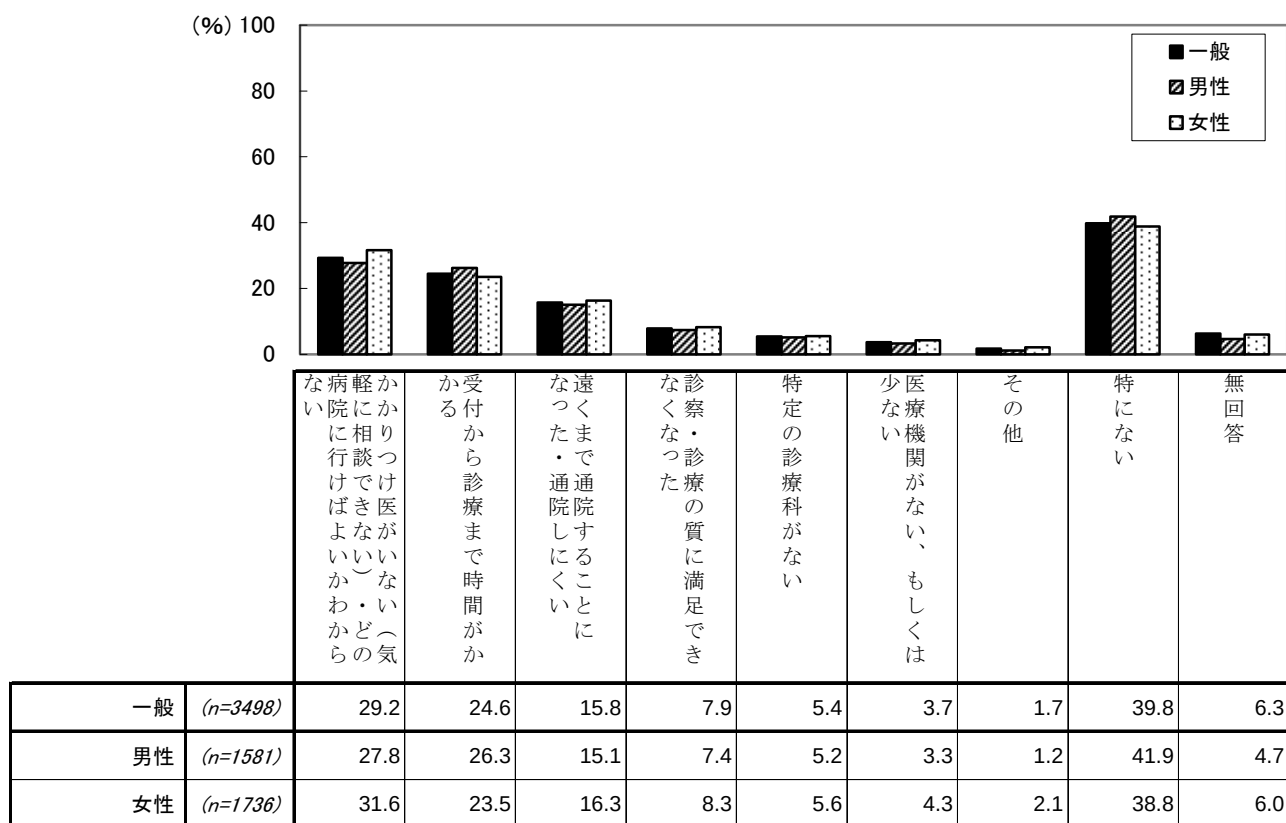
(2) 医療サービスについて困っていること

問8 医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。
(○はいくつでも)

中学・高校生以外の一般住民(3,498人)に医療サービスについて困っていることを複数回答で聞いたところ、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)・どの病院に行けばよいかわからない」が29.2%で最も多くあげられ、以下「受付から診療まで時間がかかる」(24.6%)、「遠くまで通院することになった・通院しにくい」(15.8%)などの順にあげられている。「特にない」という回答者も、39.8%を占める。(図表3-2-1)

男女別には大きな差は見られない。(図表3-2-1)

図表3-2-1 医療サービスについて困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、女性30-40代では、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)・どの病院に行けばよいかわからない」が4割を超え、また、男女ともに70代以上の層では「遠くまで通院することになった」が2割を超え、他の年齢層に比べてやや多くなっている。(図表3-2-2)

現在の避難先別に見ると、南相馬市への避難者で「特定の診療科がない」(15.8%)、「医療機関がない、もしくは少ない」(21.1%)の困りごとが他の自治体よりも多くなっている。また、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)・どの病院に行けばよいかわからない」はいわき市、埼玉県加須市、新潟県柏崎市への避難者で、「受付から診療までの時間がかかる」との困りごとはいわき市、白河市、南相馬市、埼玉県加須市の避難者で、それぞれ3割を超え、他の自治体よりやや多い。(図表3-2-3)

図表 3-2-2 医療サービスについて困っていること(性・年代別)

(%)

		かかりつけ 医がない (気軽に相 談できな い)・どの病 院に行けば よいかわか らない	受付から 診療まで 時間がか かる	遠くまで 通院する ことにな った・通 院しにく い	診察・診 療の質に 満足でき なくなっ た	特定の診 療科がな い	医療機関 がない、 もしくは 少ない	その他	特にない	無回答
一般	(n=3498)	29.2	24.6	15.8	7.9	5.4	3.7	1.7	39.8	6.3
男性10-20代	(n=147)	29.3	20.4	11.6	6.1	9.5	6.8	0.7	47.6	2.7
男性30代	(n=203)	33.0	22.2	11.8	5.9	4.9	4.4	0.5	43.3	3.4
男性40代	(n=197)	38.6	28.4	11.2	7.1	3.6	1.5	2.5	36.0	3.0
男性50代	(n=332)	29.5	27.7	13.6	5.4	4.2	3.6	1.8	41.3	3.0
男性60代	(n=355)	24.8	25.4	12.1	7.0	4.2	3.1	0.8	47.0	4.8
男性70代以上	(n=343)	19.5	30.0	25.7	11.4	6.4	2.0	0.9	37.0	8.2
女性10-20代	(n=136)	35.3	19.9	12.5	3.7	5.9	2.9	0.7	46.3	2.2
女性30代	(n=208)	43.8	27.9	16.8	10.1	6.3	4.8	1.4	34.1	2.9
女性40代	(n=207)	44.4	25.6	9.7	8.7	5.8	7.2	2.9	37.2	0.5
女性50代	(n=331)	36.6	19.6	8.8	10.3	5.1	3.9	1.5	39.6	6.3
女性60代	(n=328)	24.1	19.5	18.6	6.1	5.8	3.0	2.4	42.7	6.7
女性70代以上	(n=519)	22.4	27.0	23.3	8.7	5.4	4.4	2.5	36.4	9.4

図表 3-2-3 避難生活の中で最も困っていること(現在の避難先別)

(%)

		かかりつけ 医がない (気軽に相 談できな い)・どの病 院に行けば よいかわか らない	受付から 診療まで 時間がか かる	遠くまで 通院する ことにな った・通 院しにく い	診察・診 療の質に 満足でき なくなっ た	特定の診 療科がな い	医療機関 がない、 もしくは 少ない	その他	特にない	無回答
一般	(n=3498)	29.2	24.6	15.8	7.9	5.4	3.7	1.7	39.8	6.3
いわき市	(n=736)	37.5	31.7	20.9	9.2	6.7	2.9	2.3	28.9	5.2
郡山市	(n=375)	22.4	25.1	13.6	5.6	3.7	0.5	0.5	43.7	8.0
福島市	(n=244)	23.4	21.7	14.3	6.1	3.7	1.6	1.6	51.2	4.5
白河市	(n=136)	14.7	35.3	3.7	7.4	2.9	1.5	0.7	48.5	7.4
南相馬市	(n=76)	19.7	32.9	11.8	7.9	15.8	21.1	5.3	27.6	5.3
会津若松市	(n=61)	23.0	24.6	16.4	6.6	1.6	1.6	-	29.5	19.7
福島県内のその他の 市町村	(n=290)	26.2	20.3	20.7	8.6	8.3	8.3	1.0	39.3	5.9
埼玉県加須市	(n=352)	36.1	33.8	16.5	11.6	6.8	2.8	1.4	30.4	6.3
茨城県つくば市	(n=88)	22.7	17.0	19.3	9.1	2.3	2.3	4.5	45.5	8.0
新潟県柏崎市	(n=57)	33.3	5.3	10.5	7.0	8.8	5.3	1.8	47.4	7.0
その他	(n=1052)	29.3	18.2	13.7	6.9	4.3	4.1	1.9	46.5	5.0

(3) 介護・福祉サービスについて困っていること

1) 介護・福祉サービスの利用状況

問9 (1) 現在、あなたまたはご家族に、介護や福祉サービスを受けている方はいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

中学・高校生以外の一般住民(3,498 人)に、自身または家族の介護・福祉サービスの利用状況を聞いたところ、サービスタイプとしては、利用率の高いものから通所系、入院系、訪問系の順となっている。具体的には、通所系:「家族が、デイサービスなど、施設に通って受けるサービスを利用している」が 8.6%、「自分が、デイサービスなど、施設に通って受けるサービスを利用している」は 3.8%、入院系:「家族が、介護施設などに入所・入院している」は 5.8%、「自分が、介護施設などに入所・入院している」は 1.7%、訪問系:「家族が、自宅に訪問を受けるサービスを利用している(ホームヘルプサービスなど)」は 1.9%、「自分が、自宅に訪問を受けるサービスを利用している(ホームヘルプサービスなど)」は 0.8%となっている。(図表 3-3-1)

性・年代別に見ると、「自分が、デイサービスなど、施設に通って受けるサービスを利用している」は70代以上男性で 9.0%、70 代以上女性で 13.7%と、他の性・年代に比べて多い。また、女性 70 代以上で「自分が、介護施設などに入所・入院している」は 6.7%である。(図表 3-3-1)

図表 3-3-1 介護・福祉サービスの利用状況(年代別)

(%)

		自分が、 デイサー ビスな ど、施設 に通って 受ける サービス を利用し ている	家族が、 デイサー ビスな ど、施設 に通って 受ける サービス を利用し ている	自分が、 自宅に訪 問を受け るサービ スを利用 している (ホーム ヘルプ サービス など)	家族が、 自宅に訪 問を受け るサービ スを利用 している (ホーム ヘルプ サービス など)	自分が、 介護施設 などに入 所・入院 している	家族が、 介護施設 などに入 所・入院 している	その他	自分も家 族も、介 護・福祉 サービス は受けて いない	無回答
一般	(n=3498)	3.8	8.6	0.8	1.9	1.7	5.8	1.3	66.2	13.2
男性10-20代	(n=147)	1.4	12.9	-	2.0	-	4.1	-	73.5	7.5
男性30代	(n=203)	1.0	5.4	-	1.0	0.5	4.4	-	82.8	7.4
男性40代	(n=197)	-	6.6	-	1.5	1.0	4.1	1.0	75.6	11.7
男性50代	(n=332)	2.1	14.2	0.3	2.1	0.3	7.8	1.5	64.8	9.3
男性60代	(n=355)	1.4	6.2	1.1	2.0	0.6	10.7	0.8	67.0	13.2
男性70代以上	(n=343)	9.0	9.0	1.5	2.0	3.5	3.5	2.0	59.8	14.9
女性10-20代	(n=136)	0.7	8.1	-	-	-	2.9	1.5	80.9	5.9
女性30代	(n=208)	-	4.8	-	1.0	-	6.3	1.0	78.4	9.6
女性40代	(n=207)	-	10.1	-	1.4	0.5	5.3	1.0	75.8	9.2
女性50代	(n=331)	0.3	13.6	0.3	1.8	-	9.1	2.4	63.4	12.1
女性60代	(n=328)	0.9	11.0	0.3	3.4	0.3	7.6	1.2	64.3	14.9
女性70代以上	(n=519)	13.7	4.4	2.3	1.7	6.7	2.7	1.3	54.5	16.8

2) 介護・福祉サービスについて困っていること

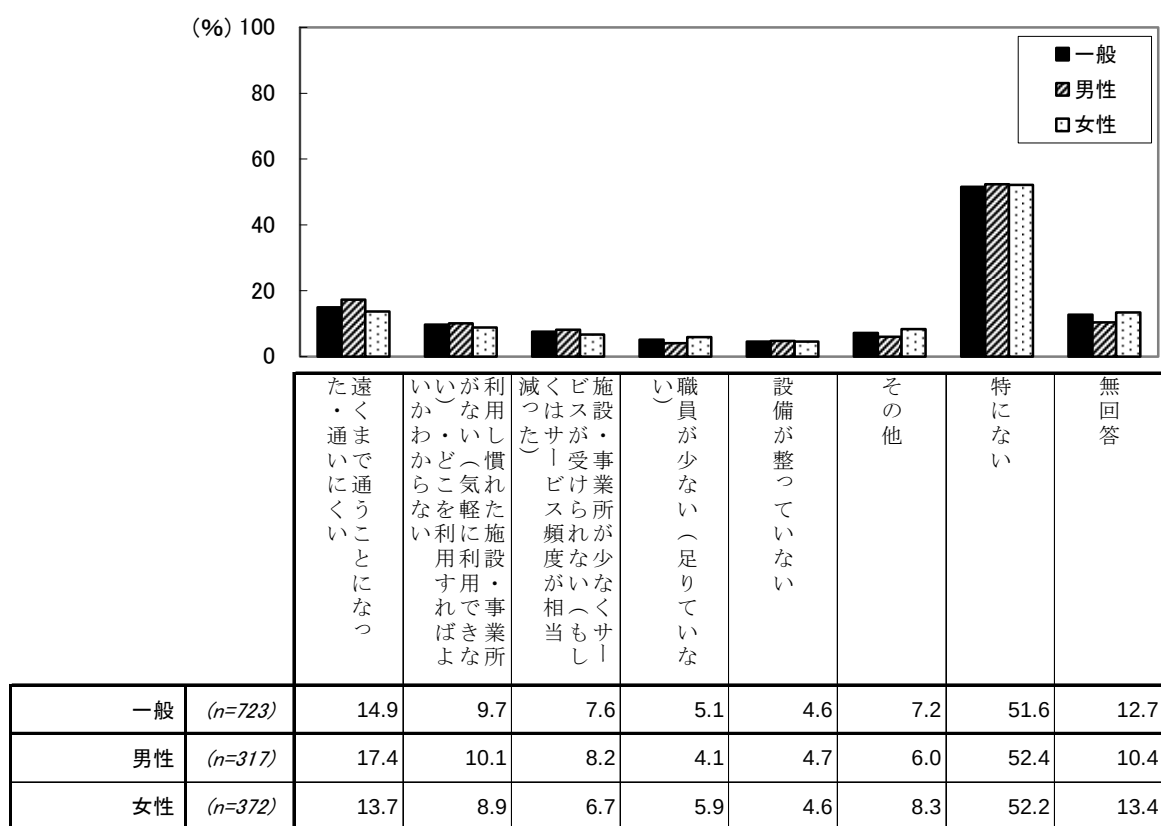
問9 (2) 【問9(1)で「1」～「7」と回答した方にうかがいます。】

ご自身またはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

自分または家族に介護・福祉サービス利用がある中学・高校生以外の一般住民(723 人)に、自分または家族が介護・福祉サービスで困っていることを複数回答で聞いたところ、「遠くまで通うことになった・通いにくい」が 14.9%、「利用し慣れた施設・事業所がない(気軽に利用できない)・どこを利用すればよいかわからない」が 9.7%、「施設・事業所が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った)」が 7.6%で、上位に挙げられている。なお、「特にない」は 51.6%である。(図表 3-3-2)

男女別に見て、困っていることの内容に大きな差はみられない。(図表 3-3-2)

図表 3-3-2 介護・福祉サービスについて困っていること(男女別)



年代別に見ると、40 代で「遠くまで通うことになった・通いにくい」(21.4%)、「利用し慣れた施設・事業所がない(気軽に利用できない)・どこを利用すればよいかわからない」(16.1%)という困りごとが他の年代にくらべてやや多めであるが、大きな差はみられない。(図表 3-3-3)

図表 3-3-3 介護・福祉サービスについて困っていること(年代別)

(%)

		遠くまで通 うことにな った・通 いにくい	利用し慣れ た施設・事 業所がない (気軽に利 用できな い)・どこ を利用すれ ばよいかわ からない	施設・事業 所が少なく サービスが 受けられな い(もしくは サービス頻 度が相当減 った)	職員が少な い(足りて いない)	設備が整っ ていない	その他	特にない	無回答
一般	(n=723)	14.9	9.7	7.6	5.1	4.6	7.2	51.6	12.7
10-20代	(n=48)	8.3	14.6	10.4	2.1	8.3	2.1	64.6	4.2
30代	(n=46)	17.4	10.9	6.5	8.7	10.9	6.5	41.3	17.4
40代	(n=56)	21.4	16.1	5.4	-	7.1	8.9	46.4	8.9
50代	(n=168)	18.5	11.3	8.9	4.8	3.6	6.5	50.0	9.5
60代	(n=138)	17.4	7.2	6.5	6.5	2.9	8.0	47.1	16.7
70代以上	(n=244)	10.7	7.0	7.4	5.3	3.7	7.8	57.4	13.1

現在の避難先別に見ると、郡山市避難者では「利用し慣れた施設・事業所がない(気軽に利用できない)・どこを利用すればよいかわからない」が18.6%で、他の自治体避難者に比べて多くなっている。(図表 3-3-4)

図表 3-3-4 介護・福祉サービスについて困っていること(現在の避難先別)

(%)

		遠くまで通 うことにな った・通 いにくい	利用し慣れ た施設・事 業所がない (気軽に利 用できな い)・どこ を利用すれ ばよいかわ からない	施設・事業 所が少なく サービスが 受けられな い(もしくは サービス頻 度が相当減 った)	職員が少な い(足りて いない)	設備が整っ ていない	その他	特にない	無回答
一般	(n=723)	14.9	9.7	7.6	5.1	4.6	7.2	51.6	12.7
いわき市	(n=175)	15.4	6.3	7.4	8.0	6.3	5.7	50.3	13.7
郡山市	(n=70)	17.1	18.6	5.7	2.9	5.7	8.6	38.6	14.3
福島市	(n=52)	9.6	7.7	5.8	5.8	1.9	5.8	57.7	13.5
白河市	(n=23)	4.3	13.0	4.3	4.3	-	13.0	65.2	4.3
南相馬市	(n=21)	38.1	14.3	28.6	19.0	-	4.8	42.9	-
会津若松市	(n=12)	-	-	33.3	-	8.3	-	33.3	33.3
福島県内のその 他の市町村	(n=70)	14.3	4.3	7.1	1.4	1.4	1.4	58.6	15.7
埼玉県加須市	(n=71)	11.3	5.6	1.4	5.6	2.8	4.2	63.4	11.3
茨城県つくば市	(n=14)	35.7	-	7.1	-	-	7.1	21.4	28.6
新潟県柏崎市	(n=10)	-	-	10.0	-	-	-	80.0	10.0
その他	(n=200)	15.5	14.0	8.0	4.0	6.0	11.0	50.5	10.5

介護・福祉サービスの利用状況別に見ると、家族が介護施設などに入所・入院中の回答者では、「遠くまで通うことになった・通いにくい」が 37.4%と、他の利用者に比べて特に多い。また、自分が訪問系サービスを受けている回答者では、「職員が少ない(足りていない)」は17.9%、「設備が整っていない」は14.3%で、他の利用者に比べて多くなっている。(図表 3-3-5)

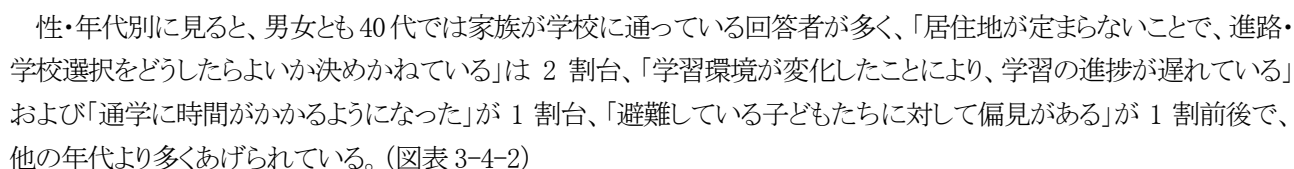
図表 3-3-5 介護・福祉サービスについて困っていること(介護・福祉サービス利用状況別)

		(%)								困っている ことがある (計)
		遠くまで通 うことにな った・通い にくい	利用し慣れ た施設・事 業所がない (気軽に利 用できない) ・どこを 利用すれば よいかわ からない	施設・事業 所が少なく サービスが 受けられな い(もしくは サービス 頻度が相当 減った)	職員が少な い(足りて いない)	設備が整っ ていない	その他	特にな い	無回答	
一般	(n=723)	14.9	9.7	7.6	5.1	4.6	7.2	51.6	12.7	35.7
自分が通所系サ ービスを受けている	(n=133)	7.5	7.5	7.5	9.0	5.3	7.5	58.6	12.0	29.3
家族が通所系サ ービスを受けている	(n=302)	6.6	8.3	9.3	3.0	4.6	5.3	59.9	12.6	27.5
自分が訪問系サ ービスを受けている	(n=28)	7.1	10.7	10.7	17.9	14.3	3.6	60.7	3.6	35.7
家族が訪問系サ ービスを受けている	(n=65)	10.8	6.2	10.8	4.6	6.2	6.2	55.4	13.8	30.8
自分が介護施設な どに入所・入院中	(n=60)	10.0	5.0	6.7	6.7	5.0	15.0	50.0	18.3	31.7
家族が介護施設な どに入所・入院中	(n=203)	37.4	10.8	5.4	5.9	3.0	8.9	34.0	12.3	53.7
その他	(n=45)	11.1	22.2	8.9	6.7	2.2	6.7	35.6	20.0	44.4

1) 中学・高校生以外の一般住民の教育(学校)について困りごと

中学・高校生以外の一般住民(3,498人)に、子どもが受けている教育(小学校、中学校、高等学校等)について困っていることを複数回答で聞いたところ、「居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている」が 8.6%、「学習環境が変化したことにより、学習の進捗が遅れている」が 5.0%、「通学に時間がかかるようになった」が 4.6%、「避難している子どもたちに対して偏見がある」が 2.9%、「転校先の学校や友達に馴染めない」が 2.1%などの順にあげられている。なお、教育(学校)について困っていることが「特にない」という回答者は、14.0%、「学校に通っている子どもはいない」は 62.1%である。(図表 3-4-1)

図表 3-4-1 教育(学校)について困っていること(男女別)



図表 3-4-2 教育(学校)について困っていること(性・年代別)

(%)

		居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている	学習環境が変化したことにより、学習の進捗が遅れている	通学に時間がかかるようになった	避難している子どもたちに対して偏見がある	転校先の学校や友達に馴染めない	教員（先生）による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	子どもが不登校になった	避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している	その他	特にない	学校に通っている子どもはいない	無回答
一般	(n=3498)	8.6	5.0	4.6	2.9	2.1	1.9	1.2	1.1	1.1	14.0	62.1	8.9
男性10～20代	(n=147)	2.7	3.4	2.7	1.4	0.7	2.7	0.7	1.4	1.4	13.6	76.9	4.1
男性30代	(n=203)	20.2	6.9	4.4	3.0	1.0	3.0	2.5	1.5	0.5	16.7	52.7	3.4
男性40代	(n=197)	24.9	14.2	16.2	12.2	7.1	5.6	4.1	5.1	3.0	18.8	34.5	4.1
男性50代	(n=332)	10.2	6.9	6.3	4.2	1.5	2.7	1.2	0.3	1.8	15.7	63.6	2.7
男性60代	(n=355)	2.5	1.7	1.1	0.8	1.1	0.8	0.6	0.6	0.3	11.0	76.3	8.5
男性70代以上	(n=343)	4.1	2.3	2.3	0.9	1.7	0.6	0.3	0.6	0.3	13.1	62.7	17.5
女性10～20代	(n=136)	6.6	2.2	2.2	1.5	1.5	-	-	1.5	-	14.0	75.7	2.2
女性30代	(n=208)	24.0	10.1	9.1	4.3	6.3	2.4	1.4	1.9	1.9	17.3	41.3	2.9
女性40代	(n=207)	23.2	17.4	16.4	9.2	5.8	7.2	4.3	2.9	2.9	17.4	33.8	2.9
女性50代	(n=331)	6.0	3.0	3.6	2.4	1.2	0.6	0.9	0.6	1.2	9.4	76.1	3.3
女性60代	(n=328)	2.7	2.1	1.5	1.2	0.3	0.6	0.3	0.6	-	9.8	78.4	6.7
女性70代以上	(n=519)	1.0	1.2	1.3	0.6	1.0	0.6	0.2	-	1.0	16.6	63.8	15.0

現在の避難先別に見ると、埼玉県加須市の避難者では、「居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている」(16.2%)、「通学に時間がかかるようになった」(11.4%)、「環境が変わったため、学習の進捗が遅れている」(10.8%)はいずれも1割台の回答となっており、他の自治体より多く挙げられている。また、「居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている」は、新潟県柏崎市避難者においても12.3%と1割を超え、やや多めになっている。(図表 3-4-3)

図表 3-4-3 教育(学校)について困っていること(現在の避難先別)

(%)

		居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている	学習環境が変化したことにより、学習の進捗が遅れている	通学に時間がかかるようになった	避難している子どもたちに対して偏見がある	転校先の学校や友達に馴染めない	教員（先生）による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	子どもが不登校になった	避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している	その他	特にない	学校に通っている子どもはいない	無回答
一般	(n=3498)	8.6	5.0	4.6	2.9	2.1	1.9	1.2	1.1	1.1	14.0	62.1	8.9
いわき市	(n=736)	7.6	4.6	5.8	4.8	2.2	2.3	1.9	2.6	0.8	14.4	60.5	9.9
郡山市	(n=375)	4.3	1.3	2.1	2.9	1.1	0.5	0.3	1.6	1.9	9.9	71.2	9.3
福島市	(n=244)	4.9	2.0	2.9	0.4	0.8	0.4	-	0.8	1.6	18.0	62.3	9.4
白河市	(n=136)	5.9	3.7	5.1	4.4	2.2	1.5	0.7	1.5	0.7	11.0	66.9	8.1
南相馬市	(n=76)	3.9	-	1.3	-	-	-	-	-	-	14.5	75.0	6.6
会津若松市	(n=61)	3.3	1.6	3.3	-	-	-	-	-	1.6	14.8	60.7	16.4
福島県内のその他の市町村	(n=290)	11.0	4.1	3.1	2.8	3.1	1.4	1.7	1.7	0.7	14.5	63.1	7.9
埼玉県加須市	(n=352)	16.2	10.8	11.4	5.7	3.1	5.1	1.7	0.3	2.0	9.1	49.7	11.9
茨城県つくば市	(n=88)	5.7	4.5	2.3	6.8	-	-	1.1	-	1.1	15.9	67.0	6.8
新潟県柏崎市	(n=57)	12.3	5.3	7.0	-	1.8	3.5	1.8	-	1.8	24.6	43.9	8.8
その他	(n=1052)	9.7	6.3	3.6	1.4	2.5	2.0	1.1	0.2	0.7	15.1	63.8	6.3

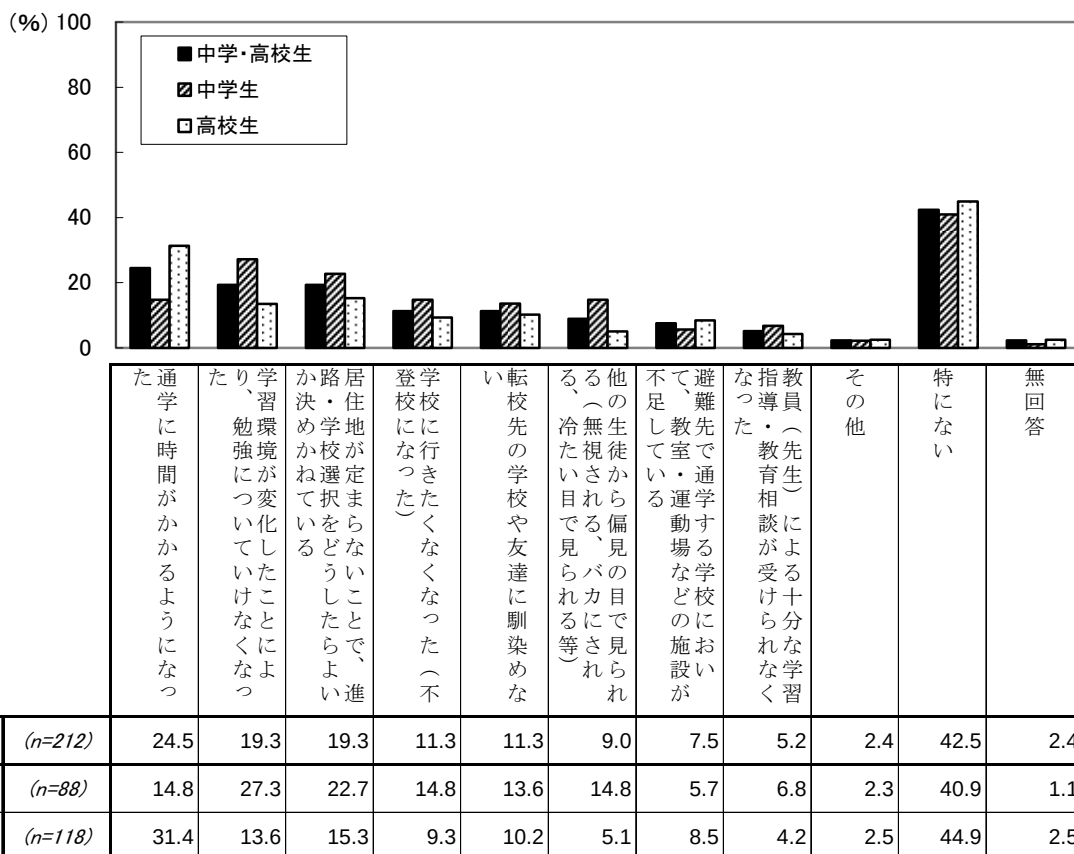
2) 中学・高校生の教育(学校)についての困りごと

中学・高校生問3 あなたが受けている教育(中学校、高等学校等)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

中学・高校生(212人)に、自身が受けている教育(中学校、高等学校等)について困っていることを複数回答で聞いたところ、「通学に時間がかかるようになった」が24.5%と最も多く、次いで「学習環境が変化したことにより、勉強についていけなくなった」および「居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている」が同率の19.3%、「学校に行きたくなかった(不登校になった)」および「転校先の学校や友達に馴染めない」が同率の11.3%の順で上位に挙げられている。なお、「特にない」という回答者は、42.5%である。(図表3-4-4)

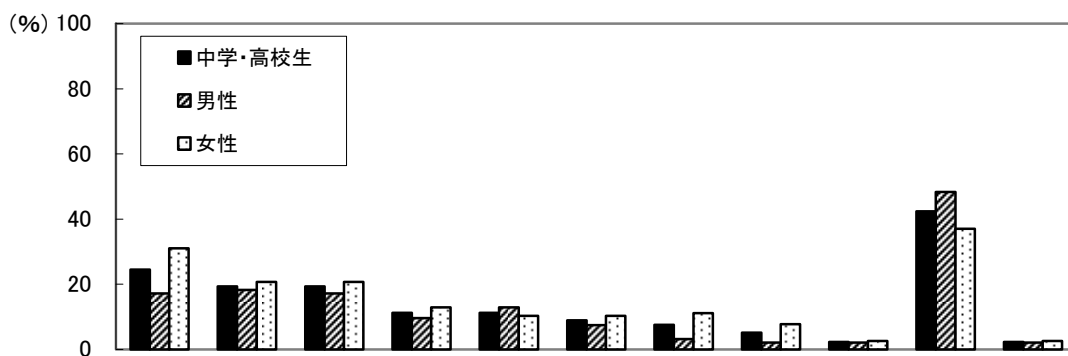
中学生・高校生別に見ると、高校生では「通学に時間がかかるようになった」との回答は31.4%で最も多く、中学生(14.8%)の倍以上である。逆に、「学習環境が変化したことにより、勉強についていけなくなった」は、高校生では13.6%であるのに対して、中学生では27.3%であり、中学生の困りごとの最上位に挙げられている。中学生では、「居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている」(22.7%)も2割を超えている。(図表3-4-4)

図表3-4-4 教育(学校)について困っていること(中学・高校生別)



男女別に見ると、男子生徒の困りごとは、「学習環境が変化したことにより、勉強についていけなくなった」(18.3%)、「通学に時間がかかるようになった」・「居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている」(17.2%)の順で上位に挙げられている。女子生徒では、「通学に時間がかかるようになった」(31.0%)、「学習環境が変化したことにより、勉強についていけなくなった」・「居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている」(20.7%)の順で上位に挙げられている。「避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している」や「教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった」といった困りごとについては、男子生徒より女子生徒のほうが回答がやや多い。(図表 3-4-5)

図表 3-4-5 教育(学校)について困っていること(男女別)



		た通学に時間がかかるようになった	たり、勉強についていけなくなった	学習環境が変化したことによって、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている	居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている	学校に行きたくなくなった（不登校になった）	転校先の学校や友達に馴染めない	他の生徒から偏見の目で見られる（無視される、バカにされる、冷たい目で見られる等）	て、教室・運動場などの施設が不足している	避難先で通学する学校において、指導・教育相談が受けられなくなった	教員（先生）による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	その他	特にない	無回答
中学・高校生	(n=212)	24.5	19.3	19.3	11.3	11.3	9.0	7.5	5.2	2.4	42.5	2.4		
男性	(n=93)	17.2	18.3	17.2	9.7	12.9	7.5	3.2	2.2	2.2	48.4	2.2		
女性	(n=116)	31.0	20.7	20.7	12.9	10.3	10.3	11.2	7.8	2.6	37.1	2.6		

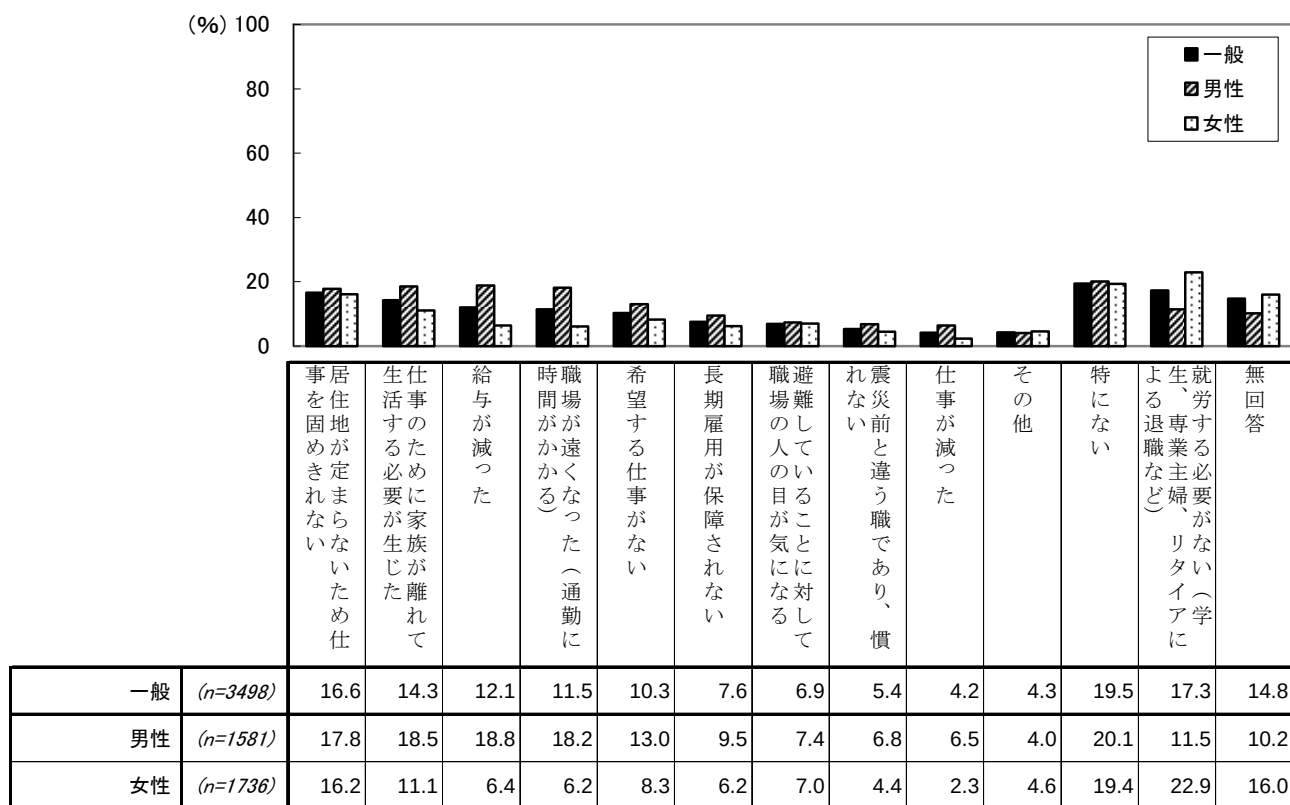
(5) 就労について困っていること

問 11 就労について困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

中学・高校生以外の一般住民(3,498 人)に、就労について困っていることを複数回答で聞いたところ、「居住地が定まらないため仕事を固めきれない」が 16.6%で最も多く、以下、「仕事のために家族が離れて生活する必要が生じた」14.3%、「給与が減った」12.1%、「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」11.5%、「希望する仕事がない」10.3%の順で続いている。なお、就労に関して困っていることが「特にない」という回答者は 19.5%、「就労する必要がある(学生、専業主婦、リタイアによる退職など)」は 17.3%である。(図表 3-5-1)

男女別に見ると、男性では、「給与が減った」(18.8%)、「仕事のために家族が離れて生活する必要が生じた」(18.5%)、「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」(18.2%)、「居住地が定まらないため仕事を固めきれない」(17.8%)が上位にほぼ同率で挙げられている。「給与が減った」(男性 18.8%、女性 6.4%)、「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」(同 18.2%、6.2%)は、女性に比べて男性に回答者が多い。また、女性では、「就労する必要がある(学生、専業主婦、リタイアによる退職など)」が 22.9%で、男性よりも多い。(図表 3-5-1)

図表 3-5-1 就労について困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、「居住地が定まらないため仕事を固めきれない」という困りごとを感じているのは、男性 40-50 代、および女性 30-50 代の層で多く、それぞれ2割を超えている。男性 40-50 代の層では、「仕事のために家族が離れて生活する必要が生じた」との回答が 3 割弱(男性 40 代 29.4%、男性 50 代 29.8%)となっており、他の性・年代層に比べて多い。男性 30 代および 40 代の層では、「給与が減った」、「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」の回答がいずれも3割を超えており、他の性・年代層に比べて多い。男性 10-20 代では、「希望する仕事がない」との回答が 24.5%で、2 割を超えて、他の層よりも多くなっている。(図表 3-5-2)

図表 3-5-2 就労について困っていること(性・年代別)

(%)

		居住地が 定まらない ため仕事 を固め きれない	仕事のた めに家族 が離れて 生活する 必要が生 じた	給与が 減った	職場が遠 くなった (通勤に 時間がか かる)	希望する 仕事がない	長期雇用 が保障さ れない	避難して いること に対して 職場の人 の目が気 になる	震災前と 違う職で あり、慣 れない	仕事が 減った	その他	特にない	就労する 必要がない (学生、専 業主婦、リ タイアに よる退職 など)	無回答
一般	(n=3498)	16.6	14.3	12.1	11.5	10.3	7.6	6.9	5.4	4.2	4.3	19.5	17.3	14.8
男性10～20代	(n=147)	15.0	18.4	25.2	21.1	24.5	8.8	13.6	6.1	7.5	2.0	19.7	8.2	5.4
男性30代	(n=203)	19.2	26.1	34.5	31.5	10.3	12.8	16.3	8.4	5.4	5.9	16.3	0.5	3.4
男性40代	(n=197)	29.4	29.4	34.0	32.5	16.8	16.8	11.2	14.2	12.2	6.1	11.2	0.5	2.0
男性50代	(n=332)	22.6	29.8	27.7	26.5	14.8	14.8	9.3	9.9	8.4	6.0	16.9	1.8	3.3
男性60代	(n=355)	19.4	12.4	7.9	11.0	14.4	7.0	2.8	5.4	5.6	2.8	21.1	19.7	10.1
男性70代以上	(n=343)	5.2	3.2	1.2	0.6	4.7	1.2	0.3	0.3	2.3	2.0	30.0	26.8	27.1
女性10～20代	(n=136)	15.4	10.3	11.0	12.5	14.7	8.8	11.0	4.4	2.2	3.7	25.0	21.3	2.2
女性30代	(n=208)	24.0	14.4	12.0	9.6	12.5	11.1	13.5	6.7	2.4	8.2	18.8	12.5	6.7
女性40代	(n=207)	28.0	18.8	10.6	12.6	13.0	12.6	15.0	9.2	4.8	6.8	12.1	13.0	4.3
女性50代	(n=331)	28.4	19.0	11.2	10.3	11.8	9.4	11.8	7.6	4.2	6.0	12.7	11.8	8.5
女性60代	(n=328)	12.5	7.0	2.4	1.8	7.3	3.4	1.2	2.7	1.8	4.0	18.0	32.3	18.9
女性70代以上	(n=519)	3.1	4.6	0.6	0.8	1.5	1.0	0.8	0.6	0.4	1.9	26.2	32.9	30.6

現在の避難先別に見ると、「居住地が定まらないため仕事を固めきれない」という困りごとは、郡山市(20.0%)、白河市(26.5%)、埼玉県加須市(23.3%)それぞれの避難者で2割を超えており、他の自治体避難者に比べてやや多い。また、南相馬市避難者では「仕事のために家族が離れて生活する必要が生じた」が23.7%、いわき市避難者では「職場が遠くなった(通勤に時間がかかる)」が24.5%挙げられており、他の自治体避難者に比べて多い。(図表 3-5-3)

図表 3-5-3 就労について困っていること(現在の避難先別)

(%)

		居住地が 定まらない ため仕事 を固め きれない	仕事のた めに家族 が離れて 生活する 必要が生 じた	給与が 減った	職場が遠 くなった (通勤に 時間がか かる)	希望する 仕事がない	長期雇用 が保障さ れない	避難して いること に対して 職場の人 の目が気 になる	震災前と 違う職で あり、慣 れない	仕事が 減った	その他	特にない	就労する 必要がない (学生、専 業主婦、リ タイアに よる退職 など)	無回答
一般	(n=3498)	16.6	14.3	12.1	11.5	10.3	7.6	6.9	5.4	4.2	4.3	19.5	17.3	14.8
いわき市	(n=736)	12.8	14.3	17.4	24.5	9.1	9.2	10.1	5.0	6.8	4.6	13.2	15.1	16.7
郡山市	(n=375)	20.0	15.7	8.0	10.4	11.5	7.2	6.4	6.4	4.0	2.1	20.3	17.3	16.0
福島市	(n=244)	16.4	15.2	8.2	7.4	10.7	5.3	4.9	2.0	1.6	3.7	22.1	18.9	12.7
白河市	(n=136)	26.5	3.7	7.4	2.2	16.2	5.1	5.9	3.7	1.5	1.5	19.9	19.1	17.6
南相馬市	(n=76)	6.6	23.7	14.5	13.2	7.9	3.9	1.3	2.6	9.2	3.9	27.6	11.8	10.5
会津若松市	(n=61)	14.8	13.1	14.8	4.9	6.6	—	8.2	1.6	3.3	3.3	19.7	14.8	24.6
福島県内のその他の市町村	(n=290)	14.5	18.6	10.7	11.0	7.2	5.5	5.5	6.2	2.8	2.4	22.8	17.6	15.9
埼玉県加須市	(n=352)	23.3	17.6	10.2	6.3	11.4	13.9	6.8	7.1	3.4	8.2	15.6	14.2	15.9
茨城県つくば市	(n=88)	15.9	5.7	5.7	4.5	13.6	8.0	5.7	4.5	—	2.3	25.0	20.5	19.3
新潟県柏崎市	(n=57)	15.8	10.5	19.3	8.8	17.5	14.0	3.5	5.3	7.0	5.3	19.3	12.3	12.3
その他	(n=1052)	16.4	13.2	12.3	8.0	10.4	6.4	6.8	6.1	4.1	4.5	22.5	19.9	11.2

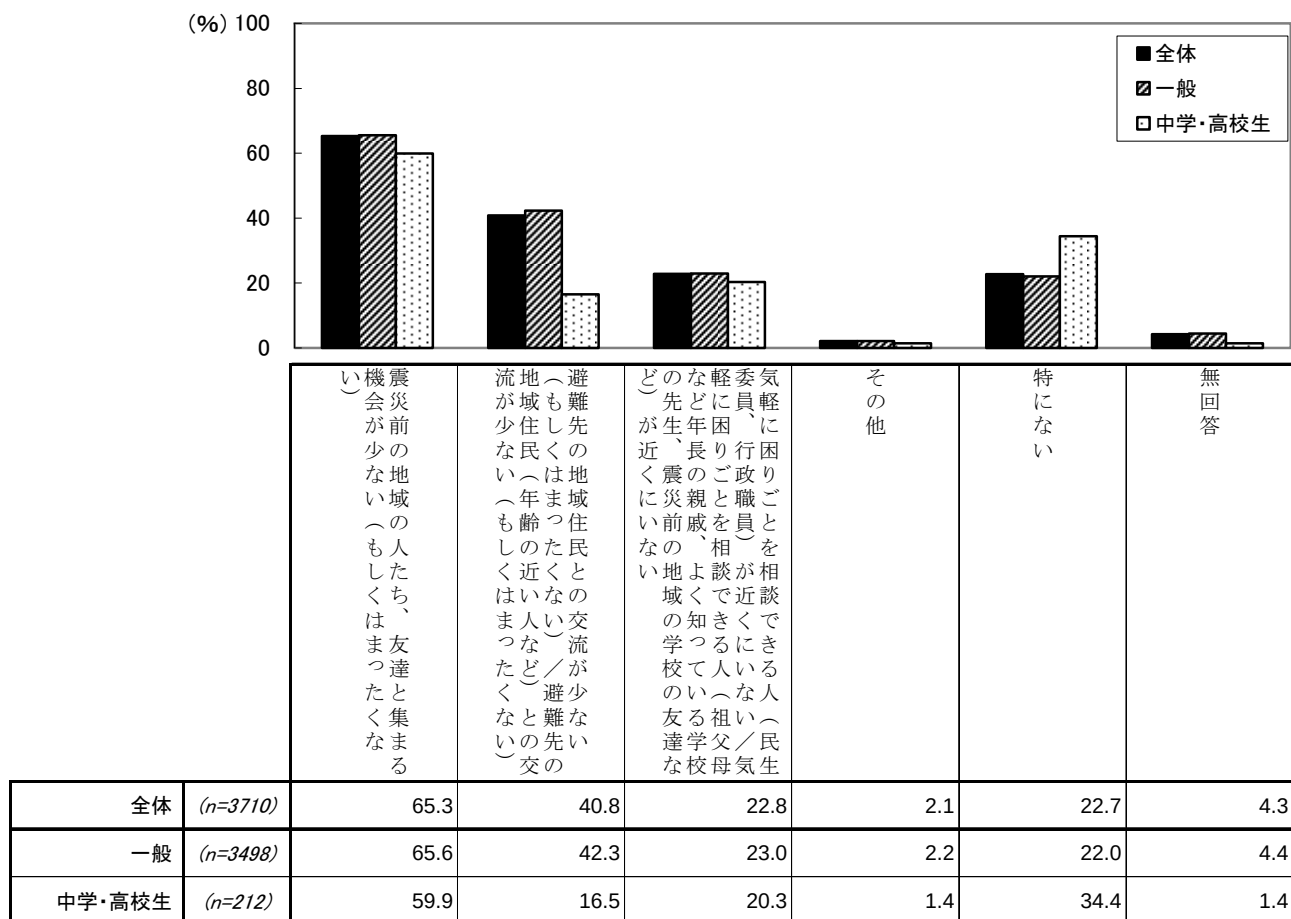
(6) 地域のコミュニティについて困っていること

問 12 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。（○はいくつでも）
[中学・高校生:問 4]

地域のコミュニティについて困っていることを複数回答で聞いたところ、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」が 65.3%、次いで、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)／避難先の地域住民(年齢の近い人など)との交流が少ない(もしくはまったくない)」が 40.8%、「気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない／気軽に困りごとを相談できる人(祖父母など年長の親戚、よく知っている学校の先生、震災前の地域の学校の友達など)が近くにいない」が 22.8%となっている。「特にない」という回答者は 22.7%である。(図表 3-6-1)

中学・高校生を除く一般と、中学・高校生を比較したところ、いずれも最も回答が多いのは「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」であるのは同様であるが、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」は、中学・高校生では 16.5%であるのに対して一般では 42.3%と多く、開きが見られる。(図表 3-6-1)

図表 3-6-1 地域のコミュニティについて困っていること



性・年代別に見ると、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」は、男性 40 代(71.6%)および女性 50 代(73.1%)で 7 割を超え、他の性・年代層よりもやや多い。「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」は、男女ともに 40 代以上の層ではいずれも 4 割を超えており、多くなっているのに対して、男女ともに 10-20 代では 2 割前後で、年代による開きが見られる。(図表 3-6-2)

図表 3-6-2 地域のコミュニティについて困っていること(性・年代別)

(%)

		震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)	避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)／避難先の地域住民(年齢の近い人など)との交流が少ない(もしくはまったくない)	気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない／気軽に困りごとを相談できる人(祖父母など年長の親戚、よく知っている学校の先生、震災前の地域の学校の友達など)が近くにいない	その他	特になし	無回答
全体	(n=3710)	65.3	40.8	22.8	2.1	22.7	4.3
男性10-20代	(n=240)	55.8	22.5	19.2	0.4	37.9	2.1
男性30代	(n=203)	56.2	36.5	19.2	2.5	34.0	3.0
男性40代	(n=197)	71.6	46.7	23.4	3.6	20.3	1.0
男性50代	(n=332)	66.9	50.6	24.7	3.3	20.8	2.1
男性60代	(n=355)	65.9	45.4	24.8	1.4	22.5	2.3
男性70代以上	(n=343)	62.7	48.1	25.1	0.9	18.1	8.2
女性10-20代	(n=252)	68.3	18.7	21.0	1.2	26.6	1.2
女性30代	(n=208)	66.3	35.1	22.1	3.8	24.5	2.4
女性40代	(n=207)	66.2	41.5	22.2	1.9	23.2	1.4
女性50代	(n=331)	73.1	46.5	26.9	2.7	16.6	2.4
女性60代	(n=328)	65.2	43.6	22.6	1.5	23.2	4.0
女性70代以上	(n=519)	69.6	45.7	22.5	2.5	20.2	5.0

現在の避難先別に見ると、南相馬市への避難者においては、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」(76.9%)は 7 割を超えているほか、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」(55.1%)は 5 割を超えており、他の自治体への避難者に比べて多くなっている。(図表 3-6-3)

図表 3-6-3 地域のコミュニティについて困っていること(現在の避難先別)

(%)

		震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)	避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)／避難先の地域住民(年齢の近い人など)との交流が少ない(もしくはまったくない)	気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない／気軽に困りごとを相談できる人(祖父母など年長の親戚、よく知っている学校の先生、震災前の地域の学校の友達など)が近くにいない	その他	特になし	無回答
全体	(n=3710)	65.3	40.8	22.8	2.1	22.7	4.3
いわき市	(n=791)	66.4	43.2	23.6	2.9	20.7	4.4
郡山市	(n=385)	64.9	47.3	21.0	2.1	20.8	4.9
福島市	(n=255)	63.5	32.2	18.0	3.5	25.9	3.9
白河市	(n=140)	60.7	39.3	19.3	2.1	26.4	4.3
南相馬市	(n=78)	76.9	55.1	24.4	1.3	11.5	2.6
会津若松市	(n=63)	65.1	46.0	28.6	—	17.5	11.1
福島県内のその他の市町村	(n=304)	65.8	41.1	24.7	2.3	20.7	3.6
埼玉県加須市	(n=398)	64.6	34.4	18.3	1.3	23.4	5.0
茨城県つくば市	(n=91)	57.1	27.5	13.2	4.4	30.8	5.5
新潟県柏崎市	(n=65)	52.3	24.6	18.5	3.1	32.3	6.2
その他	(n=1108)	66.8	42.6	26.3	1.5	24.3	2.6

4. 今後の避難生活に関する意見

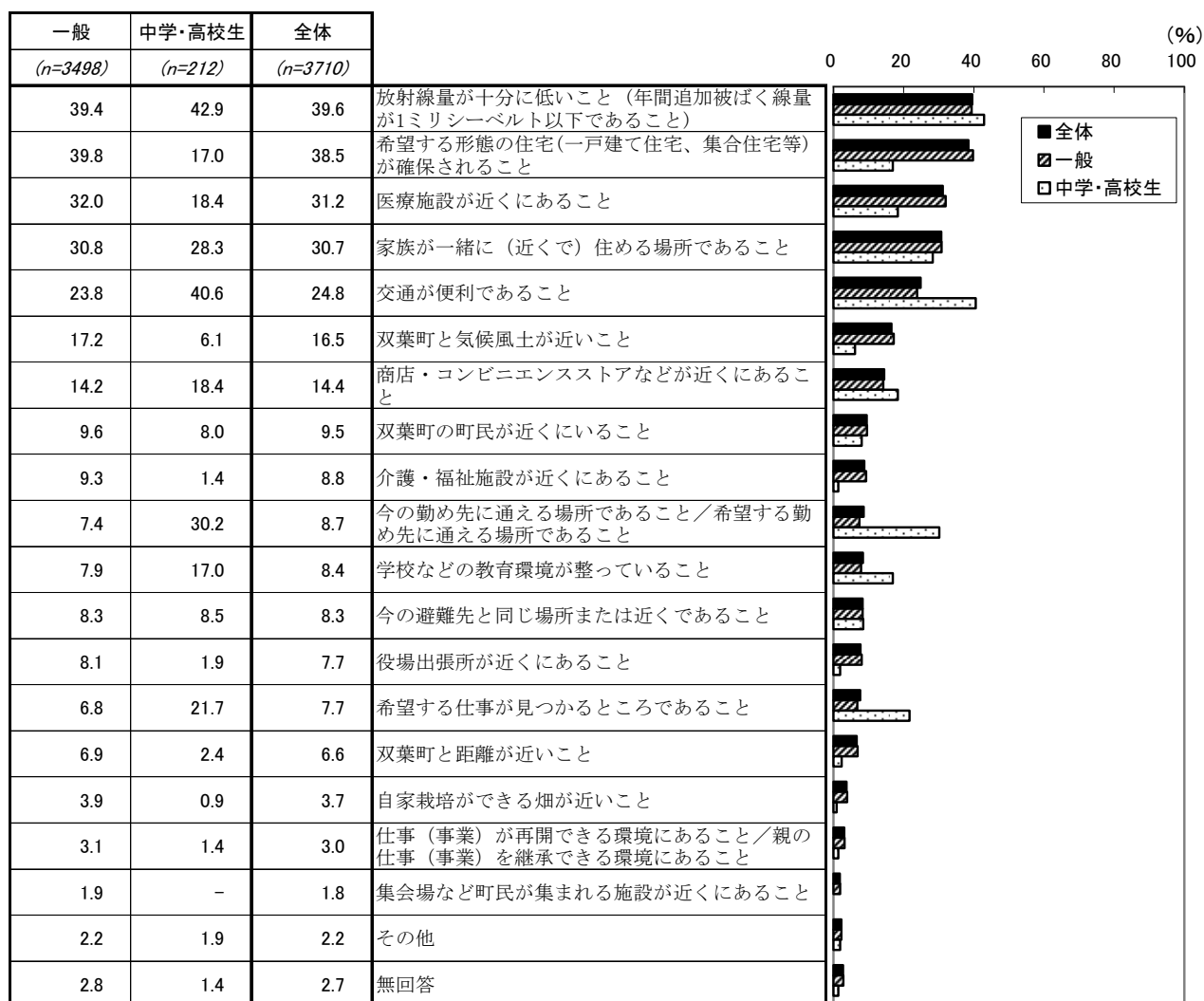
(1) 生活再建していく場所選択にあたって重視する条件

問 13	双葉町は放射線量が高いため、帰還が可能となるまでの間に相当な時間を要することが想定されます(少なくとも 5 年以上)。なお、国による放射線量の予測(参考資料 3-2)によれば、お住まいの地域が国による基準で帰還が困難となっている年間放射線量 20 ミリシーベルトを超える方は、10 年後で双葉町の人口の約 5 割、20 年後で約 2 割となっています)。あなたが生活再建をしていく場所を選択するにあたって、重視する条件はどのようなものですか。次の「1」から「19」の中から、特に重視する条件を3つまで選んでください。(○は3つまで)
中学・高校生問 5	あなたが社会人になったとき、これから住んで生活する場所を選択するにあたって、重視する条件はどのようなものですか。次の「1」から「19」の中から、特に重視する条件を3つまで選んでください。(○は3つまで)

生活再建をしていく場所を選択するにあたって重視する条件を3つまで尋ねたところ、「放射線量が十分に低いこと(年間追加被ばく線量が 1 ミリシーベルト以下であること)」39.6%、「希望する形態の住宅(一戸建て住宅、集合住宅等)が確保されること」38.5%、「医療施設が近くにあること」31.2%、「家族と一緒に(近くで)住める場所であること」30.7%、「交通が便利であること」24.8%という順で上位に挙げられている。(図表 4-1-1)

中学・高校生で見ると、「放射線量が十分に低いこと」(42.9%)と並んで「交通が便利であること」(40.6%)がともに 4 割台の回答である。また、「今の勤め先に通える場所であること／希望する勤め先に通える場所であること」は一般 7.4%に対して中学・高校生は 30.2%、「希望する仕事が見つかるところであること」は一般 6.8%に対して中学・高校生は 21.7%と開きが大きくなっており、中学・高校生では将来の仕事・職場に関する条件を重視している傾向が見られる。(図表 4-1-1)

図表 4-1-1 生活再建をしていく場所を選択するにあたって重視する条件(3つまで 一般・中高生別)



性・年代別に見ると、「放射線量が十分に低いこと」を特に重視しているのは女性 30 代(55.3%)や男性 40 代(49.7%)で、5 割前後となっている。「希望する形態の住宅が確保されること」は、男性 40-60 代や、女性 40-60 代で 4 割を超えており、他の性・年代に比べて多くなっている。「医療施設が近くにあること」は、男性 60 代、女性 60 代以上では 4 割を超えており、他層よりも多い。「家族が一緒に(近くで)住める場所であること」は、女性 30 代の層では 4 割を超えている(41.3%)。「交通が便利であること」は男女 10-20 代、男性 50 代で 3 割を超え、他層よりも多い。「今の勤め先に通える場所であること／希望する勤め先に通える場所であること」という条件は、男性 30 代(25.1%)、女性 10-20 代(23.8%)で 2 割を超え、他層よりも多い。「学校などの教育環境が整っていること／子どもを通わせる学校などの教育環境が整っていること」は、女性 30 代(38.9%)では 4 割弱と、他層よりも特に多くなっている。(図表 4-1-2)

図表 4-1-2 生活再建をしていく場所を選択するにあたって重視する条件(3つまで 性・年代別)

		(%)										
		放射線量が十分に低いこと (年間追加被ばく線量が1ミリシーベルト以下であること)	希望する形態の住宅(一戸建て住宅、集合住宅等)が確保されること	医療施設が近くにあること	家族が一緒に(近くで)住める場所であること	交通が便利であること	双葉町と気候風土が近いこと	商店・コンビニエンスストアなどが近くにあること	双葉町の町民が近くにいること	介護・福祉施設が近くにあること	今の勤め先に通える場所であること／希望する勤め先に通える場所であること	学校などの教育環境が整っていること／子どもを通わせる学校などの教育環境が整っていること
全体	(n=3710)	39.6	38.5	31.2	30.7	24.8	16.5	14.4	9.5	8.8	8.7	8.4
男性10-20代	(n=240)	49.6	20.4	15.0	26.7	34.2	9.6	16.7	6.3	2.9	18.8	12.1
男性30代	(n=203)	47.3	33.0	19.2	30.5	23.6	8.9	10.8	4.4	1.0	25.1	25.1
男性40代	(n=197)	49.7	48.2	16.8	36.5	23.4	12.7	9.6	5.6	2.5	20.3	12.2
男性50代	(n=332)	44.0	41.0	26.2	32.5	30.1	18.4	9.9	6.0	6.0	17.5	4.2
男性60代	(n=355)	35.5	53.0	41.4	29.6	23.4	19.2	16.6	7.0	7.9	2.3	1.7
男性70代以上	(n=343)	36.7	36.7	37.0	26.5	18.7	19.8	16.9	14.6	15.2	-	0.9
女性10-20代	(n=252)	43.7	23.0	21.4	32.5	36.5	9.9	16.7	7.5	1.6	23.8	14.7
女性30代	(n=208)	55.3	39.9	21.6	41.3	17.8	9.6	8.2	3.8	1.0	6.7	38.9
女性40代	(n=207)	46.4	46.4	24.6	39.1	21.7	21.3	8.7	4.8	5.8	7.2	20.8
女性50代	(n=331)	40.5	50.5	37.5	33.5	27.8	18.7	18.7	7.9	7.3	5.7	1.8
女性60代	(n=328)	32.9	45.4	45.4	28.0	29.9	20.7	18.0	12.2	10.4	1.2	2.4
女性70代以上	(n=519)	28.7	30.4	43.2	27.9	18.1	20.4	16.4	19.3	22.2	0.2	0.2

		(%)								
		今の避難先と同じ場所または近くであること	役場出張所が近くにあること	希望する仕事が見つかることであること	双葉町と距離が近いこと	自家栽培ができる畑が近いこと	仕事（事業）が再開できる環境にあること／親の仕事（事業）を継承できる環境にあること	集会場など町民が集まれる施設が近くにあること	その他	無回答
全体	(n=3710)	8.3	7.7	7.7	6.6	3.7	3.0	1.8	2.2	2.7
男性10－20代	(n=240)	10.4	4.6	24.2	5.4	1.3	3.8	0.4	2.5	1.7
男性30代	(n=203)	10.3	3.0	15.8	3.4	2.0	4.4	0.5	2.5	1.5
男性40代	(n=197)	8.6	6.1	14.2	5.1	3.0	6.6	1.0	2.0	－
男性50代	(n=332)	8.1	6.3	9.0	6.0	4.2	3.3	1.2	2.7	1.2
男性60代	(n=355)	9.6	9.3	2.5	5.9	8.2	3.1	1.7	2.0	1.7
男性70代以上	(n=343)	5.8	13.4	0.3	15.5	3.5	2.6	2.9	3.5	3.8
女性10－20代	(n=252)	6.3	5.6	21.4	2.8	1.6	2.8	0.8	0.8	0.4
女性30代	(n=208)	6.7	4.3	11.1	1.0	2.4	3.4	0.5	2.4	1.4
女性40代	(n=207)	12.1	4.8	9.7	1.9	1.0	4.3	0.5	1.4	0.5
女性50代	(n=331)	8.2	5.7	3.9	4.5	6.6	2.1	1.5	1.5	1.2
女性60代	(n=328)	10.4	7.3	2.1	3.0	4.9	3.7	1.2	1.5	1.8
女性70代以上	(n=519)	6.4	14.1	0.2	11.9	2.7	0.6	5.4	1.3	4.2

(2) 避難期間中に希望する住居形態

問 14 双葉町への帰還が可能となるまでの間に相当な時間を要することが想定されるなか、双葉町への帰還が可能となるまでの間に生活する住居として、どのようなものを希望しますか。

(1) 所有形態 (○は1つ)

(2) 住宅の建て方(○は1つ)

中学・高校生以外の一般住民(3,498 人)に避難期間中の生活において居住を希望する住居の所有形態を聞いたところ、「持ち家(ご本人またはご家族所有)を買う」を希望する回答者が 43.8%で最も多く、次いで、「公営住宅(災害公営住宅を含む)を借りる」(23.9%)、「民間賃貸を借りる」(21.8%)の順となっている。(図表 4-2-1①)

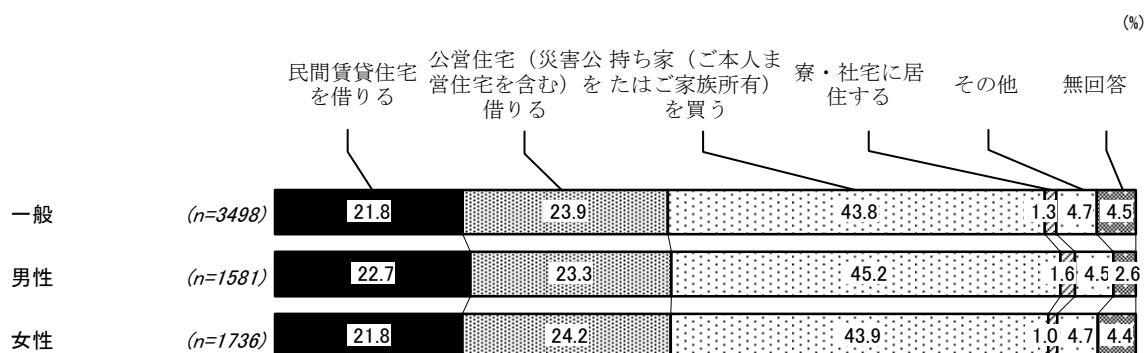
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 4-2-1①)

建て方の希望としては、「一戸建て」が 71.3%で多数を占め、「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」13.2%、「集合住宅(一般的な中高層のもの)」6.6%の順となっている。(図表 4-2-1②)

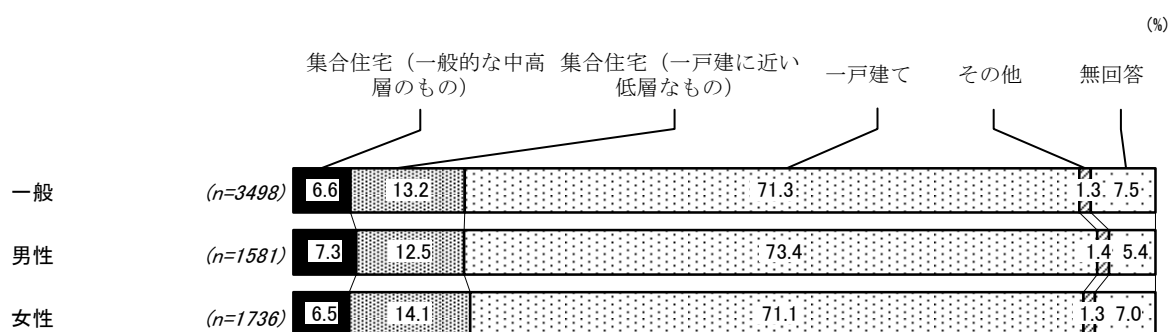
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 4-2-1②)

図表 4-2-1 希望する避難期間中の住居(男女別)

①所有形態



②建て方

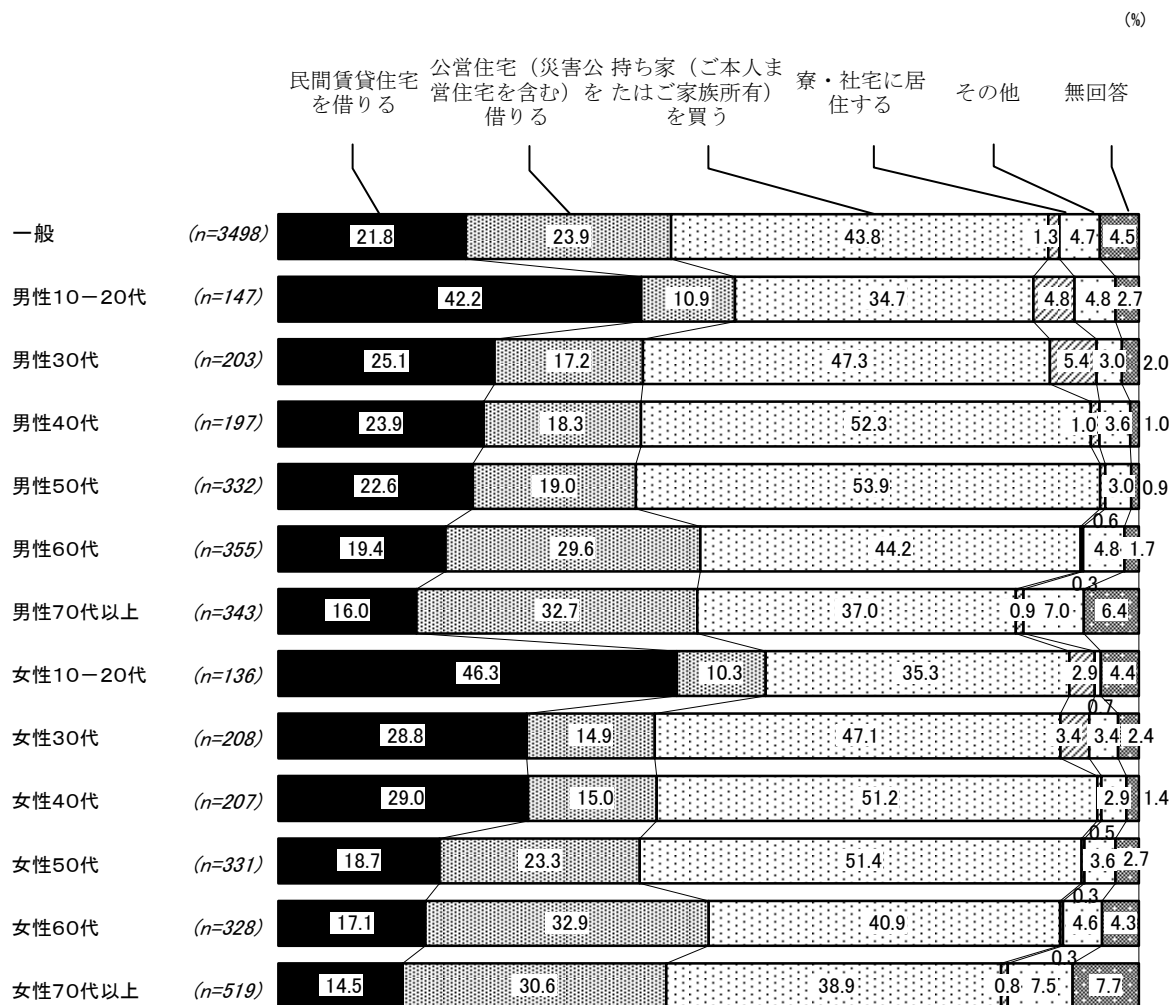


希望する所有形態を性・年代別に見ると、男女ともに 10-20 代の層では、「民間賃貸を借りる」(男性 42.2%、女性 46.3%)が「持ち家を買う」(同 34.7%、35.3%)を上回っているが、男女ともに 30 代以上の層ではいずれの層でも、「持ち家を買う」が最も多くなっている。「公営住宅を借りる」は、概ね年代が上昇するほど希望が多くなっており、男女とも 60 代以上の層では 3 割前後となっている(男性 60 代 29.6%、男性 70 代以上 32.7%、女性 60 代 32.9%、女性 70 代以上 30.6%)。(図表 4-2-2①)

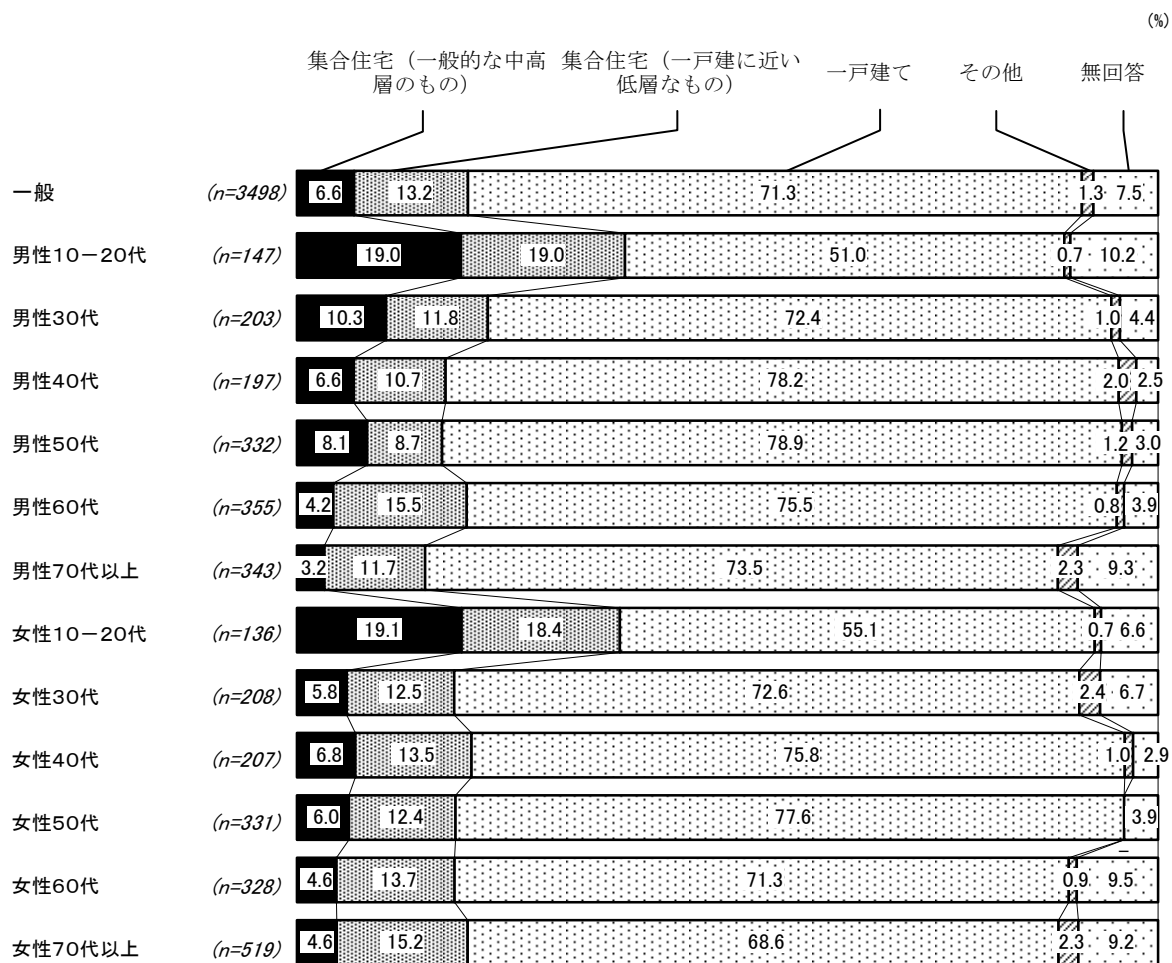
希望の建て方を性・年代別に見ると、男女とも 10-20 代の層では、「一戸建て」は 5 割台で、「集合住宅(一般的な中高層のもの)」および「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」がともにそれぞれ 2 割弱ずつとなっている。この層を除く 30 代以上の層では、男女ともに、「一戸建て」の希望が 6~7 割台となっている。(図表 4-2-2②)

図表 4-2-2 希望する避難期間中の住居(性・年代別)

①所有形態

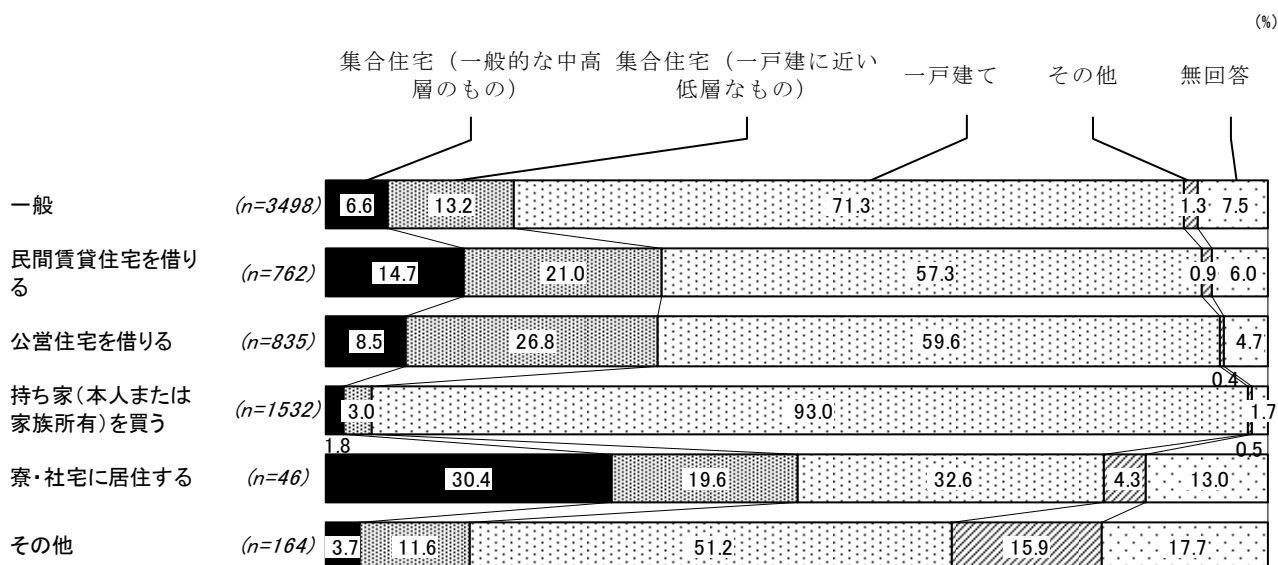


②建て方



希望する所有形態別に希望する建て方を見ると、持ち家希望者では「一戸建て」の希望が 93.0%と大多数を占めるが、民間賃貸希望者(57.3%)、公営住宅希望者(59.6%)においても「一戸建て」が 6 割弱の希望率となっている。(図表 4-2-3)

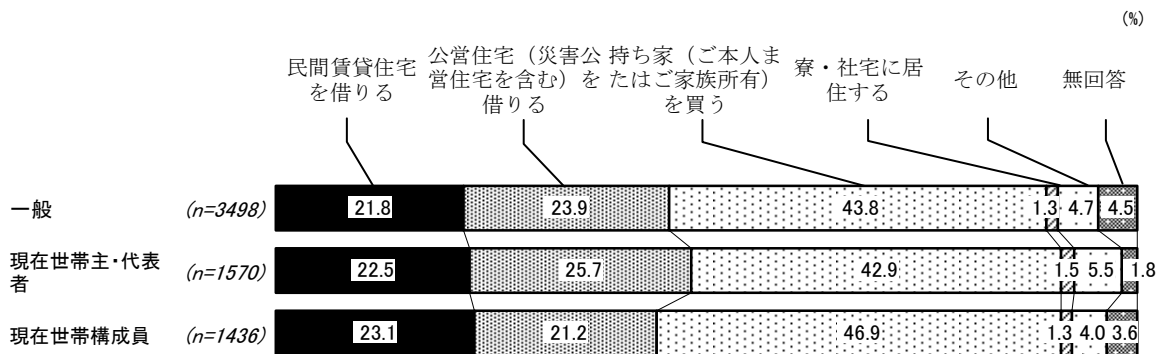
図表 4-2-3 希望する避難期間中の住居(希望する所有形態別)



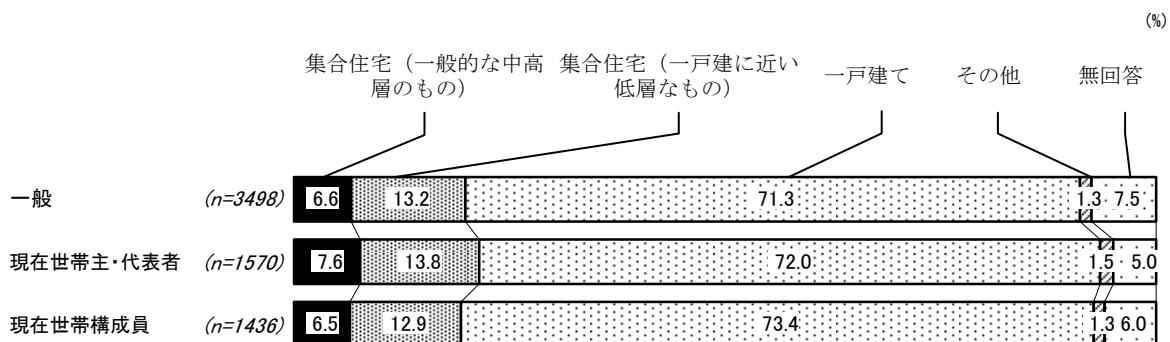
現在の世帯での立場別に見て、所有形態、建て方ともに、現在世帯主・代表者と、現在世帯構成員とで大きな差異は見られない。(図表 4-2-4①②)

図表 4-2-4 希望する避難期間中の住居(現在の世帯での立場別)

①所有形態



②建て方



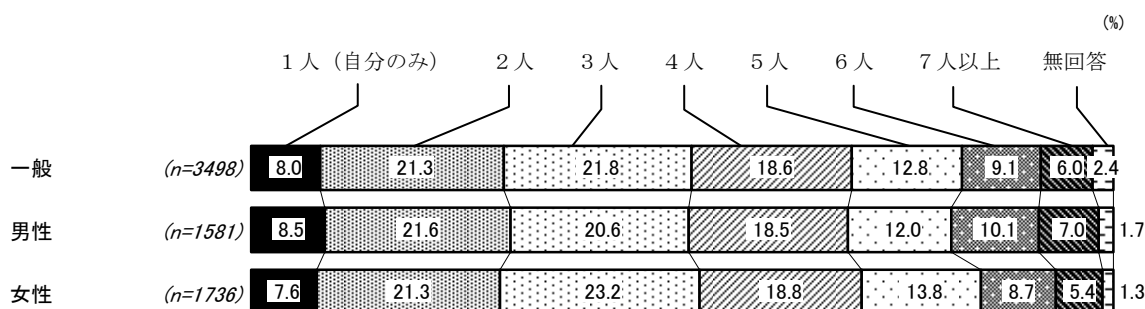
(3) 今後一緒に住む予定の世帯家族人数

問 15 あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。あなたご自身を含めた人数でお答えください。(○は1つ)

中学・高校生以外の一般住民(3,498 人)に今後一緒に住む予定の世帯家族人数を聞いたところ、「1 人(自分のみ)」が 8.0%、「2 人」が 21.3%、「3 人」が 21.8%、「4 人」が 18.6%、「5 人」が 12.8%、「6 人」が 9.1%、「7 人以上」が 6.0%である。(図表 4-3-1)

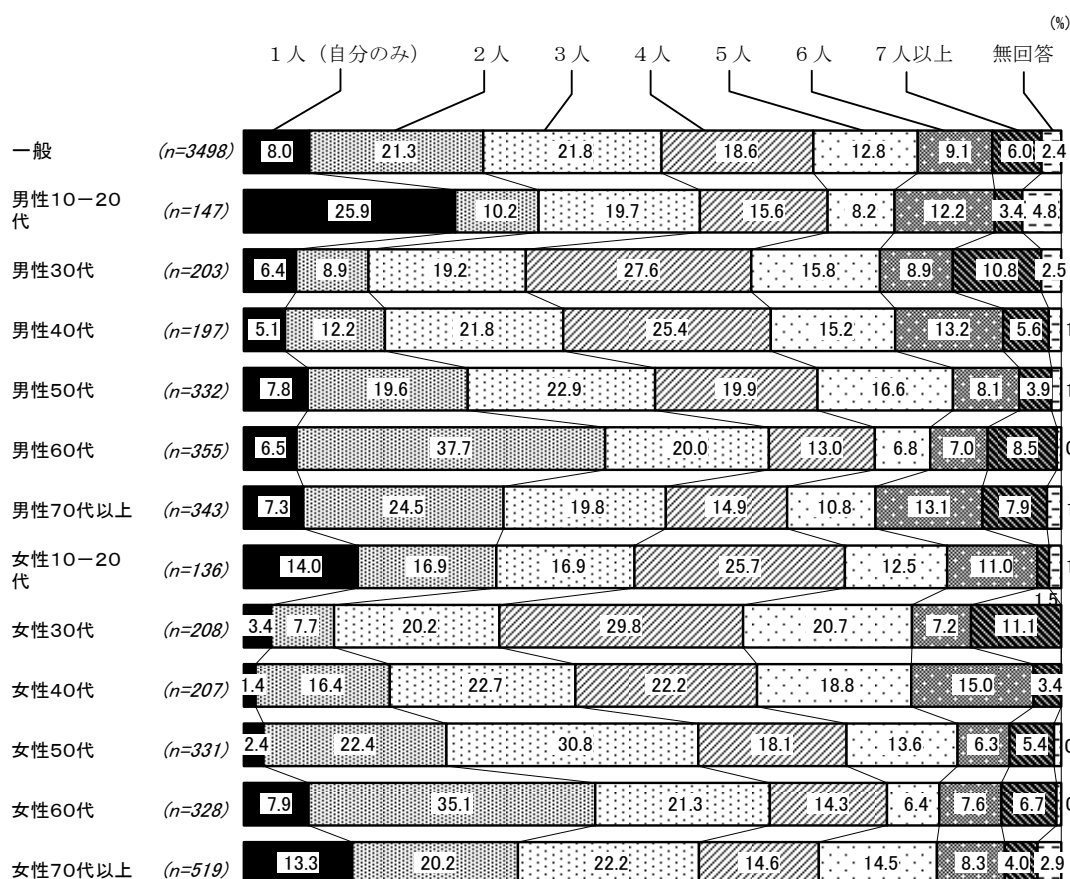
男女別に見て、大きな差はみられない。(図表 4-3-1)

図表 4-3-1 今後一緒に住む予定の世帯家族人数(男女別)



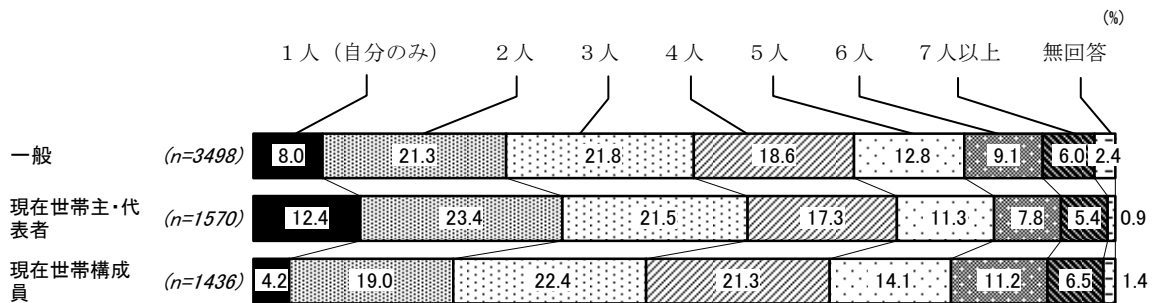
性・年代別に見ると、「1 人(自分のみ)」は、男性 10-20 代(25.9%)、女性 10-20 代(14.0%)、女性 70 代以上(13.3%)で比較的多い。男女とも 60 代は、「2 人」での居住希望が 3 割台で多い(男性 37.7%、女性 35.1%)。男女とも 30 代では「4 人」の居住希望が 3 割弱で多く(男性 27.6%、女性 29.8%)、他の年代と比較して「2 人」以下が最も少ない(男性 30 代 15.3%、女性 30 代 11.1%)年代となっている。(図表 4-3-2)

図表 4-3-2 今後一緒に住む予定の世帯家族人数(性・年代別)



現在の世帯での立場別に見ると、現在世帯主(または代表者)は、現在世帯構成員に比べて、「1人(自分のみ)」および「2人」の区分がやや多く、4人以上の区分は逆にやや少ない。(図表 4-3-3)

図表 4-3-3 今後一緒に住む予定の世帯家族人数(現在の世帯での立場別)



5. 仮の町に対する意見

(1) 仮の町への居住意向

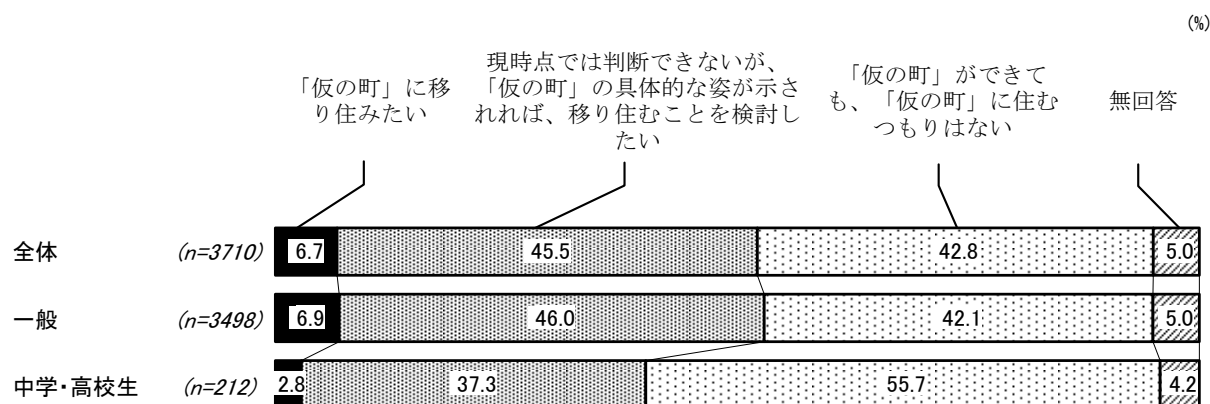
問 16	双葉町復興まちづくり委員会では、今回の住民意向調査も踏まえて、双葉町民が集まって生活できる「仮の町」(町外コミュニティ)のあり方について審議することとしています。 「仮の町」には、「集中型」による整備や「分散型」による整備など様々な考えがありますが、この調査では、以下のような「仮の町」のイメージを念頭に置いてお答えください。 ・「仮の町」には、多くの町民が一か所に集まって生活をしています。 ・「仮の町」には、様々なタイプの住宅が整備されるほか、学校や、病院、商店街、オフィス、工場・農場など、町が本来持つべき機能ができるだけ集約されています。 ・「仮の町」には、多くの町民が一か所に集まることで、双葉町の文化・伝統・コミュニティが維持されます。 上に述べたような「仮の町」ができた場合に、あなたは「仮の町」に移り住むことを希望しますか。(○は1つ) [中学・高校生:問 6]
------	---

双葉町が「仮の町」(町外コミュニティ)を設置した場合の居住意向を尋ねたところ、「「仮の町」に移り住みたい」が 6.7%、「現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい」が 45.5%、「「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」は 42.8%となっている。(図表 5-1-1)

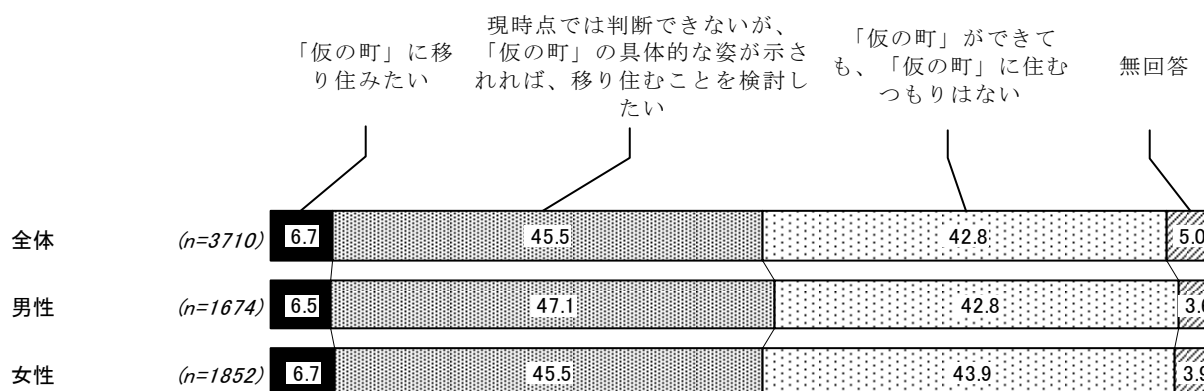
中学・高校生以外の一般住民に比べて、中学・高校生では、「「仮の町」に移り住みたい」(一般 6.9%、中学・高校生 2.8%)、「現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい」(同 46.0%、37.3%)はどちらも少なく、中学・高校生の半数以上(55.7%)が「「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」と回答している。(図表 5-1-1)

男女別には、大きな差は見られない。(図表 5-1-2)

図表 5-1-1 「仮の町」への居住意向

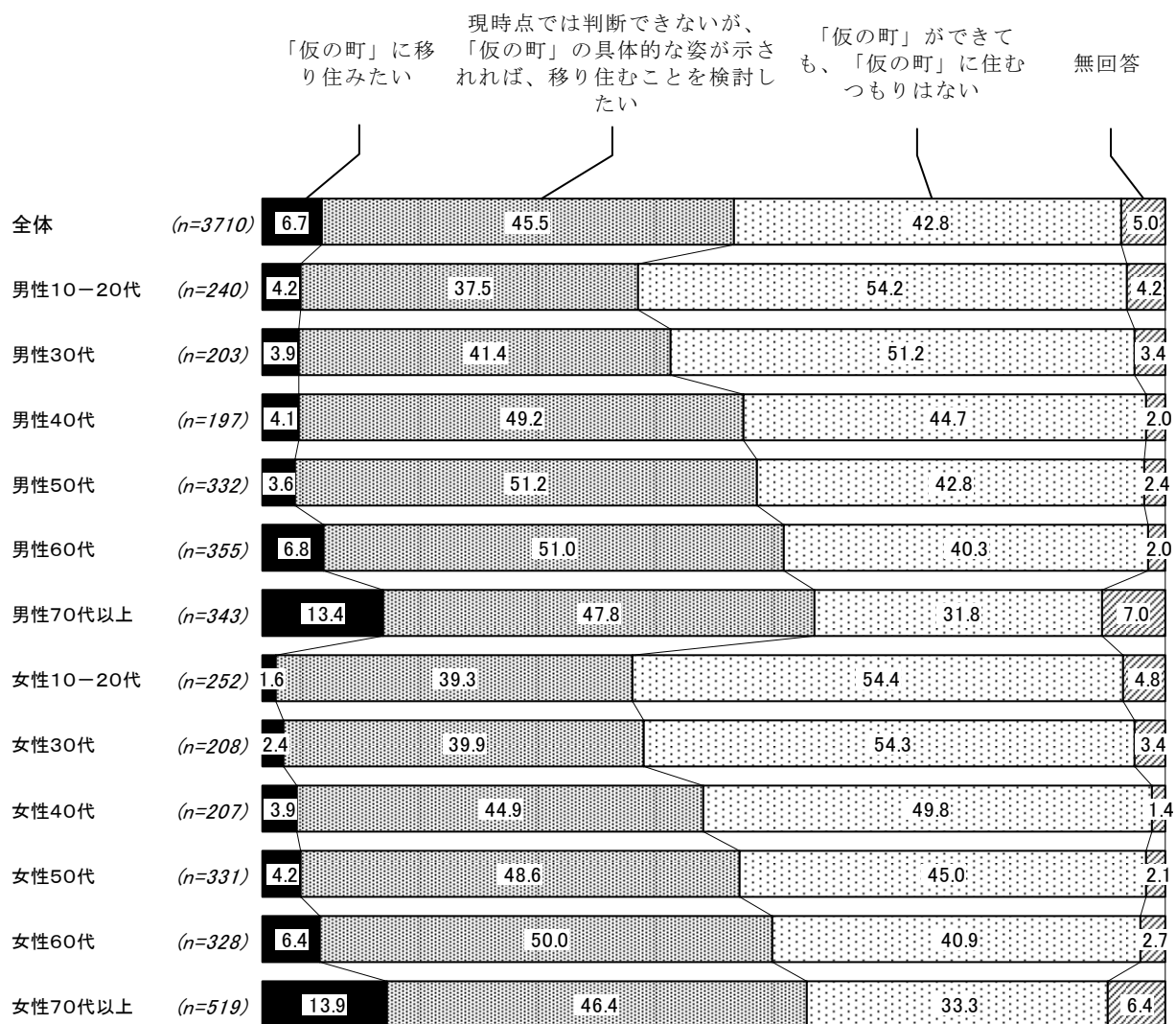


図表 5-1-2 「仮の町」への居住意向(男女別)



性・年代別に見ると、「仮の町」に移り住みたい」とおよび「現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい」の合計は男女とも高年齢になるほど高くなり、「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」との回答は若年齢になるほど高い傾向がみられる。男性 30 代以下の層、女性 40 代以下の層では、「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」との回答が最も多いのに対して、男性 40 代以上および女性 50 代以上の層では「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい」がほぼ 5 割前後(46～51%)で最も多い回答となっている。なお、男女とも 70 代以上の層では、「仮の町」に移り住みたい」との回答が 1 割を超える(男性 13.4%、女性 13.9%)。(図表 5-1-3)

図表 5-1-3 「仮の町」への居住意向(性・年代別)



(2) 仮の町へ移転するまでに待てる年数

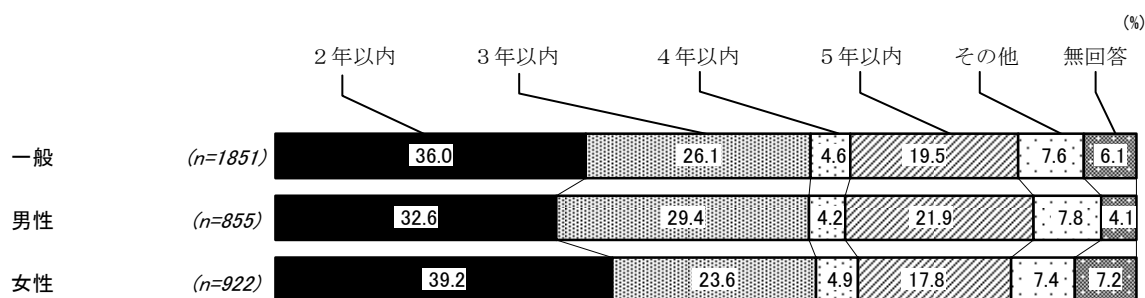
問 17(1) 【問 16 で「1 「仮の町」に移り住みたい」「2 現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい」と回答した方にうかがいます。】

「仮の町」に移り住むための間、何年までなら待つことができますか。(○は1つ)

仮の町に移り住みたい、または移り住むことを検討したいと回答した中学・高校生以外の一般住民(1,851 人)に、仮の町に移り住むまでに待てる年数を尋ねたところ、「2 年以内」が 36.0%で最も多く、「3 年以内」が 26.1%、「5 年以内」が 19.5%、「4 年以内」が 4.6%の順となっている。(図表 5-2-1)

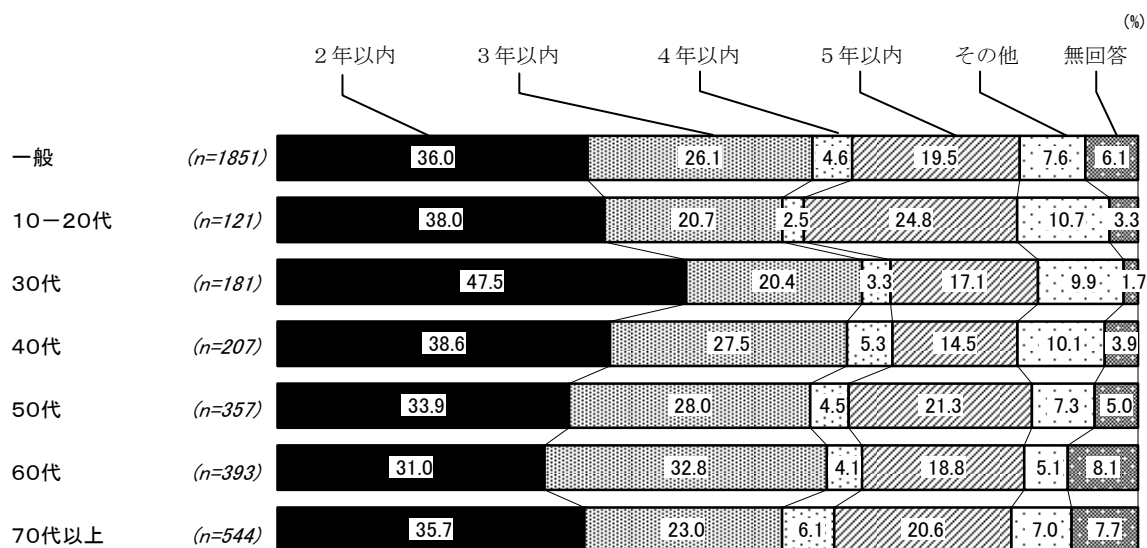
男女別に見ると、希望する年数の順位は男女で同じであるが、「2 年以内」の回答は男性(32.6%)より女性(39.2%)にやや多く、「3 年以内」の回答は女性(23.6%)より男性(29.4%)にやや多い。(図表 5-2-1)

図表 5-2-1 仮の町へ移転するまでの猶予年数(居住意向者)(男女別)



年代別に見ると、60 代以外は「2 年以内」が最も多いのに対して、60 代は「3 年以内」(32.8%)と「2 年以内」(31.0%)がほぼ同程度となっている。(図表 5-2-2)

図表 5-2-2 仮の町へ移転するまでの猶予年数(居住意向者)(年代別)



(3) 仮の町設置希望自治体

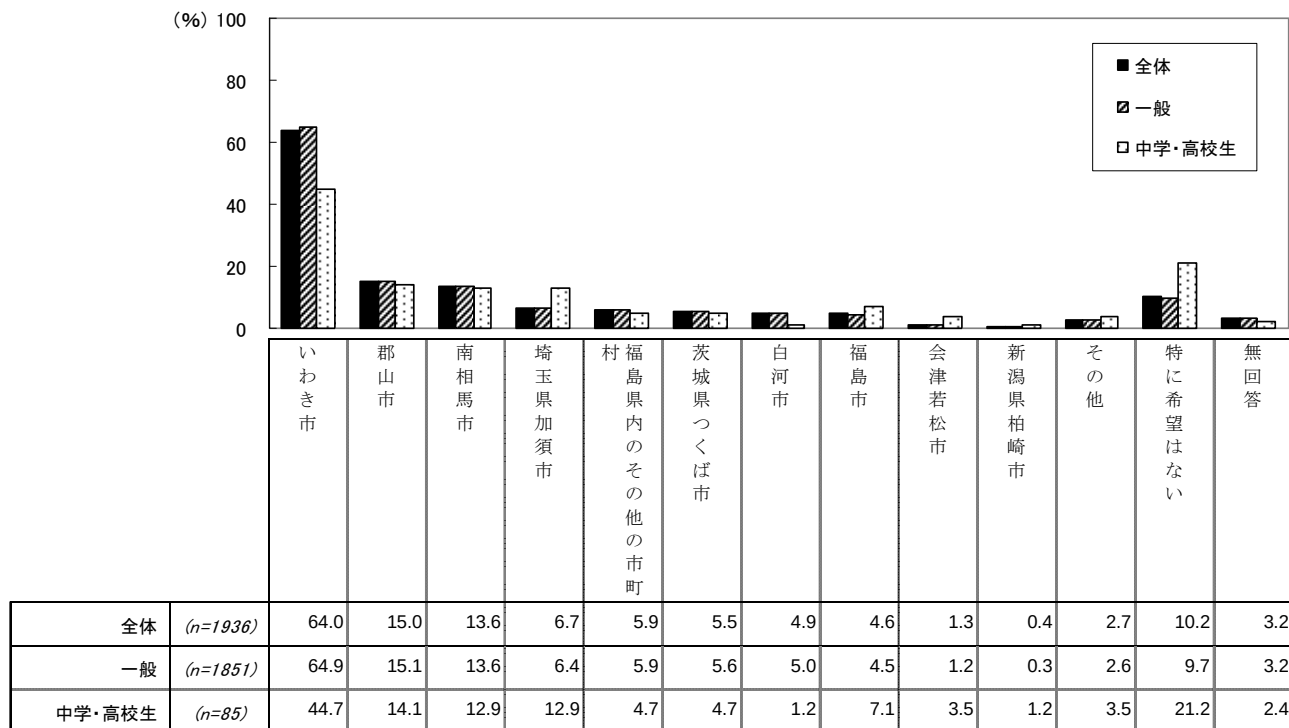
問 17(2) 【問 16 で「1 「仮の町」に移り住みたい」「2 現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい」と回答した方にうかがいます。】
「仮の町」について、特に設置を希望する自治体はありますか。(○はいくつでも)

仮の町に移り住みたい、または移り住むことを検討したいと回答した人(1,936 人)に、仮の町の設置希望自治体を複数回答で聞いたところ、「いわき市」は 64.0%で、2 位以下を引き離して希望が多くなっている。以下、「郡山市」(15.0%)、「南相馬市」(13.6%)、「埼玉県加須市」(6.7%)、「茨城県つくば市」(5.5%)、「白河市」(4.9%)、「福島市」(4.6%)の順で続く。なお、「特に希望はない」は 10.2%である。(図表 5-3-1)

一般・中学高校生別に見ると、「いわき市」の希望は、一般住民では 64.9%であるのに対して中学・高校生では 44.7%であり、中学・高校生では一般住民ほどの希望集中が見られない。また、中学・高校生では、21.2%が「特に希望はない」と回答している。(図表 5-3-1)

男女別には、大きな差は見られない。(図表 5-3-2)

図表 5-3-1 仮の町の設置希望自治体(一般・中学高校生別)



図表 5-3-2 仮の町の設置希望自治体(男女別)

		(%)												
		いわき市	郡山市	南相馬市	埼玉県加須市	福島県内のその他の市町村	茨城県つくば市	白河市	福島市	会津若松市	新潟県柏崎市	その他	特に希望はない	無回答
全体	(n=1936)	64.0	15.0	13.6	6.7	5.9	5.5	4.9	4.6	1.3	0.4	2.7	10.2	3.2
男性	(n=896)	63.6	16.9	13.1	6.8	6.4	5.7	3.9	4.6	1.1	0.6	2.2	11.3	2.0
女性	(n=966)	64.5	13.8	13.9	6.6	5.5	5.5	5.7	4.7	1.4	0.2	3.2	9.4	3.8

性・年代別に見ると、「いわき市」への希望が特に多いのは、男女ともに70代以上(男性74.3%、女性71.6%)でともに7割を超えているほか、男性50-60代、女性30代、50-60代でも6割を超えている。「郡山市」の希望が比較的多いのは、男性10-20代および男性60代で、2割を超えている。(図表5-3-3)

図表 5-3-3 仮の町の設置希望自治体(性・年代別)

(%)

		いわき市	郡山市	南相馬市	埼玉県 加須市	福島県内 のその他の 市町村	茨城県 つくば市	白河市	福島市	会津 若松市	新潟県 柏崎市	その他	特に希望 はない	無回答
全体	(n=1936)	64.0	15.0	13.6	6.7	5.9	5.5	4.9	4.6	1.3	0.4	2.7	10.2	3.2
男性10-20代	(n=100)	55.0	22.0	11.0	14.0	3.0	5.0	2.0	4.0	3.0	1.0	1.0	18.0	1.0
男性30代	(n=92)	56.5	15.2	8.7	3.3	6.5	5.4	1.1	4.3	-	2.2	3.3	17.4	2.2
男性40代	(n=105)	56.2	15.2	11.4	5.7	9.5	4.8	3.8	2.9	-	-	2.9	15.2	2.9
男性50代	(n=182)	62.6	16.5	11.5	8.2	7.7	6.6	6.0	5.5	1.6	-	1.6	15.4	1.1
男性60代	(n=205)	64.9	21.0	12.7	6.3	5.9	6.3	4.9	3.9	1.0	0.5	2.4	6.8	2.9
男性70代以上	(n=210)	74.3	12.4	18.6	4.8	5.2	5.2	2.9	5.7	1.0	0.5	2.4	4.3	1.9
女性10-20代	(n=103)	43.7	14.6	13.6	3.9	3.9	5.8	3.9	5.8	2.9	-	4.9	25.2	3.9
女性30代	(n=88)	64.8	8.0	8.0	9.1	5.7	3.4	3.4	4.5	-	-	5.7	11.4	2.3
女性40代	(n=101)	58.4	17.8	16.8	5.9	5.9	2.0	5.0	4.0	3.0	-	6.9	11.9	2.0
女性50代	(n=175)	66.9	17.1	14.3	11.4	3.4	8.0	5.7	2.9	1.1	-	2.9	6.9	2.9
女性60代	(n=185)	64.9	14.1	11.4	6.5	5.9	8.6	7.6	3.2	1.1	-	3.8	5.4	7.0
女性70代以上	(n=313)	71.6	11.5	16.0	4.5	6.7	3.8	6.1	6.4	1.3	0.6	0.6	6.7	3.5

現在の世帯の立場別にみて、世帯主(または代表者)と世帯構成員との回答に大きな差は見られない。(図表5-3-4)

図表 5-3-4 仮の町の設置希望自治体(現在の世帯の立場別)

(%)

		いわき市	郡山市	南相馬市	埼玉県 加須市	福島県内 のその他の 市町村	茨城県 つくば市	白河市	福島市	会津 若松市	新潟県 柏崎市	その他	特に希望 はない	無回答
全体	(n=1936)	64.0	15.0	13.6	6.7	5.9	5.5	4.9	4.6	1.3	0.4	2.7	10.2	3.2
現在世帯主・代表者	(n=896)	65.1	16.2	13.3	5.7	6.1	5.8	5.6	4.6	1.2	0.4	2.6	8.9	2.2
現在世帯構成員	(n=797)	62.9	14.7	13.8	8.4	4.8	5.9	4.1	4.8	1.4	0.4	2.9	13.0	3.1

(4) 仮の町設置場所の希望

問 17(3) 【問 17(2)で「1」～「11」と回答した方にうかがいます。】

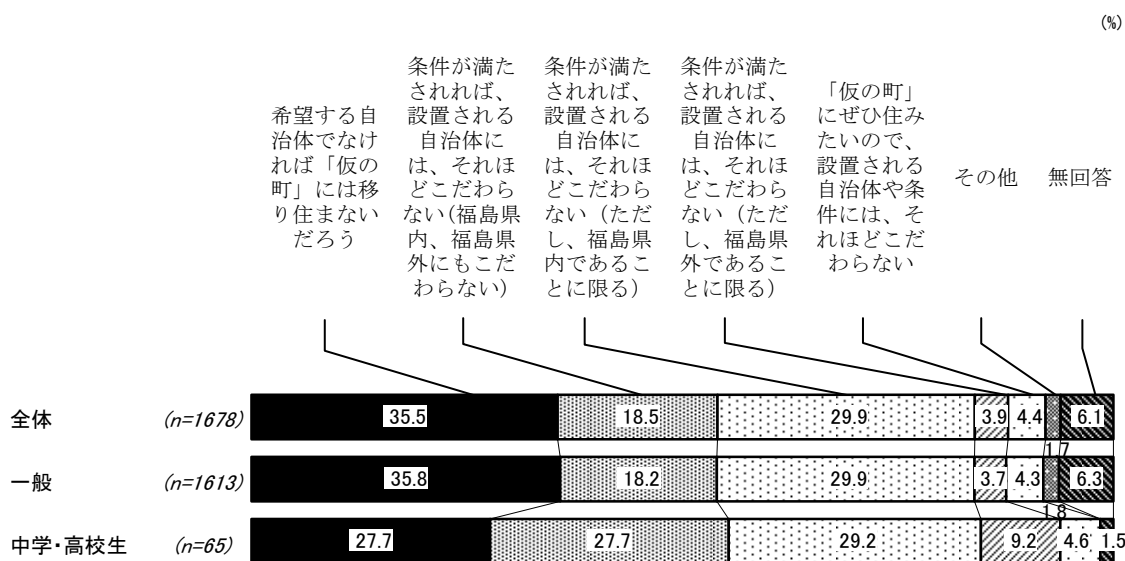
「仮の町」は、ある程度の町民が集まらなければ成立しないことから、その設置場所は限られます。そのため、設置場所が希望に添うものとならない場合もあります。あなたは、「仮の町」の設置場所として、問 17(2)で回答した自治体の希望について、どのようにお考えですか。(○は1つ)

[中学・高校生:問 7(2)]

仮の町に移り住みたい、または移り住むことを検討したいと回答した人の中で、具体的な設置希望自治体のある回答者(1,678 人)に、仮の町の設置場所の希望(こだわり)を尋ねたところ、「希望する自治体でなければ「仮の町」には移り住まないだろう」との回答が 35.5%で最も多く、次いで「条件が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない(ただし、福島県内であることに限る)」が 29.9%、「条件が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない(福島県内、福島県外にもこだわらない)」が 18.5%、「「仮の町」にぜひ住みたいので、設置される自治体や条件には、それほどこだわらない(ただし、福島県内であることに限る)」3.9%の順となっている。(図表 5-4-1)

一般・中学高校生別に見ると、中学・高校生では、「希望する自治体でなければ「仮の町」には移り住まないだろう」(27.7%)、「条件が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない(福島県内、福島県外にもこだわらない)」(27.7%)、「条件が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない(ただし、福島県内であることに限る)」(29.2%)はほぼ同程度で並んでおり、一般住民ほど具体的な自治体に固執した希望ではなく、条件が満たされる中で選択したいという意向が一般住民より多くなっている。(図表 5-4-1)

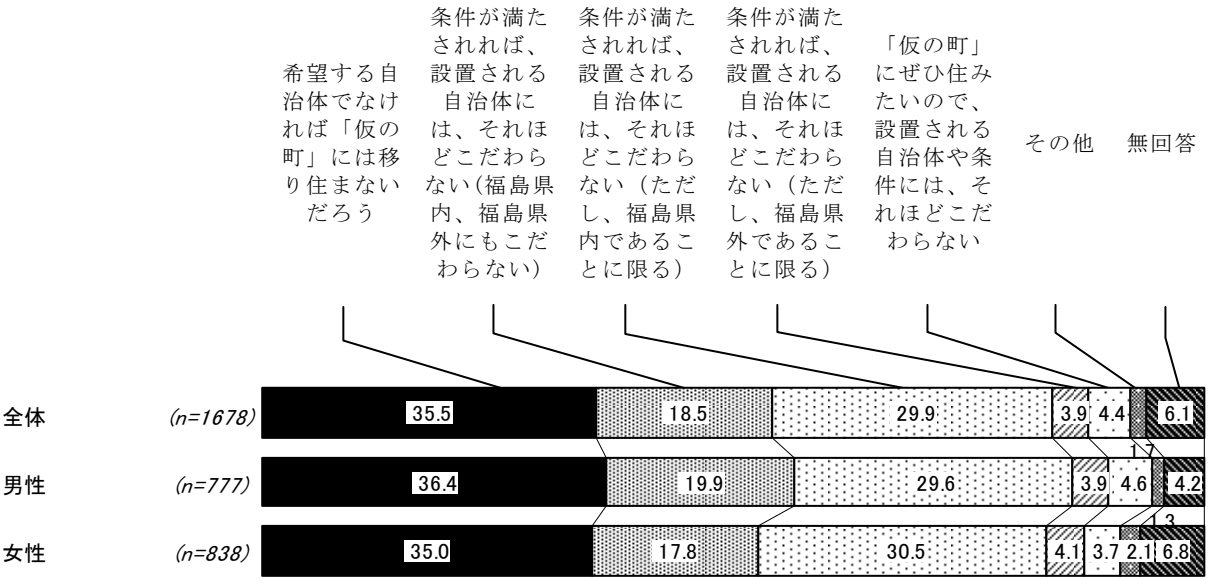
図表 5-4-1 仮の町設置場所の希望(一般・中学高校生別)



男女別には、大きな差は見られない。(図表 5-4-2)

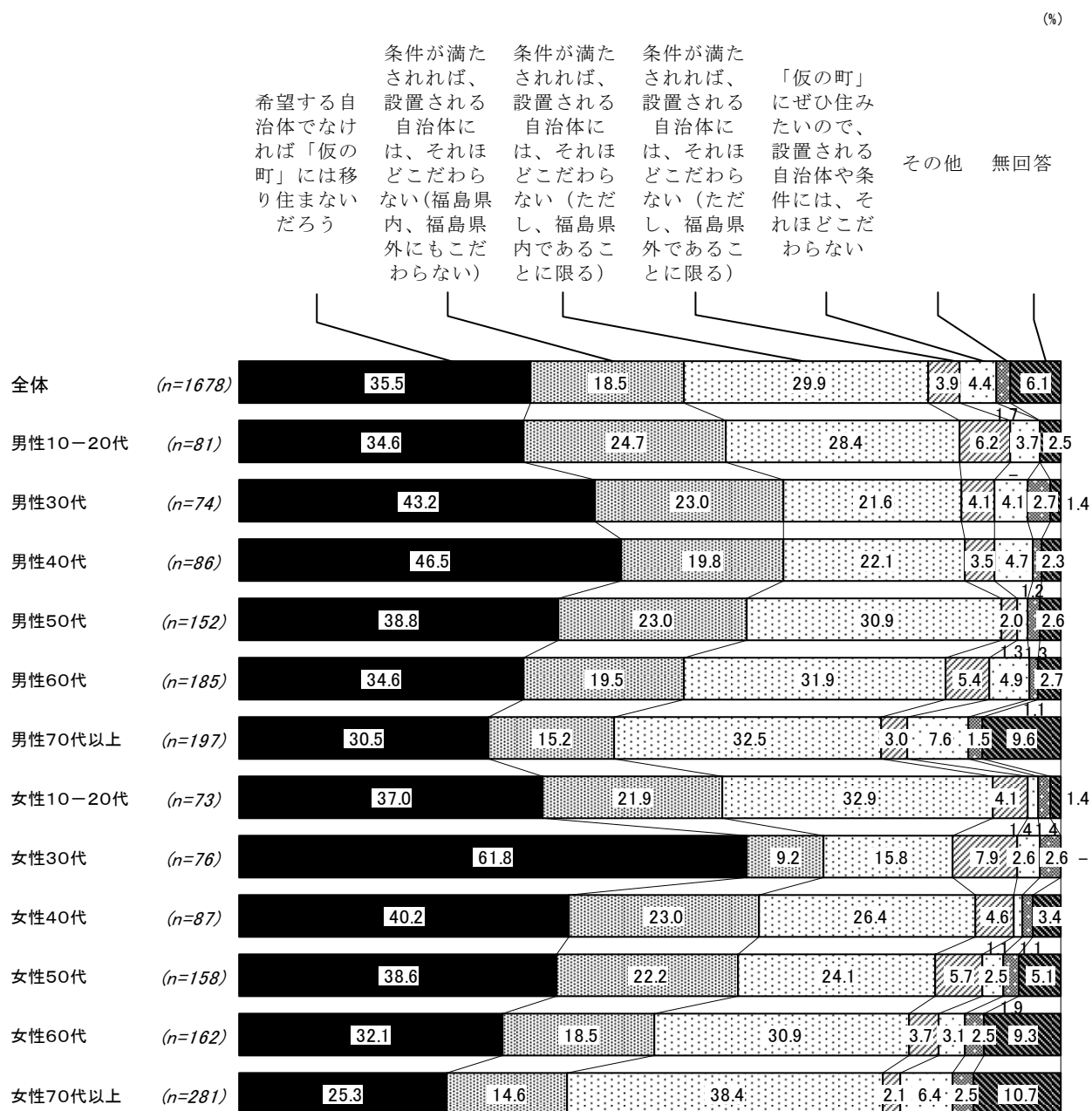
図表 5-4-2 仮の町設置場所の希望(男女別)

(%)



性・年代別に見ると、女性 30 代では、「希望する自治体でなければ「仮の町」には移り住まないだろう」が 61.8%と突出しており、具体的な自治体に対するこだわりが最も強い。男性 30-40 代、女性 40 代においても、「希望する自治体でなければ「仮の町」には移り住まないだろう」との回答は 4 割を超えて多くなっている。女性 70 代以上の層では、「条件が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない（ただし、福島県内であることに限る）」が 4 割弱（38.4%）で、他層よりもやや多い。（図表 5-4-3）

図表 5-4-3 仮の町設置場所の希望（性・年代別）



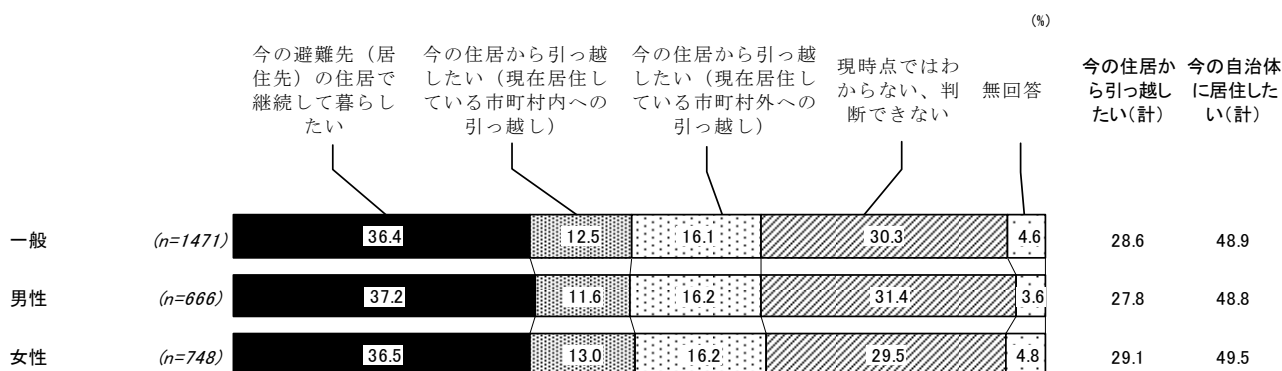
(5) 避難期間中過ごしたい場所

問 18(1) 【問 16 で「3「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」と回答した方にうかがいます。】
 帰還が可能となるまでの当面の間、どこで生活をされる考えですか。(○は1つ)

仮の町に居住意向のない中学・高校生以外の一般住民(1,471 人)に、今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所を聞いたところ、「今の避難先(居住先)の住居で継続して暮らしたい」という回答者が36.4%と最も多く、次いで「現時点ではわからない、判断できない」30.3%、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」16.1%、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」12.5%の順となっている。現在居住自治体に継続居住したい人は、合わせて48.9%、今の住居から引っ越したい人は、合わせて28.6%である。(図表 5-5-1)

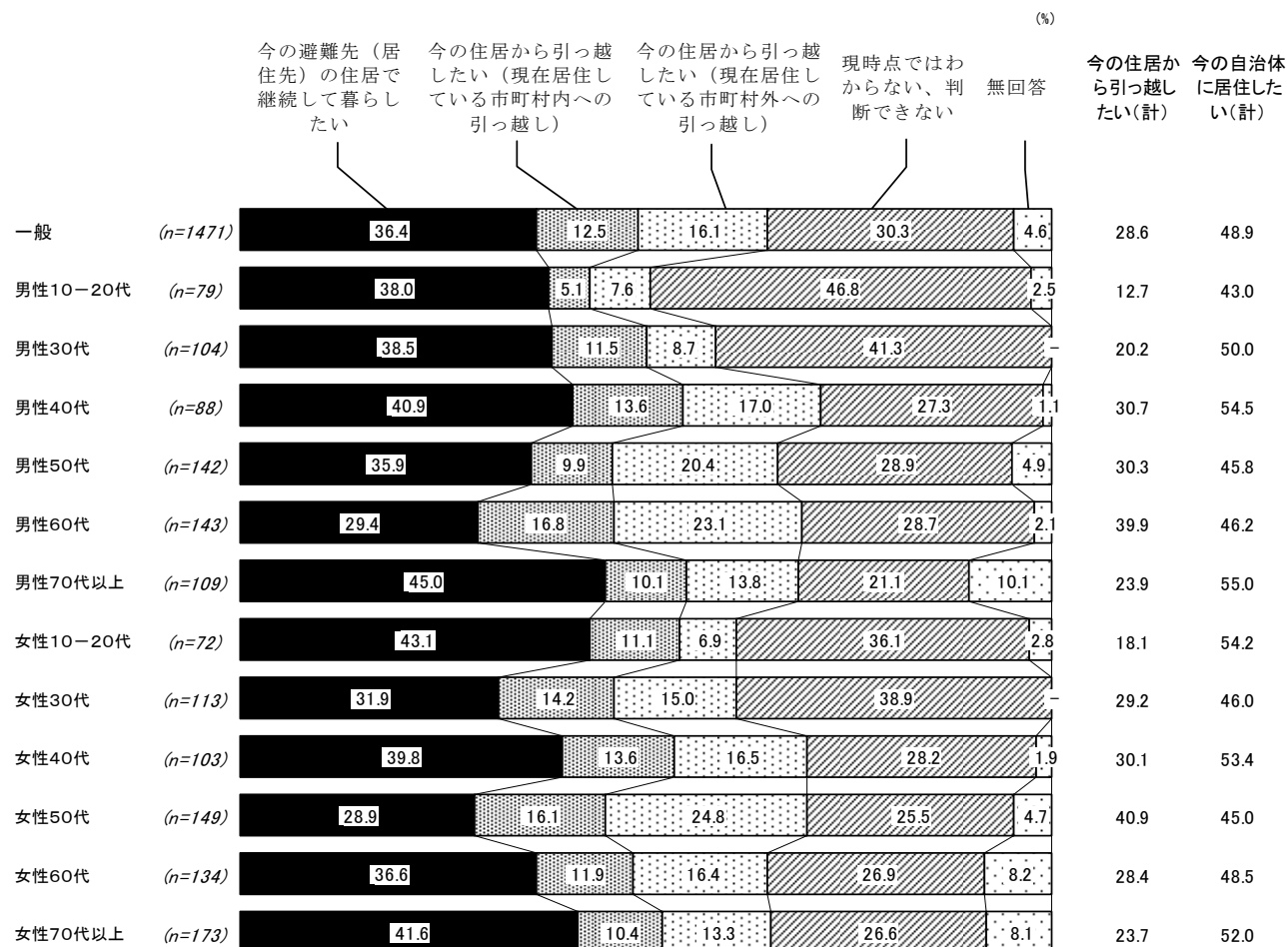
男女別に見て、大きな差はみられない。(図表 5-5-1)

図表 5-5-1 避難期間中過ごしたい場所(男女別)



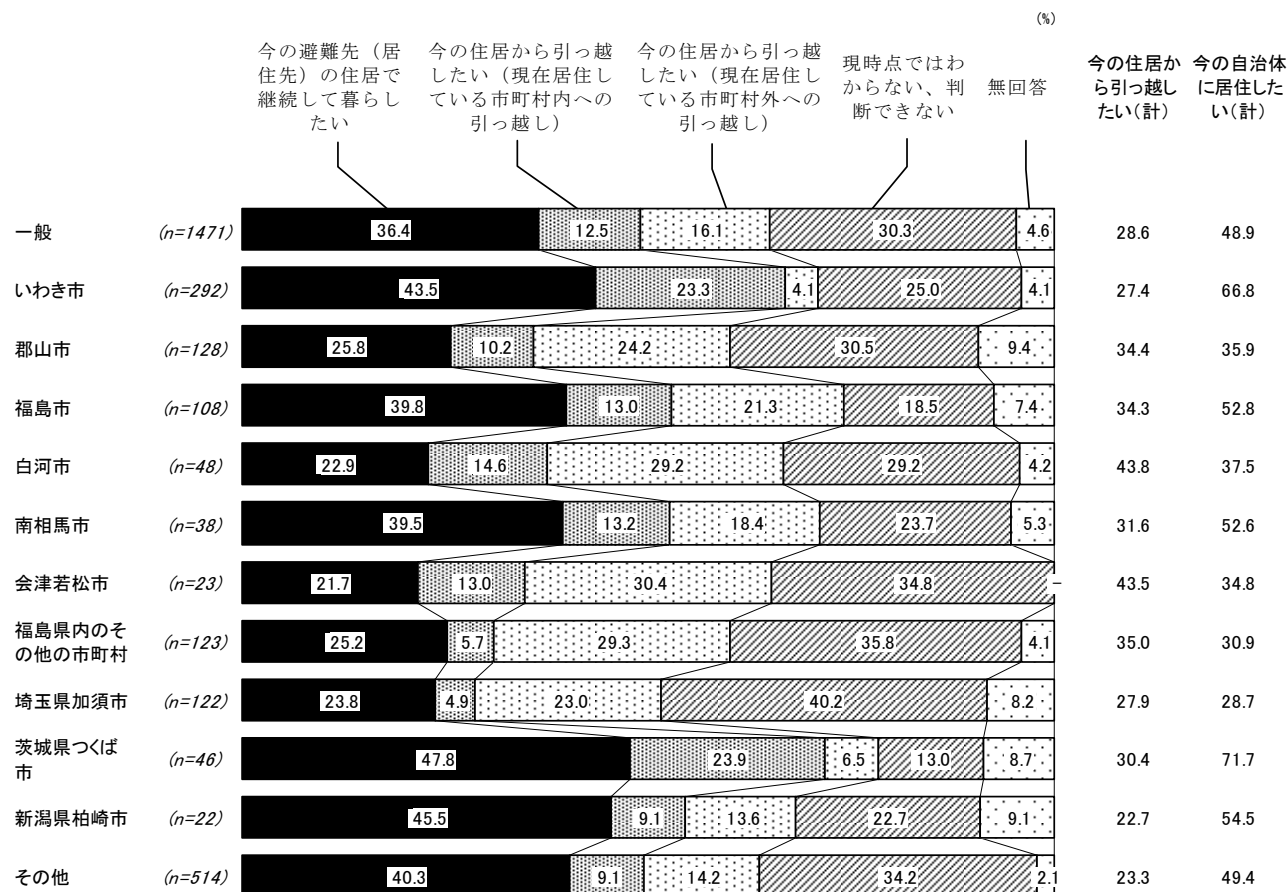
性・年代別に見ると、各層で傾向が異なり、「今の避難先(居住先)の住居で継続して暮らしたい」との回答率が最も多いのは、男女70代以上の層(男性45.0%、女性41.6%)と、男性40代(40.9%)、男性50代(35.9%)、女性10-20代(43.1%)、女性40代(39.8%)、女性60代(36.6%)の各層である。「現時点ではわからない、判断できない」という回答が最も多いのは、男性10-20代(46.8%)、女性30代(38.9%)である。男性30代、60代、女性50代では、「今の避難先(居住先)の住居で継続して暮らしたい」と「現時点ではわからない、判断できない」の回答者がほぼ同程度で拮抗している(図表5-5-2)

図表 5-5-2 避難期間中過ごしたい場所(性・年代別)



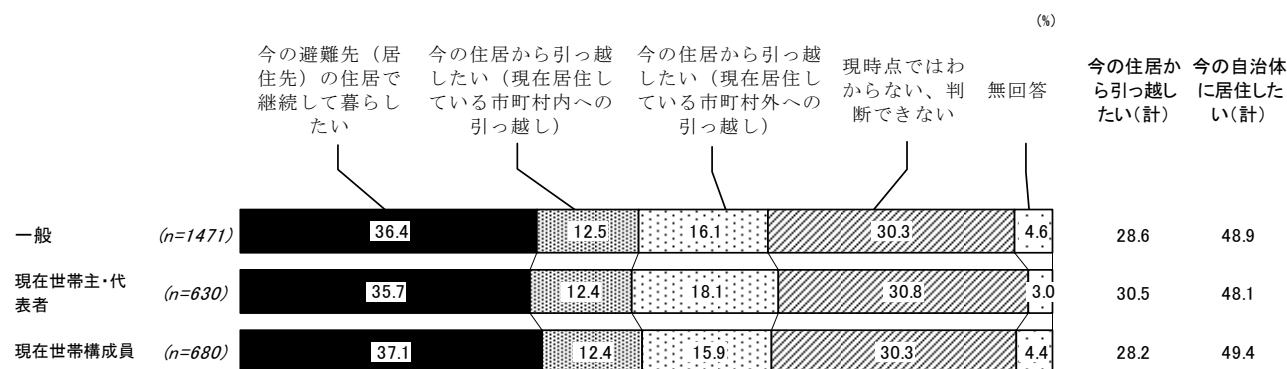
現在の避難先別に見ると、いわき市、および福島市への避難者は、「今の住居で継続して暮らしたい」が最も多く（いわき市 43.5%、福島市 39.8%）、市町村内転居希望も含めると、半数を超える人が現在居住自治体に継続居住を希望している（いわき市 66.8%、福島市 52.8%）。埼玉県加須市への避難者、および郡山市への避難者では、「現時点ではわからない、判断できない」という回答が最も多くなっている（加須市 40.2%、郡山市 30.5%）。（図表 5-5-3）

図表 5-5-3 避難期間中過ごしたい場所（現在の避難先別）



現在の世帯の立場別にみて、世帯主（または代表者）と世帯構成員との回答に大きな差は見られない。（図表 5-5-4）

図表 5-5-4 避難期間中過ごしたい場所（現在の世帯の立場別）



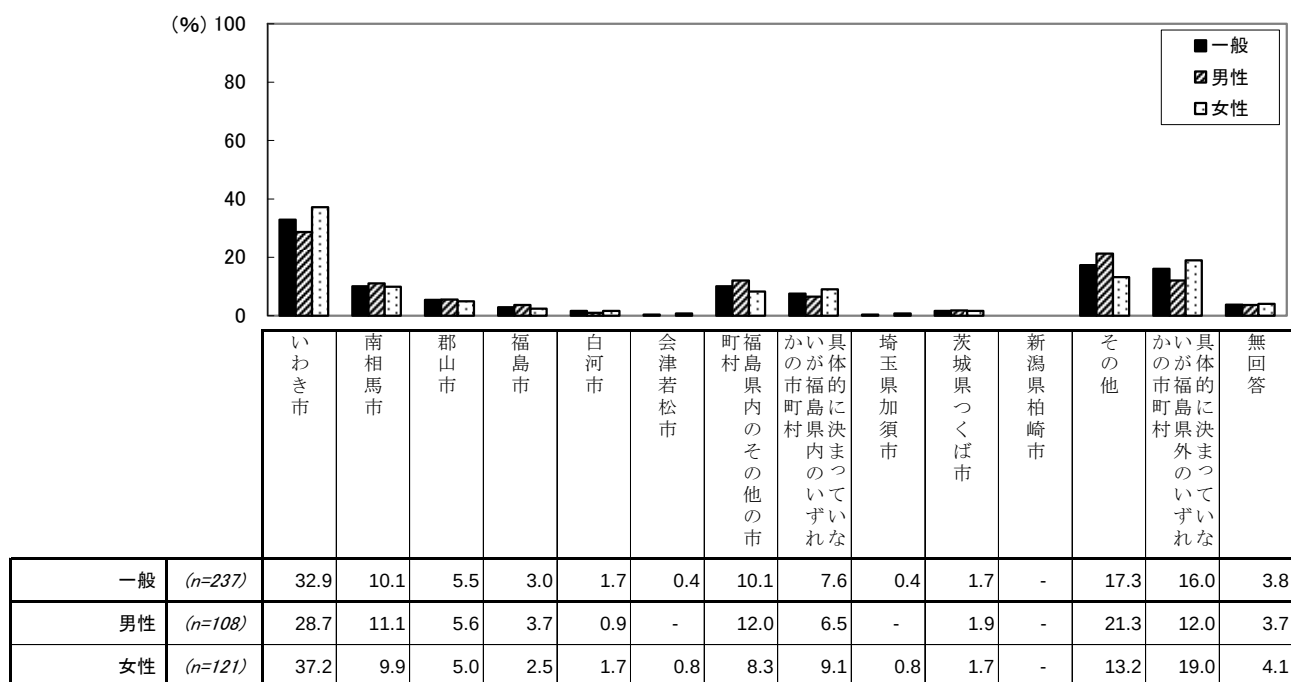
(6) 避難期間中の転居予定先

問 18(2) 【問 18(1)で「3 今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」と回答した方にうかがいます。】
 どちらの自治体に引っ越しをされる考えですか。(〇はいくつでも)

これから避難解除までの間、今の住居から市町村外に引っ越したい中学・高校生以外の一般住民(237 人)に、転居希望自治体を複数回答で聞いたところ、「いわき市」(32.9%)が最も多く、次いで「南相馬市」(10.1%)、「郡山市」(5.5%)、「福島市」(3.0%)の順となっている。また、「具体的に決まっていないが福島県内のいずれかの市町村」は 7.6%、「具体的に決まっていないが福島県外のいずれかの市町村」は 16.0%である。(図表 5-6-1)

男女別に見て、「いわき市」は男性(28.7%)より女性(37.2%)のほうがやや多い。(図表 5-6-1)

図表 5-6-1 避難期間中の転居予定先(男女別)



年代別に見ると、70 代以上の層では、「南相馬市」18.6%、「福島県内のその他の市町村」16.3%もそれぞれ1割台で、他の年代層よりやや多い。また、30-49 歳の層では福島県外「その他」が 27.6%と他層よりやや多い。(図表 5-6-2)

図表 5-6-2 避難期間中の転居予定先(年代別)



現在の世帯の立場別にみて、「いわき市」は世帯主(または代表者)(28.9%)に比べて、世帯構成員(39.8%)のほうが希望が多くなっている。(図表 5-6-3)

図表 5-6-3 避難期間中の転居予定先(現在の世帯の立場別)

(%)

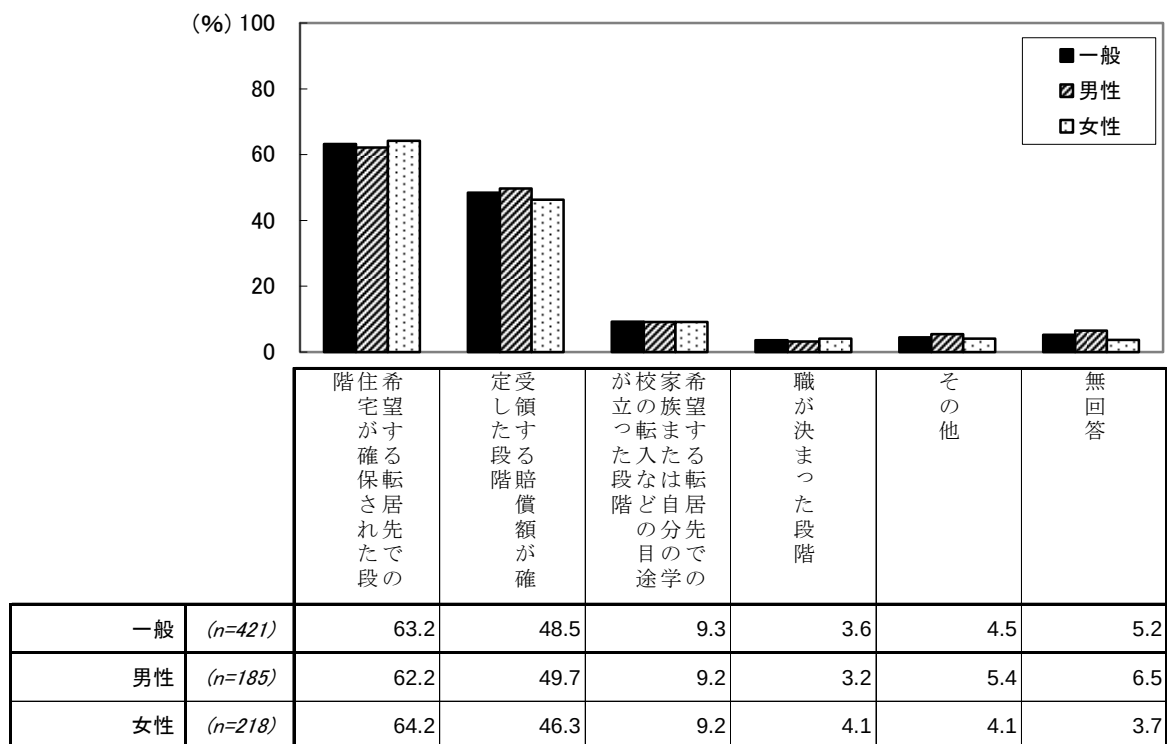
		いわき市	南相馬市	郡山市	福島市	白河市	会津若松市	福島県内の その他の市町村	具体的に決まってい ないが福島県内 のいずれかの市町 村	埼玉県加 須市	茨城県つ くば市	新潟県柏 崎市	その他	具体的に決まってい ないが福島県外 のいずれかの市町 村	無回答
一般	(n=237)	32.9	10.1	5.5	3.0	1.7	0.4	10.1	7.6	0.4	1.7	－	17.3	16.0	3.8
現在世帯主・代 表者	(n=114)	28.9	9.6	5.3	2.6	1.8	－	8.8	8.8	0.9	2.6	－	20.2	18.4	2.6
現在世帯構成員	(n=108)	39.8	11.1	4.6	2.8	1.9	0.9	12.0	6.5	－	0.9	－	13.9	13.9	3.7

(7) 今後の生活拠点への転居を判断したい段階

問 18(3) 【問 18(1)で「2」または「3」の「今の住居から引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】
転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。(〇はいくつでも)

これから避難解除までの間、今の住居から引っ越したい中学・高校生以外の一般住民(421 人)に転居時期をどの段階で判断したいか複数回答で聞いたところ、「希望する転居先での住宅が確保された段階」が 63.2%で最も多く、「受領する賠償額が確定した段階」が48.5%でこれに続き、「希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階」(9.3%)以下と大きく開きが見られる。男女別で大きな差は見られない。(図表 5-7-1)

図表 5-7-1 今後の生活拠点への転居を判断したい段階(男女別)



年代別に見ると、「受領する賠償額が確定した段階」は 50-60 代では 5 割を超えており、他の年代より多い。また、「希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階」は 40 代では 31.0%、30 代では 18.5%と、他の年代層より多くなっている。(図表 5-7-2)

図表 5-7-2 今後の生活拠点への転居を判断したい段階(年代別)

(%)

		希望する転居先 での住宅が確保 された段階	受領する賠償額 が確定した段階	希望する転居先 での家族または 自分の学校の転 入などの目途が 立った段階	職が決まった段 階	その他	無回答
一般	(n=421)	63.2	48.5	9.3	3.6	4.5	5.2
10-20代	(n=23)	56.5	30.4	-	21.7	8.7	8.7
30代	(n=54)	66.7	33.3	18.5	1.9	1.9	5.6
40代	(n=58)	56.9	41.4	31.0	6.9	8.6	3.4
50代	(n=106)	63.2	56.6	3.8	3.8	4.7	4.7
60代	(n=97)	63.9	56.7	2.1	-	3.1	6.2
70代以上	(n=75)	65.3	46.7	5.3	1.3	4.0	5.3

(8) 仮の町に住むつもりがない理由

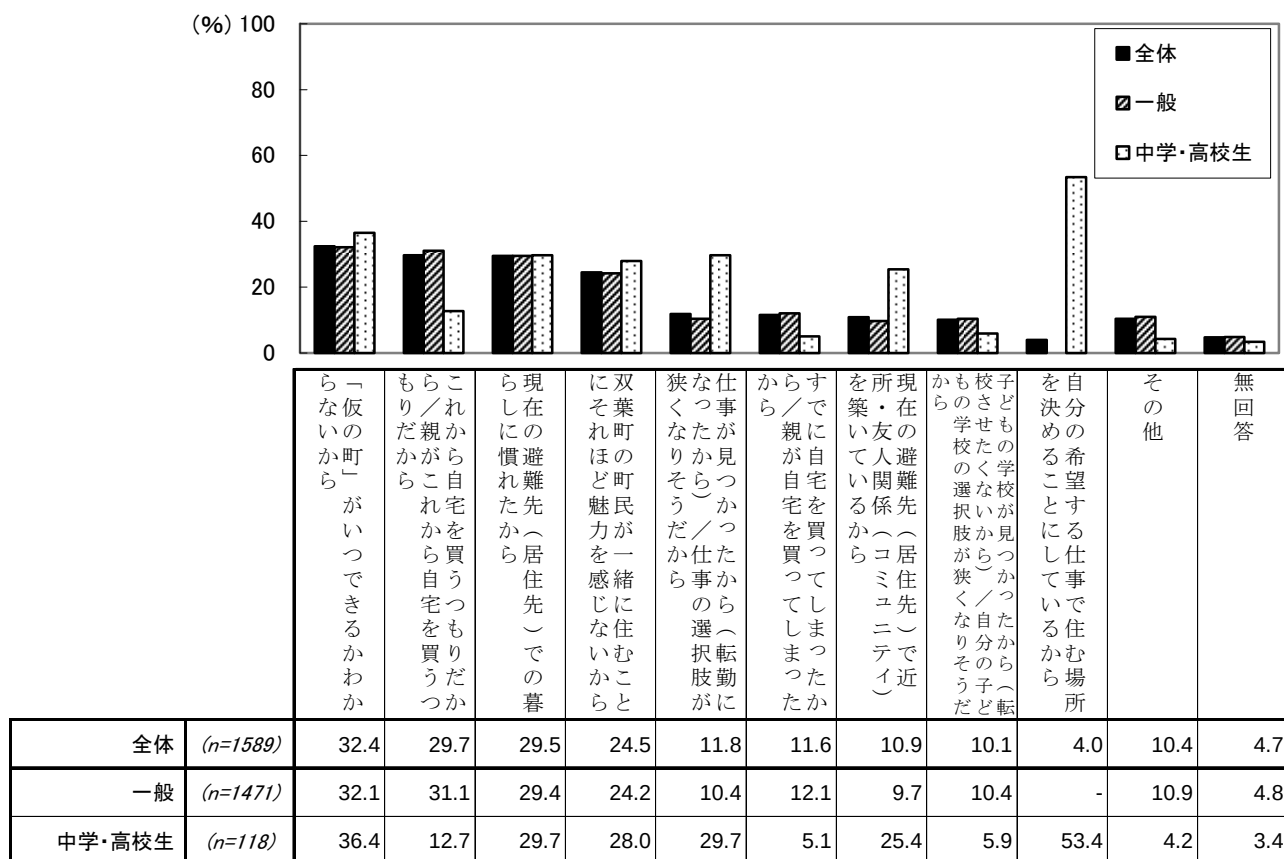
問 18(4) 【問 16 で「3「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」と回答したすべての方にうかがいます。
「仮の町」に住むつもりがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)
(「1すでに自宅を買ってしまったから」、「2これから自宅を買うつもりだから」と回答した方は、時期についても具体的に教えてください。)
[中学・高校生:問 8]

仮の町に住むつもりはないと答えた人(1,589 人)の住むつもりがない理由(複数回答)としては、「「仮の町」がいつできるかわからないから」が 32.4%で最も多く、以下、「これから自宅を買うつもりだから／親がこれから自宅を買うつもりだから」29.7%、「現在の避難先(居住先)での暮らしに慣れたから」29.5%、「双葉町の町民と一緒に住むことにそれほど魅力を感じないから」24.5%、「仕事が見つかったから(転勤になったから)／仕事の選択肢が狭くなりそうだから」11.8%、「すでに自宅を買ってしまったから／親が自宅を買ってしまったから」11.6%、「現在の避難先(居住先)で近所・友人関係(コミュニティ)を築いているから」10.9%、「子どもの学校が見つかったから(転校させたくないから)／自分の子どもの学校の選択肢が狭くなりそうだから」10.1%という順となっている。(図表 5-8-1)

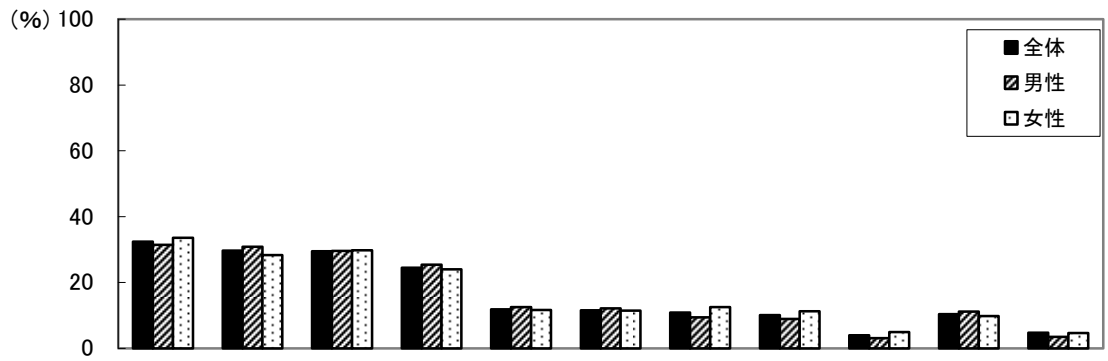
中学・高校生では、「自分の希望する仕事で住む場所を決めることにしているから」(中学・高校生のみに提示した選択肢)が 53.4%で最も多く、次いで「「仮の町」がいつできるかわからないから」36.4%、「現在の避難先(居住先)での暮らしに慣れたから」および「仕事の選択肢が狭くなりそうだから」(同率 29.7%)という順となっている。(図表 5-8-1)

男女別に見て、大きな差は見られない。(図表 5-8-2)

図表 5-8-1 仮の町に住むつもりがない理由(一般・中学高校生別)



図表 5-8-2 仮の町に住むつもりがない理由(男女別)



		「仮の町」がいつできるかわから	これ／＼親がこれから自宅を買	現在の避難先(居住先)での暮	双葉町の町民が一緒に住むこと	狭くなつたから／仕事の選択肢が	仕事が見つかったから(転勤に	すでに自宅を買ってしまったか	所・友人関係(コミュニティで近	現在の避難先(居住先)で近	学校の選択肢が狭くなりそう	子どもの学校が見つかったから(転	自分の希望する仕事で住む場所	その他	無回答
全体	(n=1589)	32.4	29.7	29.5	24.5	11.8	11.6	10.9	10.1	10.1	4.0	10.4	4.7		
男性	(n=717)	31.4	30.8	29.6	25.4	12.6	12.1	9.5	8.9	3.1	11.2	3.5			
女性	(n=813)	33.6	28.3	29.8	24.0	11.7	11.4	12.5	11.3	4.9	9.8	4.7			

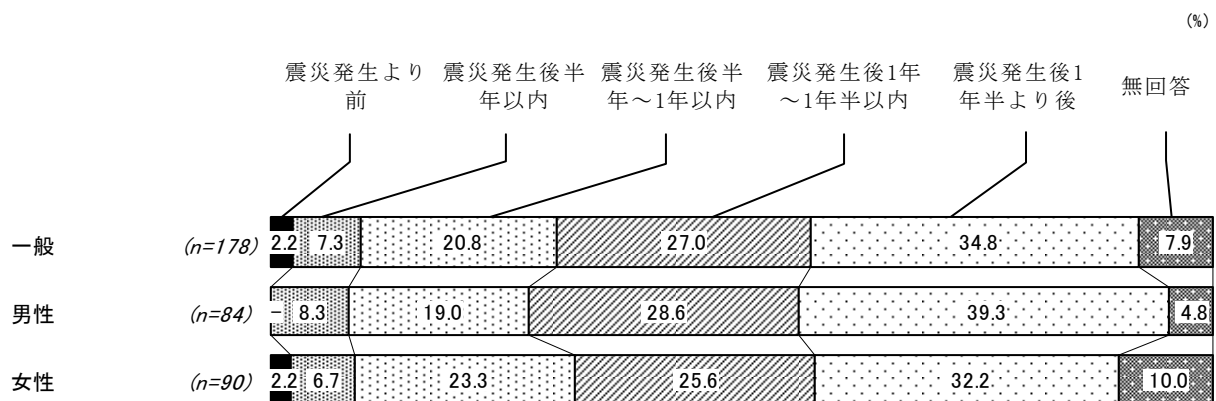
年代別に見ると、「これから自宅を買うつもりだから／親がこれから自宅を買うつもりだから」は50-60代で4割を超え、他の年代層よりも多い(50代44.2%、60代40.8%)。「仕事が見つかったから(転勤になったから)／仕事の選択肢が狭くなりそうだから」は若年齢層ほど回答率が高い傾向が見られる。「子どもの学校が見つかったから(転校させたくないから)／自分の子どもの学校の選択肢が狭くなりそうだから」は、30-40代では2割台の回答があり、他の年代層よりも多い(30代28.9%、40代28.6%)。(図表5-8-3)

図表 5-8-3 仮の町に住むつもりがない理由(年代別)

		(%)										
		「仮の町」がい つで か わ か ら な い か ら	これから 自宅を 買 う つ も り だ か ら ／ 親が こ れ か ら 自 宅 を 買 う つ も り だ か ら	現在の避 難先(居 住先)で の暮ら しに 慣れた から	双葉町の 町民が 一 緒に 住 む こ とに そ れ ほ ど 魅 力 を 感 じ な い か ら	仕事 が 見 つ か つ た か ら (転 勤 に な っ た か ら) ／ 仕 事 の 選 択 肢 が 狭 く な り そ う だ か ら	す で に 自 宅 を 買 っ て し ま っ た か ら ／ 親 が 自 宅 を 買 っ て し ま っ た か ら	現在の避 難先(居 住先)で 近 所 ・ 友 人 関 係 (コ ミュ ニ ティ) を 築 い て い る か ら	子どもの 学 校 が 見 つ か つ た か ら (転 校 さ せ た く な い か ら) ／ 自 分 の 子 ど も の 学 校 の 選 択 肢 が 狭 く な り そ う だ か ら	自 分 の 希 望 す る 仕 事 で 住 む 場 所 を 決 め る こ と に し て い る か ら	その他	無回答
全体	(n=1589)	32.4	29.7	29.5	24.5	11.8	11.6	10.9	10.1	4.0	10.4	4.7
10-20代	(n=273)	35.5	12.8	33.7	28.9	26.7	2.9	18.7	4.4	23.1	7.3	4.8
30代	(n=218)	30.7	24.3	35.3	28.9	21.1	11.0	14.7	28.9	-	12.4	2.3
40代	(n=192)	37.0	25.5	30.2	33.9	20.8	12.5	9.4	28.6	-	8.9	1.6
50代	(n=294)	34.4	44.2	26.9	28.2	6.5	12.2	6.1	6.5	-	8.8	3.4
60代	(n=282)	34.0	40.8	25.2	19.1	2.1	14.5	8.9	2.1	-	9.6	4.3
70代以上	(n=296)	24.7	26.7	28.4	13.2	1.0	16.2	9.1	1.0	-	15.5	8.1

仮の町に住むつもりがない理由として「すでに自宅を買ってしまったから」と回答した中学・高校生以外の一般住民178人の、自宅の購入時期を尋ねたところ、「震災発生後1年半より後」が34.8%、「震災発生後1年～1年半以内」が27.0%、「震災発生後半年～1年以内」は20.8%、「震災発生後半年以内」は7.3%で、「震災発生より前」は2.2%(双葉町以外に自宅を購入したケースなどと推測される)となっている。(図表5-8-4)

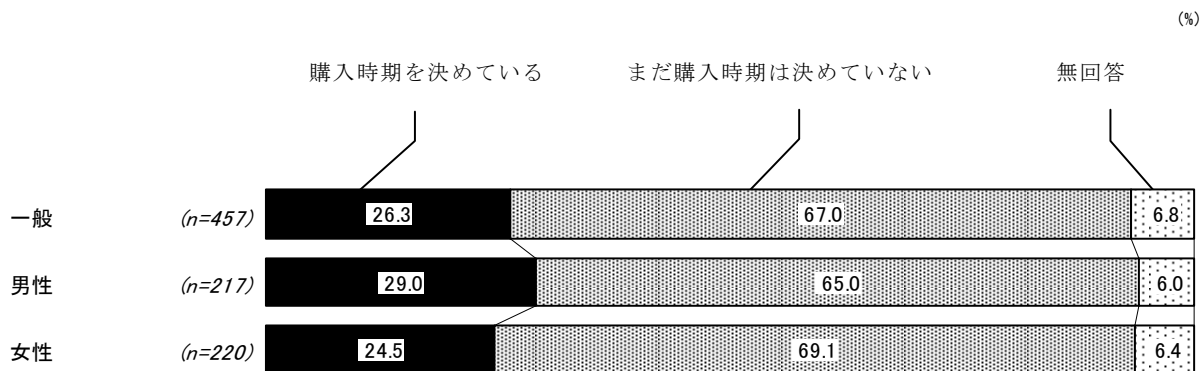
図表 5-8-4 自宅購入者の自宅購入時期(性別)



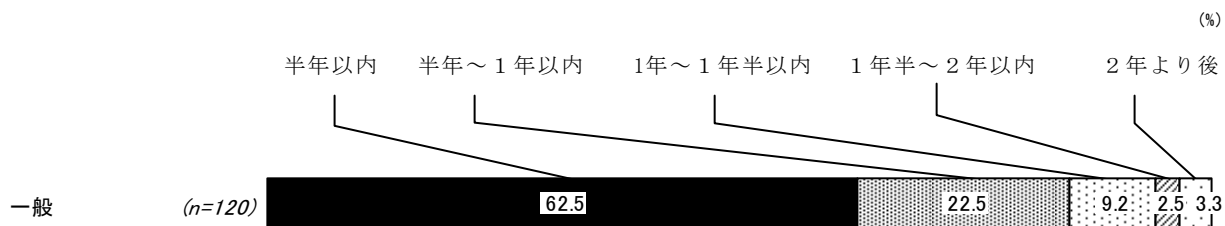
仮の町に住むつもりがない理由として「これから自宅を買うつもりだから」と回答した中学・高校生以外の一般住民 457 人の、自宅の購入予定時期を尋ねたところ、「購入時期を決めている」は 26.3%、「まだ購入時期は決めていない」は 67.0%となっている。(図表 5-8-5)

さらに、「購入時期を決めている」と回答した 120 人の、購入予定時期としては、「半年以内」が 62.5%、「半年～1年以内」が 22.5%、「1 年～1年半以内」が 9.2%、「1年半～2年以内」が 2.5%、「2 年より後」が 3.3%である。(図表 5-8-6)

図表 5-8-5 自宅購入予定者の自宅購入予定時期(性別)



図表 5-8-6 自宅購入予定者の自宅購入予定時期



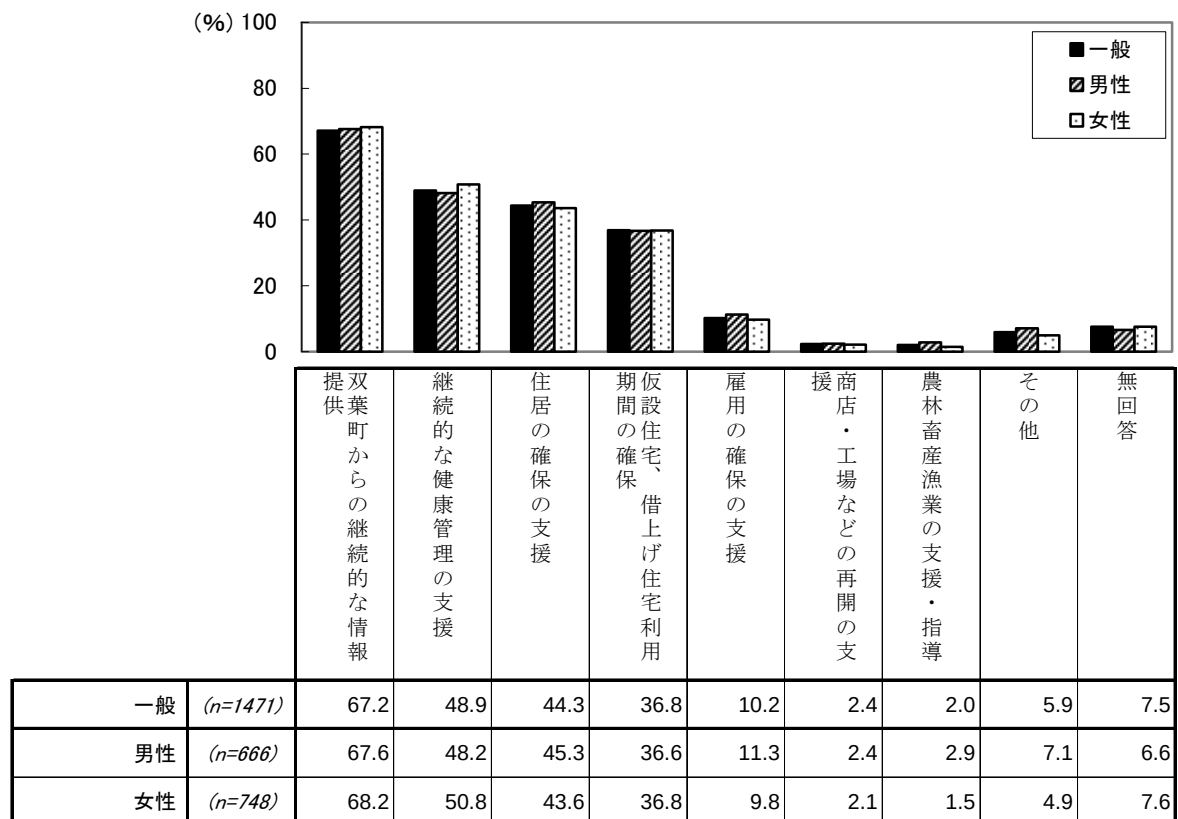
(9) 仮の町に住まない場合に行政に望む支援

問 18(5) 【問 16 で「3「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」と回答した方すべてにうかがいます。
「仮の町」に住まない場合、どのような支援を行政に期待しますか。(○はいくつでも)

仮の町に住むつもりはない中学・高校生を除く一般住民(1,471 人)に、仮の町に住まない場合に行政に期待する支援を尋ねたところ、「双葉町からの継続的な情報提供」が 67.2%で最も多くあげられ、以下、「継続的な健康管理の支援」(48.9%)、「住居の確保の支援」(44.3%)、「仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保」(36.8%)と続く。(図表 5-9-1)

男女別に大きな差は見られない。(図表 5-9-1)

図表 5-9-1 仮の町に住まない場合に行政に望む支援(男女別)



年代別に見ると、「双葉町からの継続的な情報提供」は 60 代以上の層では 7 割を超えて要望が多い。「仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保」は 40 代以下の層で 4 割を超えて要望が多い。「雇用の確保の支援」は、10-20 代で 21.9%と 2 割を超え、若年齢層ほど多くなっている。(図表 5-9-2)

図表 5-9-2 仮の町に住まない場合に行政に望む支援(年代別)

(%)

		双葉町からの継続的な情報提供	継続的な健康管理の支援	住居の確保の支援	仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保	雇用の確保の支援	商店・工場などの再開の支援	農林畜産漁業の支援・指導	その他	無回答
一般	(n=1471)	67.2	48.9	44.3	36.8	10.2	2.4	2.0	5.9	7.5
10-20代	(n=155)	54.2	40.6	43.9	42.6	21.9	3.9	1.3	7.1	10.3
30代	(n=218)	64.2	55.0	48.2	43.1	13.8	4.1	3.7	7.8	4.6
40代	(n=192)	62.5	47.4	50.0	46.9	14.6	2.6	0.5	5.7	3.6
50代	(n=294)	66.7	50.3	46.3	37.4	12.9	1.4	1.7	3.1	8.5
60代	(n=282)	75.9	52.5	48.9	34.0	5.0	1.1	3.9	3.9	6.0
70代以上	(n=296)	74.3	47.0	32.8	26.0	1.4	2.0	1.0	8.8	9.1

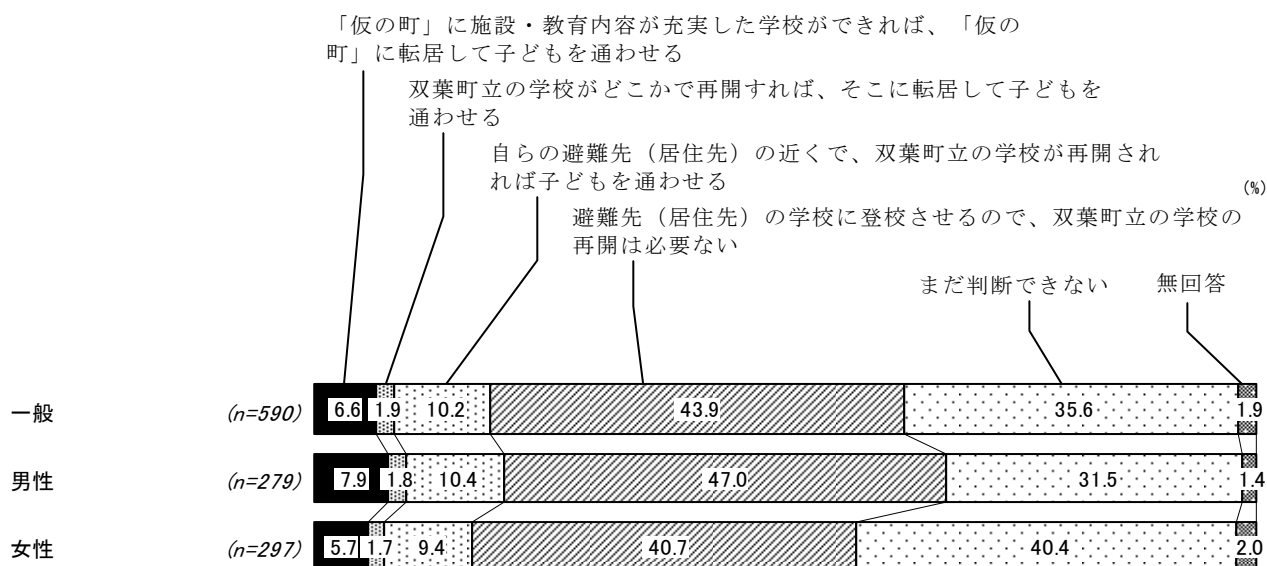
(10) 双葉町立学校の再開について

問 19(2) 【問19(1)で「1 就学前の子どもがいる」または「2 小学生または中学生の子どもがいる」と回答した方にうかがいます。
双葉町立の学校の再開について、どのように考えていますか。(○は1つ)

就学前の子ども、または小学生・中学生の子供がいる中学・高校生を除く一般住民(590 人)の、双葉町立の学校再開についての考えを尋ねたところ、「避難先(居住先)の学校に登校させるので、双葉町立の学校の再開は必要ない」が 43.9%で最も多く、次いで「まだ判断できない」(35.6%)、「自らの避難先(居住先)の近くで、双葉町立の学校が再開されれば子どもを通わせる」(10.2%)、「「仮の町」に施設・教育内容が充実した学校ができれば、「仮の町」に転居して子どもを通わせる」(6.6%)、「双葉町立の学校がどこかで再開すれば、そこに転居して子どもを通わせる」(1.9%)の順となっている。(図表 5-10-1)

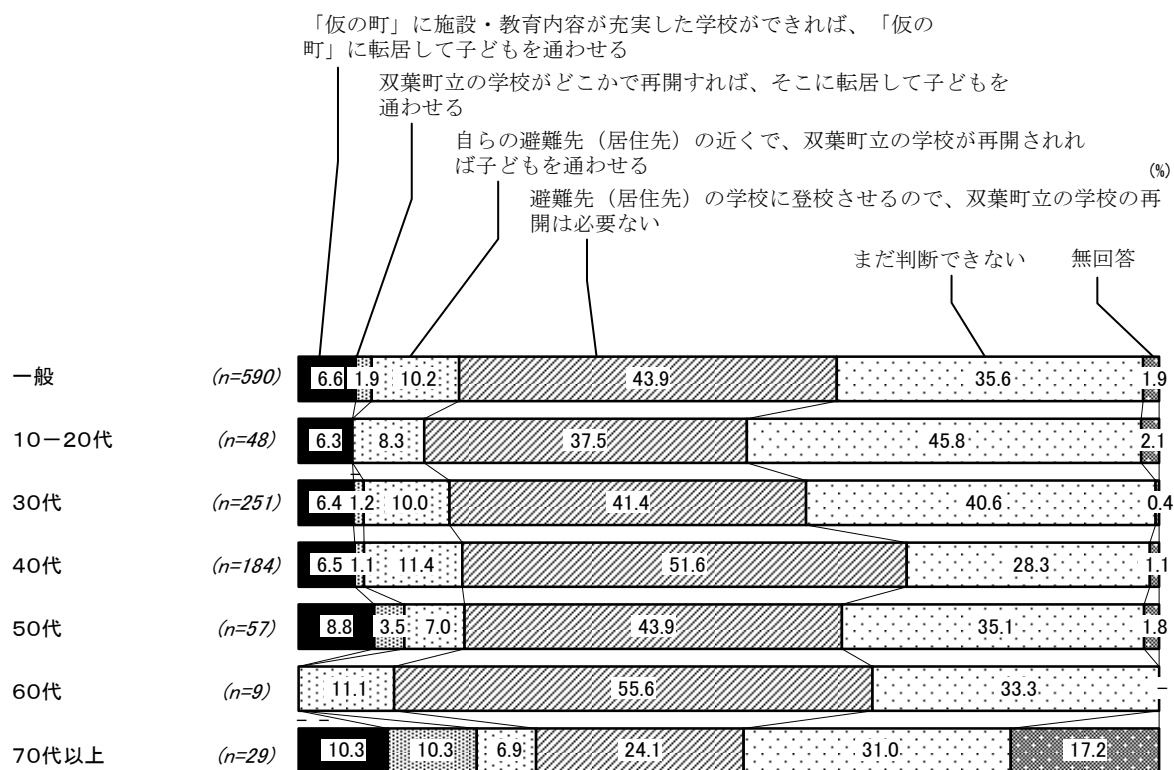
男女別に見ると、「避難先(居住先)の学校に登校させるので、双葉町立の学校の再開は必要ない」との回答は、女性(40.7%)に比べて男性(47.0%)にやや多く、「まだ判断できない」との回答は、男性(31.5%)に比べて女性(40.4%)にやや多くなっている。(図表 5-10-1)

図表 5-10-1 双葉町立学校の再開について(男女別)



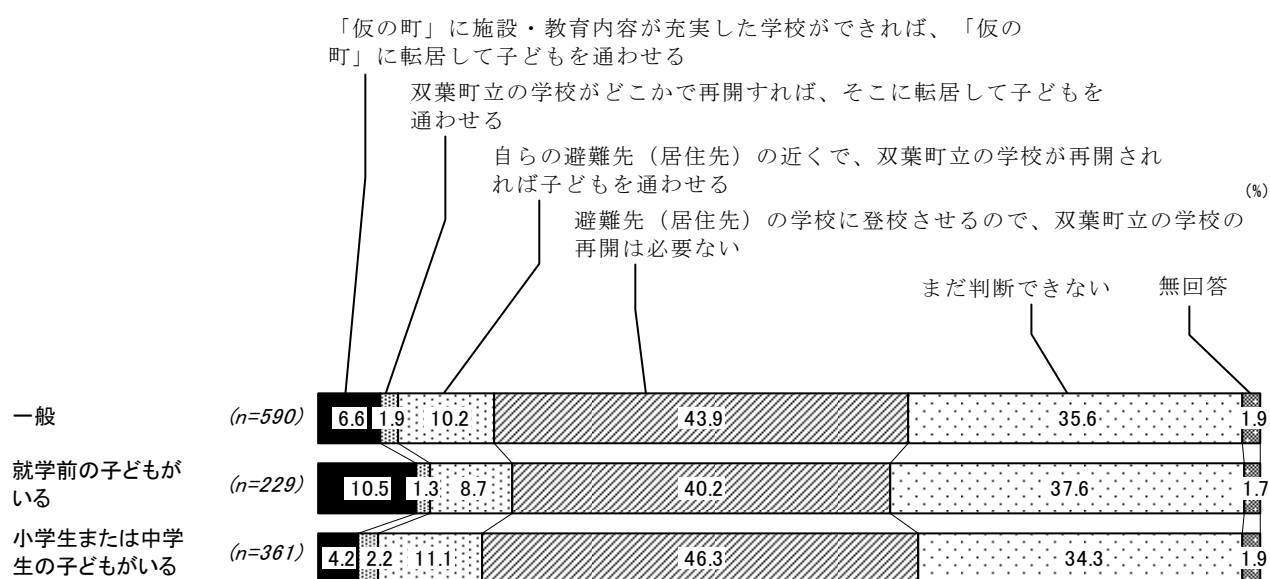
年代別に見ると、30代では「避難先(居住先)の学校に登校させるので、双葉町立の学校の再開は必要ない」(41.4%)と「まだ判断できない」(40.6%)がほぼ同数で拮抗しており、40-50代では、「まだ判断できない」よりも「避難先(居住先)の学校に登校させるので、双葉町立の学校の再開は必要ない」が多くなっている。(図表 5-10-2)

図表 5-10-2 双葉町立学校の再開について(年代別)



子どもの学齢別に見ると、就学前の子どもがいる人で「「仮の町」に施設・教育内容が充実した学校ができれば、「仮の町」に転居して子どもを通わせる」は 10.5%で、小学生または中学生の子どもがいる人(4.2%)に比べてやや多くなっている。一方、「避難先(居住先)の学校に登校させるので、双葉町立の学校の再開は必要ない」との回答は、小学生または中学生の子どもがいる人(46.3%)のほうが、就学前の子どもがいる人(40.2%)に比べてやや多い。(図表 5-10-3)

図表 5-10-3 双葉町立学校の再開について(子どもの学齢別)



(11) 事業の再開について

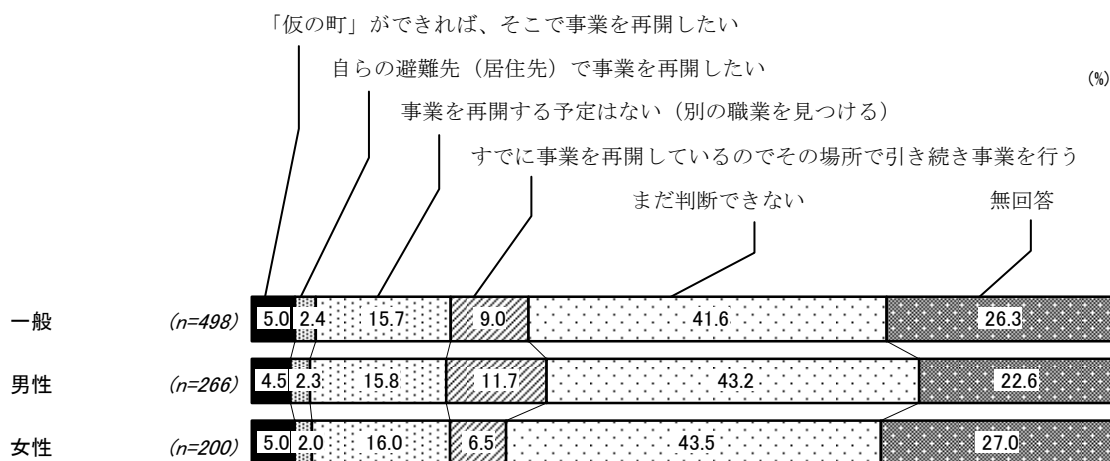
問 20 【震災発生当時の職業が自営業の方(問3(1)で「1」と回答した方)にうかがいます。それ以外の方は、問 21 へお進みください。】事業の再開について、どのように考えていますか。(○は1つ)

中学・高校生を除く一般住民のうち、震災発生当時自営業者(498 人)に事業の再開について尋ねたところ、「まだ判断できない」が 41.6%で最も多く、次いで「事業を再開する予定はない(別の職業を見つける)」が 15.7%、「すでに事業を再開しているのでその場所で引き続き事業を行う」が 9.0%、「仮の町」ができれば、そこで事業を再開したい」が 5.0%、「自らの避難先(居住先)で事業を再開したい」が 2.4%となっている。(図表 5-11-1)

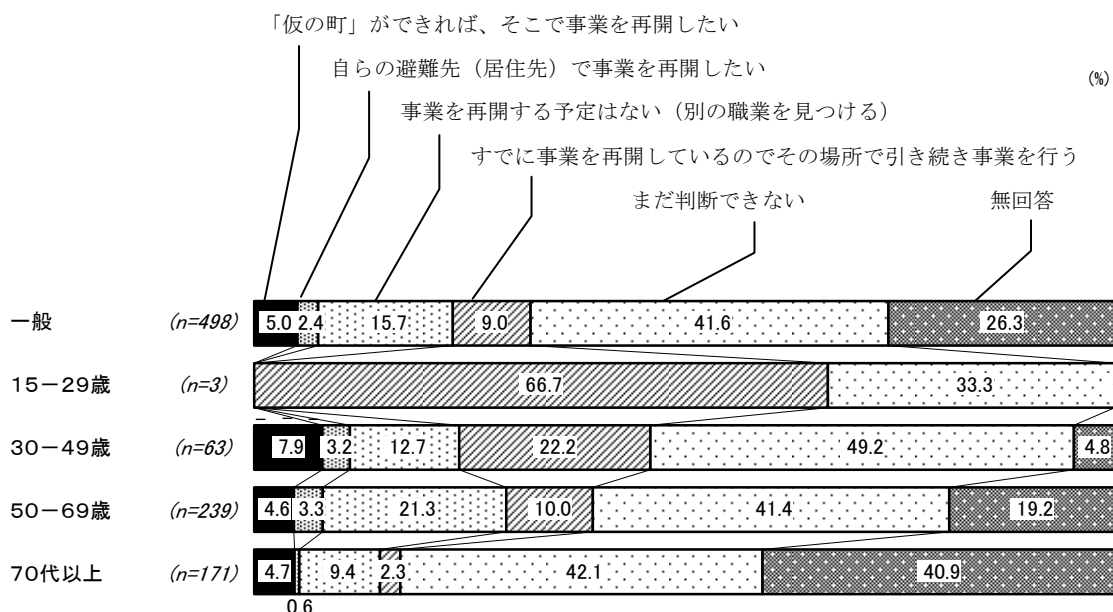
男女別に見ると、男性は女性より「すでに事業を再開しているのでその場所で引き続き事業を行う」との回答がやや多い(男性 11.7%、女性 6.5%)が、大きな差は見られない。(図表 5-11-1)

年代別に見ると、「まだ判断できない」との回答は、30-49 歳、50-69 歳、70 代以上のいずれの層でも 4 割台で最も多い。なお、「すでに事業を再開しているのでその場所で引き続き事業を行う」との回答は、30-49 歳では 22.2%で、50 代以上の層に比べて多い。「事業を再開する予定はない(別の職業を見つける)」との回答は、50-69 歳では 21.3%であり、他の年代層に比べて多い。(図表 5-11-2)

図表 5-11-1 事業の再開について(男女別)



図表 5-11-2 事業の再開について(年代別)



6. 双葉町への帰還について

(1) 双葉町へ帰還する前提として必要と思う条件

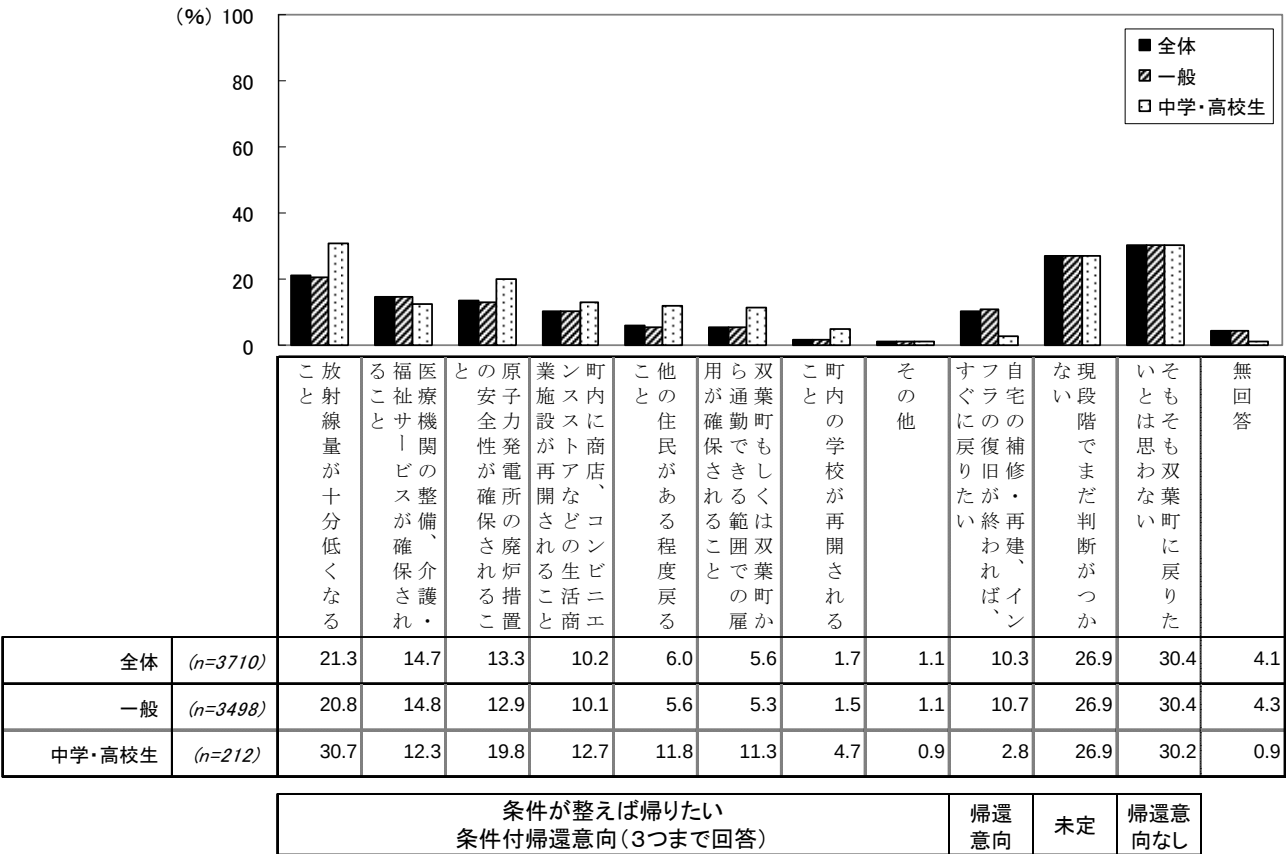
1) 帰還条件および帰還意向

問 21	双葉町への帰還についておたずねします。 あなたは、どのような条件が整ったら双葉町へ戻りたいと考えますか。 自宅の修理・再建や道路・通信・上下水道などのインフラが復旧していることに加えて、帰還の前提として必要と考える条件について、あなたにとって特に重視するものを、次の中から3つまでお選びください。 (○は3つまで)
中学・高校生	双葉町への帰還についておたずねします。 あなたは、社会人になったとき、どのような条件が整ったら双葉町へ戻りたいと考えますか。 問 9 自宅の修理・再建や道路・通信・上下水道などのインフラが復旧していることに加えて、帰還の前提として必要と考える条件について、あなたにとって特に重視するものを、次の中から3つまでお選びください。 (○は3つまで)

双葉町に帰還する条件として必要と考える内容を3つまで尋ねたところ、最も回答が多いのは「放射線量が十分低くなること」が 21.3%で、以下、「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること」(14.7%)、「原子力発電所の廃炉措置の安全性が確保されること」(13.3%)、「町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること」(10.2%)などの順で続く。なお、「自宅の補修・再建、インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい」との回答は 10.3%、「現段階でまだ判断がつかない」は 26.9%、「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」は 30.4%となっている。(図表 6-1-1)

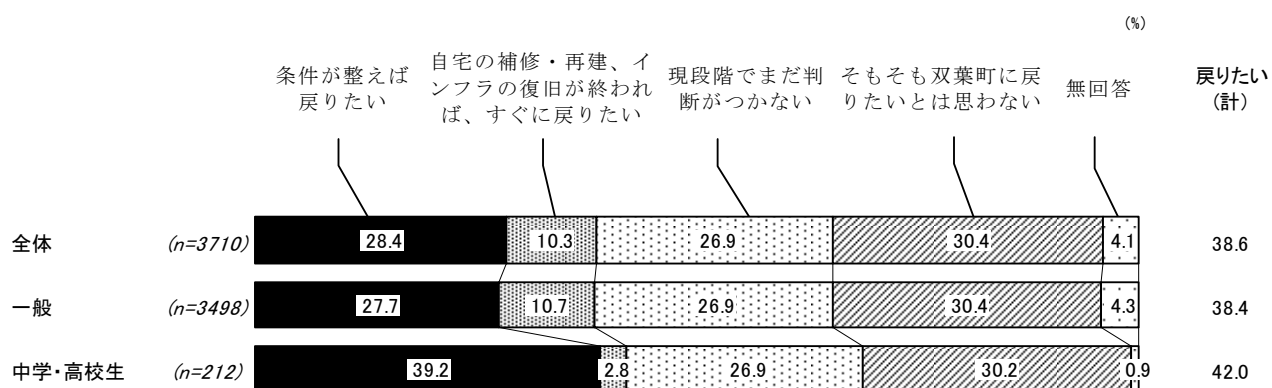
帰還条件を、中学・高校生を除く一般住民と中学・高校生とで比較すると、「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること」以外のいずれの内容についても、一般住民に比べて中学・高校生のほうが必要と考える回答者が多くなっているが、特に「放射線量が十分低くなること」については、中学・高校生(30.7%)は一般住民(20.8%)よりも 10 ポイント多く、必要と考える割合が高い。(図表 6-1-1)

図表 6-1-1 帰還の前提として必要と考える条件(一般・中学高校生別)



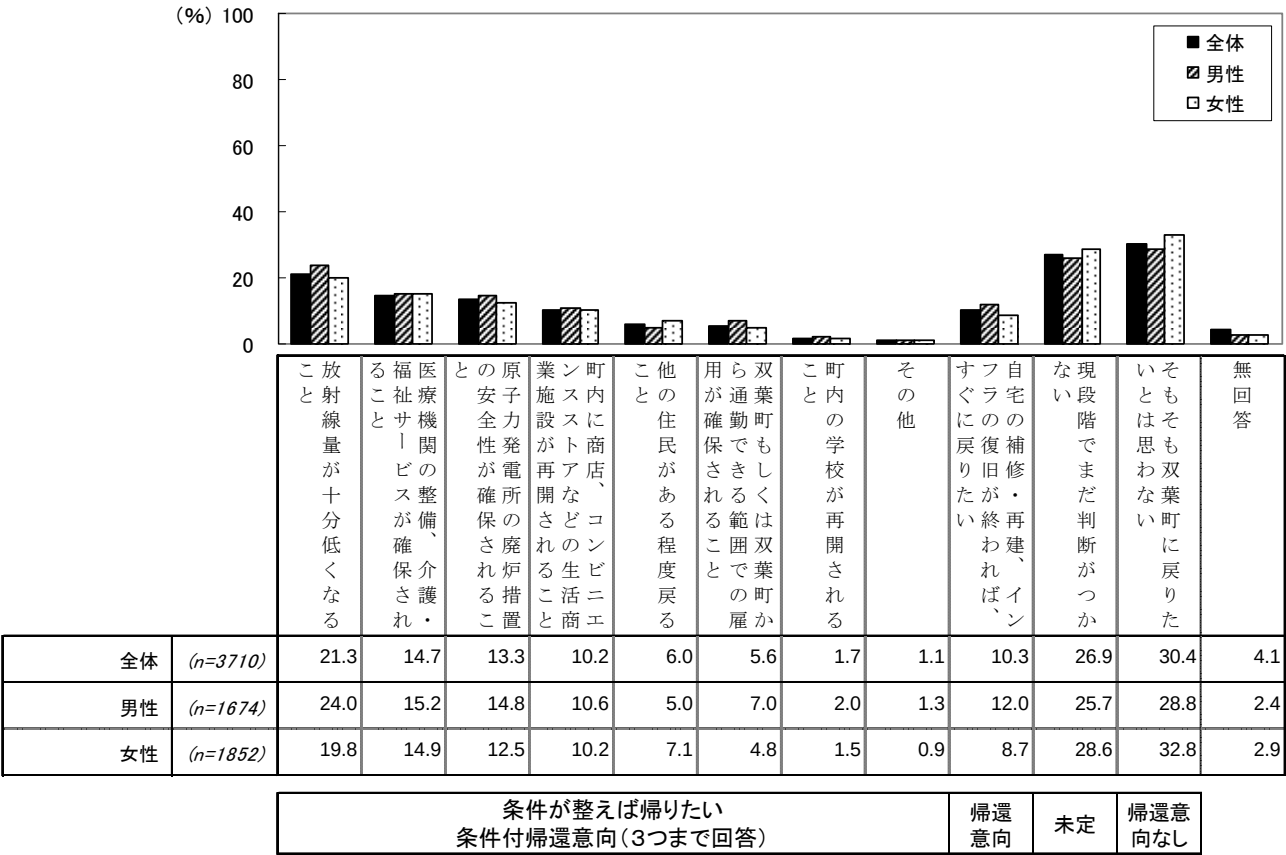
帰還条件いずれかに回答がある回答者を「条件が整えば戻りたい」(条件付帰還意向)としてまとめ、「自宅の補修・再建、インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい」(帰還意向)、「現段階でまだ判断がつかない」(未定)、「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」(帰還意向なし)の4区分で帰還意向を集計した結果を見ると、「条件が整えば戻りたい」(条件付帰還意向)は、中学・高校生(39.2%)では約4割を占め、一般(27.7%)よりも12ポイント多いが、「自宅の補修・再建、インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい」(帰還意向)は一般(10.7%)に対して中学・高校生は2.8%となっている。「条件が整えば戻りたい」と「自宅の補修・再建、インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい」を合計した『戻りたい(計)』は、一般38.4%、中学・高校生42.0%である。「現段階でまだ判断がつかない」(未定)は一般、中学・高校生ともに同率の26.9%、「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」(帰還意向なし)は一般(30.4%)、中学・高校生(30.2%)ともにほぼ3割で同程度となっている。(図表6-1-2)

図表 6-1-2 帰還意向(一般・中学高校生別)



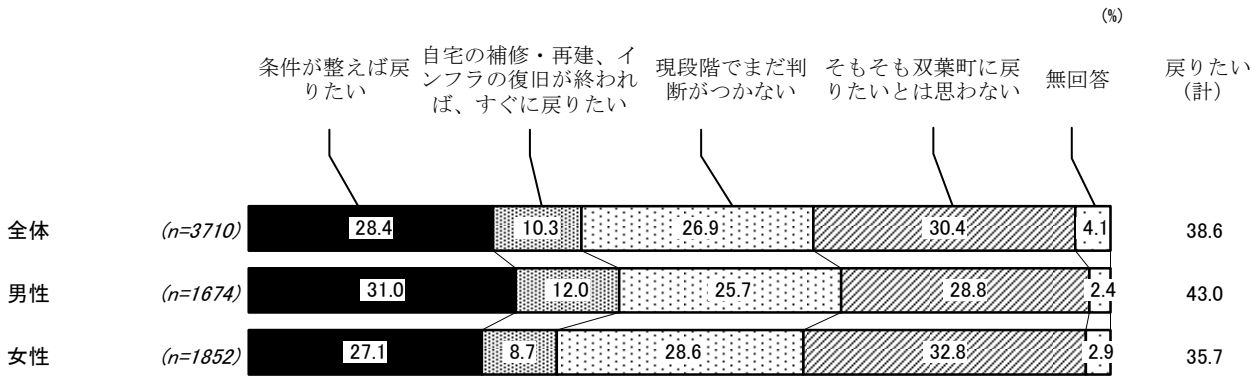
男女別に帰還条件を比較して、大きな差は見られない。(図表 6-1-3)

図表 6-1-3 帰還の前提として必要と考える条件(男女別)



男女別に帰還意向 4 区分を見ると、男性では、女性に比べて、「条件が整えば戻りたい」(条件付帰還意向、男性 31.0%、女性 27.1%)、「自宅の補修・再建、インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい」(帰還意向、同 12.0%、8.7%)のいずれもがやや多く、『戻りたい(計)』は、男性 43.0%、女性 35.7%となっている。「現段階でまだ判断がつかない」(未定)、「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」(帰還意向なし)は男女で大きな差は見られない。(図表 6-1-4)

図表 6-1-4 帰還意向(男女別)



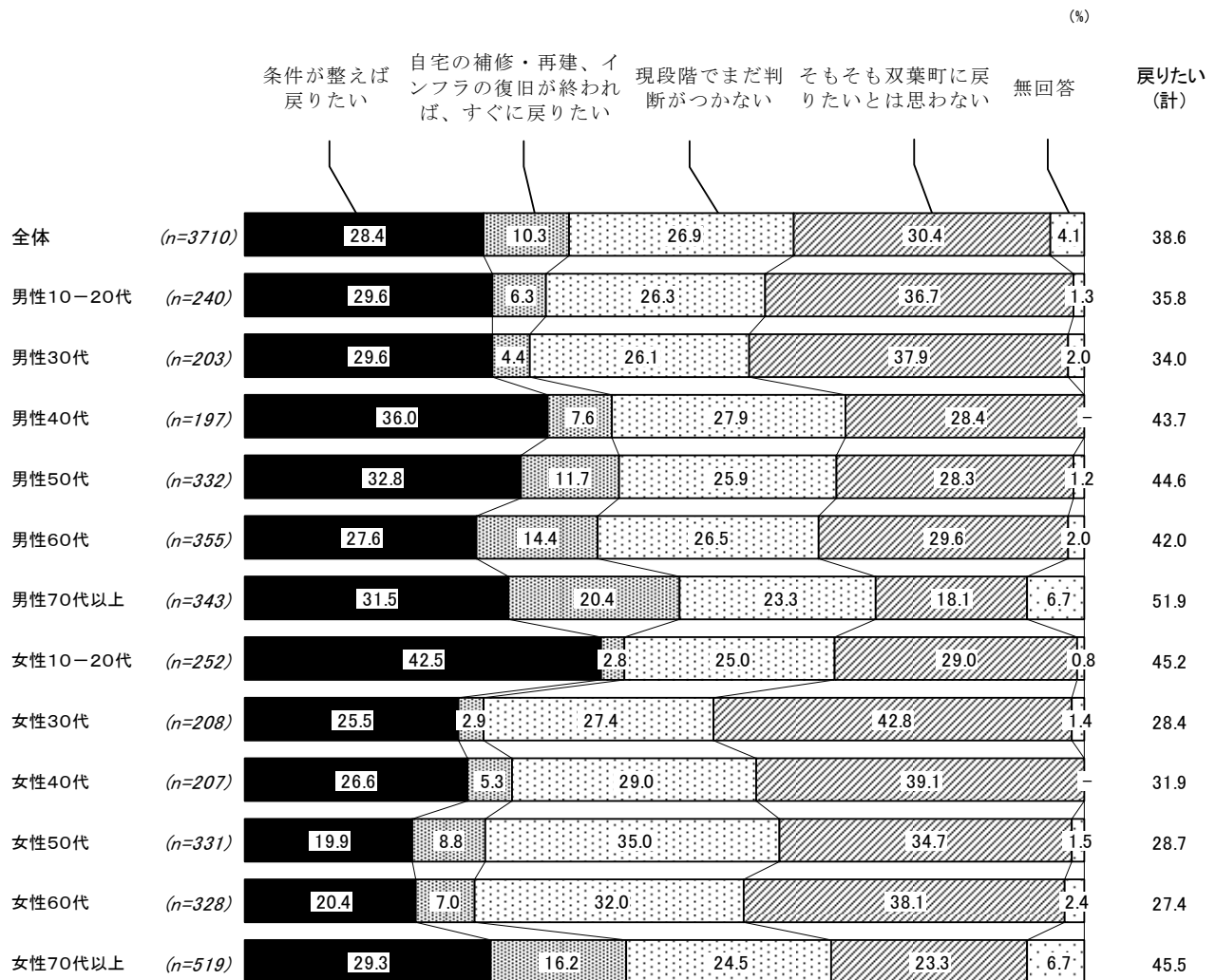
性・年代別に帰還条件を比較すると、最も回答が多い条件として挙げられた内容は、70代女性では「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること」(20.8%)で、70代女性以外の各性・年代層では「放射線量が十分低くなること」となっている。「放射線量が十分低くなること」との回答は、男性40代(32.5%)、女性10-20代(31.0%)で3割を超えており、他の性・年代層に比べて回答率が高い。この2つの性・年代層では、「原子力発電所の廃炉措置の安全性が確保されること」との回答についても、2割前後の回答となっており、他層よりも多くなっている(男性40代18.8%、女性10-20代20.2%)。「医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること」は、男女ともに70代以上の層でほぼ2割程度と多い(男性19.2%、女性20.8%)。女性10-20代では、「他の住民がある程度戻ること」も14.7%で他層よりもやや多い。男女とも10-20代の若年齢層では「双葉町もしくは双葉町から通勤できる範囲での雇用が確保されること」が1割を超え、他層よりも回答が多くなっている(男性12.9%、女性13.1%)。(図表6-1-5)

図表 6-1-5 帰還の前提として必要と考える条件(性・年代別)

		条件が整えば帰りたい 条件付帰還意向(3つまで回答)								帰還 意向	未定	帰還意向 なし	(%)
		放射線量 が十分低 くなるこ と	医療機関 の整備、 介護・福 祉サービ スが確保 されるこ と	原子力発 電所の廃 炉措置の 安全性が 確保され ること	町内に商 店、コン ビニエンス ストアなど の生活商業 施設が再 開されるこ と	他の住民 がある程 度戻ること	双葉町も しくは双 葉町から 通勤でき る範囲で の雇用が 確保され ること	町内の学 校が再開 されるこ と	その他	自宅の補 修・再 建、イン フラの復 旧が終わ れば、す ぐに帰り たい	現段階で まだ判断 がつかない	そもそも 双葉町に 戻りたい とは思わ ない	無回答
全体	(n=3710)	21.3	14.7	13.3	10.2	6.0	5.6	1.7	1.1	10.3	26.9	30.4	4.1
男性10-20代	(n=240)	23.8	7.9	13.3	11.7	3.8	12.9	2.5	1.3	6.3	26.3	36.7	1.3
男性30代	(n=203)	21.7	11.8	13.8	10.8	2.0	7.4	4.4	2.0	4.4	26.1	37.9	2.0
男性40代	(n=197)	32.5	13.2	18.8	7.1	7.6	12.7	3.6	1.0	7.6	27.9	28.4	-
男性50代	(n=332)	25.0	16.9	16.6	10.8	4.5	9.3	1.8	1.5	11.7	25.9	28.3	1.2
男性60代	(n=355)	21.7	17.5	13.0	10.7	6.8	2.8	-	0.6	14.4	26.5	29.6	2.0
男性70代以上	(n=343)	21.6	19.2	14.6	11.4	4.4	1.5	1.5	1.7	20.4	23.3	18.1	6.7
女性10-20代	(n=252)	31.0	15.9	20.2	13.9	14.7	13.1	3.6	1.2	2.8	25.0	29.0	0.8
女性30代	(n=208)	22.1	7.7	12.0	6.7	7.2	7.7	4.3	1.0	2.9	27.4	42.8	1.4
女性40代	(n=207)	21.7	13.5	10.6	9.7	6.8	8.2	2.9	-	5.3	29.0	39.1	-
女性50代	(n=331)	13.9	12.1	10.0	7.6	3.6	4.2	0.3	1.2	8.8	35.0	34.7	1.5
女性60代	(n=328)	14.6	13.4	10.1	8.5	5.8	1.5	0.3	1.2	7.0	32.0	38.1	2.4
女性70代以上	(n=519)	19.8	20.8	13.1	12.9	6.6	0.6	0.4	0.8	16.2	24.5	23.3	6.7

性・年代別に帰還意向 4 区分を見ると、『戻りたい(計)』が 4 割を超えて高いのは、40 代以上の男性層、女性 10-20 代、女性 70 代以上の各層で、特に男性 70 代以上では 51.9%となっている。女性 10-20 代は、「条件が整えば戻りたい」(条件付帰還意向)との回答が 42.5%で他層に比べて高くなっている。「自宅の補修・再建、インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい」(帰還意向)が高いのは、男性 60 代以上および女性 70 代以上の高年齢層である(男性 60 代 14.4%、男性 70 代以上 20.4%、女性 70 代以上 16.2%)。一方、「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」(帰還意向なし)が 4 割を超えて高いのは、女性 30 代の層である(42.8%)。(図表 6-1-6)

図表 6-1-6 帰還意向(性・年代別)



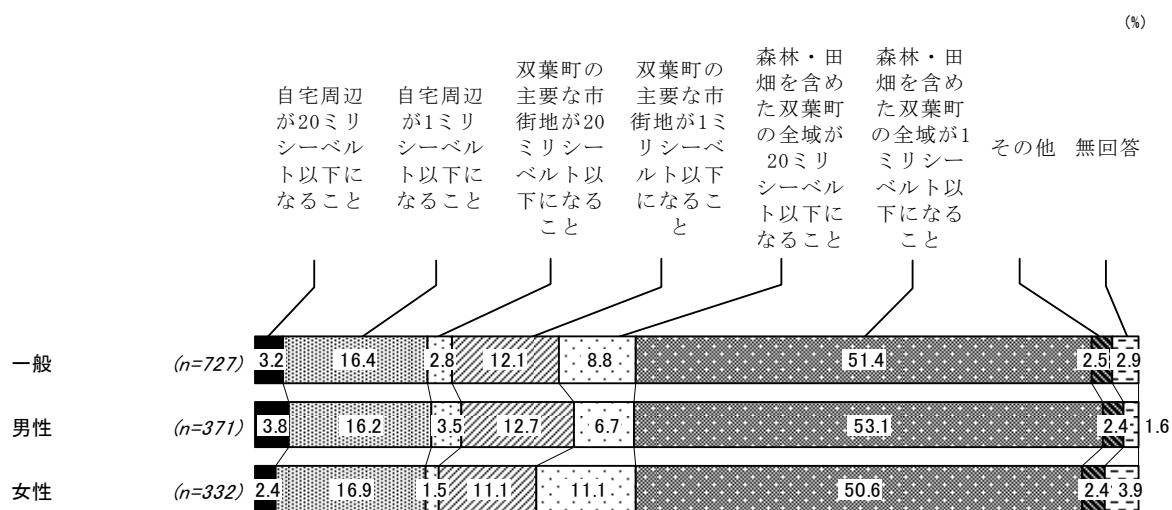
2) 帰還できると思う年間放射線量

問 22 【問 21 で「1 放射線量が十分低くなること」と回答した方にうかがいます。】
どの程度の年間放射線量になれば、帰還できると考えていますか。(○は1つ)

帰還条件として「放射線量が十分低くなること」を挙げた中学・高校生以外の一般住民(727 人)に、どの程度の年間放射線量になれば帰還できると考えるかを尋ねたところ、「森林・田畑を含めた双葉町の全域が 1 ミリシーベルト以下になること」が 51.4%で半数を超えて多く、次いで、「自宅周辺が 1 ミリシーベルト以下になること」(16.4%)、「双葉町の主要な市街地が 1 ミリシーベルト以下になること」(12.1%)、「森林・田畑を含めた双葉町の全域が 20 ミリシーベルト以下になること」(8.8%)、「自宅周辺が 20 ミリシーベルト以下になること」(3.2%)、「双葉町の主要な市街地が 20 ミリシーベルト以下になること」(2.8%)の順となっている。(図表 6-1-7)

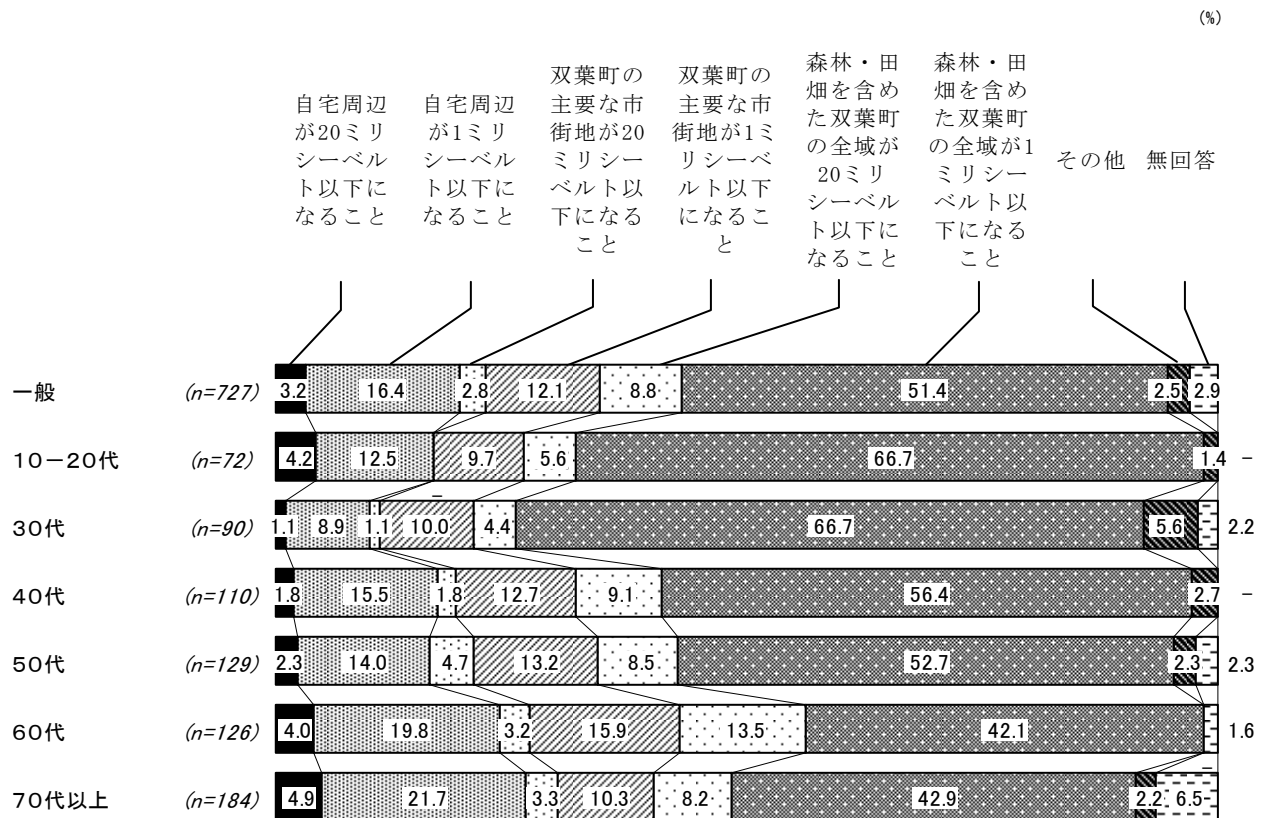
男女別に見て、大きな差異は見られない。(図表 6-1-7)

図表 6-1-7 帰還できると考える年間放射線量(男女別)



年代別に見ると、いずれの年代層においても、最も回答が多いのは「森林・田畑を含めた双葉町の全域が1ミリシーベルト以下になること」という基準であることは同様であるが、その回答率は、30代以下の若年齢層では6割台、40-50代では5割台、60代以上の高年齢層では4割台と基準が大きく3段階に分かれている。40-50代の層では、「双葉町の主要な市街地が1ミリシーベルト以下になること」、および「自宅周辺が1ミリシーベルト以下になること」がともに1割台の回答となっており、30代以下の層よりもやや多い。さらに60代以上の層では「自宅周辺が1ミリシーベルト以下になること」が2割前後となっており、50代以下の層よりもやや多い。(図表 6-1-8)

図表 6-1-8 帰還できると考える年間放射線量(年代別)



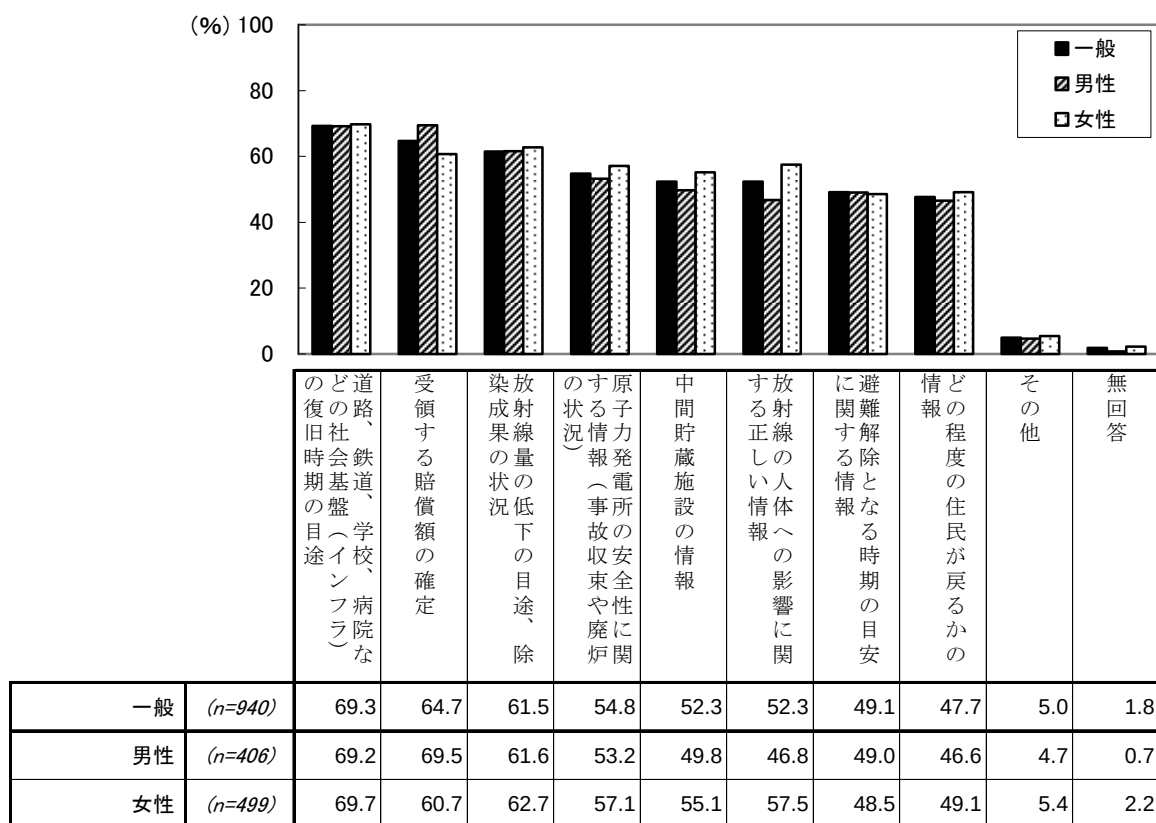
(2) 帰還を判断する上で必要と思う情報

問 23 【問 21 で「10 現段階でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。
双葉町に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について、あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

帰還条件を尋ねた際に「現段階でまだ判断がつかない」と回答した中学・高校生以外の一般住民(940 人)に、帰還するかどうかを判断する上で必要と思う情報を複数回答で尋ねたところ、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」が 69.3%、「受領する賠償額の確定」が 64.7%、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が 61.5%までが 6 割台で並び、以下、「原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)」54.8%、「中間貯蔵施設の情報」52.3%、「放射線の人体への影響に関する正しい情報」52.3%、「避難解除となる時期の目安に関する情報」49.1%、「どの程度の住民が戻るかの情報」47.7%の順で挙げられている。(図表 6-2-1)

男女別に見ると、「受領する賠償額の確定」は、男性(69.5%)は女性(60.7%)よりもやや多く挙げられ、「放射線の人体への影響に関する正しい情報」は男性(46.8%)よりも女性(57.5%)で多くなっている。(図表 6-2-1)

図表 6-2-1 帰還を判断する上で必要と思う情報(男女別)



年代別に見ると、「受領する賠償額の確定」は40代以下の年代に比べて50代以上の年代では6割を超えて多い傾向が見られる。また70代以上の層では、他の年代に比べて、「受領する賠償額の確定」以外の情報について回答率が全般的に少なめとなっている。(図表6-2-2)

図表 6-2-2 帰還を判断する上で必要と思う情報(年代別)

(%)

		道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途	受領する賠償額の確定	放射線量の低下の目途、除染成果の状況	原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）	中間貯蔵施設の情報	放射線の人体への影響に関する正しい情報	避難解除となる時期の目安に関する情報	どの程度の住民が戻るかの情報	その他	無回答
一般	(n=940)	69.3	64.7	61.5	54.8	52.3	52.3	49.1	47.7	5.0	1.8
10-20代	(n=74)	71.6	54.1	67.6	51.4	47.3	60.8	47.3	47.3	2.7	1.4
30代	(n=111)	69.4	55.0	68.5	55.9	51.4	56.8	49.5	57.7	6.3	0.9
40代	(n=115)	64.3	57.4	65.2	62.6	60.0	50.4	41.7	47.0	4.3	0.9
50代	(n=203)	76.8	66.0	68.0	62.1	58.1	57.1	56.2	54.7	4.9	-
60代	(n=199)	72.9	70.9	62.3	57.3	54.3	51.3	47.7	48.2	4.5	2.0
70代以上	(n=213)	60.1	69.5	48.8	42.7	44.1	45.5	46.5	34.7	6.1	4.2

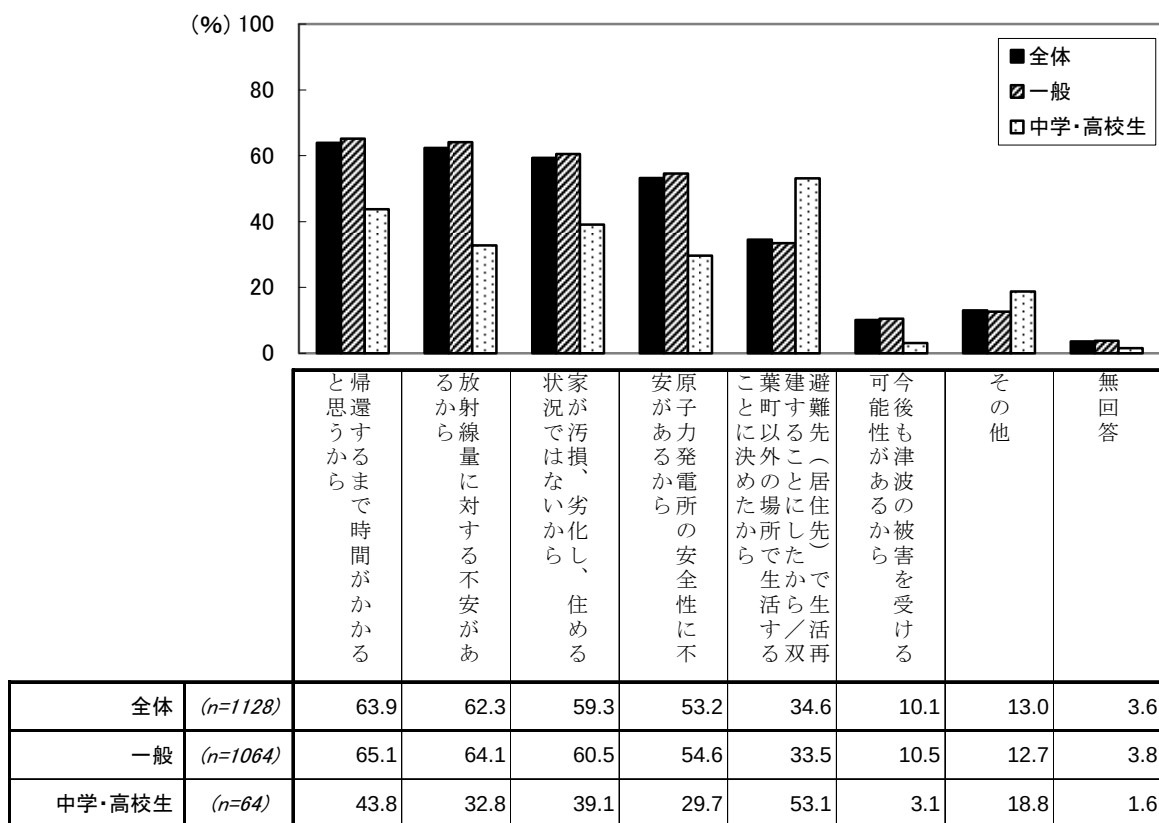
(3) 帰還したいと思わない理由

問 24(1) 【問 21 で「11 そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答した方にうかがいます。
「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。
(○はいくつでも)
[中学・高校生:問 10]

帰還条件を尋ねた際に「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答した1,128人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「帰還するまで時間がかかると思うから」との回答が63.9%、「放射線量に対する不安があるから」が62.3%で6割台で並び、以下、「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」が59.3%、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が53.2%で5割台、「避難先(居住先)で生活再建することにしたから／双葉町以外の場所で生活することに決めたから」が34.6%、「今後も津波の被害を受ける可能性があるから」が10.1%となっている。(図表 6-3-1)

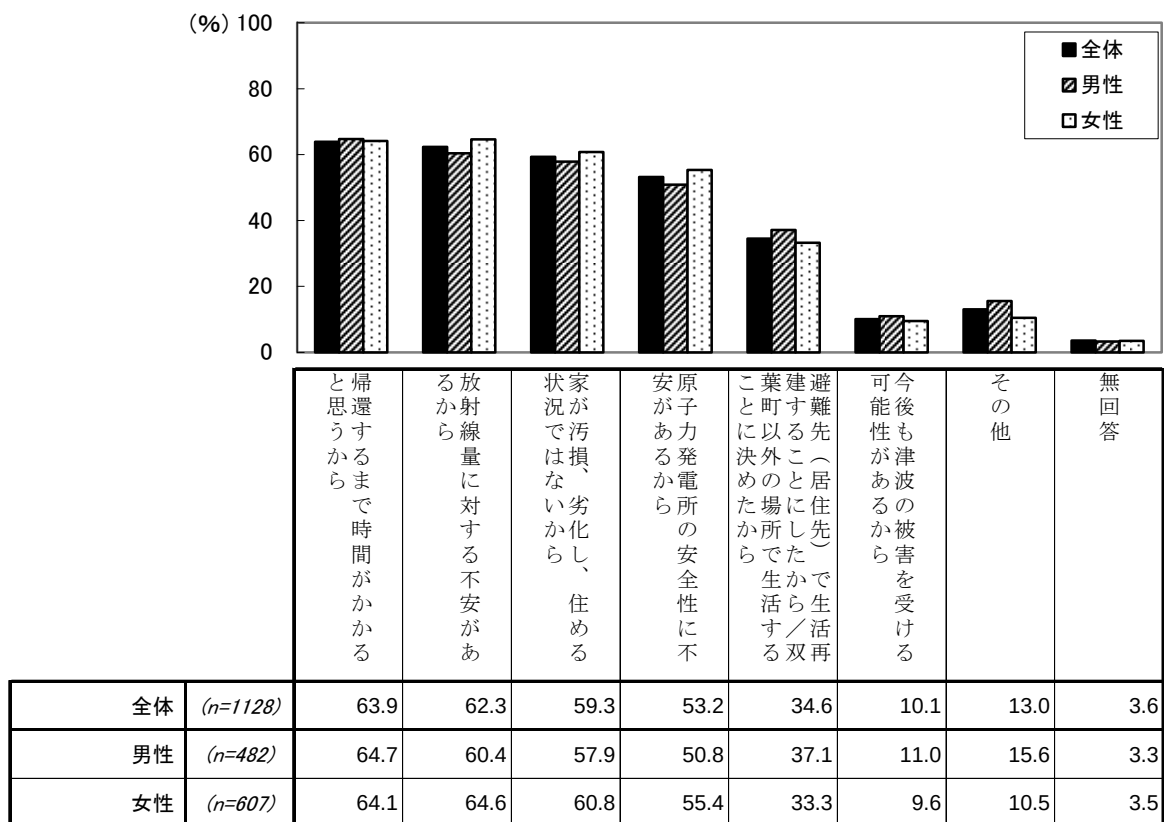
一般住民と中学・高校生では理由の順位が異なっており、中学・高校生で最も多く挙げられたのは、「双葉町以外の場所で生活することに決めたから」で、半数を超える53.1%である。以下、「帰還するまで時間がかかると思うから」(43.8%)、「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」(39.1%)、「放射線量に対する不安があるから」(32.8%)、「原子力発電所の安全性に不安があるから」(29.7%)という順で挙げられている。(図表 6-3-1)

図表 6-3-1 双葉町に戻りたいと思わない理由(一般・中学高校生別)



男女別に見ると、「原子力発電所の安全性に不安があるから」との回答がやや女性のほうが多い(男性 50.8%、女性 55.4%)。(図表 6-3-2)

図表 6-3-2 双葉町に戻りたいと思わない理由(男女別)



性・年代別で見ると、男性 40 代以上の層および女性 60 代以上の層では、「帰還するまで時間がかかるから」が 6 割～7 割で最も多く挙げられているのに対し、女性 30-50 代および男性 30 代では「放射線量に対する不安があるから」が 6 割～7 割で最も多く挙げられている。男女とも 10-20 代の若年齢層では、6 割を超える回答はなく、男性 10-20 代では「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」(53.4%)および「放射線量に対する不安があるから」(52.3%)がほぼ同程度の5割台で上位に挙げられ、女性 10-20 代では「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」および「避難先(居住先)で生活再建することにしたから／双葉町以外の場所で生活することに決めたから」が同率の 49.3%で最も多く挙げられている。(図表 6-3-3)

図表 6-3-3 双葉町に戻りたいと思わない理由(年代別)

		(%)							
		帰還するまで時間がかかるから	放射線量に対する不安があるから	家が汚損、劣化し、住める状況ではないから	原子力発電所の安全性に不安があるから	避難先(居住先)で生活再建することにしたから／双葉町以外の場所で生活することに決めたから	今後も津波の被害を受ける可能性があるから	その他	無回答
全体	(n=1128)	63.9	62.3	59.3	53.2	34.6	10.1	13.0	3.6
男性10-20代	(n=88)	43.2	52.3	53.4	38.6	29.5	10.2	20.5	2.3
男性30代	(n=77)	63.6	68.8	59.7	58.4	50.6	18.2	15.6	5.2
男性40代	(n=56)	76.8	64.3	58.9	50.0	42.9	7.1	21.4	-
男性50代	(n=94)	69.1	61.7	60.6	57.4	39.4	10.6	13.8	3.2
男性60代	(n=105)	71.4	60.0	54.3	53.3	34.3	9.5	12.4	2.9
男性70代以上	(n=62)	67.7	56.5	62.9	45.2	27.4	9.7	11.3	6.5
女性10-20代	(n=73)	43.8	41.1	49.3	39.7	49.3	5.5	16.4	4.1
女性30代	(n=89)	66.3	75.3	64.0	50.6	50.6	13.5	13.5	1.1
女性40代	(n=81)	63.0	67.9	59.3	64.2	25.9	9.9	8.6	4.9
女性50代	(n=115)	67.8	73.0	64.3	61.7	29.6	12.2	10.4	4.3
女性60代	(n=125)	72.0	68.8	63.2	58.4	26.4	6.4	6.4	3.2
女性70代以上	(n=121)	63.6	56.2	60.3	52.9	26.4	9.1	9.9	3.3

(4) 帰還しない場合の今後の生活拠点

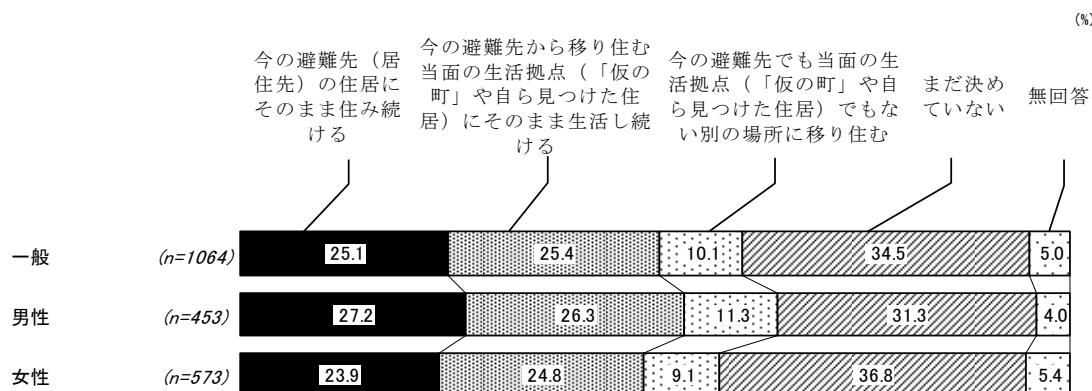
問 24(2) 【問 21 で「11 そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答した方にうかがいます。
戻らない場合に、今後の生活拠点はどのように考えていますか。(○は1つ)

帰還条件を尋ねた際に「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答した、中学・高校生を除く一般住民 1,064 人に、帰還しない場合の今後の生活拠点についての考えを尋ねたところ、「まだ決めていない」との回答が 34.5%で最も多く、「今の避難先(居住先)の住居にそのまま住み続ける」(25.1%)および「今の避難先から移り住む当面の生活拠点(「仮の町」や自ら見つけた住居)にそのまま生活し続ける」(25.4%)は四分の一ずつを占め、「今の避難先でも当面の生活拠点(「仮の町」や自ら見つけた住居)でもない別の場所に移り住む」が 10.1%となっている。(図表 6-4-1)

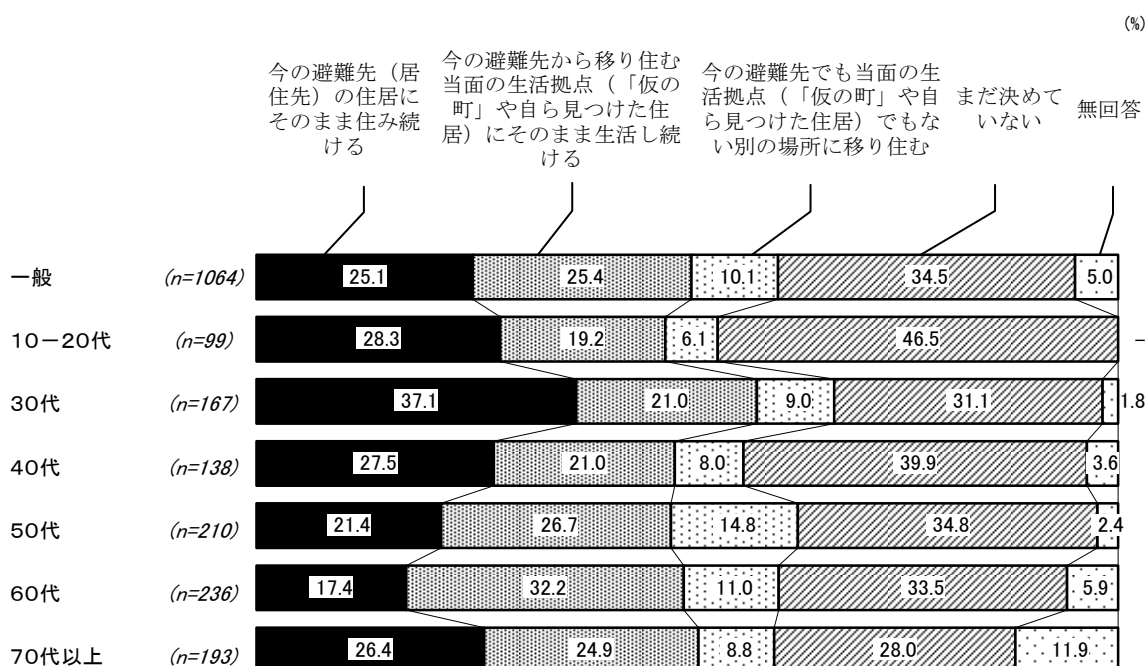
男女別に見ると、「まだ決めていない」との回答は、男性(31.3%)より女性(36.8%)のほうがやや多いほかは、大きな差はみられない。(図表 6-4-1)

年代別に見ると、30 代では「今の避難先(居住先)の住居にそのまま住み続ける」が 37.1%で最も多いが、30 代以外の年代で最も回答が多いのは「まだ決めていない」となっており、10-20 代では半数近く(46.5%)が未定である。50 代・60 代は、「今の避難先から移り住む当面の生活拠点にそのまま生活し続ける」と「今の避難先でも当面の生活拠点でもない別の場所に移り住む」の合計が 4 割を超えており、他層よりも転居意向が高めである。(図表 6-4-2)

図表 6-4-1 帰還しない場合の今後の生活拠点(年代別)



図表 6-4-2 帰還しない場合の今後の生活拠点(年代別)



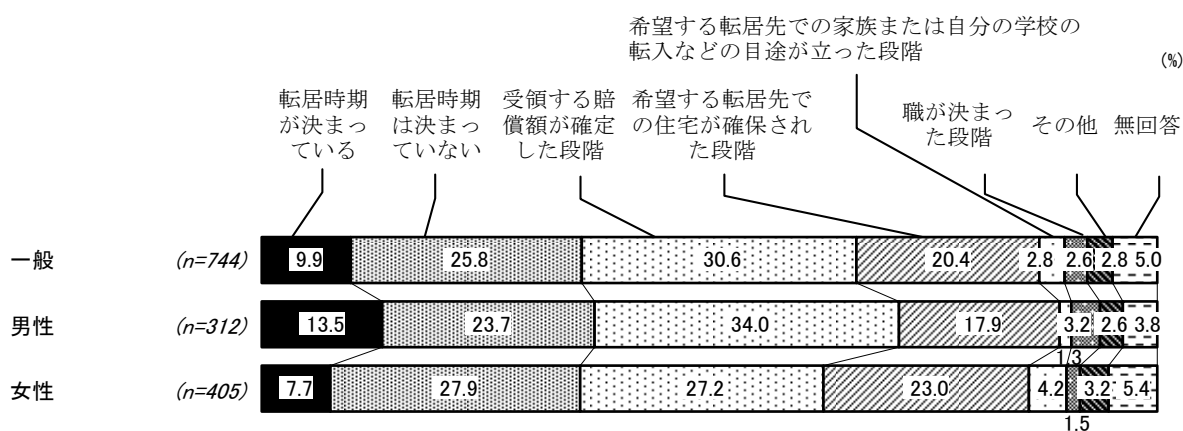
(5) 転居を判断したい段階

問 24(3) 【問 24(2)で「2～4」と回答した方にうかがいます。】
 転居時期はどの段階で判断したいとお考えですか。(○は1つ)
 「1 転居時期が決まっている」を選択された方は、 の中に具体的な時期もご記入ください。

「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答した中学・高校生を除く一般住民で、今後の生活拠点として転居意向を持っているか、または未定の回答者(744 人)に、転居を判断したい段階について尋ねたところ、「受領する賠償額が確定した段階」との回答が 30.6%で最も多く、「希望する転居先での住宅が確保された段階」は 20.4%、「希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階」は 2.8%、「職が決まった段階」が 2.6%となっている。なお、「転居時期が決まっている」のは 9.9%、「転居時期は決まっていない」人は 25.8%である。(図表 6-5-1)

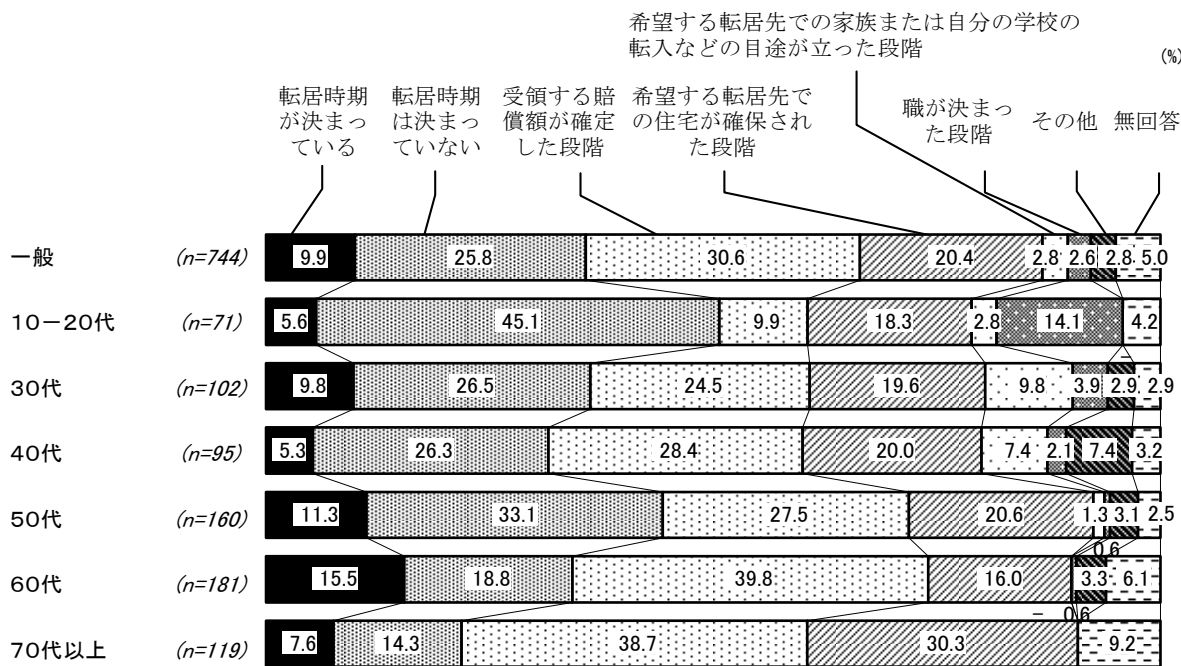
男女別に見ると、「受領する賠償額が確定した段階」(男性 34.0%、女性 27.2%)、「転居時期が決まっている」(男性 13.5%、女性 7.7%)との回答は、女性より男性にやや多い。(図表 6-5-1)

図表 6-5-1 転居を判断したい段階(男女別)



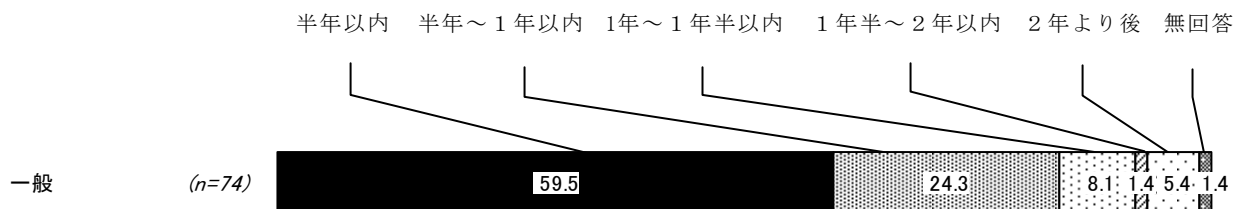
年代別に見ると、10-20代では「転居時期は決まっていない」が45.1%でほぼ半数近くを占めている。50代においても、「転居時期は決まっていない」の構成比が最も多く、33.1%である。60代以上の高齢層では、「受領する賠償額が確定した段階」に転居を判断するという方が4割弱(60代39.8%、70代以上38.7%)で、他の年代に比べて多い。30-40代では、「転居時期は決まっていない」(26.3%)と「受領する賠償額が確定した段階」(28.4%)が3割前後でほぼ同程度となっている。(図表6-5-2)

図表 6-5-2 転居を判断したい段階(年代別)



「転居時期が決まっている」と回答した人(74人)の転居時期を尋ねたところ、「半年以内」が59.5%と半数以上で最も多く、次いで「半年～1年以内」24.3%、「1年～1年半以内」8.1%、「2年より後」5.4%、「1年半～2年以内」1.4%となっている。(図表6-5-3)

図表 6-5-3 転居時期(転居時期が決まっている回答者)



(6) 帰還しない際に行政に望む支援内容

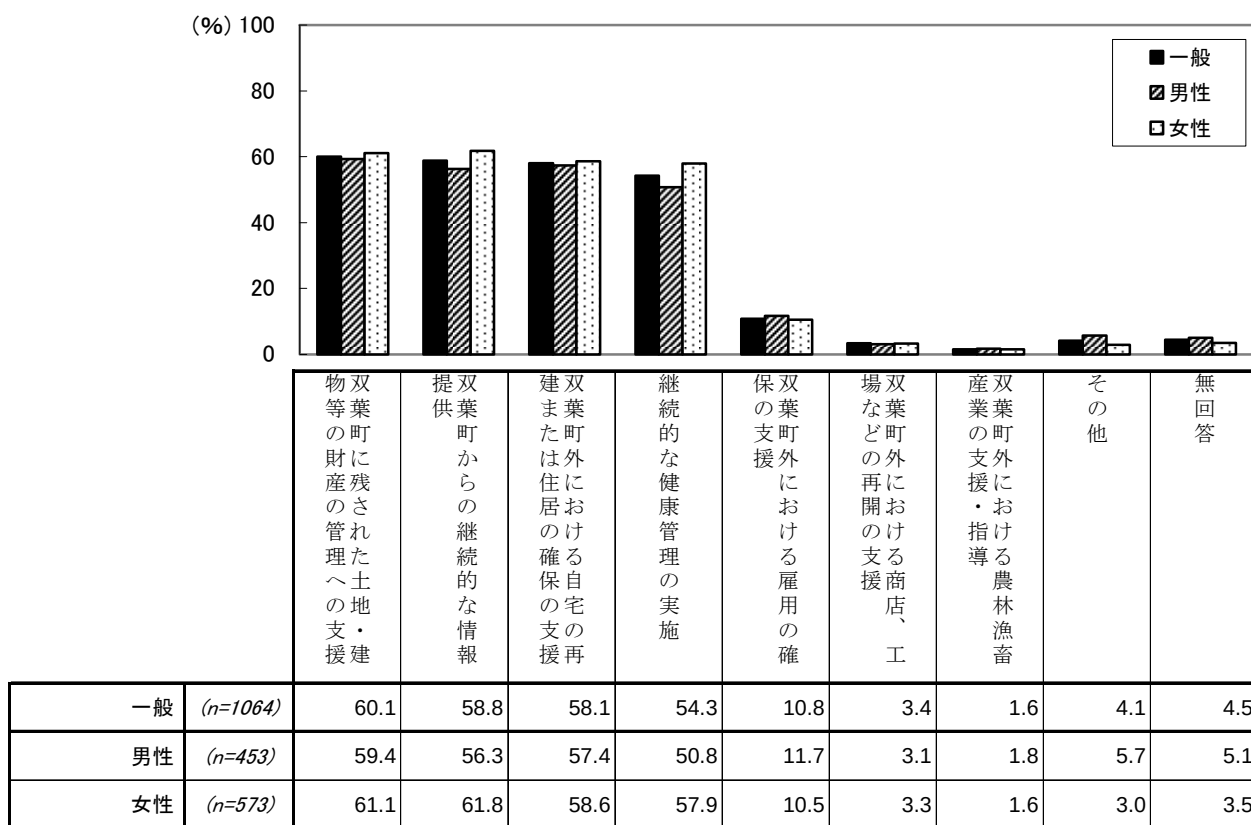
問 24(4) 【問 21 で「11 そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答したすべての方にうかがいます。
双葉町に戻らない場合に、どのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答した中学・高校生を除く一般住民(1,064 人)に、帰還しない場合に求める支援内容について複数回答で尋ねたところ、「双葉町に残された土地・建物等の財産の管理への支援」(60.1%)、「双葉町からの継続的な情報提供」(58.8%)、「双葉町外における自宅の再建または住居の確保の支援」(58.1%)、「継続的な健康管理の実施」(54.3%)の順で、いずれも半数以上の回答者に挙げられている。(図表 6-6-1)

男女別に見ると、「継続的な健康管理の実施」は男性よりも女性にやや多く挙げられている(男性 50.8%、女性 57.9%)以外は、大きな差は見られない。(図表 6-6-1)

年代別に見ると、10-20 代では、「双葉町外における雇用の確保の支援」を求める回答者が 25.3%で、他の年代層に比べて多くなっている。(図表 6-6-2)

図表 6-6-1 双葉町に戻らない場合に望む支援内容(男女別)



図表 6-6-2 双葉町に戻らない場合に望む支援内容(年代別)

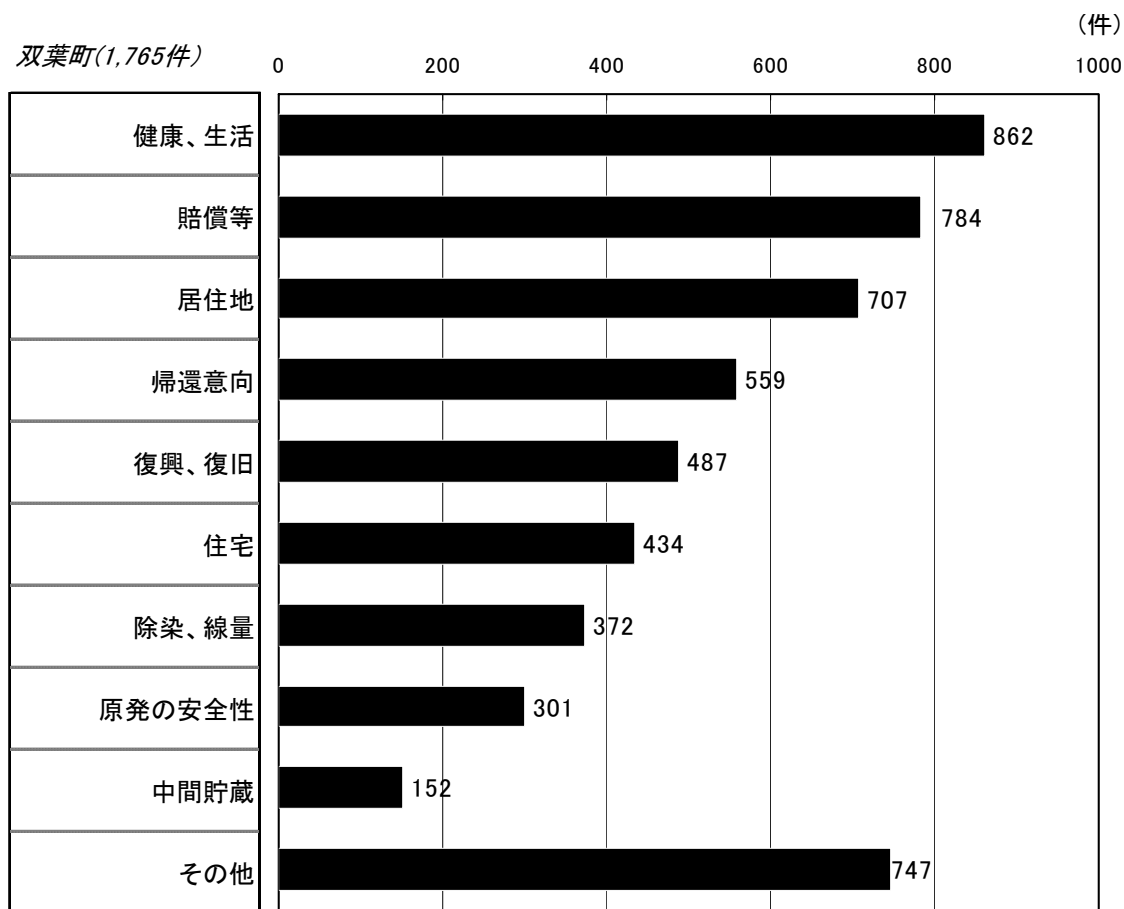
		双葉町に残された土地・建物等の財産の管理への支援	双葉町からの継続的な情報提供	双葉町外における自宅の再建または住居の確保の支援	継続的な健康管理の実施	双葉町外における雇用の確保の支援	双葉町外における商店、工場などの再開の支援	双葉町外における農林漁畜産業の支援・指導	その他	無回答
一般	(n=1064)	60.1	58.8	58.1	54.3	10.8	3.4	1.6	4.1	4.5
10-20代	(n=99)	46.5	46.5	54.5	48.5	25.3	5.1	1.0	7.1	4.0
30代	(n=167)	53.3	55.7	56.9	56.3	14.4	3.0	1.8	3.6	4.8
40代	(n=138)	60.1	59.4	68.1	61.6	15.2	2.9	0.7	3.6	2.2
50代	(n=210)	65.2	64.8	60.0	56.7	12.4	2.4	1.9	1.9	2.9
60代	(n=236)	63.1	62.7	61.9	55.1	5.5	3.0	2.5	3.4	5.1
70代以上	(n=193)	65.8	59.1	47.2	47.2	2.1	3.6	1.0	6.7	5.2

7. 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて

問 26 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。
[中学・高校生:問 11]

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて尋ねたところ、1,765 件の自由回答を得た。最も発言の多いのは「健康、生活」に関する内容で(862 件)、以下、「賠償等」(784 件)、「居住地」(707 件)、「帰還意向」(559 件)、「復興、復旧」(487 件)、「住宅」(434 件)、「除染、線量」(372 件)、「原発の安全性」(301 件)、「中間貯蔵」(152 件)という順となっている。(図表 7-1)

図表 7-1 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(自由回答)



(同一対象者の発言が複数内容にわたっている場合は、件数として内容ごとに件数カウントしている。)

図表 7-2 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(代表的意見抜粋)

●健康、生活

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	家族と一緒に生活がしたい。
一般	男性	30代	子供達の安全の確保。
一般	男性	30代	二重生活で生活費が大変である。
一般	男性	40代	戻る事ができない住宅ローンを、いつまで払い続けるのか？早く何とかしてほしい。
一般	男性	60代	健康問題も考えてもらいたい。
一般	男性	80歳以上	避難中の家賃は出してほしい。
中高生	男性	中高生	双葉町にいた友達と学校に通いたい。
一般	女性	30代	家族と一緒に住めて、安定した仕事の確保が出来るようにしてほしい。
一般	女性	40代	人も動物も居場所がないし、ストレスがたまって、かわいそうです。
一般	女性	50代	健康管理は、将来ずっと責任を持っていただきたい。
一般	女性	50代	職が見つからない。話をする友達がいない。淋しい。
一般	女性	80歳以上	復興に時間(年、月)がかかりすぎ。年齢を考えるととても不安。
中高生	女性	中高生	町民が、ある程度まとまって生活出来るようにしてほしい。仕事の確保。

●賠償等

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	全町民の賠償をキッチリやってほしい。
一般	男性	30代	土地の買い取りと賠償を進めてほしい。
一般	男性	40代	東京電力だけではなく、国に賠償を求めたい。
一般	男性	50代	早く区域分けして、賠償を急いでほしい。
一般	男性	70代	安定した生活が出来る賠償額の確保。
一般	女性	20代	東電に責任をおしつけすぎ。国も悪い。
一般	女性	30代	生活再建のため、賠償を一刻も早くしてください。
一般	女性	40代	土地、財物等(賠償等)を国と東電に考えていただき、次に住むべき場所を考えてほしいです。
一般	女性	50代	長期になるのであれば、帰還できるまでの補償をしてもらいたい。
一般	女性	80歳以上	家や農地等すべて、国か東電で買ってほしい。

●居住地

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	双葉町全面帰還困難区域を希望します。
一般	男性	40代	被災者が県内、県外であっても、前の生活環境と同等の生活がしたい。
一般	男性	60代	早く仮の町を作してほしい。もちろん県内で。
一般	男性	70代	双葉町に5～6年で帰れるなら早く除染をし、帰れないなら仮の町を早く作してほしい。
一般	男性	80歳以上	高齢のため、県外でも土地を求められるよう働きかけてほしい。
中高生	男性	中高生	僕が帰りたいのは生まれ育った双葉町で、「仮の町」ではありません。
一般	女性	40代	土地、財物等(賠償等)を国と東電に考えていただき、次に住むべき場所を考えてほしいです。
一般	女性	50代	仮の町がどこに出来るのか、早く決めてほしい。双葉町は、他の町よりすべて遅い。
一般	女性	70代	このまま今の所で暮らしたいと思います。
一般	女性	80歳以上	早く仮の町を作ってもらいたい。役場を早く移動してもらいたい。
中高生	女性	中高生	今、避難先にやっと慣れてきた所に何回も転校したり、また、引越したりして環境に慣れるのが嫌だ。

●帰還意向

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	30代	何十年も帰れないと思うが、国ははっきり帰れないと宣言してほしい。
一般	男性	40代	子供の成長を考えると戻る事は考えにくい。不安の中での生活では健康被害などあると思う。県外なら考えるが、県内へは戻らない。
一般	男性	50代	1日でも早く戻りたいので、早急に復興をお願いする。避難先では、死にたくない。
一般	男性	60代	いつになったら帰れるのかを明確にすること。
一般	男性	80歳以上	町自体が、帰還を望んでいないように思われます。
中高生	男性	中高生	なるべく早く双葉町に戻りたい。(遅くても10年後には)震災前のような生活を、双葉町で送りたい。
一般	女性	30代	もう町には戻れないと思うから、「戻れない」とはっきり言ってもらいたい。
一般	女性	40代	1日も早く、双葉に帰れるようにしてください。子供が故郷を忘れてしまいます。
一般	女性	50代	国や東電に対して、安易に妥協してまで、自宅に帰りたいとは思わない。
一般	女性	60代	町に帰るかはまだ考えてません。双葉町に帰る事ができるんですか。老人ばかりで生活できるのですか。
一般	女性	70代	双葉町に帰れないとしたら、部落ごとに集落作ってほしい。友達もいないのもさびしいです。
一般	女性	80歳以上	高齢のため、早急な帰還を講じてほしい。

●復興、復旧

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	まずは、復興のための「アクション」を起こしてほしいです。
一般	男性	40代	全ての人が満足する復興などあり得ないので、いくつかのオプションを提示し、町民に選択させるしかないのでは？
一般	男性	60代	インフラ整備、生活に不自由のない周辺環境整備。
一般	男性	70代	1. 十分な賠償がされるよう対処してもらいたい。 2. 復旧、復興に対する具体的かつ迅速な取組みを展開してもらいたい。
中高生	男性	中高生	現在の復興状況を教えてください。
一般	女性	20代	単独の町として復興するのは難しいので、双葉郡の町村を1つの町として協力して復興してもらいたい。
一般	女性	30代	復興予算のばらまきをしないで被災地を優先に使ってほしい。
一般	女性	40代	国、内部でもめごとより、皆同じ方向に向かって復興補償を考えてほしい。
一般	女性	70代	復興に時間がかかりすぎている。このままでいけば、忘れられてしまうのではないのか？毎日が不安。
一般	女性	80歳以上	年齢を考えると先がない。早い復興をお願いしたいです。

●住宅

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	大字単位の一戸建災害公営住宅を希望する。
一般	男性	30代	双葉町の自宅よりもせまい土地でもいいので、家族みんなが一緒に住める一戸建ての住宅がほしいです。
一般	男性	40代	災害住宅を1日も早く建ててほしいです。町の住宅どれもかまいません、福島県にかぎり。
一般	男性	60代	公営住宅の払い下げを望む。
一般	男性	70代	復興住宅の建設を、1日も早く。
一般	男性	80歳以上	1日も早く安心して暮らせる住宅を、夢見て生活しております。
一般	女性	30代	アパート生活はつかれる。早く一戸建てに住みたい。
一般	女性	40代	仮設ではない、一生住める住宅の確保、もしくは永久的な家賃補助。
一般	女性	50代	早く落ちつきたいです。家族三人が住める家がほしい。
一般	女性	60代	他県に住んでいる、子供、孫達が来られるように、線量(放射線)の低い所に公営住宅が出来る事。
一般	女性	80歳以上	一日も早く仮の住まいではない所で生活したい。仮の住まいなので生活に必要な物をほとんど購入していない(家がせまいので物が置けない)。

●除染、線量

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	30代	住めない町に除染費用を使うなら、今避難している人達を考え、賠償を確保してほしい。
一般	男性	40代	帰れないのが分かっているのに除染はムダだと思います。そのお金を賠償にまわしてください。
一般	男性	50代	年間20msv以下でなぜ安全と言えるのか、信用できない。
一般	男性	60代	完全なる除染をしなければ、復興は無理と思う。
一般	男性	70代	早急に除染をして、一日も早く戻るようにしてほしい。
一般	女性	20代	本当に、除染して帰ることが可能なのか？
一般	女性	40代	双葉町の家は、野山に囲まれた所にあります。そのような土地に除染をしても、本当に住めるのでしょうか、とても不安です。住めるようになっても隣人が戻らないようなら、自分たちばかりが帰還したとしても、行政区として継続していくことは困難なのではないでしょうか。
一般	女性	50代	一日も早く除染して、早く自宅に戻れる様にしてもらいたい。こんな生活をしていたら体が弱って、動けなくなってしまう。
一般	女性	60代	・除染と、インフラの復旧工事。・一軒一軒の放射測定をしてもらわないと、安心できない。
一般	女性	80歳以上	双葉町を早く除染して、線量を下げてほしい。自由に立ち入りできるようにしてほしい。お墓まいりをしたい。

●原発の安全性

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	30代	自分や子供達が生きている間に原発が安全になるとは思えない。そんな場所で生活していけるわけがない。国の原発に関する情報が信じられない。
一般	男性	40代	・原発事故責任の明確化。・原子力損害賠償の迅速かつ適切な実施。・原発事故の早期収束（廃炉まで）。・土地収用法同様の法律をつくり、中間貯蔵施設の早期設置。これに伴う補償の明確化。
一般	男性	50代	原発の完全な収束が行われていない段階で、いくら放射線量が下がっても、安全は保証されません。同じような避難を、二度と体験したくないです。
一般	男性	50代	現在危惧しているのは、これから廃炉作業に着手するとして不測の事態が発生した場合、郡内及び周辺地域が不毛化するのではないかとことです。
一般	男性	60代	除染とインフラの復旧工事のスピードアップ、原発の事故終束のスピードアップ、特に4号機燃料プールからの使用済燃料取出しのスピードアップ。
一般	女性	20代	まず、原発を廃炉にして、大方の除染を済ませてほしい。
一般	女性	30代	原発の安全性を保ちながらの廃炉を確実に行ってほしい。
一般	女性	60代	汚染レベルは、発表されている放射線量よりも高いと思いますし、なにより、原発はまだ収束していないので、いつまた、大きな地震などのために事故が起きるのかわからないので、危険です。
一般	女性	70代	1日も早く原子力発電所の廃炉にして安全にしてほしいです。放射線量が下がり、家族と一緒に1日も早く住めるように「復興」してほしいです。双葉町は何でも遅れています。
一般	女性	80歳以上	原子力発電はいらない。電気料金が高くなっても良いと思う。節電すれば良いと思う。
中高生	女性	中高生	はやく原発を廃炉にもらって、できるだけ安全な状態にもらいたい。

●中間貯蔵

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	双葉町の土地は全て国に買い取ってもらい、双葉町に最終処分場を作るべきだと思う。持ち込まれるゴミの量ごとに料金を徴収し、それを賠償金として還元すれば良い。わざわざ全国各地に放除能ゴミを保存する方がムダが多い。汚れるのは双葉郡だけで十分。
一般	男性	40代	双葉町でも中間貯蔵施設の候補地があると思いますが、具体的な場所を教えてください。それによつては、帰る判断が変わる可能性があります。また、除染後の廃棄物をなるべく少なくするためのいろいろな研究をしていると思いますが、まずその施設をどこかに建設し、福島県内で、処理に困っている廃棄物を処理すべきだと思います。その施設であれば、双葉町で建設でもOKでは、ないでしょうか？
一般	男性	50代	・中間貯蔵施設は、どこかに造らなければ復興は遅れるばかりなので、早く町としても受け入れるべきと考える。・新しい雇用も生まれるし、復興の為に必要ではないか。
一般	男性	60代	原発は廃炉後、全ての廃棄物を撤去搬出し後地は完全な更地にすること。中間貯蔵施設設置などもつてのほか、絶対に作らせない。作ったら永久貯蔵化されるのは、100%間違いない。
一般	男性	70代	・双葉町に中間貯蔵施設を作ることは反対します。作れば双葉町の復興にはなりません。・中間貯蔵施設を作る時は、家やすべての財産にお金を出すことをお願いします。
一般	女性	20代	仮の町構想は悪くないと思うが、広範囲に渡って汚染されたことを考えると、町に戻るというよりは、中間貯蔵施設の土地として提供(貸与)するなどして収入を得て、仮の町の運営や避難住民の支援にお金を使うほうが良いと思う。
一般	女性	40代	国は、中間貯蔵施設は「福島県内に設置すべきではない」と言っているが、考えを変えました。双葉町も何を考えているのか、まったくわかりません。その中でも毎日はやってきます。生活していかなければいけません。なぜ避難している私達が苦勞しなければならないのか、誰のための電力だったのか。町はしっかりと考えを国や県そして東電に言った方がいいと思います。私達は今すべての物を失っているのですから。
一般	女性	50代	町として、中間貯蔵施設を受け入れてほしい。県内の汚染土壌も搬入されれば、県内の生活に安心感がもたれると思う。自分の町だけを考えないで、八町村に協調は必要だと思う。福島全体を考えてほしい。
一般	女性	60代	私は双葉町復興の為に、中間貯蔵施設は反対です。・中間貯蔵施設を作る時は、双葉町にある家や財産にお金を出す話をしてから、作ってほしい。・国と県と町と中間貯蔵施設の懇談会は、一般町民を交えて、開いてもらいたいです。そうしないと双葉町は前に進んでいきません。
中高生	女性	中高生	・1日でも早く復興をしてほしい。・早く、双葉町でもいいので中間貯蔵施設を決めてほしい。・国全体が復興に向けてまとまってほしい。

●その他

一般／ 高校生	性別	年齢	記載内容
一般	男性	20代	ありのままの情報提供をお願いする。(隠蔽や気安めの情報はやめてほしい。)
一般	男性	30代	政治家は信用できない。自らの保身のみしか考えていない。
一般	男性	40代	双葉町は中小企業再建などの情報や支援が無い為予定がたたない。
一般	男性	60代	国と東電の言ってる事が違いすぎるので、どちらの話を聞いたら良いかわからない。
一般	男性	70代	今、全国に避難されているみなさんのことを、東電、国はわすれないでほしい、と思います。
中高生	男性	中高生	ただ批判し合っているだけでは何も解決するはずがないので、全員でまとまった話し合いを国会などではしてほしい。
一般	女性	20代	国に要望出す前に行政が遅すぎる。いつも、他町村と比べてしまう。
一般	女性	30代	役場が県外にあるのは、おかしいと思います。
一般	女性	40代	現在、国・東電は一度も謝っていません。国・東電は、勝手すぎる。
一般	女性	50代	方針が示されていない。希望が持てないと気力がなくなる。
一般	女性	60代	国、町の代表者に、有言実行してもらいたい。
一般	女性	80歳以上	先祖の墓があるから守っていきたい。

Ⅲ 調査票

(付:単純集計結果)

双葉町 住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

この調査は、**中学生以上のすべての双葉町住民**にお願いしています。
世帯で現在いっしょにお住まいの**中学生以上の方それぞれ**に、ご記入をお願いいたします。

現在**中学生、高校生（高等専門学校の1～3年生を含む）**の方は、17ページから22ページまでお答えください。

現在**中学生・高校生以外**の方は 1ページから16ページまでお答えください。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
「その他」に○をされた場合は、（ ）内に具体的な内容もご記入ください。
の中に具体的な内容の記入をお願いしている問いには、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

※調査票は無記名でお願いします。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**1月8日(火)まで**に、同封の返信封筒に入れ、郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

※ 世帯にご回答者が複数いらっしゃる場合は、同封の返信封筒に全員の調査票をいっしょに入れてご提出ください。

- ご不明な点がございましたら、下記担当までご連絡ください。

復興庁

「住民意向調査」お問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-504-570

設置期間: 12月21日(金)～12月28日(金)、1月4日(金)～1月8日(火)

10時～17時(土・日・祝日を除く)

一般の方

(中学生・高校生以外)

回答欄

1～16 ページまでは一般の方の調査票です。

中学生、高校生(高等専門学校の1～3年生を含む)は、17 ページに進んでください。

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

問1 【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時にお住まいだった地区(行政区)を、以下から教えてください。(○は1つ) (n=3, 498)

- | | | | |
|------------|-------------|------------|------------------------------|
| (14. 2) 新山 | (2. 1) 石熊 | (1. 5) 渋川 | (1. 2) その他 |
| (7. 1) 下条 | (12. 4) 長塚一 | (4. 1) 鴻草 | (1. 7) (わからない場合は住所を記載してください) |
| (6. 7) 郡山 | (11. 0) 長塚二 | (1. 5) 中田 | |
| (2. 3) 細谷 | (3. 1) 下長塚 | (1. 3) 両竹 | |
| (11. 4) 三字 | (5. 8) 羽鳥 | (2. 6) 浜野 | |
| (6. 5) 山田 | (2. 7) 寺松 | | |

(0. 7) 無回答

問2 【すべての方にうかがいます。】

あなたは震災発生当時まで、双葉町にどのくらいの期間お住まいでしたか。仕事や進学などで町を離れた期間は含めないでお答えください。(○は1つ) (n=3, 498)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| (1. 5) 1 年未満 | (45. 2) 20 年以上 50 年未満 |
| (4. 5) 1 年以上 5 年未満 | (32. 7) 50 年以上 |
| (15. 4) 5 年以上 20 年未満 | |

(0. 7) 無回答

問3 【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時のあなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

問3(1) 職業(就業形態) (○は1つ) (n=3, 498)

- | | | | |
|------------------|-------------------|---------------------|------|
| (14. 2) 自営業 | (4. 9) 公務員 | (32. 5) 無職 (退職者も含む) | →問4へ |
| (9. 7) 会社員 (事務) | (9. 3) パート・アルバイト | (3. 8) その他 | |
| (20. 3) 会社員 (労務) | (2. 8) 学生 →問4へ | 【具体的に | 】 |

(2. 5) 無回答

問3(2) 【仕事に就いていた方にうかがいます。】

業種 (○は1つ) (n=2, 177)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| (10. 1) 農・林・漁・畜産業 | (1. 6) 金融・保険業 |
| (16. 6) 建設業 | (9. 7) 医療・福祉 |
| (8. 5) 製造業 | (4. 4) 教育 |
| (11. 5) 電気・ガス・水道業 | (4. 6) 公務 |
| (2. 3) 運輸業 | (2. 3) その他 【具体的に |
| (24. 2) 卸・小売り・飲食、サービス業 | 】 |

(4. 2) 無回答

現時点でのあなたの状況について教えてください。

問4 【すべての方にうかがいます。】

あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。（○は1つ）

※複数か所にお住まいの場合は、あなたがもっとも長く過ごしている場所1か所についてお答えください。

（「7」または「11」の場合は、の中に具体的な地名をご記入の上、（ ）内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。）（n=3, 498）

(21. 0) いわき市	(8. 3) 福島県内のその他の市町村	(具体的にご記入ください。)
(10. 7) 郡山市	→	(市・町・村)
(7. 0) 福島市		
(3. 9) 白河市	(10. 1) 埼玉県加須市	注) 避難者数が100人以上の市町村をとりあげています
(2. 2) 南相馬市	(2. 5) 茨城県つくば市	
(1. 7) 会津若松市	(1. 6) 新潟県柏崎市	
	(30. 1) その他（具体的にご記入ください。）	
	→	(都・道・府・県) (市・町・村・区)

(0. 9) 無回答

問5 【すべての方にうかがいます。】

現在お住まいになっている（避難をされている）住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。

問5(1) 所有形態（○は1つ）（n=3, 498）

(11. 1) 応急仮設住宅（プレハブ型）	→問6へ	(3. 7) 給与住宅（寮・社宅など）
(50. 6) みなし仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型（家賃無償））	→問6へ	(1. 9) 家族どなたかのお住まい・実家
(2. 6) 避難所（旧騎西高校）	→問6へ	(2. 0) 親戚・知人宅
(17. 6) 民間賃貸住宅（有償）		(5. 2) 持ち家（ご本人またはご家族所有）
(1. 6) 公営住宅（有償）		(2. 1) その他（具体的に ）

(1. 6) 無回答

問5(2) 【問5(1)所有形態で、「4」～「10」と回答した方にうかがいます。】

住宅の建て方（○は1つ）（n=1, 195）

(52. 4) 集合住宅（2階建て以上）	(38. 0) 一戸建て
(1. 8) 集合住宅（平屋建て）	(2. 0) その他（具体的に ）

(5. 8) 無回答

問6 【すべての方にうかがいます。】

現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

問6(1) 職業（就業形態）（○は1つ）（n=3, 498）

(2. 0) 自営業（継続中もしくは再開済）	(12. 9) 会社員（労務）	(56. 7) 無職（退職者も含む）	→問6(4)へ
(3. 5) 自営業（休業中）	(4. 7) 公務員	(2. 8) その他	（具体的に ）
(6. 3) 会社員（事務）	(4. 9) パート・アルバイト		
	(1. 7) 学生	→問7へ	

(4. 5) 無回答

問6(2) 【仕事に就いている方にうかがいます。】

業種（○は1つ）（n=1,299）

- | | | |
|------------------|-----------------------|-----------|
| (2.0) 農・林・漁・畜産業 | (2.2) 運輸業 | (6.1) 教育 |
| (16.9) 建設業 | (16.0) 卸・小売り・飲食、サービス業 | (8.3) 公務 |
| (7.9) 製造業 | (1.9) 金融・保険業 | (4.6) その他 |
| (14.4) 電気・ガス・水道業 | (8.6) 医療・福祉 | 〔具体的に〕 |

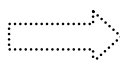
(11.1) 無回答

問6(3) 【問6(1)で、現在職業が「3」～「6」または「9」と回答した方（自営業、学生、無職以外の方）にうかがいます。「1」または「2」の自営業、「7 学生」の方は問7へお進みください。】

現在勤めている会社・組織・団体は、震災発生当時の会社・組織・団体と同じですか。（○は1つ）

(n=1,104)

- | | |
|-----------|------------|
| (49.1) 同じ | (26.4) 違う |
| | (24.5) 無回答 |



この設問の回答後は問7へ

問6(4) 【問6(1)で、現在職業が「8 無職(退職者も含む)」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問7へお進みください。】

あなたは現在、職を探していますか。（○は1つ）（n=1,984）

- | | |
|---------------------|-----------------|
| (14.5) 職を探している →問7へ | (68.9) 職を探していない |
|---------------------|-----------------|

(16.7) 無回答

問6(5) 【問6(4)で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。】

現在、あなたが職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。（○は1つ）（n=1,366）

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| (1.3) 元の地域・職場に戻る予定だから | (38.3) 年齢的に困難・高齢のため |
| (2.8) 希望する職場がないから | (8.6) 病気・体調不良のため |
| (0.6) 当面賠償金で生活できるから | (7.4) 定住先未定のため・転居する予定のため |
| (5.1) 震災を機にリタイア（退職など）したから | (8.3) 家族の介護・世話の必要から |
| (8.6) 震災前からリタイア（退職など）しているから | (1.6) その他 |
| | 〔具体的に〕 |
| (12.4) 専業主婦だから | |

(5.1) 無回答

問7 【すべての方にうかがいます。】

現在の避難生活において困っていること、改善を求める分野を3つまで教えてください。

（○は3つまで）（n=3,498）

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------|
| (13.8) 医療 | (25.1) 情報 |
| (4.2) 教育 | (42.8) 生活費・賠償金、住宅ローン等の取扱い |
| (9.3) 介護・福祉 | (33.0) 家族分散状況・多重生活の状況 |
| (10.1) 労働 | (2.2) その他 |
| (24.4) コミュニティ形成
(地域社会とのつながり・連携づくり) | 〔具体的に〕 |
| (57.8) 住宅・住環境、居住地・移転先・生活拠点 | (7.0) 特になし |

(3.4) 無回答

問8 【すべての方にうかがいます。】

医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。

（○はいくつでも） （n=3, 498）

- | | |
|---|--------------------------|
| （ 3. 7）医療機関がない、もしくは少ない | （ 7. 9）診察・診療の質に満足できなくなった |
| （15. 8）遠くまで通院することになった・通院しにくい | （ 1. 7）その他 |
| （ 5. 4）特定の診療科がない | （ 具体的に |
| （29. 2）かかりつけ医がいない（気軽に相談できない）・
どの病院に行けばよいかわからない | |
| （24. 6）受付から診療まで時間がかかる | |
| | （39. 8）特にない |

（ 6. 3）無回答

問9(1) 【すべての方にうかがいます。】

現在、あなたまたはご家族に、介護や福祉サービスを受けている方はいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて教えてください。（○はいくつでも） （n=3, 498）

- | | |
|---|--------|
| （ 3. 8）自分が、デイサービスなど、施設に通って受けるサービスを利用している | （ 具体的に |
| （ 8. 6）家族が、デイサービスなど、施設に通って受けるサービスを利用している | |
| （ 0. 8）自分が、自宅に訪問を受けるサービスを利用している（ホームヘルプサービスなど） | |
| （ 1. 9）家族が、自宅に訪問を受けるサービスを利用している（ホームヘルプサービスなど） | |
| （ 1. 7）自分が、介護施設などに入所・入院している | |
| （ 5. 8）家族が、介護施設などに入所・入院している | |
| （ 1. 3）その他 | |
| （66. 2）自分も家族も、介護・福祉サービスは受けていない →問 10 へ | |

（13. 2）無回答

問9(2) 【問9(1)で「1」～「7」と回答した方にうかがいます。】

ご自身またはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。（○はいくつでも） （n=723）

- | | |
|--|--------|
| （ 7. 6）施設・事業所が少なくサービスが受けられない（もしくはサービス頻度が相当減った） | （ 具体的に |
| （ 4. 6）設備が整っていない | |
| （ 5. 1）職員が少ない（足りていない） | |
| （14. 9）遠くまで通うことになった・通いにくい | |
| （ 9. 7）利用し慣れた施設・事業所がない（気軽に利用できない）・どこを利用すればよいかわからない | |
| （ 7. 2）その他 | |
| （51. 6）特にない | |

（12. 7）無回答

問 10 【すべての方にうかがいます。】

お子さんが受けている教育（小学校、中学校、高等学校等）について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。（〇はいくつでも） （n=3, 498）

- （ 1. 2）子どもが不登校になった
- （ 4. 6）通学に時間がかかるようになった
- （ 1. 1）避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している
- （ 1. 9）教員（先生）による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった
- （ 5. 0）学習環境が変化したことにより、学習の進捗が遅れている
- （ 2. 9）避難している子どもたちに対して偏見がある
- （ 8. 6）居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている
- （ 2. 1）転校先の学校や友達に馴染めない
- （ 1. 1）その他 （具体的に
- （14. 0）特にない
- （62. 1）学校に通っている子どもはいない

（ 8. 9）無回答

問 11 【すべての方にうかがいます。】

就労について困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。（〇はいくつでも）
（n=3, 498）

- （10. 3）希望する仕事がない
- （11. 5）職場が遠くなった（通勤に時間がかかる）
- （ 5. 4）震災前と違う職であり、慣れない
- （12. 1）給与が減った
- （ 7. 6）長期雇用が保障されない
- （ 6. 9）避難していることに対して職場の人の目が気になる
- （14. 3）仕事のために家族が離れて生活する必要が生じた
- （16. 6）居住地が定まらないため仕事を固めきれない
- （ 4. 2）仕事が減った
- （ 4. 3）その他 （具体的に
- （19. 5）特にない
- （17. 3）就労する必要がない（学生、専業主婦、リタイアによる退職など）

（14. 8）無回答

問 12 【すべての方にうかがいます。】

地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。（〇はいくつでも） （n=3, 498）

- （65. 6）震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない（もしくはまったくない）
- （42. 3）避難先の地域住民との交流が少ない（もしくはまったくない）
- （23. 0）気軽に困りごとを相談できる人（民生委員、行政職員）が近くにいない
- （ 2. 2）その他（具体的に
- （22. 0）特にない

（ 4. 4）無回答

ここからは、将来についてのあなたの想いを教えてください。
 ※同封の参考資料をご覧いただいた上で、以下の問いにお答えください。

問 13 【すべての方にうかがいます。】

双葉町は放射線量が高いため、帰還が可能となるまでの間に相当な時間を要することが想定されます（少なくとも5年以上。なお、国による放射線量の予測（参考資料3-2）によれば、お住まいの地域が国による基準で帰還が困難となっている年間放射線量20ミリシーベルトを超える方は、10年後で双葉町の人口の約5割、20年後で約2割となっています）。

あなたが生活再建をしていく場所を選択するにあたって、重視する条件はどのようなものですか。次の「1」から「19」の中から、特に重視する条件を3つまで選んでください。（○は3つまで）

(n=3, 498)

- | | |
|--|--|
| (39.4) 放射線量が十分に低いこと（年間追加被ばく線量が1ミリシーベルト以下であること） | (9.3) 介護・福祉施設が近くにあること |
| (8.3) 今の避難先と同じ場所または近くであること | (8.1) 役場出張所が近くにあること |
| (17.2) 双葉町と気候風土が近いこと | (1.9) 集会場など町民が集まれる施設が近くにあること |
| (6.9) 双葉町と距離が近いこと | (9.6) 双葉町の町民が近くにいること |
| (23.8) 交通が便利であること | (39.8) 希望する形態の住宅（一戸建て住宅、集合住宅等）が確保されること |
| (7.4) 今の勤め先に通える場所であること | (30.8) 家族と一緒に（近くで）住める場所であること |
| (6.8) 希望する仕事が見つかる場所であること | (14.2) 商店・コンビニエンスストアなどが近くにあること |
| (3.1) 仕事（事業）が再開できる環境にあること | (3.9) 自家栽培ができる畑が近いこと |
| (7.9) 学校などの教育環境が整っていること | (2.2) その他 |
| (32.0) 医療施設が近くにあること | （具体的に |

(2.8) 無回答

問 14 【すべての方にうかがいます。】

双葉町への帰還が可能となるまでの間に相当な時間を要することが想定されるなか、双葉町への帰還が可能となるまでの間に生活する住居として、どのようなものを希望しますか。

問 14(1) 所有形態（○は1つ） (n=3, 498)

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| (21.8) 民間賃貸住宅を借りる | (1.3) 寮・社宅に居住する |
| (23.9) 公営住宅（災害公営住宅を含む）を借りる | (4.7) その他 |
| (43.8) 持ち家（ご本人またはご家族所有）を買う | （具体的に |

(4.5) 無回答

*「災害公営住宅」とは…

県や市町村が原子力被災者のために低廉な家賃で賃貸する住宅。公営住宅は戸建住宅もありますが、一般的に集合住宅が多くなっています。入居に際しては通常の公営住宅と異なり所得による制限はありませんが、家賃については、収入によって決まる制度になっています。特に収入が低い方については家賃の減額制度があります（一定年数まで）。

問 14(2) 住宅の建て方（○は1つ） (n=3, 498)

- | | |
|--------------------------|----------------|
| (6.6) 集合住宅（一般的な中高層のもの） | (71.3) 一戸建て |
| (13.2) 集合住宅（一戸建に近い低層なもの） | (1.3) その他（具体的に |

(7.5) 無回答

問 15 【すべての方にうかがいます。】

あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。あなたご自身を含めた人数でお答えください。

(○は1つ) (n=3, 498)

(8.0) 1 人 (自分のみ)	(21.8) 3 人	(12.8) 5 人	(6.0) 7 人以上
(21.3) 2 人	(18.6) 4 人	(9.1) 6 人	

(2.4) 無回答

双葉町復興まちづくり委員会では、今回の住民意向調査も踏まえて、双葉町民が集まって生活できる「仮の町」(町外コミュニティ)のあり方について審議することとしています。

「仮の町」には、「集中型」による整備や「分散型」による整備など様々な考えがありますが、この調査では、以下のような「仮の町」のイメージを念頭に置いてお答えください。

- ・「仮の町」には、多くの町民が一か所に集まって生活をしています。
- ・「仮の町」には、様々なタイプの住宅が整備されるほか、学校や、病院、商店街、オフィス、工場・農場など、町が本来持つべき機能ができるだけ集約されています。
- ・「仮の町」には、多くの町民が一か所に集まることで、双葉町の文化・伝統・コミュニティが維持されます。

問 16 【すべての方にうかがいます。】

上に述べたような「仮の町」ができた場合に、あなたは「仮の町」に移り住むことを希望しますか。(○は1つ)

(n=3, 498)

(6.9) 「仮の町」に移り住みたい	→問 17 へ
(46.0) 現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい	→問 17 へ
(42.1) 「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない	→問 18 へ

(5.0) 無回答

問 17 【問 16 で「1 「仮の町」に移り住みたい」「2 現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい」と回答した方にうかがいます。】

問 17(1)

「仮の町」に移り住むための間、何年までなら待つことができますか。(○は1つ) (n=1, 851)

(36.0) 2 年以内	(26.1) 3 年以内	(4.6) 4 年以内	(19.5) 5 年以内	(7.6) その他 (具体的に)
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------------

(6.1) 無回答

問 17(2)

「仮の町」について、特に設置を希望する自治体はありますか。(○はいくつでも) (n=1, 851)

(64.9) いわき市	(5.9) 福島県内のその他の市町村 (具体的にご記入ください。)	
(15.1) 郡山市	→	(市・町・村)
(4.5) 福島市	(6.4) 埼玉県加須市	注) 避難者数が100人以上の市町村をとりあげています
(5.0) 白河市	(5.6) 茨城県つくば市	
(13.6) 南相馬市	(0.3) 新潟県柏崎市	
(1.2) 会津若松市	(2.6) その他 (具体的にご記入ください。)	
	→	(都・道・府・県) (市・町・村・区)
	(9.7) 特に希望はない	→問 19(1)へ

(3.2) 無回答

問 17(3) 【問 17(2)で「1」～「11」と回答した方にうかがいます。】

「仮の町」は、ある程度の町民が集まらなければ成立しないことから、その設置場所は限られます。そのため、設置場所が希望に添うものとならない場合もあります。あなたは、「仮の町」の設置場所として、

問 17(2)で回答した自治体の希望について、どのようにお考えですか。（○は1つ）（n=1, 613）

- (35. 8) 希望する自治体でなければ「仮の町」には移り住まないだろう
 (18. 2) 条件（問 13 で回答したもの）が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない（福島県内、福島県外にもこだわらない）
 (29. 9) 条件（問 13 で回答したもの）が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない（ただし、福島県内であることに限る）
 (3. 7) 条件（問 13 で回答したもの）が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない（ただし、福島県外であることに限る）
 (4. 3) 「仮の町」にぜひ住みたいので、設置される自治体や条件には、それほどこだわらない
 (1. 8) その他
 （具体的に

（ 6. 3）無回答



この設問の回答後は問 19(1)へお進みください

問 18 【問 16 で「3「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」と回答した方にうかがいます。】

問 18(1)

帰還が可能となるまでの当面の間、どこで生活をされる考えですか。（○は1つ）（n=1, 471）

- (36. 4) 今の避難先（居住先）の住居で継続して暮らしたい →問 18(4)へ
 (12. 5) 今の住居から引っ越したい（現在居住している市町村内への引っ越し） →問 18(3)へ
 (16. 1) 今の住居から引っ越したい（現在居住している市町村外への引っ越し） →問 18(2)へ
 (30. 3) 現時点ではわからない、判断できない →問 18(4)へ

（ 4. 6）無回答

問 18(2) 【問 18(1)で「3 今の住居から引っ越したい（現在居住している市町村外への引っ越し）」と回答した方にうかがいます。】

どちらの自治体に引っ越しをされる考えですか。（○はいくつでも）（n=237）

- | | |
|---------------|---|
| (32. 9) いわき市 | (10. 1) 福島県内のその他の市町村（具体的にご記入ください。） |
| (5. 5) 郡山市 | → <input type="text"/> （市・町・村） |
| (3. 0) 福島市 | |
| (1. 7) 白河市 | (7. 6) 具体的に決まっていないが <u>福島県内</u> のいずれかの市町村 |
| (10. 1) 南相馬市 | (0. 4) 埼玉県加須市 |
| (0. 4) 会津若松市 | (1. 7) 茨城県つくば市 |
| | (-) 新潟県柏崎市 |
| | (17. 3) その他（具体的にご記入ください。） |
| | → <input type="text"/> （都・道・府・県） <input type="text"/> （市・町・村・区） |
| | (16. 0) 具体的に決まっていないが <u>福島県外</u> のいずれかの市町村 |

注）避難者数が100人以上の市町村をとりあげています

（ 3. 8）無回答

問 18(3) 【問 18(1)で「2」または「3」の「今の住居から引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。（〇はいくつでも） （n=421）

- (48. 5) 受領する賠償額が確定した段階
- (63. 2) 希望する転居先での住宅が確保された段階
- (9. 3) 希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階
- (3. 6) 職が決まった段階
- (4. 5) その他（具体的に

）
（ 5. 2）無回答

問 18(4) 【問 16 で「3「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」と回答したすべての方にうかがいます。】

「仮の町」に住むつもりがない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

（「1すでに自宅を買ってしまったから」、「2これから自宅を買うつもりだから」と回答した方は、時期についても具体的に教えてください。） （n=1, 471）

- (12. 1) すでに自宅を買ってしまったから
- (31. 1) これから自宅を買うつもりだから
- (10. 4) 仕事が見つかったから（転勤になったから）
- (10. 4) 子どもの学校が見つかったから（転校させたくないから）
- (32. 1) 「仮の町」がいつできるかわからないから
- (24. 2) 双葉町の町民と一緒に住むことにそれほど魅力を感じないから
- (29. 4) 現在の避難先(居住先)での暮らしに慣れたから
- (9. 7) 現在の避難先(居住先)で近所・友人関係（コミュニティ）を築いているから
- (10. 9) その他（具体的に

）
（ 4. 8）無回答

平成 年 月頃購入 （n=178）

- (2. 2) 震災発生より前
- (7. 3) 震災発生後半年以内
- (20. 8) 震災発生後半年～1年以内
- (27. 0) 震災発生後1年～1年半以内
- (34. 8) 震災発生後1年半より後
- (7. 9) 無回答

【2を選んだ方のみ】

購入予定時期を教えてください。（n=457）

(26. 3) 平成 年 月頃
の購入予定 （n=120）

- (62. 5) 半年以内
- (22. 5) 半年～1年以内
- (9. 2) 1年～1年半以内
- (2. 5) 1年半～2年以内
- (3. 3) 2年より後
- (-) 無回答
- (67. 0) まだ購入時期は決めていない

（ 6. 8）無回答

問 18(5) 【問 16 で「3「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」と回答した方すべてにうかがいます。】

「仮の町」に住まない場合、どのような支援を行政に期待しますか。（〇はいくつでも）

(n=1, 471)

- (44. 3) 住居の確保の支援
- (10. 2) 雇用の確保の支援
- (48. 9) 継続的な健康管理の支援
- (36. 8) 仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保
- (67. 2) 双葉町からの継続的な情報提供
- (2. 4) 商店・工場などの再開の支援
- (2. 0) 農林畜産漁業の支援・指導
- (5. 9) その他（具体的に

）
（ 7. 5）無回答

問 19(1) 【すべての方にうかがいます。】

あなたには、中学生以下の子どもがいますか。(○は1つ) (n=3, 498)

- (6. 5) 就学前の子どもがいる →問 19(2)へ
 (10. 3) 小学生または中学生の子どもがいる →問 19(2)へ
 (70. 0) いない (就学前・小学生・中学生の子どもはいない) →問 20 へ

(13. 1) 無回答

問 19(2) 【問19(1)で「1 就学前の子どもがいる」または「2 小学生または中学生の子どもがいる」と回答した方にうかがいます。】

双葉町立の学校の再開について、どのように考えていますか。(○は1つ) (n=590)

- (6. 6) 「仮の町」に施設・教育内容が充実した学校ができれば、「仮の町」に転居して子どもを通わせる
 (1. 9) 双葉町立の学校がどこかで再開すれば、そこに転居して子どもを通わせる
 (10. 2) 自らの避難先（居住先）の近くで、双葉町立の学校が再開されれば子どもを通わせる
 (43. 9) 避難先（居住先）の学校に登校させるので、双葉町立の学校の再開は必要ない
 (35. 6) まだ判断できない

(1. 9) 無回答

問 20 【震災発生当時の職業が自営業の方（問3(1)で「1」と回答した方）にうかがいます。それ以外の方は、問 21 へお進みください。】

事業の再開について、どのように考えていますか。(○は1つ) (n=498)

- (5. 0) 「仮の町」ができれば、そこで事業を再開したい
 (2. 4) 自らの避難先（居住先）で事業を再開したい
 (15. 7) 事業を再開する予定はない（別の職業を見つける）
 (9. 0) すでに事業を再開しているのでその場所で引き続き事業を行う
 (41. 6) まだ判断できない

(26. 3) 無回答

問 21 【すべての方にうかがいます。】

双葉町への帰還についておたずねします。

あなたは、どのような条件が整ったら双葉町へ戻りたいと考えますか。

自宅の修理・再建や道路・通信・上下水道などのインフラが復旧していることに加えて、帰還の前提として必要と考える条件について、あなたにとって特に重視するものを、次の中から3つまでお選びください。

(○は3つまで) (n=3, 498)

- (20. 8)放射線量が十分低くなること →問 22 へ
- (12. 9)原子力発電所の廃炉措置の安全性が確保されること
- (5. 3)双葉町もしくは双葉町から通勤できる範囲での雇用が確保されること
- (14. 8)医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること
- (1. 5)町内の学校が再開されること
- (10. 1)町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること
- (5. 6)他の住民がある程度戻ること
- (1. 1)その他 (具体的に)
- (10. 7)自宅の補修・再建、インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい
- (26. 9)現段階でまだ判断がつかない →問 23 へ
- (30. 4)そもそも双葉町に戻りたいとは思わない →問 24 へ

(4. 3)無回答

問 22 【問 21 で「1 放射線量が十分低くなること」と回答した方にうかがいます。】

どの程度の年間放射線量になれば、帰還できると考えていますか。(○は1つ) (n=727)

- (3. 2)自宅周辺が 20 ミリシーベルト以下になること
- (16. 4)自宅周辺が 1 ミリシーベルト以下になること
- (2. 8)双葉町の主要な市街地が 20 ミリシーベルト以下になること
- (12. 1)双葉町の主要な市街地が 1 ミリシーベルト以下になること
- (8. 8)森林・田畑を含めた双葉町の全域が 20 ミリシーベルト以下になること
- (51. 4)森林・田畑を含めた双葉町の全域が 1 ミリシーベルト以下になること
- (2. 5)その他 (具体的に)

(2. 9)無回答

問 23 【問 21 で「10 現段階でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

双葉町に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について、あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=940)

- (64. 7)受領する賠償額の確定
- (47. 7)どの程度の住民が戻るかの情報
- (69. 3)道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途
- (61. 5)放射線量の低下の目途、除染成果の状況
- (52. 3)中間貯蔵施設の情報
- (54. 8)原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）
- (52. 3)放射線の人体への影響に関する正しい情報
- (49. 1)避難解除となる時期の目安に関する情報
- (5. 0)その他 (具体的に)

(1. 8)無回答

問 24 【問 21 で「11 そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答した方にうかがいます。】

問 24(1)

「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=1,064)

- (64. 1) 放射線量に対する不安があるから
 (54. 6) 原子力発電所の安全性に不安があるから
 (10. 5) 今後も津波の被害を受ける可能性があるから
 (65. 1) 帰還するまで時間がかかると思うから
 (33. 5) 避難先（居住先）で生活再建することにしたから
 (60. 5) 家が汚損、劣化し、住める状況ではないから
 (12. 7) その他（具体的に

） (3. 8) 無回答

問 24(2) 【問 21 で「11 そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答した方にうかがいます。】

戻らない場合に、今後の生活拠点はどのように考えていますか。(○は1つ) (n=1,064)

- (25. 1) 今の避難先（居住先）の住居にそのまま住み続ける →問 24(4)へ
 (25. 4) 今の避難先から移り住む当面の生活拠点（「仮の町」や自ら見つけた住居）にそのまま生活し続ける
 →問 24(3)へ
 (10. 1) 今の避難先でも当面の生活拠点（「仮の町」や自ら見つけた住居）でもない別の場所に移り住む →
 問 24(3)へ
 (34. 5) まだ決めていない →問 24(3)へ

(5. 0) 無回答

問 24(3) 【問 24(2)で「2～4」と回答した方にうかがいます。】

転居時期はどの段階で判断したいとお考えですか。(○は1つ)

「1 転居時期が決まっている」を選択された方は、の中に具体的な時期もご記入ください。

(n=744)

(9. 9) 転居時期が決まっている ⇒ 平成 年 月頃 (n=74)

- | | | |
|------------------|-----------------|------------------|
| (59. 5) 半年以内 | (24. 3) 半年～1年以内 | (8. 1) 1年～1年半以内 |
| (1. 4) 1年半～2年以内 | (5. 4) 2年より後 | (1. 4) 無回答 |

- (25. 8) 転居時期は決まっていない
 (30. 6) 受領する賠償額が確定した段階
 (20. 4) 希望する転居先での住宅が確保された段階
 (2. 8) 希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階
 (2. 6) 職が決まった段階
 (2. 8) その他（具体的に

） (5. 0) 無回答

問 24(4) 【問 21 で「11 そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答したすべての方にうかがいます。】

双葉町に戻らない場合に、どのような支援を求めますか。(〇はいくつでも) (n=1,064)

- (58.1) 双葉町外における自宅の再建または住居の確保の支援
- (60.1) 双葉町に残された土地・建物等の財産の管理への支援
- (10.8) 双葉町外における雇用の確保の支援
- (54.3) 継続的な健康管理の実施
- (58.8) 双葉町からの継続的な情報提供
- (3.4) 双葉町外における商店、工場などの再開の支援
- (1.6) 双葉町外における農林漁畜産業の支援・指導
- (4.1) (具体的に

) (4.5) 無回答

問 25 【津波によって被災した方にうかがいます。】

双葉町への帰還が可能となった際に、津波で被災をされたお住まいの地域の復興について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

自由記載

問 26 【すべての方にうかがいます。】

国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

自由記載

あなたご自身のことについて教えてください。

問 27 【すべての方にうかがいます。】

あなたの性別（○は1つ） (n=3, 498)

(45.2) 男性 (49.6) 女性

(5.2) 無回答

問 28 【すべての方にうかがいます。】

あなたの現在の年齢（○は1つ） (n=3, 498)

(0.9) 15～19歳 (6.1) 35～39歳 (10.7) 55～59歳 (6.7) 75～79歳
(3.2) 20～24歳 (5.9) 40～44歳 (11.9) 60～64歳 (11.0) 80歳以上
(4.2) 25～29歳 (5.7) 45～49歳 (7.8) 65～69歳
(5.7) 30～34歳 (8.3) 50～54歳 (8.2) 70～74歳

(3.5) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 29 あなたは震災発生当時、世帯主でしたか。（○は1つ） (n=3, 498)

(42.1) 当時世帯主だった (52.3) 当時世帯主ではなかった

(5.6) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 30 あなたは現在、世帯主ですか。（○は1つ） (n=3, 498)

(44.9) 現在世帯主または世帯の代表（※） →問 31 へ

(41.1) 現在世帯主ではない →ご質問は以上です。ご回答誠にありがとうございました。 (14.1) 無回答

※「世帯の代表」とは、住民票上の世帯主ではないが、避難生活において事実上世帯の代表となっている方です。

世帯・ご家族の状況を教えてください。

問 31 【問 30 で「1 現在世帯主または世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

問 31(1) 震災当時、双葉町でお住まいだった住宅のご同居人数を、あなた自身を含めて教えてください。

(○は1つ) (n=1, 570)

(12.7) 1人（自分のみ） (20.8) 3人 (11.6) 5人 (5.0) 7人以上
(24.5) 2人 (17.6) 4人 (7.3) 6人

(0.4) 無回答

問 31(2) 震災当時、双葉町でお住まいだった住宅に同居されていた方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。震災当時の学齢・年齢でご回答ください。（○はいくつでも）

(n=1, 570)

(13.5) 未就学児（小学校入学前） (9.7) 中学生 (81.0) 15～64歳の方（中学生・高校生を除く）
(13.1) 小学生 (8.2) 高校生 (55.3) 65歳以上の方

(1.2) 無回答

問 32 【問 30 で「1 現在世帯主または世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。

問 32(1) 所有形態（○は 1 つ） (n=1,570)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| (80.1) 持ち家（ご本人またはご家族所有） | (4.3) 給与住宅（寮・社宅など） |
| (6.1) 民間賃貸住宅 | (0.7) 間借り |
| (5.9) 公営住宅 | (1.1) その他（具体的に |
- (1.8) 無回答

問 32(2) 住宅の建て方（○は 1 つ） (n=1,570)

- | | |
|------------------|----------------------|
| (84.1) 一戸建て | (11.5) 集合住宅（2 階建て以上） |
| (1.1) 集合住宅（平屋建て） | (0.8) その他（具体的に |
- (2.5) 無回答

問 33 【問 30 で「1 現在世帯主または世帯の代表」と回答した方にうかがいます。】

現在の世帯構成についてうかがいます。

問 33(1) 現在あなたが住まいの住宅のご同居人数を、あなた自身を含めて教えてください。

（○は 1 つ） (n=1,570)

- | | | | |
|------------------|------------|-----------|-------------|
| (21.1) 1 人（自分のみ） | (19.3) 3 人 | (5.9) 5 人 | (1.0) 7 人以上 |
| (33.9) 2 人 | (14.0) 4 人 | (2.2) 6 人 | |
- (2.5) 無回答

問 33(2) 現在あなたが住まいの住宅にご同居されている方を、あなた自身を含めてすべて教えてください。

現在の学齢・年齢でご回答ください。（○はいくつでも） (n=1,570)

- | | | |
|--------------------|-----------|------------------------------|
| (9.1) 未就学児（小学校入学前） | (5.8) 中学生 | (77.4) 15～64 歳の方（中学生・高校生を除く） |
| (9.7) 小学生 | (6.8) 高校生 | (50.3) 65 歳以上の方 |
- (0.2) 無回答

問 33(3) 現在あなたが住まいの住宅には、震災発生当時の世帯でまとまって避難していますか。

（○は 1 つ） (n=1,570)

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| (46.0) 世帯でまとまって避難している | →ご質問は以上です。ご回答誠にありがとうございました。 |
| (44.8) 複数箇所に分かれて避難している | |
- (9.2) 無回答

問 33(4) 【問 33(3)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】

現在、あなたと別居している方の人数は何人ですか。（○は 1 つ） (n=703)

- | | | | |
|------------|------------|-----------|-------------|
| (30.3) 1 人 | (19.2) 3 人 | (4.6) 5 人 | (1.8) 7 人以上 |
| (28.6) 2 人 | (13.2) 4 人 | (1.1) 6 人 | |
- (1.1) 無回答

問 33(5) 【問 33(3)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。

震災発生当時、ご一緒にお住まいであった世帯のご家族は、現在、合計何か所に分散してお住まいですか。（○は 1 つ）

※現在のあなたのお住まいも含めた数を教えてください。 (n=703)

- | | | |
|-------------------|-------------------|--------------------|
| (63.4) 合計 2 か所に分散 | (26.9) 合計 3 か所に分散 | (7.5) 合計 4 か所以上に分散 |
|-------------------|-------------------|--------------------|
- (2.1) 無回答

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、

1月8日(火)までに 郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

- ※ 世帯にご回答者が複数いらっしゃる場合は、同封の返信封筒に全員の調査票をいっしょに入れてご提出ください。

中学・高校生 回答欄

中学生・高校生（高等専門学校の 1～3 年生を含む）は、こちらの調査票（17～22 ページ）に回答してください。

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

問1 【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時にお住まいだった地区(行政区)を、以下から教えてください。(○は1つ) (n=212)

(12. 7) 新山	(0. 5) 石熊	(1. 4) 渋川	(0. 5) その他
(15. 6) 下条	(9. 4) 長塚一	(5. 2) 鴻草	(0. 5) (わからない場合は住所を記載してください)
(8. 5) 郡山	(4. 7) 長塚二	(0. 9) 中田	
(1. 4) 細谷	(2. 4) 下長塚	(1. 4) 両竹	
(13. 2) 三ツ	(4. 7) 羽鳥	(3. 3) 浜野	
(11. 3) 山田	(1. 9) 寺松		

(0. 5) 無回答

現時点でのあなたの状況について教えてください。

問2 【すべての方にうかがいます。】

あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

※複数か所にお住まいの場合は、あなたがもっとも長く過ごしている場所 1 か所についてお答えください。

(「7」または「11」の場合は、の中に具体的な地名をご記入の上、()内の都道府県、市町村区のいずれかあてはまる内容にも、それぞれ○をつけてください。) (n=212)

(25. 9) いわき市	(6. 6) 福島県内のその他の市町村 (具体的にご記入ください。)	
(4. 7) 郡山市	→ (市・町・村)	
(5. 2) 福島市	(21. 7) 埼玉県加須市	注) 避難者数が100人以上の市町村をとりあげています
(1. 9) 白河市	(1. 4) 茨城県つくば市	
(0. 9) 南相馬市	(3. 8) 新潟県柏崎市	
(0. 9) 会津若松市	(26. 4) その他 (具体的にご記入ください。)	
	→ (都・道・府・県)	(市・町・村・区)

(0. 5) 無回答

問3 【すべての方にうかがいます。】

あなたが受けている教育(中学校、高等学校等)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=212)

(11. 3) 学校に行きたくなくなった(不登校になった)	(9. 0) 他の生徒から偏見の目で見られる(無視される、バカにされる、冷たい目で見られる等)
(24. 5) 通学に時間がかかるようになった	
(7. 5) 避難先で通学する学校において、教室・運動場などの施設が不足している	(19. 3) 居住地が定まらないことで、進路・学校選択をどうしたらよいか決めかねている
(5. 2) 教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	(11. 3) 転校先の学校や友達に馴染めない
(19. 3) 学習環境が変化したことにより、勉強についていけなくなった	(2. 4) その他
	(具体的に
	(42. 5) 特にない

(2. 4) 無回答

問4 【すべての方にうかがいます。】

地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。（○はいくつでも）（n=212）

- (59. 9) 震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない（もしくはまったくない）
 (16. 5) 避難先の地域住民（年齢の近い人など）との交流が少ない（もしくはまったくない）
 (20. 3) 気軽に困りごとを相談できる人（祖父母など年長の親戚、よく知っている学校の先生、震災前の地域の学校の友達など）が近くにいない
 (1. 4) その他（具体的に）
 (34. 4) 特にない

（ 1. 4）無回答

ここからは、あなたが社会人になったときを考えて、お答えください。
※同封の参考資料をご覧くださいの上で、以下の問いにお答えください。

問5 【すべての方にうかがいます。】

双葉町は放射線量が高いため、帰還が可能となるまでの間に相当な時間を要することが想定されます（少なくとも5年以上。なお、国による放射線量(参考資料3-2)の予測によれば、お住まいの地域が国による基準で帰還が困難となっている年間放射線量20ミリシーベルトを超える方は、10年後で双葉町の人口の約5割、20年後で約2割となっています。）。

あなたが社会人になったとき、これから住んで生活する場所を選択するにあたって、重視する条件はどのようなものですか。次の「1」から「19」の中から、特に重視する条件を3つまでを選んでください。（○は3つまで）（n=212）

- | | |
|---|---|
| (42. 9) 放射線量が十分に低いこと（年間追加被ばく線量が1ミリシーベルト以下であること） | (1. 4) 介護・福祉施設が近くにあること |
| (8. 5) 今の避難先と同じ場所または近くであること | (1. 9) 役場出張所が近くにあること |
| (6. 1) 双葉町と気候風土が近いこと | (-) 集会場など町民が集まれる施設が近くにあること |
| (2. 4) 双葉町と距離が近いこと | (8. 0) 双葉町の町民が近くにいること |
| (40. 6) 交通が便利であること | (17. 0) 希望する形態の住宅(一戸建て住宅、集合住宅等)が確保されること |
| (30. 2) 希望する勤め先に通える場所であること | (28. 3) 家族と一緒に（近くで）住める場所であること |
| (21. 7) 希望する仕事が見つかる場所であること | (18. 4) 商店・コンビニエンスストアなどが近くにあること |
| (1. 4) 親の仕事（事業）を継承できる環境にあること | (0. 9) 自家栽培ができる畑が近いこと |
| (17. 0) 子どもを通わせる学校などの教育環境が整っていること | (1. 9) その他 |
| (18. 4) 医療施設が近くにあること | 【 具体的に 】 |

（ 1. 4）無回答

双葉町復興まちづくり委員会では、今回の住民意向調査も踏まえて、双葉町民が集まって生活できる「仮の町」(町外コミュニティ)のあり方について審議することとしています。

「仮の町」には、「集中型」による整備や「分散型」による整備など様々な考えがありますが、この調査では、以下のような「仮の町」のイメージを念頭に置いてお答えください。

- ・「仮の町」には、多くの町民が一か所に集まって生活をしています。
- ・「仮の町」には、様々なタイプの住宅が整備されるほか、学校や、病院、商店街、オフィス、工場・農場など、町が本来持つべき機能ができるだけ集約されています。
- ・「仮の町」には、多くの町民が一か所に集まることで、双葉町の文化・伝統・コミュニティが維持されます。

問6 【すべての方にうかがいます。】

上に述べたような「仮の町」ができた場合に、あなたは社会人になったとき、「仮の町」に移り住むことを希望しますか。

(○は1つ) (n=212)

(2. 8) 「仮の町」に移り住みたい →問7へ

(37. 3) 現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい →問7へ

(55. 7) 「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない →問8へ

(4. 2) 無回答

問7 【問6で「1 「仮の町」に移り住みたい」「2 現時点では判断できないが、「仮の町」の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したい」と回答した方にうかがいます。】

問7(1)

「仮の町」について、特に設置を希望する自治体はありますか。(○はいくつでも) (n=85)

(44. 7) いわき市

(4. 7) 福島県内のその他の市町村 (具体的にご記入ください。)

(14. 1) 郡山市

→ (市・町・村)

(7. 1) 福島市

(1. 2) 白河市

(12. 9) 埼玉県加須市

注) 避難者数が100人以上の市町村をとりあげています

(12. 9) 南相馬市

(4. 7) 茨城県つくば市

(3. 5) 会津若松市

(1. 2) 新潟県柏崎市

(3. 5) その他 (具体的にご記入ください。)

→ (都・道・府・県) (市・町・村・区)

(21. 2) 特に希望はない →問9へ

(2. 4) 無回答

問7(2) 【問7(1)で「1」～「11」に回答された方にうかがいます。】

「仮の町」は、ある程度の町民が集まらなければ成立しないことから、その設置場所は限られます。そのため、設置場所が希望に添うものとならない場合もあります。あなたは、「仮の町」の設置場所として、

問7(1)で回答した自治体の希望について、どのようにお考えですか。(○は1つ) (n=65)

- (27. 7) 希望する自治体でなければ「仮の町」には移り住まないだろう
- (27. 7) 条件（問5で回答したもの）が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない
(福島県内、福島県外にもこだわらない)
- (29. 2) 条件（問5で回答したもの）が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない
(ただし、福島県内であることに限る)
- (9. 2) 条件（問5で回答したもの）が満たされれば、設置される自治体には、それほどこだわらない
(ただし、福島県外であることに限る)
- (4. 6) 「仮の町」にぜひ住みたいので、設置される自治体や条件には、それほどこだわらない
- (-) その他
(具体的に)

(1. 5) 無回答



この設問の回答後は問9へお進みください

問8 【問6で「3「仮の町」ができて、「仮の町」に住むつもりはない」と回答した方すべてにうかがいます。】

あなたが社会人になったとき、「仮の町」に住むつもりがない理由は何ですか。(○はいくつでも)

(n=118)

- (5. 1) 親が自宅を買ってしまったから
- (12. 7) 親がこれから自宅を買うつもりだから
- (29. 7) 仕事の選択肢が狭くなりそうだから
- (5. 9) 自分の子どもの学校の選択肢が狭くなりそうだから
- (36. 4) 「仮の町」がいつできるかわからないから
- (28. 0) 双葉町の町民と一緒に住むことにそれほど魅力を感じないから
- (29. 7) 現在の避難先(居住地)の方が暮らしやすいと思うから
- (25. 4) 現在の避難先(居住地)で近所・友人関係を築いているから
- (53. 4) 自分の希望する仕事で住む場所を決めることにしているから
- (4. 2) その他 (具体的に)

(3. 4) 無回答

問9 【すべての方にうかがいます。】

双葉町への帰還についておたずねします。

あなたは、社会人になったとき、どのような条件が整ったら双葉町へ戻りたいと考えますか。

自宅の修理・再建や道路・通信・上下水道などのインフラが復旧していることに加えて、帰還の前提として必要と考える条件について、あなたにとって特に重視するものを、次の中から3つまでお選びください。

(○は3つまで) (n=212)

- (30.7) 放射線量が十分低くなること
- (19.8) 原子力発電所の廃炉措置の安全性が確保されること
- (11.3) 双葉町もしくは双葉町から通勤できる範囲での雇用が確保されること
- (12.3) 医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること
- (4.7) 町内の学校が再開されること
- (12.7) 町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること
- (11.8) 他の住民がある程度戻ること
- (0.9) その他 (具体的に)
- (2.8) 自宅の補修・再建、インフラの復旧が終われば、すぐに戻りたい
- (26.9) 現段階でまだ判断がつかない
- (30.2) そもそも双葉町に戻りたいとは思わない →問10へ

(0.9) 無回答

問10 【問9で「11 そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問11へお進みください。】

「そもそも双葉町に戻りたいとは思わない」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=64)

- (32.8) 放射線量に対する不安があるから
- (29.7) 原子力発電所の安全性に不安があるから
- (3.1) 今後も津波の被害を受ける可能性があるから
- (43.8) 帰還するまで時間がかかると思うから
- (53.1) 双葉町以外の場所で生活することに決めたから
- (39.1) 家が汚損、劣化し、住める状況ではないから
- (18.8) その他 (具体的に)

(1.6) 無回答

問11 【すべての方にうかがいます。】

国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

自由記載

あなたご自身のことについて教えてください。

問 12 【すべての方にうかがいます。】

あなたの性別（○は1つ） (n=212)

(43.9) 男性 (54.7) 女性

(1.4) 無回答

問 13 【すべての方にうかがいます。】

あなたの現在の学年（○は1つ） (n=212)

(12.3) 中学1年生 (15.1) 中学3年生 (17.9) 高校・高専2年生
(14.2) 中学2年生 (21.2) 高校・高専1年生 (16.5) 高校・高専3年生

(2.8) 無回答

問 14(1) 【すべての方にうかがいます。】

あなたの家族は、震災後も世帯がまとまって避難していますか。（○は1つ） (n=212)

(47.2) 世帯でまとまって避難している
(51.4) 複数箇所に分かれて避難している

(1.4) 無回答

問 14(2) 【問 14(1)で「2 複数箇所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】

どのように分かれて避難していますか。（○はいくつでも） (n=109)

(52.3) 震災後に親が仕事などのために単身赴任している
(41.3) 一緒に暮らしていた祖父母が別の場所に避難している
(27.5) 一緒に暮らしていた兄弟・姉妹が別の場所に避難している
(8.3) 自分が両親と離れて親戚などの家に避難している
(1.8) その他（具体的に)

(1.8) 無回答

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、

1月8日(火)までに 郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

※ 世帯にご回答者が複数いらっしゃる場合は、同封の返信封筒に全員の調査票をいっしょに入れてご提出ください。